科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語ＩＧ　Ｃ１	児玉　一嶺	１	前期	１

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

１．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では①を重点的に学ぶ。

（3）到達目標

① 基礎英語の理解と使用：高等学校修了程度の文法を理解し、辞書を用いて使用できること。
② 自主的なボキャブラリービルディングを開始するための足掛かりを作ること。
③ センテンスレベルの簡単な英文が書けるようになること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	Unit1: be 動詞の現在形	Be 動詞の意味と働き
2	Unit2: 一般動詞の現在形	現在形の疑問文・否定文
3	Unit3: 過去形	現在時制と過去時制
4	Unit4: 現在進行系	現在形と進行形の違いなど
5	Unit5: 未来を表す表現	未来の表し方とそれぞれの持つ意味
6	Unit6: 助動詞	助動詞の持つ意味など
7	Unit7: 名詞・冠詞	可算名詞と不可算名詞など
8	Unit8: 代名詞	人称代名詞など
9	Unit9: 形容詞	形容詞の位置など
10	Unit10: 副詞	副詞の語形など
11	Unit11: 比較	原級による比較など
12	Unit12: 前置詞	場所を表す語句など
13	Unit13: 受動態	受動態の形など
14	Unit14: 現在完了形①	現在完了形の基本形など
15	Unit15: 現在完了形②	現在完了形の用法など

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

演習形式でテキストに沿って進めていく。テキストに従って高校までに学習する英文法を、掲載されている問題を一緒に解きながら確認していく。テキストには特に文法の重要点についての説明がまとまって載っているので、それらを予習してから授業に出席することが望ましい。授業の進み具合にもよるが、定期試験の他に、最低数回の小テストを実施する予定である。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（期末）80%　②授業内で行う小テスト 20%

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	イングリッシュ・ワンス・モア！	愛甲 ゆかり 他	朝日出版社	1,980 円
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語ＩＧＣ1 と英語ＩＬＲＣ1 は連続して履修する。

（9）オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後で対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語ＩＬＲ　Ｃ１	児玉　一嶺	１	後期	１

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

１．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では①～⑤を基礎からバランス良く学ぶ。

（3）到達目標

① 基礎英語の理解と使用：高等学校修了程度の文法を理解し、辞書を用いて使用できること。
② 自主的なボキャブラリービルディングを開始するための足掛かりを作ること。
③ センテンスレベルの簡単な英文が書けるようになること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	be 動詞	Welcome to Vancouver
2	一般動詞の現在形	Ryo Loves San Francisco
3	代名詞	A British City in Canada?
4	進行形	L.A. Style
5	時と場所を表す前置詞	The Canadian Rockies
6	可算名詞・不可算名詞	The Grand Canyon
7	一般動詞の過去形	T.O. — Toronto, Ontario
8	疑問詞	Big Texas
9	接続詞	Ottawa — The Capital
10	動名詞・不定詞	Funky New Orleans
11	未来形	Charming Quebec City
12	現在完了形	Florida Sunshine
13	比較級・最上級	A Taste of P.E.I.
14	助動詞	N.Y.C. — The Big Apple
15	受動態	Niagara Falls

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

演習形式でテキストに沿って進めていく。各単元で基礎文法を復習しつつ、問題演習を通してリスニングとリーディング、そしてライティングを基礎レベルからじっくりと学ぶ。一部ペアでの会話練習なども織り交ぜつつ、基礎文法の知識を実践レベルにつなげる。分からない単語は調べておくなど、予習が望まれる。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（期末）80%　②授業内で行う小テスト 20%

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	English Missions! Starter	Robert Hickling / 臼倉美里	金星堂	2,090 円
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語ＩＧＣ1 と英語ＩＬＲ C1 は連続して履修する。

（9）オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後で対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語ＩＧ　Ｃ２	児玉　一嶺	１	前期	１

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では①を重点的に学ぶ。

（3）到達目標

① 基礎英語の理解と使用：高等学校修了程度の文法を理解し、辞書を用いて使用できること。
② 自主的なボキャブラリービルディングを開始するための足掛かりを作ること。
③ センテンスレベルの簡単な英文が書けるようになること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	Unit1: be 動詞の現在形	Be 動詞の意味と働き
2	Unit2: 一般動詞の現在形	現在形の疑問文・否定文
3	Unit3: 過去形	現在時制と過去時制
4	Unit4: 現在進行系	現在形と進行形の違いなど
5	Unit5: 未来を表す表現	未来の表し方とそれぞれの持つ意味
6	Unit6: 助動詞	助動詞の持つ意味など
7	Unit7: 名詞・冠詞	可算名詞と不可算名詞など
8	Unit8: 代名詞	人称代名詞など
9	Unit9: 形容詞	形容詞の位置など
10	Unit10: 副詞	副詞の語形など
11	Unit11: 比較	原級による比較など
12	Unit12: 前置詞	場所を表す語句など
13	Unit13: 受動態	受動態の形など
14	Unit14: 現在完了形①	現在完了形の基本形など
15	Unit15: 現在完了形②	現在完了形の用法など

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

演習形式でテキストに沿って進めていく。テキストに従って高校までに学習する英文法を、掲載されている問題を一緒に解きながら確認していく。テキストには特に文法の重要点についての説明がまとまって載っているので、それらを予習してから授業に出席することが望ましい。授業の進み具合にもよるが、定期試験の他に、最低数回の小テストを実施する予定である。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（期末）80%　②授業内で行う小テスト 20%

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	イングリッシュ・ワンス・モア！	愛甲 ゆかり 他	朝日出版社	1,980 円
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語ＩＧＣ2 と英語ＩＬＲＣ2 は連続して履修する。

（9）オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後で対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語ＩＬＲ　Ｃ２	児玉　一嶺	１	後期	１

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

１．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では①～⑤を基礎からバランス良く学ぶ。

（3）到達目標

① 基礎英語の理解と使用：高等学校修了程度の文法を理解し、辞書を用いて使用できること。
② 自主的なボキャブラリービルディングを開始するための足掛かりを作ること。
③ センテンスレベルの簡単な英文が書けるようになること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	be 動詞	Welcome to Vancouver
2	一般動詞の現在形	Ryo Loves San Francisco
3	代名詞	A British City in Canada?
4	進行形	L.A. Style
5	時と場所を表す前置詞	The Canadian Rockies
6	可算名詞・不可算名詞	The Grand Canyon
7	一般動詞の過去形	T.O. — Toronto, Ontario
8	疑問詞	Big Texas
9	接続詞	Ottawa — The Capital
10	動名詞・不定詞	Funky New Orleans
11	未来形	Charming Quebec City
12	現在完了形	Florida Sunshine
13	比較級・最上級	A Taste of P.E.I.
14	助動詞	N.Y.C. — The Big Apple
15	受動態	Niagara Falls

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

演習形式でテキストに沿って進めていく。各単元で基礎文法を復習しつつ、問題演習を通してリスニングとリーディング、そしてライティングを基礎レベルからじっくりと学ぶ。一部ペアでの会話練習なども織り交ぜつつ、基礎文法の知識を実践レベルにつなげる。分からない単語は調べておくなど、予習が望まれる。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（期末）80%　②授業内で行う小テスト 20%

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	English Missions! Starter	Robert Hickling / 臼倉美里	金星堂	2,090 円
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語ＩＧ C2 と英語ＩLR C2 は連続して履修する。

（9）オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後で対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語ＩＧ　Ｃ３	日裏　亜紀	１	前期	１

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1 年次)、パッセージ（2 年次）を書く
④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では①を重点に学ぶ。

（3）到達目標

① 基礎的な英語を理解する：高等学校終了程度の文法を理解する。
② 辞書の適切な使用方法を理解する：自発的に辞書を使用し、必要な情報を見つけ出す。
③ 正確な英文を書けるようになる：与えられた日本語だけでなく、自分が表現したい内容を英文で書けるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	基本文型①	第１文型、第２文型、第３文型
2	基本文型②	第４文型、第５文型、自動詞、他動詞、
3	時を表す表現	現在形、過去形、進行形、未来を表す表現、完了形
4	さまざまな助動詞	must, may, will, can, should, shall
5	態	能動態と受動態
6	不定詞	３用法、部分否定の表し方、
7	不定詞	知覚動詞・使役動詞と原形不定詞
8	動名詞	主語、目的語、補語として使用される動名詞
9	分詞①	名詞を修飾する分詞
10	分詞②	補語として使用される分詞、分詞構文
11	比較①	原級、比較級、最上級
12	比較②	as ～ as / 比較級を使ったさまざまな表現
13	関係詞①	主格、目的格、所有格
14	関係詞②	前置詞＋関係代名詞、関係代名詞の that、関係詞の省略
15	仮定法	仮定法過去、仮定法過去完了

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には演習形式で授業を進める。教科書の内容は高校卒業程度の英文法なので、予習を前提に授業を進めていく。そのため、テキストに書かれている例文や解説などを授業前に読み、理解する努力が必要である。知らない単語があれば、もちろん自ら辞書を使って調べなくてはならない。授業では文法解説を教員が行うが、受講生は演習問題を解き、答え合わせをして理解を深めていく。試験前にはそれまで学習した内容を理解しているか確認するため小テストを実施する。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験 80%　　②小テスト・授業での貢献 20%　の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	総合英語 FACTBOOK English Grammar Core [New Edition]	桐原書店編集部　編	桐原書店	693 円
教 科 書	総 合 英 語 FACTBOOK English Grammar Core Workbook [New Edition]	桐原書店編集部　編	桐原書店	605 円
参 考 書	総合英語 FACTBOOK これからの英文法 New Edition	大西泰斗 / ポール・マクベイ	桐原書店	2,035 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語ＩＧ C3 と英語ＩＬＲ C3 は連続して履修する。

（9）オフィスアワー・その他

授業進度・内容は履修者の構成により変更される可能性がある。履修する学生は英和辞典を毎回授業に持参すること。（紙でも電子辞書でも構わない）許可された場合を除いて授業中にスマートフォンを使用することは認められない。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語ＩＬＲ　Ｃ３	日裏　亜紀	１	後期	１

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

１．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1 年次)、パッセージ（2 年次）を書く
④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では②、③を重点に学ぶ。

（3）到達目標

① パラグラフ単位での英文ライティングの基本となるプロセスを理解する。
② 与えられたテーマごとに適切なトピックセンテンスを設定できるようになる。
③ パラグラフの体裁を整え、自らパラグラフを推敲し、最終稿を完成できるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	Pre-writing Activity	英文ライティングの基本を学ぶ
2	For Writing a Draft	英文の作り方について学ぶ
3	Revising & Editing	修正・訂正の基本を学ぶ
4	Model paragraph	Model Paragraph を読み、最終稿のイメージをつかむ
5	Brainstorming	書き始める前にブレインストーミングを行う
6	Topic Sentence	各テーマに関して適切な Topic Sentence を検討する
7	Outline	Introduction、Body、Conclusion を理解し Outline を作成する
8	Drafting	First Draft の書き方を学ぶ
9	Revising	推敲して Final Draft を作成する方法を学ぶ
10	Paragraph Writing①	家族や友達について書く（記述のパラグラフ）Brainstorming, Topic Sentence
11	Paragraph Writing②	家族や友達について書く（記述のパラグラフ）Outline, First / Second Draft
12	Paragraph Writing③	家族や友達について書く（記述のパラグラフ）Final Draft
13	Paragraph Writing④	自分の故郷について書く（例示のパラグラフ）Brainstorming, Topic Sentence
14	Paragraph Writing⑤	自分の故郷について書く（例示のパラグラフ）Outline, First / Second Draft
15	Paragraph Writing⑥	自分の故郷について書く（例示のパラグラフ）Final Draft

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には演習形式で授業を進めていく。テキストの各ユニットを学ぶ過程で受講生はペアワークを行う。ペアとなった受講生は相談や指摘をお互いにしながら Paragraph Writing の作業を進めていく。Paragraph Writing に取り組む際には、テキストに書かれているモデルパラグラフを読み、そのあとで各自ブレインストーミングを実施する。Paragraph Writing する前にはアウトラインを書き、それを適宜提出する。ただし最終原稿は必ず提出し、評価の対象となる。

（6）成績評価と基準

①定期試験 70%　　② Class work および Paragraph Writing 30%　の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Primary Course on Paragraph Writing	杉田　由仁ほか	成美堂	2,090 円
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語ＩＧＣ3 と英語ＩＬＲ C3 は連続して履修する。

（9）オフィスアワー・その他

授業進度・内容は履修者の構成により変更される可能性がある。履修する学生は英和辞典を毎回授業に持参すること。（紙でも電子辞書でも構わない）許可された場合を除いて授業中にスマートフォンを使用することは認められない。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語ＩＧ　Ｃ４	松岡　昌和	１	前期	１

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

１．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。
（1）外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
（2）Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
（3）Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次)、パッセージ（2年次）を書く
（4）Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
（5）Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る
本授業では（1）および（2）を重点に学ぶ。

（3）到達目標

① 基礎英語の理解と使用：高等学校修了程度の文法知識と辞書の適切な利用法を獲得する。
② 英文の理解に必要な語彙力を獲得する。
③ 英語で適切に表現する力を獲得する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	Global Citizens	文法：5 文型
2	Face-to-Face Communication	文法：現在形
3	Too Many Selfies	文法：名詞・代名詞
4	Food Connects People	文法：動名詞
5	Work-Life Balance	文法：過去形
6	Eco-Anxiety	文法：助動詞
7	Population Growth	文法：前置詞
8	The Power of Music	文法：接続詞
9	Robot Guide Dogs	文法：比較
10	Slow Fashion	文法：不定詞
11	The Refugee Crisis	文法：受動態
12	Singlehood	文法：分詞
13	New Words Needed	文法：関係代名詞・関係副詞
14	Respect vs Disrespect	文法：仮定法現在の if
15	Message from the Author	文法：まとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に教科書にしたがって進めていく。また、音読やペアワークを積極的に行う。各課で単語や内容に関する確認を行うので、授業後の復習をはじめ、わからない単語を調べておくなどの積極的な取り組みが期待される。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験（５０%)、② Classwork　（４０%)、③ 授業貢献（１０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Changing Times, Changing Worlds 2	Joan McConnell / 山内　圭	成美堂	2,090 円
参 考 書	英語のハノン 初級	横山雅彦・中村佐知子	筑摩書房	1,980 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義A、初級・中級英語コミュニケーション、英語ＩＬＲＣ４

（9）オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。
「英語ＩＧＣ４」の単位修得が「英語ＩＬＲＣ４」履修の要件となる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語ＩＬＲ　Ｃ４	松岡　昌和	１	後期	１

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

１．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。
（1）外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
（2）Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
（3）Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次)、パッセージ（2年次）を書く
（4）Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
（5）Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る
本授業では（2）（3）を重点に学ぶ。

（3）到達目標

① 文法や語彙などの既習事項について、その理解と定着を深める。
② パラグラフ単位での英語の作文を行う。
③ リーディングやライティングの活動を通じて、英文の構造についての理解を深める。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	College Life	大学生活の意義について考えよう
2	Understanding Copyright	著作権について考えよう
3	Cyberbullying	ネットいじめについて考えよう
4	Tourism	快適な旅のコツについて考えよう
5	Foreign Encounters	異文化体験について考えよう
6	Entertainment	娯楽について考えよう
7	International Affairs	国際情勢について考えよう
8	Technology	身近にある科学技術について考えよう
9	My Future	将来の自分について考えよう
10	Personal Finance	お金の管理について考えよう
11	Health	心と体の健康について考えよう
12	Diversity	多様性について考えよう
13	Writing Exercise 1	トピックを決めてアウトラインを考えてみよう
14	Writing Exercise 2	主張をパラグラフにまとめてみよう
15	まとめ	まとめとフィードバック

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に教科書にしたがって進めていく。ペアワークやディスカッションの時間を設け、ピアサポートによる技術の向上をはかる。タスクごとに課すリーディングやライティングの課題をはじめとして、授業時に紹介するオンラインツールなどを利用した各自の学修が期待される。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験（３０%)、② 授業内課題（６０%)、③ 授業貢献（１０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Global Perspectives Reading & Writing Book 1	中西　のりこ他	成美堂	2,750 円
参 考 書	英語のハノン 中級	横山雅彦・中村佐知子	筑摩書房	1,870 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義A、初級・中級英語コミュニケーション、英語ＩＧＣ４

（9）オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。
「英語ＩＧＣ４」の単位修得が履修の前提である。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語ＩＧ　Ｃ５	瀬尾　光平	１	前期	１

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

１．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。
（1）外国語としての英語の文法および語彙、英語構文と表現の特徴
（2）Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
（3）Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次)、パッセージ（2年次）を書く
（4）Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
（5）Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る
本授業では（1）および（2）を重点に学ぶ。

（3）到達目標

① 基礎英語の理解と使用：高等学校修了程度の文法知識と辞書の適切な利用法を獲得する。
② 英文の読解に必要な語彙力を獲得する。
③ 言いたいことを英語で適切に表現し、抵抗なく発話する能力を獲得する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	Teddy Bears	品詞
2	Language Patterns	文の要素
3	YouTube Star	文型
4	Just in Time	句
5	Cat Tails	節
6	Sus	文の種類
7	Have You Ever...?	接続詞
8	Detection Dogs	不定詞と動名詞
9	Wild Swimming	形式主語・形式目的語
10	Crazy Stunts	分詞
11	Survivors	分詞構文
12	Meal Kits	関係代名詞(1)
13	Florida Man	関係代名詞(2)
14	Secret Billionaire	話法
15	Fingers Crossed	ディスコースマーカー

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に教科書にしたがって進めていく。授業中には音読などを積極的に行う。各課ごとに単語・内容に関して課題を課す。授業後の復習をはじめ、わからない単語を調べておく、音声ファイルを活用して自習を行うなどの積極的な取り組みが期待される。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験（５０%)、② 課題（４０%)、③ 授業貢献（１０%）の合計によって評価する。
課題や配布資料等は Microsoft Teams 上にて共有するため、必ず登録の上各自確認すること。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Reading Palette: Red	Katsuhiko Muto and Timothy Kiggell	成美堂	2,090 円
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義A、初級・中級英語コミュニケーション、英語ＩＬＲＣ５

（9）オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日 10:00~11:00 をオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については必要に応じて設定する。「英語ＩGC５」の単位修得が「英語ＩLRC5」履修の要件となる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語ＩＬＲ　Ｃ５	瀬尾　光平	１	後期	１

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

１．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

（1）外国語としての英語の文法および語彙、英語構文と表現の特徴
（2）Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
（3）Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次)、パッセージ（2年次）を書く
（4）Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
（5）Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では（2）（3）を重点に学ぶ。

（3）到達目標

（1）文法や語彙などの既習事項について、その理解と定着を深める。
（2）パラグラフ単位での英語の作文を行う。
（3）リーディングやライティングの活動を通じて、英文の構造についての理解を深める。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	What Is a Paragraph?	パラグラフとは何か
2	Narration	出来事を語る
3	Process	手続き・手順を説明する
4	Description of Feelings	感情を描写する
5	Description of People	人を描写する
6	Description of Places & Locations	場所を描写する
7	Definition	人物や物事を定義する
8	Comparison & Contrast	比較と対照
9	Cause & Effect	原因と結果
10	Problems & Solutions	問題と解決策
11	Your Opinion —— Agree	賛成意見を述べる
12	Your Opinion —— Disagree	反対意見を述べる
13	Data Analysis	データ分析
14	Email Writing	英文 E メール・英文レター
15	総括	学期を通してのまとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に教科書にしたがって進めていく。授業中にはパラグラフ単位の読解やセンテンス毎の作文について実践する。各課ごとに教科書に基づいたリーディング・ライティングについて課題を課し、フィードバックとして毎週解答の解説を行う。授業後の復習をはじめ積極的な取り組みが期待される。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（５０%)、②課題（４０%)、③授業貢献（１０%）の合計によって評価する。
課題や配布資料等は Microsoft Teams 上にて共有するため、必ず登録の上各自確認すること。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	Smart Writing — Active Approach to Paragraph Writing —	Miyako Nakaya, Manabu Yoshihara and Ruth Fallon	成美堂	2,200 円
参　考　書	資料配布・授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義A、初級・中級英語コミュニケーション、英語ＩGC５

（9）オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日 10:00~11:00 をオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については必要に応じて設定する。「英語ＩGC５」の単位修得が「英語ＩLRC5」履修の前提である。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語ＩＧ　Ｃ６	瀬尾　光平	１	前期	１

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

１．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。
（1）外国語としての英語の文法および語彙、英語構文と表現の特徴
（2）Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
（3）Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次)、パッセージ（2年次）を書く
（4）Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
（5）Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る
本授業では（1）および（2）を重点に学ぶ。

（3）到達目標

① 基礎英語の理解と使用：高等学校修了程度の文法知識と辞書の適切な利用法を獲得する。
② 英文の読解に必要な語彙力を獲得する。
③ 言いたいことを英語で適切に表現し、抵抗なく発話する能力を獲得する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	Teddy Bears	品詞
2	Language Patterns	文の要素
3	YouTube Star	文型
4	Just in Time	句
5	Cat Tails	節
6	Sus	文の種類
7	Have You Ever...?	接続詞
8	Detection Dogs	不定詞と動名詞
9	Wild Swimming	形式主語・形式目的語
10	Crazy Stunts	分詞
11	Survivors	分詞構文
12	Meal Kits	関係代名詞(1)
13	Florida Man	関係代名詞(2)
14	Secret Billionaire	話法
15	Fingers Crossed	ディスコースマーカー

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に教科書にしたがって進めていく。授業中には音読などを積極的に行う。各課ごとに単語・内容に関して課題を課す。授業後の復習をはじめ、わからない単語を調べておく、音声ファイルを活用して自習を行うなどの積極的な取り組みが期待される。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験（５０%)、② 課題（４０%)、③ 授業貢献（１０%）の合計によって評価する。
課題や配布資料等は Microsoft Teams 上にて共有するため、必ず登録の上各自確認すること。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Reading Palette: Red	Katsuhiko Muto and Timothy Kiggell	成美堂	2,090 円
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義A、初級・中級英語コミュニケーション、英語ＩＬＲＣ５

（9）オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日 10:00~11:00 をオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については必要に応じて設定する。「英語ＩGC６」の単位修得が「英語ＩLRC6」履修の要件となる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語ＩＬＲ　Ｃ６	瀬尾　光平	１	後期	１

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

１．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。
（1）外国語としての英語の文法および語彙、英語構文と表現の特徴
（2）Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
（3）Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次)、パッセージ（2年次）を書く
（4）Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
（5）Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る
本授業では（2）（3）を重点に学ぶ。

（3）到達目標

（1）文法や語彙などの既習事項について、その理解と定着を深める。
（2）パラグラフ単位での英語の作文を行う。
（3）リーディングやライティングの活動を通じて、英文の構造についての理解を深める。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	What Is a Paragraph?	パラグラフとは何か
2	Narration	出来事を語る
3	Process	手続き・手順を説明する
4	Description of Feelings	感情を描写する
5	Description of People	人を描写する
6	Description of Places & Locations	場所を描写する
7	Definition	人物や物事を定義する
8	Comparison & Contrast	比較と対照
9	Cause & Effect	原因と結果
10	Problems & Solutions	問題と解決策
11	Your Opinion —— Agree	賛成意見を述べる
12	Your Opinion —— Disagree	反対意見を述べる
13	Data Analysis	データ分析
14	Email Writing	英文 E メール・英文レター
15	総括	学期を通してのまとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に教科書にしたがって進めていく。授業中にはパラグラフ単位の読解やセンテンス毎の作文について実践する。各課ごとに教科書に基づいたリーディング・ライティングについて課題を課し、フィードバックとして毎週解答の解説を行う。授業後の復習をはじめ積極的な取り組みが期待される。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（５０%)、②課題（４０%)、③授業貢献（１０%）の合計によって評価する。
課題や配布資料等は Microsoft Teams 上にて共有するため、必ず登録の上各自確認すること。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	Smart Writing — Active Approach to Paragraph Writing —	Miyako Nakaya, Manabu Yoshihara and Ruth Fallon	成美堂	2,200 円
参　考　書	資料配布・授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義A、初級・中級英語コミュニケーション、英語ＩGC６

（9）オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日 10:00~11:00 をオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については必要に応じて設定する。「英語ＩGC６」の単位修得が「英語ＩLRC6」履修の前提である。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語Ⅱ　C１	児玉　一嶺	２	通年	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1年次）、パッセージ（2年次）を書く
④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では①～⑤を基礎からバランス良く学ぶ。

（3）到達目標

① 基礎的な英語を理解する。高等学校修了程度の文法を理解し、若干高度な内容の英文を理解できる。
② 基礎的な英語力を通して、テキストの内容を理解できる。
③ 基礎的な文法力を基に、聴き取りと作文能力も体得する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	現在形	Welcome to the “Big Apple”
2	代名詞	What's the Boss Like?
3	前置詞	Masa's First Day on the Job
4	過去形	Summer Fun
5	可算名詞・不可算名詞	Hotel Guest Satisfaction
6	進行形	Brainstorming
7	WH 疑問形	Glad to Be of Service
8	動名詞・不定詞	Socializing with Co-Workers
9	未来形	Vacation Spots
10	比較級・最上級	Sports Talk
11	助動詞	Tour Day
12	現在完了形	Party Time!
13	関係詞	Office Meeting
14	受動態	A Bit of History
15	接続詞	Farewell, Masa and Lucy

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

演習形式でテキストに沿って進めていく。前期では、基礎的な文法事項を復習しつつ、リスニングからライティングまで総合的な力をつけることができるよう、一緒に問題を解いていく。後期では、簡単な英会話を聞き取り、さらに英語で応答できるよう、リスニングとスピーキングを中心に練習する。分からない単語などは事前に調べておくことが望ましい。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験 70%、②小テスト 20%、③授業貢献 / 授業内活動 10%

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	English Missions! Basic（前期に使用）	Robert Hickling /臼倉美里	金星堂	2,200 円
教 科 書	My First Trip（後期に使用）	Tae Kudo	Cengage Learning	2,420 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

中級・上級英語コミュニケーション、アカデミックリーディング A / B、英語 I（G / LR）

（9）オフィスアワー・その他

授業進度・内容は履修者の構成により変更される可能性がある。「英語 I LR」の単位修得をしていないと履修することができない。
なお、質問等は授業の前後で対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語Ⅱ　C２	日裏　亜紀	２	通年	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。

① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1 年次)、パッセージ（2 年次）を書く
④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る

本授業では ③、④、⑤ を重点に学ぶ。

（3）到達目標

① 英文構造を理解し、英文を正確に書けるようになる。
② 自分の興味関心のあるテーマを基に、Essay を書くにあたり適切な Topic / Thesis Statement を設定する。
③ Essay の体裁に則って自分の意見を英語で書く。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	パラグラフを書く準備をする	英文の基本構造を理解する
2	Paragraph Writing ①	テーマをひとつに絞って書く
3	Paragraph Writing ②	パラグラフの体裁・構成要素を理解する
4	Paragraph Writing ③	構成要素を意識してパラグラフを書く
5	Paragraph Writing ④	さまざまなパラグラフ構成法
6	エッセイを書く準備をする	英文エッセイの基本構成を理解する
7	意見を英文で書く①	身近なテーマについて書かれた英文を読み、自分の意見を考える
8	意見を英文で書く②	自分の意見を英語で書く
9	意見を英文で書く③	さまざまな意見を読み、自分の意見とその根拠を英語で書く
10	Essay Writing ①	さまざまな資料を読み、Essay のテーマを決定する
11	Essay Writing ②	Thesis Statement を決定する
12	Essay Writing ③	Essay を書き始める前に Outline を書く
13	Essay Writing ④	Outline に沿って Essay を書く
14	Essay Writing ⑤	Essay を推敲する
15	Essay Writing ⑥	バランスのとれた Essay を完成させる

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には演習形式で授業を進めていき、複数回にわたりペアまたはグループワークを行う。Paragraph Writing / Essay Writing の基本構造やテーマ設定の方法などを授業で学習した後は、その内容の定着をはかるためにほぼ毎回課題を出す。その提出物は評価の対象とする。Essay の作成にあたり、図書館なども活用する。各プロセスでの課題の検討は個人で行うだけでなくペアやグループでも行う。最終的には各自が設定したテーマで、各受講生は 500 words 前後の Essay を完成させる。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験　60%　　②Thesis Writing （ 課題作文 ）30%　　③授業での貢献および課題 10%　の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	A Passage to Paragraph Writing	Koki Endo	センゲージラーニング	2,310 円
教 科 書	Two Sides to Every Discussion 2	Jonathan Lynch / Kotaro Shitori	成美堂	2,200 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語Ⅰ（G / LR)、中級・上級英語コミュニケーション、アカデミックリーディング A / B

（9）オフィスアワー・その他

授業進度・内容は履修者の構成により変更される可能性がある。シラバスを読んで授業内容を確認し、初回オリエンテーション授業に必ず出席すること。英語Ⅰ（G / LR）の単位修得をしていないと履修することができない。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
英語Ⅱ　C３	荒　哲	２	通年	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1　日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）

（2）授業概要と目的

外国語としての英語を理解するために必要な知識の習得と訓練を行う。
① 外国語としての英語の文法・語彙知識、英語構文と表現の特徴
② Reading：パラグラフの論理構成を理解し、英文のスキミング、スキャニング、精読を行う
③ Writing：論理構成を学び、英文のパラグラフ（1 年次）、パッセージ（2 年次）を書く
④ Speaking：公式の場において意見、情報を交換。プレゼンテーションの訓練
⑤ Listening：Key Sentence、Target Sentence が理解出来る
本授業では①を重点に学ぶ。

（3）到達目標

① 基礎的な英語を理解する。高等学校終了程度の文法を理解し応用できるようになる。
② 基礎的な文法力の基に、国際関係論を基盤とした戦争と暴力に関連する英文教材を理解できるようにする。
③ 基礎的な文法力の基に、簡単な英文を書けるようになる

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	国際関係論と英語について	国際関係、とりわけ戦争と暴力を英語で理解することの意義について
2	アンネの日記の読解	１９４２年6月
3	アンネの日記の読解	１９４２年7月
4	アンネの日記の読解	１９４２年１０月
5	アンネの日記の読解	１９４２年１１月
6	アンネの日記の読解	１９４２年１２月
7	アンネの日記の読解	１９４３年1月
8	アンネの日記の読解	１９４３年5月
9	アンネの日記の読解	１９４３年１０月
10	アンネの日記の読解	１９４４年2月
11	アンネの日記の読解	１９４４年3月
12	アンネの日記の読解	１９４４年6月
13	アンネの日記の読解	１９４４年8月
14	アンネの日記の読解	１９４４年１０月　ポーランド、アウシュビッツ強制収容所
15	総括	１９４４年１２月～１９４５年2月まで　ベルゲンベルゼン強制収容所

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

教科書に沿って演習形式で授業を進めていく。事前学習、いわゆる予習を前提にして演習授業を行うものとする。教科書は、日記形式の内容になっているが、内容の歴史的な背景を学習しながら、英語を学習していく。教科書に沿いながら、リーディングとリスニングを学習していく。授業時間以外でも自宅での事前学習を推奨する。時折、映像を使用した授業を展開する。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験８０%、②小テスト１０%、③授業貢献度/授業内活動１０%

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Anne Frank: The Diary of a Young Girl	Anne Frank	Happy House	
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会文化入門、国際関係論等。

（9）オフィスアワー・その他

原則として毎週月曜日１５時～１６時までとする。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
アカデミックリーディングＡ	日裏　亜紀	1	後期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

変化する世界情勢を理解するために書かれた Essay を読む。テキストは「文化」「社会」「テクノロジー」「環境」「経済」の 5 つのセクションに分かれている。さまざまなテーマのエッセイを英語で読むことで、受講生が世界に関する知識や関心を広げるだけでなく、毎回提示される問いに対して自分の意見を考えるきっかけになるだろう。各 Essay は 800 語程度で書かれた英文ではあるが、ある程度の長さの英文を集中して読む力を身につけていく。また各ユニットを読んだあとには確認問題や巻末問題に取り組む。定着していない単語や新たに学習する単語はきちんと辞書を用いて意味・例文を確認し、正確に英文を読むための努力を受講生は継続しなければならない。

（3）到達目標

① 現在わたしたちが直面している問題や課題について書かれた英文を正確に読む。
② 時事英語を読むことで、これまでの英語学習では触れてこなかった Key Words も学習する。
③ 800 語程度のまとまった量の英文を読む集中力と読解力を養う。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	文化①	Culture Shock: How do we adjust to living abroad?　を読む
2	文化②	Culture Shock: How do we adjust to living abroad?　を読む
3	文化③	Social Media: How is it changing the world? を読む
4	社会①	Happiness Ratings: Should governments prioritize happiness over growth? を読む
5	社会②	Happiness Ratings: Should governments prioritize happiness over growth? を読む
6	社会③	Free Speech: Should there be any limits? を読む
7	テクノロジー①	Nanotechnology: Will tiny machines save us or destroy us? を読む
8	テクノロジー②	Nanotechnology: Will tiny machines save us or destroy us? を読む
9	テクノロジー③	Robot Revolution: Which jobs are most at risk? を読む
10	環境①	Green Cities: Where are the world's cleanest cities? を読む
11	環境②	Green Cities: Where are the world's cleanest cities? を読む
12	環境③	The Power of Fame: How can celebrities help the world? を読む
13	経済①	Aid and Development: Do developing countries need our help? を読む
14	経済②	Aid and Development: Do developing countries need our help? を読む
15	経済③	Free Trade: Good for all or good for some? を読む

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

各ユニットを 2 回程度の授業で進めていく。受講生は予習として指定されたユニットを下読みして授業に臨む。また、受講生は授業中に順番に指名されるので、指示された箇所の自分の日本語訳を発表し、その英文解釈が正確かどうか確認する。さらに音声ファイルを聞いて音読し、内容確認のため小テストに取り組むこともある。この授業では 1 回でまとまった量の英文を正確に読めるようになることを目指す。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験 70%　　②授業内の発表および貢献 30%　の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Understanding Our New Challenges	Dave Rear / 杉藤久志	成美堂	2,200 円
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語 IG を履修していること。

（9）オフィスアワー・その他

初回オリエンテーション授業には必ず出席すること。授業進度・内容は変更される可能性がある。履修する学生は英和辞典を毎回授業に持参すること。(紙でも電子辞書でも構わない)　許可された場合を除いて授業中にスマートフォンを使用することは認められない。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
アカデミックリーディングB	日裏　亜紀	2	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

変化する世界情勢を理解するために書かれた Essay を読む。テキストは「文化」「社会」「テクノロジー」「環境」「経済」の 5 つのセクションに分かれている。さまざまなテーマのエッセイを英語で読むことで、受講生が世界に関する知識や関心を広げるだけでなく、毎回提示される問いに対して自分の意見を考えるきっかけになるだろう。各 Essay は 800 語程度で書かれた英文ではあるが、ある程度の長さの英文を集中して読む力を身につけていく。また各ユニットを読んだあとには確認問題や巻末問題に取り組む。定着していない単語や新たに学習する単語はきちんと辞書を用いて意味・例文を確認し、正確に英文を読むための努力を受講生は継続しなければならない。

（3）到達目標

① 現在わたしたちが直面している問題や課題について書かれた英文を正確に読む。
② 時事英語を読むことで、これまでの英語学習では触れてこなかった Key Words も学習する。
③ 800 語程度のまとまった量の英文を読む集中力と読解力を養う。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	文化①	Super Language Learners: How do people learn many languages?　を読む
2	文化②	Super Language Learners: How do people learn many languages?　を読む
3	文化③	Flat Organizations: Do we need a boss?　を読む
4	社会①	A Better World: Is the world getting more or less violent? を読む
5	社会②	A Better World: Is the world getting more or less violent? を読む
6	社会③	Sleep Myths: Early to bed and early to rise を読む
7	テクノロジー①	Science Fiction: Can it predict the future? を読む
8	テクノロジー②	Science Fiction: Can it predict the future? を読む
9	テクノロジー③	Medical Technology: Should we try to live forever? を読む
10	環境①	Genetically Modified Food: Should we try to alter nature? を読む
11	環境②	Genetically Modified Food: Should we try to alter nature? を読む
12	環境③	Climate Change: Can we stop global warming? を読む
13	経済①	Social Inequality: Why is there a gap between rich and poor? を読む
14	経済②	Social Inequality: Why is there a gap between rich and poor? を読む
15	経済③	Guns, Germs and Steel: Why is Africa poor? を読む

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

各ユニットを 2 回程度の授業で進めていく。受講生は予習として指定されたユニットを下読みして授業に臨む。また、受講生は授業中に順番に指名されるので、指示された箇所の自分の日本語訳を発表し、その英文解釈が正確かどうか確認する。さらに音声ファイルを聞いて音読し、内容確認のため小テストに取り組むこともある。この授業では 1 回でまとまった量の英文を正確に読めるようになることを目指す。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験 70%　　②授業内の発表および貢献 30%　の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Understanding Our New Challenges	Dave Rear / 杉藤久志	成美堂	2,200 円
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語 IG / ILR を履修していること。

（9）オフィスアワー・その他

初回オリエンテーション授業には必ず出席すること。授業進度・内容は変更される可能性がある。履修する学生は英和辞典を毎回授業に持参すること。(紙でも電子辞書でも構わない)　許可された場合を除いて授業中にスマートフォンを使用することは認められない。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
ツーリズム・イングリッシュＡ	山田　大介	1	後期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

日本への海外からの観光客数は年間 3,600 万人を超え（日本政府観光局 (2024 年))、コロナ感染症流行が落ち着く中、外国人観光客の訪日は復活してきている。また観光業のみならずその周辺の職業においても外国語は必要不可欠なものとなってきている。日本に往来する外国人観光客はアジア圏が多いが、彼らの多くは英語を話すことが出来るし、欧米圏からの観光客ももちろん英語が話せる。近年では、観光業に限らず、その他の業種でも英語を話す機会が多くなることから、観光・ツーリズムに関連した英語の表現や使い方を学ぶ。とりわけ、この授業では国内外の状況に合わせたテキストを使用しながら、国内外の観光・ツーリズムに関する事項を学修する。また並行して、就職や編入学にも通用するように TOEIC 試験の基礎を導入し、自学的な基礎学習へ導出させていく。本科目は基本的に卒業後にホテルなどの観光・ツーリズム系への職種に就職、または専門とし編入を希望する学生の履修が望ましい。

（3）到達目標

① 観光・ツーリズムを主とする業種において、英語で対応する際の基本的な表現や説明の仕方を理解し、それらを使えるようにする。
② ①に関連して、各セクションのダイアログ・語彙等をマスターし、英語でコミュニケーションを円滑に行う事の出来る力をつける。
③ TOEIC 試験の基礎を学び、自学可能への基礎をつくる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance class / Introduction	ガイダンス授業（履修者の決定）・イントロダクション（教科書・TOEIC）
2	Unit1: Travel / Transportation from the Airport to the Hotel	交通手段の使用、TOEIC 単語テスト
3	TOEIC の進め方①	TOEIC（全体的な構成の説明、Part5)、TOEIC 単語テスト
4	Unit2: Jobs and People / At a Hotel 1	仕事・ホテル 1 での使用（含小テスト（以降毎回))、TOEIC 単語テスト
5	Unit3: Getting on the Plane / At a Hotel 2	飛行機に乗る・ホテル 2 での使用、TOEIC 単語テスト
6	Unit4: At the Immigration and Customs	出入国と税関審査・旅館での使用、TOEIC 単語テスト
7	TOEIC の進め方②	TOEIC（Part1/Part6)、TOEIC 前回確認テスト・単語テスト
8	Unit5: At the Airport / How to use a *Ryokan* Bath	空港にて・旅館での風呂の使用、TOEIC 単語テスト
9	Unit6: Hotel / Dinner Service at the *Ryokan*	ホテルにて・旅館での夕食での使用、TOEIC 単語テスト
10	Unit7: Restaurant / Japanese Restaurant	レストランでの使用、TOEIC 単語テスト
11	TOEIC の進め方③	TOEIC（Part2/Part3)、TOEIC 前回確認テスト・単語テスト
12	Unit8: Sightseeing / Gifts and Souvenirs	観光・お土産での使用、TOEIC 単語テスト
13	Unit9: Shopping / Bullet Train Tickets	買い物・列車の切符購入での使用、TOEIC 単語テスト
14	Unit10: Transportation / Sightseeing	交通手段・観光での使用、TOEIC 単語テスト
15	TOEIC の進め方④	TOEIC（Part4/Part7)、TOEIC 単語テスト、TOEIC 最終確認テスト

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業計画の内容に沿って、各回のテーマの学修項目を進めていく。語彙や言い回しは授業の最後に word list としてまとめて、次回の最初に Small Quiz を行い、履修者の理解を確認する。毎回、テキストの内容から発展させたダイアログを作り、履修者はそれを練習することで理解を深める（ペア・グループ学習を含む)。並行し TOEIC 試験の導入を 4 回行う（単語テストは毎回実施)。

（6）成績評価の方法と基準

① 毎回授業で行う Small Quiz、TOEIC 単語テスト合計（７０%)、② プレゼンテーション、TOEIC 最終テスト合計（３０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	English for Tourism Basic	観光英検センター	三修社	2,200 円(税込)
教 科 書	TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ	TEX 加藤	朝日新聞出版	990 円(税込)
参 考 書	公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 11	ETS	国際ビジネスコミュニケーション協会	3,300 円(税込)

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語ＩＬＲを履修していることが望ましい。またインバウンド旅行者の言語（中国語、韓国語等）も履修しておくのもよい。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワー：授業の前後に対応する（またはメールにて対応（E-mail アドレス: d-yamada@ohtsuki.ac.jp))。20 名程度の履修者数を想定。履修者希望者は履修者を決定するので１回目のガイダンス授業に必ず出席してください。ツーリズム・イングリッシュ B と継続履修を求めませんが、学習効果を上げるためには継続した履修をお勧めします（別のテキストを使用)。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
ツーリズム・イングリッシュB	山田　大介	2	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

日本への海外からの観光客数は年間 3,600 万人を超え（日本政府観光局 (2024 年))、コロナ感染症流行が落ち着く中、外国人観光客の訪日は復活してきている。また観光業のみならずその周辺の職業においても外国語は必要不可欠なものとなってきている。日本に往来する外国人観光客はアジア圏が多いが、彼らの多くは英語を話すことが出来るし、欧米圏からの観光客ももちろん英語が話せる。近年では、観光業に限らず、その他の業種でも英語を話す機会が多くなることから、観光・ツーリズムに関連した英語の表現や使い方を学ぶ。とりわけ、この授業では国内外の状況に合わせたテキストを使用しながら、国内外の観光・ツーリズムに関する事項を学修する。また並行して、就職や編入学にも通用するように TOEIC 試験の基礎を導入し、自学的な基礎学習へ導出させていく。本科目は基本的に卒業後にホテルなどの観光・ツーリズム系への職種に就職、または専門とし編入を希望する学生の履修が望ましい。

（3）到達目標

① 観光・ツーリズムを主とする業種において、英語で対応する際の基本的な表現や説明の仕方を理解し、それらを使えるようにする。
② ①に関連して、各セクションのダイアログ・語彙等をマスターし、英語でコミュニケーションを円滑に行う事の出来る力をつける。
③ TOEIC 試験の基礎を学び、自学学習への基礎をつくる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance class / Introduction	ガイダンス授業（授業内容の説明）・イントロダクション（教科書・TOEIC）
2	Unit 1 : Transportation	交通案内の使用（含小テスト（以降すべて））、TOEIC 単語テスト
3	TOEIC の進め方①	TOEIC（全体的な構成の説明、Part5）TOEIC 単語テスト
4	Unit 2 : At a Check-in Counter	ホテルでのチェックインでの使用、TOEIC 単語テスト
5	Unit 3 : Facilities and Services	ホテル内の施設やサービス案内での使用、TOEIC 単語テスト
6	Unit 4 : Giving Directions	街歩きのための道案内での使用、TOEIC 単語テスト
7	TOEIC の進め方②	TOEIC（Part1/Part6）、TOEIC 前回確認テスト、単語テスト
8	Unit 5 : Recommending a Trip	観光スポットでの使用、TOEIC 単語テスト
9	Unit 6 : Dining in Japan 1	日本食の紹介１、TOEIC 単語テスト
10	Unit 7 : Dining in Japan 2	日本食の紹介２、TOEIC 単語テスト
11	TOEIC の進め方③	TOEIC（Part2/Part3）、TOEIC 前回確認テスト、単語テスト
12	Unit 8 : Arranging a Tour	国内旅行の手配での使用、TOEIC 単語テスト
13	Unit 9 : Staying at a Ryokan	旅館での使用、TOEIC 単語テスト
14	Unit 10 : Culture Experience in Japan 1	日本文化体験、TOEIC 単語テスト
15	TOEIC の進め方④	TOEIC（Part4/Part7）、TOEIC 単語テスト、TOEIC 最終確認テスト

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業計画の内容に沿って、各回のテーマの学修項目を進めていく。語彙や言い回しは授業の最後に word list としてまとめて、次回の最初に Small Quiz を行い、履修者の理解を確認する（ペア・グループ学習を含む)。毎回、テキストの内容から発展させたダイアログを作り、履修者はそれを練習することで理解を深める。並行し TOEIC 試験の導入を 4 回行う（単語テストは毎回実施)。

（6）成績評価の方法と基準

① 毎回の授業開始時に実施する Small Quiz [Vocabulary Quiz と Dictation Quiz]、TOEIC 単語テスト（４０%)、② TOEIC 確認小テスト（２０%)、③ 授業内のアクティビティ[Pre-activity と Reading Quiz]（４０%）の総合評価

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Hospitality On The Scene	Megumi Uesugi 他	金星堂	2,200 円(税抜)
教 科 書	TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ	TEX 加藤	朝日新聞出版	990 円(税込)
参 考 書	公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 11	ETS	国際ビジネスコミュニケーション協会	3,300 円(税込)

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語ＩＬＲが修得済みであることが望ましい。またツーリズム・イングリッシュＡからの継続履修をお勧めする。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワー：授業の前後に対応（またはメールにて対応（E-mail アドレス: d-yamada@ohtsuki.ac.jp))。20 名程度の履修者数を想定。履修者希望者は履修者を決定するので１回目のガイダンス授業に必ず出席してください。ツーリズム・イングリッシュＡとは必ずしも継続履修を求めていませんが、学習効果を上げるためには継続した履修をお勧めします（別のテキストを使用)。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
初級英語コミュニケーション	ジョージ・トゥモロー	1	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

日本語と英語、両言語に重要なコミュニケーションの基礎知識を習得し、適切に応用出来る様に進む。優れた英語力は特に問わないが、努力を惜しむ学生には適しない。

あらゆる状況や場面で即座の応答が出来る様なコミュニケーション能力を育成することである。①一般知識の習得、②会話による言葉の省略や変化の聞き取り、③現代口語表現の理解、④人前で色々な立場での発話、⑤異国の文化の理解、等を目標としてある。

The intent of this coursework is to introduce the student to a non-native language, primarily English, through as many different facets of viewpoints as possible in a rudimentary course.

（3）到達目標

第二国語である英語を日本の教育上に出会わない視点から学習し、応用の可能性に慣れていくことである。

The enrollee is expected to engender a certain amount of cognizance as regards the various aspects of Communication Theory, and then to acquire as much proficiency as possible in the application of such, especially as to the English Language. Germane to this coursework is the study of languages and any and all historical relevancy.

（4）授業計画

	テーマ	授業内容
0	TOEIC Tactics	TOEIC 試験に関しての対策や語彙習得法
1	The Development of English	英語の歴史：文字や語順の発展
2	Grammatical Categories	英語に於ける「文法範疇」
3	Phonics, Phonetics, and Syllabary	「音声学」、「音韻論」、「音節」の概要
4	Lexemes and Morphology	「語彙素」と「形態論」
5	Stress Semantics	「韻律」と「強調」に関する「意味論」
6	Deixis Theory	英語に関しての「直示」の歴史と重要性
7	Pragmatics	英語に関しての「語用論」
8	Lexical Categories (I)	「限定詞」と「接置詞」
9	Lexical Categories (II)	「接続詞」と「節」
10	Lexical Categories (III)	「準動詞」と「形容詞」
11	Languages	「言語」
12	Linguistics	「言語学」
13	Communication Theory	あらゆるコミュニケーション論理
14	Japanese Uniqueness	日本語に在る独自性
15	English Uniqueness	英語に在る独自性
16	English Episteme and Reasoning	英語に於ける「認識論」と「推論」

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

It is expected that one will devote at least an hour of preparation time for each and every lecture, and whatever time is necessary to qualify the content of the lectures afterwards. Homework per se is not necessitated; rather, whatever required time will be given during the lecture at regular intervals to allow for the checking of understanding.

Regular attendance and participation are mandatory and expected.

（6）成績評価の方法と基準

① 試験：80%（全ての教材の持ち込みは可能である）；② Presentation：10%(may be subject to change)；③ Critical Analysis：10% (may be subject to change). Attendance is mandatory.

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Aspects of English Communication	George M. Tummolo	Senior-Labor Publishing	Free
参 考 書	大月の猫達	George M. Tummolo	Labor of Love Publishing	

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

中級英語コミュニケーションと同時履修は不可能である。

（9）オフィスアワー・その他

By appointment only.

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
中級英語コミュニケーション	ジョージ・トゥモロー	1	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

異文化に基づくコミュニケーションの知識を通じて、初級コースより深く理解し、幅広い応用の練習を行う。初級コースより高程度であらゆる状況や場面で即座の応答が出来る様なコミュニケーション能力を育成することである。或る程度の英語力を要求する。
① 一般知識の習得、② 会話による言葉の省略や変化の聞き取り、③ 現代口語表現の理解、
④ 様々な状況や立場に於ける会話の実践、⑤ 上の①～④に基づく強化学習 等である。
The intent of this coursework is to provide a fundamental framework for students to a non-native language, primarily English, through as many different facets of viewpoints as possible in an in-depth manner. The coursework will vary from the Introductory English Communication course insomuch as the abilities and interests of the students indicate.

（3）到達目標

第二国語である英語を日本の教育上に出会わない視点から学習し、初級英語コミュニケーションより深く、幅広く、応用の可能性に慣れていくことである。
The enrollee is expected to engender a deeper and broader amount of cognizance as regards the various aspects of Communication Theory, and then to acquire as much proficiency as possible in the application of such, especially as to the English Language. Germane to this coursework is the study of languages and any and all historical relevancy, conducted at a higher level than as for the Introductory version.

（4）授業計画

	テーマ	授業内容
O	TOEIC Tactics	TOEIC 試験に関しての対策や語彙習得法
1	The Development of English	英語の歴史上の発展
2	Grammatical Categories	英語の「文法範疇」
3	Lexical Categories	あらゆる語彙素の類
4	The Development of English Syntax	英語に関しての「統語論」の発展
5	Semantics in English	英語に於ける「意味論」
6	Pragmatics in English	英語に於ける「語用論」
7	English Prosody	英語に於ける「韻律」の重要性
8	Sound Symbolism in English	音声言語の「音象徴」
9	Morphology in English	英語に於ける「形態論」
10	Deixis in English	英語に於ける「直示」の重要性
11	Figures of Speech in English	英語に於ける修辞技法とその応用
12	Oratory	雄弁術と詭弁者
13	Communication Theory	あらゆるコミュニケーション論理
14	Japanese and English Comparison	日本語と英語の語学的比較
15	Reasoning and Logic in English	英語に於ける推論と理論

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

It is expected that one will devote at least an hour of preparation time for each and every lecture, and whatever time is necessary to qualify the content of the lectures afterwards. Homework per se is not necessitated; rather, whatever required time will be given during the lecture at regular intervals to allow for the checking of understanding.
Regular attendance and participation are mandatory and expected.

（6）成績評価の方法と基準

① 試験：80%（全ての教材の持ち込みは可能である）；② Presentation：10%(may be subject to change)；③ Critical Analysis：10% (may be subject to change). Attendance is mandatory.

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	English Communicating Strategies	George M. Tummolo	Senior-labor Publishing	Free
参 考 書	大月の猫達	George M. Tummolo	Labor of Love Publishing	

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

初級英語コミュニケーションと同時履修は不可能である。

（9）オフィスアワー・その他

By appointment only.

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
上級英語コミュニケーション	ジョージ・トゥモロー	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

一年次で身に付けたコミュニケーション知識をより細かい視点から検討して、思想や「心」の正確な伝え方を活かせる機会を提供する。更に深い異文化の理解を追及する。英語力そのものよりも英語に関しての好奇心を要求する。

The intent of this course is to expand upon and further develop knowledge gleaned from earlier coursework as regards English Communication and all ramifications thereof. The focus will be much more epistemological in nature than in said earlier coursework, and will demand more in the line of inquisitiveness rather than pure ability in English.

（3）到達目標

第二言語である英語の習得を或る程度概念上の視点から実現することである。

As a consequence of the enrollment and endeavoring in this course, the enrollee is expected to attain a certain level of proficiency in communicative technique, based upon the enhancing the breadth of knowledge as pertaining to the origin, history, nuances, and other aspects of English communication while contrasting these to the native language involved.

（4）授業計画

	テーマ	授業内容
1	Vocabulary Acquisition Tactics	英語の語彙習得対策
2	Endonyms and Exonyms	あらゆる「内名」と「外名」の概念について探る
3	Double Negatives	英語に存在する俗用である「二重否定」様式について
4	The Phonetic Alphabet	「音声記号」の概念と応用
5	Color and Food Semantics	「色」や「食べ物」に関する慣用句
6	“Engrish”	混種語と誤った英語用法について
7	Readability and Literacy	「可読性」と「識字」
8	Ambiguities in English	英語に於ける「曖昧さ」
9	Satire	英語に於ける「諷刺」
10	Propaganda and Doublespeak	プロパガンダと二重語
11	Phrasal Verbs vs. Phrasal Nouns	英語の「句動詞」と「句名詞」
12	Irreversible Binomials	英語の「畳語」と「不可逆二項」と「押韻」
13	Figures of Speech in English	英語の「修辞技法」とその応用
14	Impressions	英語や日本語の語形による「印象」について
15	Media Theory	マーシャル・マクルーハンの「媒体論」
16	English Poetry	英語の「詩」とその構造

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

It is expected that one will devote at least 3 hours of preparation time for each and every lecture, and whatever time is necessary to qualify the content of the lectures afterwards. Time will be given during the lecture at certain intervals to allow for assimilation of knowledge through worksheets that will ascertain cognizant awareness of the material covered. Regular attendance and participation are mandatory. Class enrollment may be restricted to about 25 students.

（6）成績評価の方法と基準

① 試験：80%（全ての教材の持ち込みは可能である）；② Presentation：10%(may be subject to change)；③ Critical Analysis：10% (may be subject to change).

Attendance is mandatory.

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Modern English Communication Skills	George M. Tummolo	Tummolo Labor Co.	Free.
参 考 書	大月の猫達	George M. Tummolo	Tummolo Labor Co.	

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

初級英語コミュニケーションか中級英語コミュニケーションの単位を修得した学生のみが履修可能。

（9）オフィスアワー・その他

By appointment only.

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
ドイツ語Ⅰ	三谷　泰正	1	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

この授業の対象として想定するのは、ドイツ語についてまったく予備知識を持たない、はじめてドイツ語を学ぶ学生諸君である。まず、ドイツ語の文字・単語を正しく音読する方法を学んだうえで、ドイツ語文法の「基礎の基礎」について約一年かけてじっくり学習してゆく。もちろん、身に着けた知識を実際にドイツ語を「読み、書き、話す」場面で応用するための練習も行ってゆく。これらを通じて、ドイツ語を理解・運用するうえで必要不可欠な知識の土台をしっかり固めてもらいたいと思っている。

なお、時間が許す限り、言語としてのドイツ語、またはドイツ連邦共和国をはじめとするドイツ語圏諸国の文化、社会、歴史、現代事情などについても紹介してゆきたいと思っている。何であれ「ドイツ」に関わる事柄に興味がある学生諸君の参加を歓迎する。

（3）到達目標

①ドイツ語の発音の規則を理解し、個々の単語の発音が（外来語等は別として）正確に出来る。
②初級文法の前半が理解出来ており、最重要の変化表（特に、冠詞類・名詞類の格変化、動詞の現在人称変化）は暗誦出来る。
③学習した範囲の文法を応用し、辞書なども活用して、現在時制の簡単な単文を読み取ったり、組み立てることが出来る。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	方針説明、文字と発音	ドイツ語のアルファベート、発音の規則、簡単な挨拶表現、基数詞
2	動詞（1）	不定詞と定動詞、動詞の現在人称変化、定動詞の位置
3	動詞（2）	口調上注意すべき変化、最重要不規則動詞　sein と haben
4	名詞と冠詞（1）	名詞の性・数・格、名詞の変化、定冠詞と不定冠詞の変化
5	名詞と冠詞（2）	名詞の複数形の作り方、男性弱変化名詞、疑問代名詞 wer と was
6	動詞（3）	不規則動詞の現在人称変化、動詞の命令形
7	人称代名詞	人称代名詞の格変化、非人称の es、不定代名詞 man
8	冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類の変化
9	否定の表現	否定冠詞 kein、否定詞 nicht の位置、ja・nein・doch の用法
10	前置詞（1）	前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形
11	前置詞（2）	動詞・形容詞の前置詞支配、前置詞と人称・疑問代名詞の融合形
12	話法の助動詞	話法の助動詞の現在人称変化、いわゆる「未来」の助動詞 werden
13	複合動詞、接続詞	分離・非分離動詞、並列接続詞・従属接続詞
14	動詞（4）	動詞の三基本形、動詞の過去人称変化、現在完了形の作り方
15	まとめ、補足学習	「ドイツ語Ⅱ」への橋渡し

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

具体的な授業の進め方としては、①文法事項についての解説、②文法知識を定着すると同時に応用力をつけるための練習、③学習した文法事項が用いられているテキストの音読・訳読、④理解度確認のための小テストの実施と解答解説　－　原則的には一年を通じてこの流れを繰り返してゆく予定である。十分に予習と復習を行うこと、そして出された宿題は必ず行うことを参加者に期待する。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（60%）② 小テストおよび授業内課題（40%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ドイツ語ナビゲーション 3.0	前田良三・高木葉子	朝日出版社	2,750 円
参 考 書	プリント配布			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

（9）オフィスアワー・その他

参加にあたっては独和辞典が必要になる。どういうものを選ぶべきかは初回授業時に話題にする。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
ドイツ語Ⅱ	三谷　泰正	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

（2）授業概要と目的

この授業の対象は、「ドイツ語 I」でドイツ語の「基礎の基礎」についての学習を終えてのち、それに飽き足らず、ドイツ語初級文法学習の完遂と、自らのドイツ語運用能力のさらなる向上を目指す学生諸君である。まずは「ドイツ語 I」で習い覚えたことの簡単なおさらいからスタートし、準備万端整ってから、新しい文法事項の学習に着手する。すなわち、「過去形・完了形」から着手して、ドイツ語初級文法の締めくくりにあたる「接続法」までの文法項目の学習と応用練習に取り組んでゆく。

なお、「ドイツ語 II」では、時に教科書に基づく文法中心総合学習から離れて、現代のドイツ語メディアなどを出典とする、生きたドイツ語に触れる機会も設けてゆく予定である。

（3）到達目標

①ドイツ語の発音の規則を、重要な例外事項まで含めてしっかり理解し、簡単な文章ならばスムーズに音読出来るようになる。
②ドイツ語初級文法の全体がしっかり見渡せる。あやふやな箇所は辞書や文法表を用いて自力で調べる力が身についている。
③学習した範囲の文法を応用し、辞書なども活用して、簡単な文章（複合文を含む）を読み取ったり、組み立てることが出来る。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	はじめに	方針説明、参考書等の紹介
2	「ドイツ語 I」の復習	格変化する品詞、人称変化する品詞
3	過去を表現する方法	ドイツ語の過去形と現在・過去完了形、直説法の６つの時制
4	再帰表現	再帰代名詞、再帰動詞
5	zu 不定詞	不定詞ならびに zu 不定詞の用法
6	形容詞	形容詞の３つの用法、形容詞の格変化
7	比較表現	形容詞および副詞の比較級・最上級の作り方、さまざまな比較表現
8	受動態	動作受動・状態受動、受動文の全時制
9	指示代名詞	指示代名詞の用法
10	関係文（1）	関係文とは何か、定関係代名詞 der
11	関係文（2）	不定関係代名詞 wer と was、関係副詞 wo
12	接続法（1）	接続法Ⅰ式・Ⅱ式の作り方、接続法の４つの時制
13	接続法（2）	接続法の用法（要求話法、間接話法、非現実話法、婉曲話法）
14	読解演習	簡単なドイツ語テキストの読解
15	まとめ	ドイツ語学習継続のすすめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

具体的な授業の進め方としては、①文法事項についての解説、②文法知識を定着すると同時に応用力をつけるための練習、③学習した文法事項が用いられているテキストの音読・訳読、④理解度確認のための小テストの実施と解答解説　－　原則的には一年を通じてこの流れを繰り返してゆく予定である。十分に予習と復習を行うこと、そして出された宿題は必ず行うことを参加者に期待する。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（60%）② 小テストおよび授業内課題（40%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ドイツ語ナビゲーション 3.0	前田良三・高木葉子	朝日出版社	2,750 円
参 考 書	プリント配布			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「ドイツ語Ⅰ」の修得が参加の前提となる。

（9）オフィスアワー・その他

特になし。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
中国語Ⅰ	袁晨旭・陳虹霖・上野振宇	1	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

本授業では、中国語を初学者の受講生を対象に、発音の基礎から始め、基本的な語彙・文法・表現を順次学習していく。発音に関しては、中国語の子音・母音に加えて、四声（声調）および発音表記「ピンイン」を学ぶ。授業内にて教員の発音を手本にした模倣と反復練習を通じて、正確な発音を習得する。本授業は週 2 コマで構成される。月曜日(講読)では基本的文法事項を中心に学び、豊富な練習問題を繰り返すことで、短い文章を中国語で読む力・書く力を身につけることを目的とする。水曜日(会話)では口頭練習を重点的に行い、既習知識を実践会話の中で応用できるよう、話す力を身につけることを目的とする。

（3）到達目標

① 中国語の発音表記を理解し、正確に発音できる。
② 基本的な文型を理解し、短い文章を読むことができる。
③ 基本的な語彙や文型を使って短い文章書ける。また、簡単な会話ができる。
レベルとしては、日本中国語検定準4 級、またはHSK 1 級を目指す。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	(月)(水)授業内容についての説明、導入：これから学ぶ中国語について
2	発音(1) 単母音、声調、ピンイン	(月)(水)単母音、声調の発音練習、聞き取り、ピンインについて
3	発音(2) 子音、複母音	(月)(水)子音、複母音の発音練習、聞き取り
4	発音(3) 鼻母音、軽声、声調変化	(月)(水)軽声、声調変化の発音練習、聞き取り
5	発音(4) まとめ	(月) ピンインの小テスト　(水) 発音のリスニング小テスト
6	(第1課) どうぞよろしく	人称代名詞、動詞“是”、否定詞“不”、疑問詞“吗”、“的”：(月)講読 (水)会話
7	(第2課) 到着ロビーで	指示代名詞、形容詞述語文、主述述文：(月)講読 (水)会話
8	(第3課) 明日のスケジュール	場所代名詞、動詞述語文、副詞“都”“也”、疑問詞疑問文：(月)講読 (水)会話
9	復習と応用	(月) 文法の復習、日中作文の応用練習　(水) 会話の復習、発表
10	(第4課) 喫茶店で	助動詞“想”、動詞“喜欢”、動詞の重ね型、選択疑問文：(月)講読 (水)会話
11	(第5課) コンビニで買い物	数詞、量詞の使い方、“是”の省略、人民元の数え方：(月)講読 (水)会話
12	復習と応用練習(2)	(月) 文法の復習、日中作文の応用練習 (水) 会話の復習、発表
13	(第6課) 電子辞書が欲しい	動詞“有”、反復疑問文、動詞“在”、方位詞：(月)講読 (水)会話
14	(第7課) 京劇を見る	完了の“了”、連動文、前置詞“离”：(月)講読 (水)会話
15	復習と応用練習(3)	(月) 文法の復習、日中作文の応用練習　(水) 会話の復習、発表

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は、講読(月)と会話(水)に分けて実施する。C1、C2 クラスは2 名の教員がペアで担当し、C3 クラスは1 名の教員が担当する。講読(月)ではテキストに沿って基本的な文法事項と語彙を学習する。さらに、朗読・暗記、筆記練習問題、小テストを通して既習知識を定着させる。会話(水)では発音の反復練習と会話演習を中心に行い、正確な発音と簡単な会話ができるようにする。本授業は会話練習・筆記練習、朗読・暗記を重点的に行うため、学生には授業内外で積極的（週2 時間以上を目安）に取り組んで欲しい。

（6）成績評価の方法と基準

①授業への取り組み(平常点、小テスト、課題) 20% ②講読（筆記）試験 40% ③会話（口頭）試験 40%。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	一冊めの中国語 講読クラス	劉穎・喜多山幸子・松田かの子	白水社	2,530 円
教 科 書	一冊めの中国語 会話クラス	劉穎・喜多山幸子・松田かの子	白水社	2,530 円
参 考 書	プリント配布			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「中国語 II」の基礎であり、履修後は「中国語コミュニケーション」を履修できる。他の関連科目としてはアジア文化講義 A や海外語学研修 B などがある。

（9）オフィスアワー・その他

『一冊めの中国語 講読クラス』は(月)講読の授業、『一冊めの中国語 会話クラス』は(水)会話の授業で使うので、2 冊とも必要である。質疑応答は授業終了後その場で受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
中国語Ⅱ	袁晨旭・陳虹霖・上野振宇	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

本授業では、中国語Ⅰを修得した学生が、既習内容を基盤として、日常生活における身近な話題を扱う教材の学習を通じ、基本的な中国語の表現能力を身につける。授業は、「講読」(月)と「会話」(水)に分けて実施する。講読(月)では、各テーマに基づいて書かれた文章を読解・音読し、新しい語彙や表現を学習する。会話(水)では、場面ごとの表現を習得し、正確な発音で発話できるようにする。さらに、学習した表現を用いて会話練習を行うことで、コミュニケーション能力を高める。一年次は基本表現を覚えることに重点を置いたが、二年次の授業では、基本表現を用いて自分の言いたいことを中国語で表現できるように練習し、応用力を高めることに重点を置く。

（3）到達目標

① より多くの会話場面で使う語彙・文法・表現などを獲得できる。
② 会話場面に応じて既習知識を正しく応用して中国語で自己表現ができる。
③ やや長い文章を読んで意味を理解できると同時に、中国語で短い文章を書くことができる。
レベルとしては、日本中国語検定４級、またはHSK ２級を目指す。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	(月)(水)授業内容についての説明、一年次内容の復習
2	(第8課) ファーストフード店で昼食	変化“了”、動詞“有”(存在)、前置詞“在”：(月)講読 (水)会話
3	(第9課) カラオケ店で	助動詞“可以”“会”“能”、直接話法と間接話法、前置詞“给”：(月)講読 (水)会話
4	復習と応用練習	(月)文法の復習、作文応用練習　(水)会話の復習と応用練習
5	(第10課) 万里の長城に登る	時刻の言い方、経験を表す“过”、動作の回数、方向補語：(月)講読 (水)会話
6	(第11課) 診察を受ける	“有点儿”、“是…的”、比較の表現：(月)講読 (水)会話
7	復習と応用練習	(月)文法の復習、作文応用練習　(水)会話の復習と応用練習
8	総合復習(1)	(月)文法の総合復習と確認テスト　(水)既習表現を用いる会話の総合復習
9	(第12課) タクシーに乗る	“把”構文、結果補語、“从…到…”、二重目的語：(月)講読 (水)会話
10	(第13課) 修理を頼む	疑問詞“怎么”、使役動詞“让”“叫”、番号の言い方：(月)講読 (水)会話
11	復習と応用練習	(月)文法の復習、作文応用練習　(水)会話の復習と応用練習
12	(第14課) 訪問する	様態補語、動作の進行：(月)講読 (水)会話
13	(第15課) 乾杯	“就要…了”、名詞を修飾する語、主述構造の目的語、前置詞“为”
14	復習と応用練習	(月)文法の復習、作文応用練習　(水)会話の復習と応用練習
15	総合復習(2)	(月)文法の総合復習と確認テスト　(水)既習表現を用いる会話の総合復習

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は、講読(月)と会話(水)に分けて実施する。C1 クラスは２名の教員がペアで担当し、C2 クラスは１名の教員が担当する。講読(月)では、テキストの語彙・文法・記述文を学習し、朗読・暗記、筆記練習を通して既習知識を定着させる。会話(水)では、テキストの会話文を学習した上で、教員との口頭練習やペアによる会話発表を中心に行い、中国語での会話力を高める。本授業は既習知識の応用力を重視するため、その基盤となる授業内外の練習に学生が積極的 (週２時間以上を目安) に取り組むことが不可欠である。

（6）成績評価の方法と基準

①授業への取り組み(平常点、小テスト、課題) 20% ②講読 (筆記) 試験 40% ③会話 (口頭) 試験 40%。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	一冊めの中国語 講読クラス	劉穎・喜多山幸子・松田かの子	白水社	2,530 円
教 科 書	一冊めの中国語 会話クラス	劉穎・喜多山幸子・松田かの子	白水社	2,530 円
参 考 書	プリント配布			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

中国語Ⅰの修了が必要である。同時に「中国語コミュニケーション」の履修を薦める。他の関連科目としてはアジア文化講義Ａや海外語学研修Ｂなどがある。

（9）オフィスアワー・その他

教科書は、中国語Ⅰで使用した『1 冊めの中国語　講読クラス』および『1 冊めの中国語　会話クラス』の２冊を継続して用いる。質疑応答は授業終了後、その場で受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
中国語コミュニケーション	陳　虹霖	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

この授業では、中国語Ⅰを修了した学生を対象とし、中国語Ⅰで学んだ最も基本的な知識をベースに、身近な話題について関連する語彙・文法・表現などを学習する。既習知識を用いて関連話題について中国語で自己表現できることを目的とする。また、話題ごとに日中文化の違いについて考えて、異文化に対する理解を深めることや日本文化を再認識することを目的とする。具体的には中華圏を一人で旅行するのに困らない会話力を身に着けることを目指す。中国語・中国語圏の文化に興味がある方、中国語の会話力をさらに高めたい方に、履修を薦める。

（3）到達目標

① 身近な話題について必要な語彙、文法や表現を使用できる。
② 中華圏の文化について考えることができる。
③ 短い文章を作成し、自己意見を伝えることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業内容、授業の進め方について
2	大学校园	大学キャンパスを紹介する：単語・文法・本文の確認、会話練習・発表
3	问年龄	年齢を聞く・言う：単語・文法・本文の確認、会話練習・発表
4	为什么	理由を聞く・言う：単語・文法・本文の確認、会話練習・発表
5	生鸡蛋	飲食文化(生卵)を紹介する：単語・文法・本文の確認、会話練習・発表
6	生日礼物	贈り物文化(誕生日プレゼント)を紹介する：単語・文法・本文の確認、会話練習・発表
7	饺子	飲食文化(餃子)を紹介する：単語・文法・本文の確認、会話練習・発表
8	聊天儿	おしゃべり：単語・文法・本文の確認、会話練習・発表
9	旅游	旅行について紹介する：単語・文法・本文の確認、会話練習・発表
10	网购	ネットショピングについて意見を述べる：単語・文法・本文の確認、会話練習・発表
11	宠物	ペットを紹介する：単語・文法・本文の確認、会話練習・発表
12	找工作	就職活動を紹介する：単語・文法・本文の確認、会話練習・発表
13	朋友	友達を紹介する：単語・文法・本文の確認、会話練習・発表
14	樱花	花見について紹介する：単語・文法・本文の確認、会話練習・発表
15	新年	新年について紹介する：単語・文法・本文の確認、会話練習・発表

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

この授業では、各テーマは2〜3回の授業で完結する。テーマごとに、テキストに沿って関連語彙・文法・表現を学習する。また、テーマごとに日中文化の相違点について考えることや既習した知識を用いて中国語で自分の意見を発表することを重点的に行う。グループでの意見交換や発表を重視するため、グループディスカッションに積極的に取り組んでほしい。また、教材を使って関連知識の予習や復習も期待される。

（6）成績評価の方法と基準

① 授業への取り組み(授業態度、積極性)30% ②発表(原稿完成度、流暢度、発音の正しさ)30% ③口頭試験(40%)

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	なし、プリント配布			
参 考 書	音声や会話で深める中国語 中級アイテム	鄭 高 咏	朝日出版社	2,750 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

中国語Ⅰの修得が必須である。中国語Ⅱの履修を薦める。他の関連科目としては、海外語学研修B、アジア文化講義A/Bなど。

（9）オフィスアワー・その他

授業進度・内容は変更される可能性がある。質問は授業終了後、その場で受け付ける。授業中に中国音楽・ドラマなどを取り入れる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
韓国・朝鮮語Ⅰ	李　英淑	1	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1、日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）

（2）授業概要と目的

韓国語Ⅰは初めて韓国語を学ぶ学生を対象とするクラスである。
この授業で学ぶことはハングル文字の仕組みと、発音の方法、文章の作り方である。
様々な発音のルールを繰り返し練習することで正確に発音ができるようにする。また、簡単な作文の練習を通じて基本的な文法の知識を身につけ、ダイアログの音読を繰り返すことにより簡単な日常会話が話せるようにすることである。
これらを学ぶことにより読み書き、聞き取り、話すことの総合的能力を身につけることを目標とする。

（3）到達目標

①ハングル文字を正確に読めるようにする。
②発音のルールを学び様々な発音の変化を修得する。
③韓国語で簡単なコミュニケーションが取れることを目標とする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ハングルとは	韓国語の特徴と文字の仕組み
2	文字と発音　①	基本母音，基本子音を学ぶ
3	文字と発音　②	激音、濃音、複合母音、発音の変化（有声音化）
4	文字と発音　③	終声（パッチム）について学ぶ、発音の変化（連音化、濃音化）
5	文字と発音　④	日本語のハングル表記方法
6	文法と会話　①	自己紹介、漢数詞①、名詞文、名詞文の否定形
7	文法と会話　②	指示語、存在詞、韓国の文化（初対面の挨拶、ソウル散歩①）
8	文法と会話　③	ヘヨ体①の作り方、漢数詞②、韓国の文化（ストリートフード）
9	文法と会話　④	ヘヨ体②の作り方、移動の目的を表す表現、韓国の文化（ソウル散歩②）
10	文法と会話　⑤	願望を表す表現、話を短く終わらせる表現、尊敬形①
11	文法と会話　⑥	リウル語幹の特徴、韓国の文化（韓国のコンビニ事情）
12	文法と会話　⑦	かしこまった丁寧形の作り方、助詞のまとめ、固有数詞
13	文法と会話　⑧	意志や推量の表現、韓国の文化（食文化②）
14	文法と会話　⑨	過去形、用言の否定形の作り方、助数詞、変則用言、理由や原因を表す表現
15	文法と会話　⑩	不可能や依頼を表す表現、事柄の並列や約束を表す表現、試みや経験を表す表現

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

・基本的には教科書を使っての講義形式で授業を進めていく。
・授業で習った内容をグループ学習や輪読を行い会話能力を向上させる。
・確認テストや音読などを通じて読み書きが早く上達できるようにする。
・フィードバックとして確認テストの回収後、解答の解説を行う。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（７０%）、小テスト、授業内の活動（３０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ファイティン！	睦宗均、李裕施	朝日出版社	２７５０円
参 考 書	プリント配布			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「韓国・朝鮮語Ⅱ」を継続して履修することが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

特になし

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
韓国・朝鮮語Ⅱ	李　英淑	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1、日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）

（2）授業概要と目的

韓国語Ⅱのクラスは一年次で学んだ基礎的な知識を基に様々な表現を学ぶクラスである。
主に実践会話を中心に学び、テキストの本文の会話を丁寧に音読解説し、応用問題や課題を通じて更なる文法的知識を広げていく。また、韓国と日本の文化の違いを学ぶことで理解を深めていく。
韓国語の様々な語尾変化を理解し、覚えるよう指導していく。
作文の練習や会話の練習を通じて語彙を増やし表現を広げていくことを目標とする。

（3）到達目標

①韓国語の読み書き、聞き取り、話すという総合的能力を身につける。
②韓国語能力試験４級合格程度のレベルを取得することを目指す。
③話すことの苦手意識を無くして韓国語でコミュニケーションが取れることを目標とする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	一年次の復習	一年次で学んだ基礎的文法の総まとめ
2	文法と会話　①	可能・不可能の表現、動詞・形容詞の副詞化、韓国のバス文化
3	文法と会話　②	許可や譲歩の表現、変則用言、韓国の大学生活
4	文法と会話　③	禁止表現、同時に起きる二つの動作や義務の表現、韓国のしきたり
5	文法と会話　④	動詞・存在詞の現在連体形、傾向を表す表現、韓国大学生のアルバイト文化
6	文法と会話　⑤	変化の過程の表現、期待や控えめの願いの表現、韓国のインターンシップ
7	文法と会話　⑥	動詞の過去連体形、過去の経験の表現、時間の経過の表現、
8	文法と会話　⑦	未来連体形、推量の表現、形容詞の連体形、韓流ブーム
9	文法と会話　⑧	状況に対する推量の表現、自分の意志や相手の意向を尋ねる表現、韓国の対人距離
10	文法と会話　⑨	カジュアルな言い方、不確かな可能性を表す表現、
11	文法と会話　⑩	動作の結果の状態を表す表現、理由や原因を表す表現、韓国の兵役義務
12	文法と会話　⑪	状況を説明する表現、韓国の住居
13	文法と会話　⑫	親しい人や目下の人と話す言い方（現在形、過去形）
14	文法と会話　⑬	相手に確認したり、同意を求める表現、身体の一部を使った慣用句
15	文法と会話　⑭	親しい人や目下の人と話す言い方（疑問形、命令形、勧誘形）韓国の結婚文化

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

・基本的には教科書を使っての講義形式で授業を進めていく。
・授業で習った内容を会話の音声を聴いて質問に答えたり、グループ学習で韓国と日本の文化の違いを発表する。
・確認テスト、作文の練習、簡単な会話の聞き取りや読む練習を通じて会話能力を向上させる。
・フィードバックとして確認テストの回収後、解答の解説を行う。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（７０%）、小テスト、授業内の活動（３０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ファイティン！２	睦宗均、李裕施、小島大輝	朝日出版社	２８６０円
参 考 書	プリント配布			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

韓国・朝鮮語Ⅰ

（9）オフィスアワー・その他

「韓国・朝鮮語Ⅰ」を修得していないと履修することができない。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
フランス語Ⅰ	早川　理穂	1	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

フランス語を初めて学習する者を対象に、フランス語の基本的な単語や文法、発音の規則を習得し、「読む」「聞く」「書く」「話す」能力を養い、フランス語であいさつなどの簡単な日常表現ができるようにする。正確な発音を身につけることは「話す」能力だけではなく「聞く」能力の向上にもつながるので、鏡を見ながら正確な発音ができるように口や舌を動かす練習をする。また、フランス語学習のために辞書やその活用方法を学ぶ。さらに、フランスの歴史や文化、フランスの生活などに関する幅広い知識を得られるようにする。

（3）到達目標

①フランス語の基礎文法を習得できるようにする。②フランス語実用検定４級程度の能力に到達できるようにする。
③フランスの文化について論じることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、参考文献紹介、フランス語の文字
2	Leçon 1	フランス語の音、つづり字の読み方
3	Leçon 2	名詞の性と数、冠詞、voici, voilà
4	Leçon 3	主語人称代名詞、être の直説法現在、avoir の直説法現在、c'est, ce sont, il y a
5	Leçon 4	第１群規則動詞（-er 動詞）の直説法現在、第２群規則動詞（-ir 動詞）の直説法現在、形容詞の性と数、形容詞の位置
6	Leçon 5	基本文型、否定形
7	Leçon 6	疑問形、Oui, Non, Si、所有形容詞
8	Leçon 7	指示形容詞、名詞と形容詞の女性形・複数形の特殊な形
9	Leçon 8	aller, venir の直説法現在、近接未来・近接過去、冠詞の縮約
10	Leçon 9	疑問代名詞、疑問副詞
11	Leçon 10	疑問形容詞、形容詞と副詞の比較級、形容詞と副詞の最上級
12	Leçon 11	命令法、非人称構文
13	Leçon 12	過去分詞、直説法複合過去
14	Leçon 13	人称代名詞の目的補語形、人称代名詞の強勢形
15	Leçon 14	複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致（まとめ）
16	Leçon 15	関係代名詞、強調構文、指示代名詞
17	Leçon 16	代名動詞の活用、代名動詞の用法
18	Leçon 17	直説法単純未来、中性代名詞 le, en , y
19	Leçon 18	直説法半過去の活用、直説法半過去の用法
20	Leçon 19	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
21	Leçon 20	条件法現在の活用、条件法現在の用法
22	Leçon 21	接続法現在の活用、接続法現在の用法

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式の授業、発音練習、会話練習を織り交ぜて行う。随時課題を課し、必要に応じて提出された課題にコメントを付して返却し、フィードバックを行う。時間外学習としては課題に取り組む他、教科書付属の CD を活用し、正しい発音を聞きながら声に出して練習をする。

（6）成績評価の方法と基準

①課題提出（70%）②授業内の活動（30%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	MA GRAMMAIRE 4e édition（マ・グラメール 四訂版）	小野ゆり子、村松マリ＝エマニュエル	白水社	2,530 円
参 考 書	プチ・ロワイヤル仏和辞典 第５版	倉方秀憲、東郷雄二、春木仁孝	旺文社	4,180 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

フランス語Ⅱ

（9）オフィスアワー・その他

発音練習に使用するため、鏡を持ってくること。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
フランス語Ⅱ	早川　理穂	2	通年	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

フランス語Ⅱは、一年次にフランス語Ⅰを履修し基本的なフランス語文法を習得した者を対象に、主に会話や読解の能力を更に高めることを目指す。鏡を使って口の形をチェックしながら正確な発音でフランス語を話すことを意識し、できるだけ口を動かすようにする。また、フランスの生活、地理、歴史、文化に関する幅広い知識を習得していく。教科書で基本文法の確認を行いながら、更に文法を学習する。プリントを適宜配布し、応用力を養う。

（3）到達目標

①フランス語の「読む」「聞く」「話す」「書く」能力について、実用フランス語検定３級レベルに到達できるようにする。
②フランス語の短い文章を、フランス語辞書を引きながら読めるようにする。
③フランスの地理、歴史、文化に関する基本的な知識を習得する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	Leçon 1	空港にて
2	Leçon 2	ホテルの予約
3	Leçon 3	郵便局
4	Leçon 4	カフェで注文する
5	Leçon 5	メトロに乗る
6	Leçon 6	名所を巡るーパリの歴史
7	Leçon 7	市場にてーフランスの食文化
8	Leçon 8	レストランで注文する
9	Leçon 9	美術館にて
10	Leçon 10	ショッピング
11	Leçon 11	セーヌ河クルーズ
12	Leçon 12	オペラ座
13	シャンソン	フランスの音楽
14	フランスの地理	各地方の特色
15	フランスの歴史	フランスの言語政策

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式の解説と会話練習を行う。フランスの生活、地理、歴史、文化に関して学ぶ。文法に関する課題を随時課し、添削や解説を行う。

（6）成績評価の方法と基準

①課題提出（40%）
②授業内の活動（30%）
③テスト（30%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	Partir pour Paris（新はじめてのパリー映像付きー）	大津俊克、瀧川広子、藤井宏尚	朝日出版社	2,750 円
参 考 書	プチ・ロワイヤル仏和辞典　第５版	倉方秀憲、東郷雄二、春木仁孝	旺文社	4,180 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

フランス語Ⅰ

（9）オフィスアワー・その他

発音練習のため、鏡を持ってくること。質問がある場合は授業の前後の休み時間に受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
コミュニケーションA（クラスメイトとの会話）	神山　英子	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

大学生として仲間と助け合いながら学業を全うし、卒業レポートを執筆して卒業するために必要な、最も基本的なコミュニケーション能力として、主に口頭言語（話し言葉）によるクラスメイトとのコミュニケーション能力を養う演習の授業である。日本語の基本的な語彙や表現を学びながら、日常的な会話だけでなく、自らの価値観を表現したり、相手の主張を受け入れたうえで対話につなげていったりするなど、お互いの考えを理解し、受け止め、発展させていくためのコミュニケーション能力を磨いていく。また、学期の後半ではビブリオバトルを行い、①本を１冊通して読む②その内容を十分に理解し文章にまとめる③本の良さを自分の視点から分析する④分析内容をフォーマルな場で口頭発表すると同時にクラスメイトの発表を聞いて質問をする、といった一連の過程を経験する。

（3）到達目標

①自らの考えや主張を相手に伝える力を養う。
②相手の主張を聞いて理解し、受け止める力を養う。
③意見が異なる相手とも、建設的に対話する力を養う。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業内容と方法を知り、このクラスの目標を知る。コミュニケーションの概要を学ぶ。
2	日本語の基本（1）	語彙を増やす（語の種類・対義語）
3	日本語の基本（2）	語彙を増やす（語彙を増やすためにすべきこと）
4	日本語の基本（3）	表現を豊かにする（慣用句・四字熟語）
5	日本語の基本（4）	表現を豊かにする（故事成語・ことわざ）
6	価値観の違いと自己開示・対話力	価値観の定義や違いと自己開示の効果的な方法についてグループで対話をしながら考える。
7	コンセンサスゲーム	合意することを学ぶコンセンサスゲームを体験し、その時にどう思ったか共有する。
8	アサーティブな対話（1）	アサーティブな対話を体験し、その時にどう思ったかグループで共有する。（全２回）
9	アサーティブな対話（2）	
10	文章をまとめる（1）	まとまった文章を要約し、それについてグループで意見を交わし合う。（全２回）
11	文章をまとめる（2）	
12	ビブリオバトル（1）	本を１冊読み通したうえで、その良さを分析しまとめ、発表準備を行う。
13	ビブリオバトル（2）	ビブリオバトル予選として、グループ戦を行う。
14	ビブリオバトル（3）	チャンプ本決定戦として、クラスの代表者間で決勝戦を行う。
15	まとめ	授業で学んだことをグループで共有し、その後、全体で共有する。

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

参加型のグループ活動形式を行う（グループ全体で、または、グループ内でペアをつくり、テーマに沿って話し合う)。自分の意見を言うだけでなく、他者の意見を聞き、理解し、意見を発展させたり、すり合わせたりするなど、学生の積極的な参加なくしては成立しない授業である。（授業方法、授業内容は学生の反応をみて変更することがある。）毎回、課題として振り返りを行い、次の授業時にフィードバックする。なお、30 分以上の遅刻・早退・離席は欠席とする。

（6）成績評価の方法と基準

①ビブリオバトルを含めた授業内課題（70%)、②期末レポート（30%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	プリント配布			
参 考 書	授業中に適宜紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

原則として毎週金曜日 13:00～14:00（その他の時間でも必要に応じて対応可能）

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
コミュニケーションB（コミュニケーション論）	神山　英子	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

この授業は、コミュニケーションとは何かを知り、コミュニケーション論に関する基礎的な知識を同時に学びながら「書く」技能を高める演習の授業である。自分の普段のコミュニケーションを振り返り、理論を当てはめて考えてみることで、自分自身のコミュニケーションを相対化し、客観的に眺めてみる方法を習得しながら書く力をつける。また、場や状況によってコミュニケーションがどのように変化するかなど、コミュニケーションのダイナミズムについて学修する。人間にとって、コミュニケーションはなくてはならないものであることを知り、自分自身のコミュニケーションを分析的にとらえることにより、コミュニケーションの面白さを学ぶ。1年生向けの一般教育科目であるが、社会に出てからのコミュニケーションに不安がある2年生にも適した内容である。

（3）到達目標

①自らのコミュニケーションの特徴を知り、それを暮らしの中での様々なコミュニケーションに活かすことができる。
②異文化コミュニケーションの基礎的な知識を得、複雑な社会の中で自分の意見をどう形作っていくかについて客観的に考えることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業内容・方法を知る、この授業における「コミュニケーション論」とは何かを知る。
2	コミュニケーションとは	この授業で捉える「コミュニケーション」の定義を確認する。
3	文化とは	「文化」とは何かを知り、自分に当てはめて考える。
4	言語コミュニケーション（1）	言語コミュニケーションの実例を概観し、自分に当てはめて考える。
5	言語コミュニケーション（2）	言語コミュニケーションについての発表
6	非言語コミュニケーション（1）	非言語コミュニケーションの実例を概観し、自分に当てはめて考える。
7	非言語コミュニケーション（2）	非言語コミュニケーションについての発表
8	コミュニケーションとサイン	コミュニケーション時のサインの実例を外観し、自分に当てはめて考える。
9	アイデンティティ（1）	アイデンティティとコミュニケーションの実例を概観し、自分に当てはめて考える。
10	アイデンティティ（2）	アイデンティティとコミュニケーションについての発表
11	メディアと文化	メディアと文化の関係性について知り、自分に当てはめて考える。
12	異文化接触	異文化接触について知り、自分に当てはめて考える。
13	コミュニケーションの阻害要因	コミュニケーションの阻害要因について知り、自分に当てはめて考える。
14	異文化とうまく付き合うために	これまで学習したことに関してテーマを選び対話をしてみる。
15	発表とまとめ	コミュニケーションのあり方について、自分の意見を発表する。

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業での説明を聞きながら、各回で扱ったテーマや理論に基づいて、自分自身のコミュニケーションについて考えてみたり、それをクラスメイトとシェアしたりするなど、解説をもとに自ら考え、意見交換する形で授業を進める。授業への積極的な参加が望まれる。（授業内容、授業方法は学生の反応をみて変更することがある。）毎回、課題として振り返りを行い、次の授業時にフィードバックする。なお、30分以上の遅刻・早退・離席は欠席とする。

（6）成績評価の方法と基準

①発表（40%)、②毎回の振り返りシート（30%）③期末レポート（30%）

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	教　科　書	プリント配布		
参　考　書	参　考　書	授業内で適宜提示する。		

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

コミュニケーションA

（9）オフィスアワー・その他

原則として毎週金曜日 13:00～14:00（その他の時間でも必要に応じて対応可能）

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
コミュニケーションC（ビジネス文書の基礎と作成）	神山　英子	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。

（2）授業概要と目的

この授業では、仕事やビジネスの場でやりとりされるビジネス文書に関する基礎的な知識と書き方を学修し、ビジネスの現場で対応できる文書作成力を養う。具体的には、社内文書と社外文書の違い、ビジネス文書の書式・レイアウトの学習、ビジネス文書特有の表現やその使い方の修得、敬語表現の基礎とビジネスシーンでの使い方、間違えやすい敬語の特徴、標題のつけ方、あいさつ文、ビジネスメール作成の方法などを学ぶ。ビジネス文書のパターンを学習するだけでなく、なぜそのような形になっているのかを考えることで、応用力の育成を目指す。

（3）到達目標

① ビジネス文書の概要を知り、基礎的な文書作成力を身につける。
② 就職活動中や就職後の事務的な仕事に必要となる文章作成力を身につける。
③ 文章作成に不可欠となる敬語の基礎知識を身につけ、適切な運用ができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業内容・方法を知る、ビジネス文書とは何かを知る。
2	伝言メモ	伝言メモの基本を習得する。
3	ビジネス文書の構成	ビジネス文書の構成を習得する。
4	ビジネス文書文体の統一	ビジネス文書の文体を習得する。
5	ビジネス文書の種類と特徴	ビジネス文書の種類と特徴を習得する。
6	社外文書の書き方	社外文書作成を実践的に行う。
7	社交文書の書き方	社交文書作成を実践的に行う。
8	社内文書の書き方	社内文書作成を実践的に行う。
9	改まった文書の書き方	改まった文書作成を実践的に行う。
10	手紙の書き方	ビジネス場面での手紙の作成を実践的に行う。
11	ハガキの書き方・電子メール	ビジネス場面でのハガキや電子メールの作成を実践的に行う。
12	敬語	敬語の体系や使い方などを習得する。
13	敬語の演習	敬語を使用してビジネス文書を作成してみる。
14	文書の工夫・レイアウト	見やすい文書にするための工夫点を整理する。
15	まとめ	学んだことをまとめる。

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習

授業内では、説明は最小限にとどめ、実際に社内文書や社外文書を書いていくことで実践的な力を養う。
評価では、主に授業内での小テスト、課題提出、期末試験を総合的にみる。（授業方法、授業内容は学生の習熟度をみて変更することがある。小テストと課題についてはフィードバックを行う。）なお、30 分以上の遅刻・早退・離席は欠席とする。

（6）成績評価の方法と基準

①授業内課題および最終レポート（50%）、② 期末試験（50%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ビジネス文書実務	石井典子／三村善美	早稲田教育出版	1,650 円
参 考 書	授業内で適宜紹介する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

原則として毎週金曜日 13:00～14:00（その他の時間でも必要に応じて対応可能）

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
コミュニケーションD（自分自身との対話）	神山　英子	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

私たちは日々、政治や経済を含めた世界情勢の動きから日常的なことまで、さまざまな情報と出会う。情報過多な時代に自ら意思決定をして多数の人とコミュニケーションを取っていくためにはアイデンティティの形成が不可欠である。この授業は、アイデンティティに関するテキストを読み進めながら、現在のニュースやＳＮＳなどからの情報が入ったときに、その内容が自分とどのような関わりがあるのか考えたり、自分が何にどう反応する傾向があるのかを知ったりすることを通して、自分との対話の実施やその方法論を学ぶ、「読む」技能を高める演習の授業である。その先には他者との円滑なコミュニケーションが取れることを目指す。1年生向けの一般教育科目であるが、社会に出てからのコミュニケーションに不安がある2年生にも適した内容である。

（3）到達目標

①アイデンティティについて考えられる。
②自分との対話の様々な方法を実施することができる。
③自分との対話を通し、他者とも円滑なコミュニケーションを取ることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業内容、方法について知る。アイデンティティについて考える。
2	なぜ今アイデンティティなのか（1）	自分を見失うタイミング
3	なぜ今アイデンティティなのか（2）	アイデンティティとは何か
4	「なんとなく」をなくす（1）	不安の正体
5	「なんとなく」をなくす（2）	定量化の訓練
6	「なんとなく」をなくす（3）	リスクマネジメント
7	「なんとなく」をなくす（4）	評論家で終わらないために
8	「自分」と向き合う（1）	「好きなことで生きていく」の落とし穴
9	「自分」と向き合う（2）	価値＝希少性
10	「自分」と向き合う（3）	望ましい未来とは何か
11	「自分」と向き合う（4）	自分しか知らない「シークレット」
12	コミュニティの中の自分（1）	物差しの多様性が持つインパクト
13	コミュニティの中の自分（2）	良質なコミュニティの形成条件
14	コミュニティの中の自分（3）	イノベーション・プログラム
15	まとめ	学んできたことの発表を行う

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

テキストの輪読により自分自身との対話に関するアイデンティティについて知り、実際に自分との対話を試してみる。活動を通して、自分自身の持つ特徴を知っていくとともに、それを言語化する術を学ぶ。将来、社会の中で自分や自分の置かれた立場を相対化して見る方法を身に着ける。（授業内容、授業方法は、学生の反応をみて変更する場合がある。）毎回、課題として振り返りを行い、次の授業時にフィードバックする。なお、30分以上の遅刻・早退・離席は欠席とする。

（6）成績評価の方法と基準

①授業でのグループ活動と課題（30%）、発表（30%）、②期末レポート（40%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	アイデンティティのつくり方	森山博暢／各務太郎	クロスメディア・パブリッシング	1,738円
参 考 書	授業内で適宜提示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

コミュニケーションA、コミュニケーションB

（9）オフィスアワー・その他

原則として毎週金曜日 13:00～14:00（その他の時間でも必要に応じて対応可能）

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
海外語学研修Ａ（英語・英国夏期語学研修）	松岡　昌和	1	前期集中	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。
2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

（2）授業概要と目的

英語によるコミュニケーション能力や経済に関連した事象を、本学と提携する英国バンガー大学で開催される夏期語学研修セミナーに参加することで学習する。
本学の英語Ⅰ（Ｇ・ＬＲ)・英語Ⅱや、初級・中級英語コミュニケーションでの学修から、そして本講座を通して、実際の英語圏の生活に触れることで、更なる言語学習の機会を提供するものである。前期期間中に行う「事前研修」(週１回）と、８月末からの「現地研修」（３週間）の２部構成になっており、前者では実際の英国内での生活に必要な知識を会得し、それをもとに後者の研修を行う。
３週間を英国で生活することにより、コンテンツベースの実践的な英語力を集中的に学習する機会を提供する。また英国内で生活することで、英国を含む英語圏の文化への理解を深め、国際的視野を養うことも目的とする。

（3）到達目標

① 授業内のみだけでない英語学習の機会を積極的に利用して、自ら積極的に英語学習に取り組む。
② 英国内の研修でコンテンツベースの英語学習を受講することで、物事の「違う見かた」を得る機会とする。
③ 現地での研修で教養的内容の学修をすることで、ウェールズを含む英国特有の文化（や経済など）を日本と比較しながら学ぶ。
④ 英国での滞在を通して、実践的な英語学習の機会を得て、履修者自身のより高度な言語学習の契機とする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	本科目の概要の説明（参加の是非に問わず興味ある学生は参加)
2	事前研修（1）	派遣先への応募書類の作成など渡航に必要な手続きを行い、同時に英国での生活に備えて、英国に関する基本的な知識、および日常生活で必要となる英語についてのオリエンテーションを行う。またバンガー大学側からの事前課題にも取り組む。
3	事前研修（2）	
4	事前研修（3）	
5	事前研修（4）	
6	英国内大学での研修（1）	研修先の大学では、月曜日から金曜日まで、現地教員によるコミュニケーションの訓練を行う。土曜日は、場合によって大学主催のエクスカージョンや経済科の学生としてのプログラムが設定されている場合もある。基本的には土曜日・日曜日は各自の工夫で過ごすことになっている。
7	英国内大学での研修（2）	
8	英国内大学での研修（3）	
9	英国内大学での研修（4）	
10	英国内大学での研修（5）	
11	英国内大学での研修（6）	
12	英国内大学での研修（7）	
13	英国内大学での研修（8）	
14	英国内大学での研修（9）	
15	英国内大学での研修（１０）	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

事前研修において、渡航準備の手続きを行いながら、講義形式により研修中の授業内容や英国での生活に即した内容の授業を行う。
７月には研修先より事前課題が送られてくるので、この時間にて事前課題に取り組む。研修中は研修先提供のプログラムに即して授業に参加する。講義だけでなく様々なアクティビティが用意されている。英国内での滞在は研修先との連携を深く結んでいる家庭においてのホームステイとなる。

（6）成績評価の方法と基準

英国内大学の教員が与えた評価をもとに、担当教員が総合評価をする（１００%)。評価は「認定」とする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
参 考 書	『ウェールズを知るための 60 章』	吉賀憲夫編	明石書店	2,200 円
参 考 書	『ウェールズの教育・言語・歴史』	平田雅博	晃洋書房	2,530 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語Ⅰ（Ｇ・ＬＲ)、英語Ⅱ、初級・中級英語コミュニケーションなど外国語の科目を積極的に履修することを求める。また英語以外の外国語の履修や欧米文化講義を事前に履修していくことで研修の際には有益だと考える。

（9）オフィスアワー・その他

履修する学年は問わないが、履修を考えている学生は必ずガイダンスでの説明会に参加し、第１回目の授業に出席すること。参加費用は各自負担となる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
海外語学研修Ｂ（中国語・春期台湾語学研修）	松岡　昌和	1	後期集中	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。
2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

（2）授業概要と目的

中国語によるコミュニケーション能力や経済に関連した事象を、本学の姉妹協定校である台湾の大学（長榮大学（台湾・台南市））で開催される語学研修セミナーに参加することで学習する。
本学の中国語の学修、そして本講座を通して実際の中華圏の生活に触れることで、更なる言語学習の機会を提供するものである。後期期間中に行う数回の「事前研修」と春期休暇中の「現地研修」（１２日間前後）の２部構成になっている。
台湾で生活することにより、より実践的な中国語運用能力を集中的に学習する機会を提供する。同時に長榮大学の提供する台湾文化を学ぶプログラムに参加すること、また実際に台湾で生活することで、中華圏の文化への理解を深め、国際的視野を養うことも目的とする。本年度は春期（２月末から３月の間の１２日間前後。旧正月を避け、長榮大学側との話し合いで決定）に研修を行う（参考：昨年度は3月の１２日間で実施)。

（3）到達目標

① 授業内のみだけでない中国語学習の機会を積極的に利用して、自ら積極的に中国語学習に取り組む。
② 台湾内の研修で、日本と比較しながら物事の「違う見かた」を得る機会とする。
③ 台湾での滞在を通して、実践的な中国語学習の機会を得て、履修者自身のより高度な言語学習の契機とする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	本科目の概要の説明（参加の是非に問わず興味ある学生は参加)
2	事前研修（1）	派遣先への応募書類の作成など渡航に必要な手続きを行い、同時に台湾での生活に備えて、台湾に関する基本的な知識のオリエンテーションを行う（昼休みや他の指定した時間)。
3	事前研修（2）	
4	事前研修（3）	
5	事前研修（4）	
6	台湾内大学での研修（1）	研修先の大学では、月曜日から金曜日まで、現地教員によるコミュニケーションの訓練を行う。週末は大学主催のエクスカージョンや他のプログラムが設定されている。
7	台湾内大学での研修（2）	
8	台湾内大学での研修（3）	
9	台湾内大学での研修（4）	
10	台湾内大学での研修（5）	
11	台湾内大学での研修（6）	
12	台湾内大学での研修（7）	
13	台湾内大学での研修（8）	
14	台湾内大学での研修（9）	
15	台湾内大学での研修（１０）	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

事前研修において、渡航準備の手続きを行いながら、講義形式により研修中の生活に関したガイダンスを行う。研修中は長榮大学側のプログラムに即して授業に参加する。講義だけでなく様々なアクティビティが用意されている。台湾内での滞在は長榮大学キャンパス内にある学生寮（男女別棟）での生活となる。

（6）成績評価の方法と基準

長榮大学の教員が与えた評価をもとに、担当教員が総合評価をする（１００%)。評価は「認定」とする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
参 考 書	『台湾華語』	林初梅・吉田真悟	大阪大学出版会	2,860 円
参 考 書	『あなたとともに知る台湾』	胎中千鶴	清水書院	1,100 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

中国語Ⅰ、(中国語Ⅱ、中国語コミュニケーション（2年次生))、アジア文化講義Ａ
中国語の科目（中国語Ⅰ・Ⅱ）は必ずしも必修ではないが、事前に多少なりとも中国語の学習経験があればよい。

（9）オフィスアワー・その他

履修する学年は問わないが、履修を考えている学生は必ずガイダンスでの説明会に参加すること。参加費用は各自負担となる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
海外語学研修Ｃ（英語・英国夏期語学研修）	松岡　昌和	２	前期集中	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

１．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。
２．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

（2）授業概要と目的

英語によるコミュニケーション能力や経済に関連した事象を、本学と提携する英国バンガー大学で開催される夏期語学研修セミナーに参加することで学習する。
本学の英語Ⅰ（Ｇ・ＬＲ)・英語Ⅱや、初級・中級英語コミュニケーションでの学修から、そして本講座を通して、実際の英語圏の生活に触れることで、更なる言語学習の機会を提供するものである。前期期間中に行う「事前研修」(週１回）と、８月末からの「現地研修」（３週間）の２部構成になっており、前者では実際の英国内での生活に必要な知識を会得し、それをもとに後者の研修を行う。
３週間を英国で生活することにより、コンテンツベースの実践的な英語力を集中的に学習する機会を提供する。また英国内で生活することで、英国を含む英語圏の文化への理解を深め、国際的視野を養うことも目的とする。

（3）到達目標

① 授業内のみだけでない英語学習の機会を積極的に利用して、自ら積極的に英語学習に取り組む。
② 英国内の研修でコンテンツベースの英語学習を受講することで、物事の「違う見かた」を得る機会とする。
③ 現地での研修で教養的内容の学修をすることで、ウェールズを含む英国特有の文化（や経済など）を日本と比較しながら学ぶ。
④ 英国での滞在を通して、実践的な英語学習の機会を得て、履修者自身のより高度な言語学習の契機とする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	本科目の概要の説明（参加の是非に問わず興味ある学生は参加)
2	事前研修（1）	派遣先への応募書類の作成など渡航に必要な手続きを行い、同時に英国での生活に備えて、英国に関する基本的な知識、および日常生活で必要となる英語についてのオリエンテーションを行う。またバンガー大学側からの事前課題にも取り組む。
3	事前研修（2）	
4	事前研修（3）	
5	事前研修（4）	
6	英国内大学での研修（1）	研修先の大学では、月曜日から金曜日まで、現地教員によるコミュニケーションの訓練を行う。土曜日は、場合によって大学主催のエクスカージョンや経済科の学生としてのプログラムが設定されている場合もある。基本的には土曜日・日曜日は各自の工夫で過ごすことになっている。
7	英国内大学での研修（2）	
8	英国内大学での研修（3）	
9	英国内大学での研修（4）	
10	英国内大学での研修（5）	
11	英国内大学での研修（6）	
12	英国内大学での研修（7）	
13	英国内大学での研修（8）	
14	英国内大学での研修（9）	
15	英国内大学での研修（１０）	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

事前研修において、渡航準備の手続きを行いながら、講義形式により研修中の授業内容や英国での生活に即した内容の授業を行う。
７月には研修先より事前課題が送られてくるので、この時間にて事前課題に取り組む。研修中は研修先提供のプログラムに即して授業に参加する。講義だけでなく様々なアクティビティが用意されている。英国内での滞在は研修先との連携を深く結んでいる家庭においてのホームステイとなる。

（6）成績評価の方法と基準

英国内大学の教員が与えた評価をもとに、担当教員が総合評価をする（１００%)。評価は「認定」とする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
参 考 書	『ウェールズを知るための 60 章』	吉賀憲夫編	明石書店	2,200 円
参 考 書	『ウェールズの教育・言語・歴史』	平田雅博	晃洋書房	2,530 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語Ⅰ（Ｇ・ＬＲ)、英語Ⅱ、初級・中級英語コミュニケーションなど外国語の科目を積極的に履修することを求める。また英語以外の外国語の履修や欧米文化講義を事前に履修していくことで研修の際には有益だと考える。

（9）オフィスアワー・その他

履修する学年は問わないが、履修を考えている学生は必ずガイダンスでの説明会に参加し、第１回目の授業に出席すること。参加費用は各自負担となる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
海外語学研修Ｄ（英語・英国冬春期 語学文化研修）	松岡　昌和	１	後期集中	６

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

１．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。
２．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

（2）授業概要と目的

英語によるコミュニケーション能力や経済に関連した事象を、本学と提携する英国バンガー大学で開催される語学研修セミナーに参加することで学習する。
本学の英語Ⅰ（Ｇ・ＬＲ）・英語Ⅱや、初級・中級英語コミュニケーションでの学修から、そして本講座を通して、実際の英語圏の生活に触れることで、更なる言語学習の機会を提供するものである。後期期間中に行う「事前研修」（数回）を行い、実際に１月から３月までの「現地研修」（約１２週間）行う。実際の英国内での生活に必要な知識を会得しながら、約3か月間を英国で生活することにより、コンテンツベースの実践的な英語力を集中的に学習する機会を提供する。また英国内で生活することで、英国を含む英語圏の文化への理解を深め、国際的視野を養うことも目的とする。本コースは英国バンガー大学内のファンデーションコースの一部に加わることとなる。なお、最少催行人員に達しなかった場合には不開講となる。

（3）到達目標

① 授業内のみだけでない英語学習の機会を積極的に利用して、自ら積極的に英語学習に取り組む。
② 英国内の研修でコンテンツベースの英語学習を受講することで、物事の「違う見かた」を得る機会とする。
③ 現地での研修で教養的内容の学修をすることで、ウェールズを含む英国特有の文化（や経済など）を日本と比較しながら学ぶ。
④ 英国での滞在を通して、実践的な英語学習の機会を得て、履修者自身のより高度な言語学習の契機とする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	本科目の概要の説明（参加の是非に問わず興味ある学生は参加。７月中に開催）
2	事前研修	派遣先への応募書類の作成など渡航に必要な手続きを行い、同時に英国での生活に備えて、英国に関する基本的な知識、および日常生活で必要となる英語についてのオリエンテーションを行う。またバンガー大学側からの事前課題にも取り組む。
3		
4		
5	英国バンガー大学でのコースワーク	研修先の大学では、月曜日から金曜日まで、現地教員によるコミュニケーションの訓練を行う。土曜日は、場合によって大学主催のエクスカージョンや経済科の学生としてのプログラムが設定されている場合もある。基本的には土曜日・日曜日は各自の工夫で過ごすことになっている。
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

７月までに事前説明会を開催し、９月までに各自で参加の決定をする。１０月には参加手続きをするが、それまでにパスポートの準備を各自進めておくこと。事前研修において、渡航準備の手続きを行いながら、講義形式により研修中の授業内容や英国での生活に即した内容の授業を行う。研修中はバンガー大学側のファンデーションコースのプログラムの授業に参加する。講義だけでなく様々なアクティビティが用意されている。英国内での滞在は研修先との連携を深く結んでいる家庭においてのホームステイとなる。

（6）成績評価の方法と基準

英国内大学の教員が与えた評価をもとに、担当教員が総合評価をする（１００％)。評価は「認定」とする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
参 考 書	『ウェールズを知るための 60 章』	吉賀憲夫編	明石書店	2,200 円
参 考 書	『ウェールズの教育・言語・歴史』	平田雅博	晃洋書房	2,530 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語Ⅰ（Ｇ・ＬＲ)、英語Ⅱ、初級・中級英語コミュニケーションなど外国語の科目を積極的に履修することを求める。また英語以外の外国語の履修や欧米文化講義を事前に履修していくことが研修の際に有益である。

（9）オフィスアワー・その他

履修する学年は問わないが、履修を考えている学生は必ず担当者の説明を受けること。１月初旬からの研修開始となるため、後期履修中の科目に関しては、授業の出席や定期試験について担当教員および教務学生担当教員との相談・調整を行う。参加費用は各自負担となる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
海外語学研修Ｅ（英語・フィリピン夏季語学文化研修）	荒　哲	１	後期集中	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

１　日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）
２　広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

英語によるコミュニケーション能力や政治・経済に関連した事象を、本学と提携するフィリピン・ミンダナオ島ダバオ市にあるアテネオ大学ダバオ校で開催される語学研修セミナーに参加することで学習する。本学の英語Ⅰ（G・LR）・英語Ⅱや、初級・中級英語コミュニケーションでの学修から、そして本講座を通して、アジア最大の英語圏であるフィリピンでの生活に触れることで、更なる語学学習の機会を提供するものである。実際のフィリピンでの生活に必要な知識を事前学習し、２月の上旬から中旬にかけて現地研修を行う（具体的なスケジュール未定）。フィリピンで生活することで、フィリピンを含む東南アジア文化への理解を深め、国際的視野を養うことも目的とする。

（3）到達目標

①　授業内のみだけでない英語学習の機会を積極的に利用して、自ら積極的に英語学習あるいは現地語学習に取り組む
②　フィリピン国内の研修でコンテンツベースの英語学習を受講することで、物事の「違う見かた」を得る機会とする
③　日本人にとってなじみの薄い隣国、フィリピンの文化に触れながら、改めてアジア文化の真髄を実感する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	本科目の概要の説明（参加の是非に関わらず関心のある学生は参加する。４月頃）
2	事前研修	派遣先への応募書類の作成などフィリピン渡航に必要な手続きを行い、同時にフィリピンでの生活に備えて、フィリピンに関する基本的な知識、および日常生活で必要となる英語あるいはタガログ語（簡単な表現）についてのオリエンテーションを行う。
3		
4		
5	フィリピン・アテネオ大学ダバオ校での語学研修	研修先の大学においては、到着日の日曜日と帰国日の翌週水曜日を除き、月曜日から翌週の火曜日まで９日間にかけて英語学習のみならず、現地において様々なアクティビティ（スキューバダイビング、現地の小学校訪問やフィリピンの歴史の学習など）に参加する。現地コーディネーターの指導の下、学生が自主的に活動するような機会も設けてある。
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

１１月中にガイダンスを開催し、遅くとも１２上旬頃までに各自で参加の決定をする。年明け１月中旬が申込締め切りとなっているが、それまでに参加希望者はパスポートの準備が必要である。事前研修では、渡航準備の手続きを行いながら、講義形式により研修中の授業内容やフィリピンでの生活に即した内容の授業を行う。研修中は、ダバオ市内のホテルに滞在しながら、様々なアクティビティに参加する。

（6）成績評価の方法と基準

研修先からの評価を基に、担当教員が総合評価をする（１００%）。評価は「認定」とする。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	別途指示			
参　考　書	別途指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

英語Ⅰ（G・LR）、英語Ⅱ、初級・中級英語コミュニケーションなど外国語の科目を積極的に履修することを推奨する。また英語以外の外国語の履修やアジア文化講義ないし国際関係論を履修することも推奨する。

（9）オフィスアワー・その他

履修する学年は問わないが、履修を考えている学生は必ずガイダンスでの説明会に参加する。参加を決定した場合は、手続きをスムーズにするために早急にパスポートの取得を行う。９月初旬からの研修開始となるため、研修期間が後期授業履修に重なる可能性があるが、各教科担当者との間で履修に関する相談が必要となる。参加費用は各自の負担となる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
情報リテラシー（情報を活用する技術を体験する）	深澤　克朗	1	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本講座は、「情報化と社会」で講義される情報技術のいつくかのテーマについて、実際にンピュータを使い体験をすることと、また若干の文書作成や表計算ソフトウェアを用いたデータ処理や情報検索などを目的とします。文書作成や表計算などの詳しい演習は「情報処理基礎演習」にて行いますので、本講座では、基本的な作成方法を演習します。また、特にインターネット関連の暗号化やネットワーク関連知識の習得を、演習を通じて具体的に体験します。

（3）到達目標

①文書作成や表計算ソフトなどを経験し、基本的な操作を習得する。
②暗号理論についての詳しい知識を習得する。
③データをインターネットから検索・ダウンロードして、データ加工ができる能力を目的とする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	学内システム・メールの操作	Teams やクラウド操作、図書館システム、メール作成
2	コンピュータの原理・基礎	コンピュータの内部構造やデータについて（2 進数、容量など）
3	文書作成（1）	Word の基本操作
4	文書作成（1）	Word を用いた文書作成
5	広告文書作成（1）	Publisher の使い方
6	広告文書作成（2）	Publisher を用いた広告作成
7	ネットワーク	基本的なネットワークコマンドの意味と使い方
8	表計算（1）	Excel の基本操作
9	表計算（2）	基本的な関数
10	表計算（3）	表引き関数
11	統計処理	Excel を使った基本的な統計処理
12	データ処理	インターネットからのデータの取り込みと Excel での統計処理。
13	暗号理論（1）	共通鍵と公開鍵の体験
14	暗号理論（2）	デフィーヘルマン方式、RSA アルゴリズムについて
15	ホームページ作成	Microsoft　SWAY を用いたホームページ作成

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

各回テーマの概要を記載した資料などを提示します。授業の冒頭にて、資料に従い説明を行い、コンピュータを用いて演習を行います。コンピュータの原理・基礎、ネットワーク、暗号理論についての詳しい説明は、「情報化と社会」にて行っていますので、興味があれば受講してください。また進捗度の差がある場合は、できるだけ個人的な指導を行うつもりであります。

（6）成績評価の方法と基準

①授業の区切りに提出する課題（５０%）　授業の区切りで2，3回ほどを予定。
②最終課題（５０%）　Word/Excel でのオリジナルな作品を作成。提出された最終課題については、teams にて個々にコメントする予定であります。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	オリジナル資料配布			
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

（1）情報化と社会
（2）情報処理基礎演習との関係は、Word・Excel の部分について、本講座は初歩的なものになります。

（9）オフィスアワー・その他

質問等は、授業の前後や teams にて対応します。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
情報処理基礎演習（Word・Excel の基礎技術）	C1 深澤　克朗、　C2・C3 堤　智昭	1	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

今日の社会は、いたるところでコンピュータをはじめとする情報機器が利用されている。特にワープロソフトや表計算ソフトは、在学中および編入学後の学習、そして就職後の企業や組織での仕事に常識的なスキルと位置付けられている上に、日常生活でも利用されている。また，ファイル管理も携帯端末におけるものを含め欠かせない技術になってきている。このような背景から、本講義では，ワープロソフト（Word）の基本的な処理、データ処理（表計算ソフト Excel）分野について、各種アプリケーションの基本的な使い方と応用的な利用方法を学ぶことが目的である。

（3）到達目標

①ワープロソフト（Word）、表計算ソフト（Excel）に慣れ、基本的な利用技術を習得する。
②コンピュータを用いて、レポートや課題作成をスムーズに行える技術を習得する。
③表計算ソフトを用いて、データ処理の基本を学ぶことを目的とする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	学内システム・メールの操作	Teams やクラウド操作、図書館システム、メール作成
2	コンピュータの原理・基礎（1）	コンピュータの歴史、文字コード、情報量、ハードウェア、ソフトウェア
3	ワープロソフト（1）	文書の入力，文字フォント，書式設定
4	ワープロソフト（2）	表の作成，図形や写真の挿入
5	ワープロソフト（3）	表紙、脚注など
6	ワープロソフト（4）	初歩的なビジネス文書の作成
7	ワープロソフト（5）	まとめ（ワープロ総括課題）
8	表計算ソフト（1）	起動・終了、ファイルの保存、シートとブックの概念、表の作成
9	表計算ソフト（2）	データの入力（オートフィルなど）
10	表計算ソフト（3）	関数の利用（1）絶対参照・相対参照
11	表計算ソフト（4）	関数の利用（2）基本統計関数
12	表計算ソフト（5）	関数の利用（3）論理関数
13	表計算ソフト（6）	関数の利用（4）日付関数
14	表計算ソフト（7）	関数の利用（5）検索・表引き
15	表計算ソフト（8）	グラフ作成の基礎

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

毎回の授業資料に従い、演習形式で行う。授業時間内でプリント内容を理解し、課題を作成して提出する。高校等において既に経験した内容がある場合でも、より深く学べるように考慮した内容を行うつもりです。単にソフトウェアの操作をするということではなく、データをいかに処理することが最適なのかという観点で、授業を行う予定です。また進捗度の差がある場合は、できるだけ個人的な指導を行うつもりであります。

（6）成績評価の方法と基準

①授業の区切りに提出する課題（６０％）は、Word 分野で１から２回、Excel 分野で２から３回程度を予定。
②最終課題（４０％）は、本講座で学んだ内容を多岐に使ったオリジナルなものを作成（Word/Excel を限定しない）。提出された最終課題については、teams にて個々にコメントする予定であります。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	配布資料			
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

情報処理応用演習

（9）オフィスアワー・その他

質問等は、授業の前後や teams にて対応します。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
情報処理応用演習（Word・Excel の応用技術とプログラミング）	深澤　克朗	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

ワープロソフト（Word）では、実践的な長文を疑似的に作成する。そこで、実践的な機能やアウトライン機能などの便利な機能を学ぶ。表計算ソフト（Excel）では身近な情報をもとに、各種関数などを利用した計算やデータ操作による表作成を行う。また統計処理の活用方法を理解した上で、データ分析や加工ができるようにする。さらにデータベース機能やフォーム機能を用いてアプリケーションを作ることを学ぶ。最後の方ではExcel のマクロ機能・ＶＢＡとデータサイエンスでよく用いられるプログラミング言語Python を使い、プログラミングを体験するものである。本講座においては、より実践的な使い方を習得することを目的とする。

（3）到達目標

①ワープロソフト（Word）のより実践的な利用技術を習得する。
②表計算ソフト（Excel）を用いてデータ分析の方法を学ぶ。
③表計算ソフト(Excel)の応用的な機能を学び、アプリケーションを作成できる技術を習得する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ワープロソフト（1）	文書作成の基礎，表作成
2	ワープロソフト（2）	段組み，ページ区切り，縦書き文書、ヘッダー，フッターなど
3	ワープロソフト（3）	アウトライン機能の操作
4	ワープロソフト（4）	アウトライン機能による論文作成
5	表計算ソフト（1）	基本的な表操作、関数利用（1）統計関数
6	表計算ソフト（2）	関数利用（2）統計関数の利用
7	表計算ソフト（3）	関数利用（2）表引き関数
8	表計算ソフト（4）	関数利用（3）データベース関数
9	表計算ソフト（5）	関数利用（4）財務関数
10	表計算ソフト（6）	フォーム機能
11	VBA プログラミング（1）	VBA プログラミング（1）基本機能
12	VBA プログラミング（2）	VBA プログラミング（1）繰り返し構造　（2）分岐構造
13	Python プログラミング（1）	Python の基本操作
14	Python プログラミング（2）	リスト型データ
15	Python プログラミング（3）	制御構造ほか

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

毎回の授業資料に従い、予習・復習を行うこと。授業時間内で資料内容を理解し、課題を作成して提出する。提出課題に関しては、各自が実際のデータなどを検索・利用し、授業で学んだ機能を使って独自に作り上げることを目指す。ソフトウェアは道具であるので、その道具の様々な機能を理解して、内容に意味があるものを作り出す訓練を行う。卒業論文の作成などで有効に使えるようになることを望むものである。

（6）成績評価の方法と基準

①授業の区切りに提出する課題（６０%）、　授業の区切りで2，3回ほどを予定。
②最終課題（４０%）　VBA または Python でのプログラムを作成する。提出された最終課題については、teams にて個々にコメントする予定である。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	配布資料			
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

情報処理基礎演習

（9）オフィスアワー・その他

質問等は、授業の前後や teams にて対応します。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
データサイエンス論（ビッグデータなどの分析手法）	深澤　克朗	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

近年のIT技術の進展により、消費者情報などの大量データの保存が可能になってきている。データは「２１世紀の石油」と言われてきており、その分析により新たなビジネス展開が可能になってきている。このような分析を行える人材は「データサイエンティスト」と呼ばれ、魅力的な職種になりつつある。日本においては、この人材は不足しており、急遽育成に取り組み出してきている。本講座は、このデータサイエンティストとしての基礎的知識の習得を目指すことを目的としている。この分野は「多変量解析」という分野でもあるため数理的な背景があるが、本講座では、数理的概念は簡単に紹介するが、分析手法の選択と分析結果の見方を習得することを目的にするものである。

（3）到達目標

①回帰モデルや主成分分析（PCA）モデルを作成でき、その統計量の意味を理解できる。
②クラスター分析、テキスト分析を行うことができる。
③どのようなデータ分析モデルが適切であるかを判断できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	導入	データサイエンスとは、データサイエンティストの役割
2	データ構造について	対象とするデータの種類と構造、オープンデータについて
3	統計学的考察	記述統計量とその意味
4	単回帰分析	Excel、Ｒ言語による単回帰分析
5	重回帰分析	重回帰分析における統計量について（多重共線性、DW値、ダミー変数など）
6	クラスター分析、SVM	クラスター分析の概念と手法の紹介、SVM（サポート・ベクター・マシン）
7	主成分分析（1）	数理的な意味（固有値）、Excelでの導出
8	主成分分析（2）	Ｒ、Python言語での導出、因子分析との違い
9	主成分分析の演習	実際データを用いた演習（各自で分析）
10	テキスト分析（1）	MeCabなどを使った形態素解析
11	テキスト分析（2）	ＬＳＡ、ＬＤＡの手法
12	AI活用	生成AI（ChatGPTなど）を用いた分析
13	ニューラルネットワーク	ニューラルネットワークの理論、ディープラーニング、生成AIについて
14	時系列モデル	ARIMAモデルと予測について
15	総括	データサイエンスの未来と振り返り

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

各回に資料を提示します。その資料に基づき Excel、R、Python などを用いて分析を行い、その結果の見方を学習します。各自その分析手法について自習・復習を行い、データを各自が探して分析を試みます。これを繰り返すことで、その分析手法を自ら習得することが可能になります。本講座においては学習する分析手法が多いため、各自の時間外努力が求められます。統計学やパソコンに不慣れな方でも十分対応できます。

（6）成績評価の方法と基準

①授業の区切りに提出する課題（５０%）途中、各自がテーマを決めて、分析レポートを提出する。
②最終試験（５０%） 分析結果の見方、分析手法についての知識・考え方

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	配布資料			
参　考　書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

情報化と社会、情報処理応用演習、統計学Ⅰ・Ⅱ、計量経済学

（9）オフィスアワー・その他

質問等は、授業の前後やteamsにて対応します。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
教養演習	C1 渡邊 浩史、C3 神山 英子、C4・C5 川島 洋、 C6 稲垣 自由、C7 范　立君、C8 槇平 龍宏、C10 荒 哲	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。
2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

（2）授業概要と目的

教養演習は、大学での学修に必要となるアカデミック・スキルの理解と修得を目的とする。アカデミック・スキルとは、あるテーマについて、情報を集め読解し、分析的・論理的に考え、その考えを他者と交換したり、論文やレポートにまとめたりするための技術のことである。具体的には、1）テーマや問いの設定、2）情報・資料の収集、3）情報・資料の分析的・批判的な読みと情報整理、4）分析的・論理的な思考と論の展開、5）論の発表及びディスカッション、6）論の文章化などの技術である。この演習では、もっとも基礎的なアカデミック・スキルを学ぶとともに、学んだスキルを使って「研究計画書」を作成する。また、この「研究計画書」の作成を通して自身の関心のありかを探り、1年次後期から所属する専門基礎演習の選択につなげていく。

（3）到達目標

①アカデミック・スキルがどのようなものであるかを理解し、基礎的な技術を習得する。
②「研究計画書」を書くことで、専門分野への関心を深め、今後の進路選択の手がかりとする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業内容・方法について知る、アカデミック・スキルとは何かを知る
2	自分自身の理解	自分自身のプレゼンテーションを通じて、自身をより深く知る
3	情報整理の方法（1）	情報収集、情報選択、収集した情報の整理の方法を知る
4	情報整理の方法（2）	
5	資料収集・読解とディスカッション（1）	資料収集、読解、それに基づいたディスカッションを行う。 また、グループワークで討論することで資料内容の理解を深める。また発表者を決め、全体で発表会も行う。そこでの質疑応答のなかで発表内容の理解度を深めていく。
6	資料収集・読解とディスカッション（2）	
7	資料収集・読解とディスカッション（3）	
8	資料収集・読解とディスカッション（4）	
9	教養としてのハラスメント理解	セクハラ、アカハラ等の事例題材によるグループワーク
10	考察内容の発表（1）	収集した資料をもとに、自身の関心分野について考えをまとめ、発表する。 ※この期間に必ず一度はコンサルテーション（個別指導）を受ける。
11	考察内容の発表（2）	
12	考察内容の発表（3）	
13	「研究計画書」の作成（1）	これまでの活動を通して探ってきた自身の関心をもとに、「研究計画書」を執筆する ※この期間に必ず一度はコンサルテーション（個別指導）を受ける
14	「研究計画書」の作成（2）	
15	「研究計画書」の作成（3）	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

教養演習は 1 年次の全員履修指定科目でクラスは希望する教員を選択し、どのクラスでも基本的には同じ授業内容を提供するが、教員により若干の進め方の違いはある。1クラス 12～18 名程度の小規模クラスで、クラス内でのディスカッションやグループ活動を多く行うため、積極的な参加が望まれる。また、クラス全体へのプレゼンテーションなども行うが、その際は積極的な質疑応答が望まれる。学生自らつくり上げていく授業である。授業内容や授業方法は、学生の習熟度や反応をみて変更する場合がある。

（6）成績評価の方法と基準

①　定期試験に代わるレポート「研究計画書」（４０%)、②授業内での活動、授業への貢献度、授業内課題（６０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	必要に応じて、授業中に示す			
参 考 書	授業中に示す			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは担当教員によって異なる。掲示板のオフィスアワー情報を参照のこと。
研究計画書の内容が、自ずと希望する専門基礎演習の選択につながるので留意すること。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
特別日本語演習（留学生）	神山　英子	1（留学生のみ）	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。

（2）授業概要と目的

日本語の非母語話者が本学で授業を受け、学修に取り組む際の、言語上のサポートを目的とする授業である。授業の内容と進め方については、授業に参加する留学生の日本語レベルや希望する学修内容によって柔軟に設定する。例として、読解（スキミング、スキャニング、文中の語彙や表現を学びながらの精読）や、読んだ文章の要約、300～1000 字程度の意見文作成、ノートテイキングの方法、レポート作成の方法、議論やディスカッションを通した対面コミュニケーション力養成、などが考えられる。本学の授業を受ける中での言語上の困難点を明らかにし、その解決に取り組むことを目的とする。

（3）到達目標

① 本学の授業を理解する受信力を身につける。
② 本学の授業で発言、質問をする発信力を身につける。
③ 本学の授業に対応でき、周囲の助けを借りながら自律的に学習が進められる総合的な日本語力を身につける。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	日本語力や学習歴、希望する学習内容を確認する
2	日本語学習(1)	学生が必要とする日本語力を、適した教材を用いて身につける
3	日本語学習(2)	
4	日本語学習(3)	
5	日本語学習(4)	
6	日本語学習(5)	
7	専門補助(1)	講義や専門の勉強に必要な語彙力や表現力をつける
8	専門補助(2)	
9	専門補助(3)	
10	専門補助(4)	
11	専門補助(5)	
12	課題作成補助(1)	課題作成に必要な語彙力や表現力をつける
13	課題作成補助(2)	
14	課題作成補助(3)	
15	課題作成補助(4)	サポートを得ながら課題を完成させる

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

第一回目の授業で履修学生の日本語力や日本語学習歴、希望する学修内容を確認し、それに応じたプログラムを組む。教材は目的と日本語レベルにあったものを適宜選択し、使用する。教員は学生自身の学修のサポート役という位置づけであるため、進度や内容に関する学生の積極的な提案や要望が望まれる。

（6）成績評価の方法と基準

①授業への積極的な参加と貢献および授業内課題への取り組み（70%)、② 学習内容に応じた期末レポート（30%)。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	授業内で適宜提示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

コミュニケーションA

（9）オフィスアワー・その他

原則として毎週金曜日 13:00～14:00（その他の時間でも必要に応じて対応可能)。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
健康論（健康な社会生活を営むために必要な知識の習得を目指す）◆	奥野　雅久	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を習得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）

（2）授業概要と目的

近年、様々な健康問題が我々のライフスタイルに大きな影を落としている。例えば、よく耳にする生活習慣病とは何だろう。生活習慣病は、日々の誤った生活習慣（栄養の過不足，バランスの悪い食生活、運動不足やストレス、喫煙など）の積み重ねによって引き起こされる病気の総称である。心疾患、脳血管疾患、糖尿病、高血圧、脂質異常症などがこれに該当するが、この心疾患や脳血管疾患等循環器疾患の原因になっているのが動脈硬化である。合併・重症化することで重篤な疾患につながり、最終的には要介護状態へと段階的に進行していく。これらは運動不足、飲酒などの不健康な生活習慣を続けた結果、メタボリックシンドロームとしての生活習慣病として発生している。この授業では健康の概念、健康なライフスタイル、健康とストレスの関わりや生活習慣病のよぼうとその対策について考える。

（3）到達目標

生活の中で健康を保持するための人間の生理機能を理解し、改めて健康の意味を考え、将来にわたる有意義な人生を送るために自分の健康、そして社会人としての社会の健康、家庭人としての家族の健康にも留意できる基礎的知識を深め、地域社会に貢献できる人間の育成。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	健康論の授業について
2	健康の概念	健康の定義　―　生命の健康
3	人体整理①	からだのしくみ　―　人体の特徴・細胞
4	人体整理②	からだのしくみ　―　脳・心臓
5	人体整理③	からだのしくみ　―　循環器・消化器
6	人体整理④	からだのしくみ　―　骨格・筋肉
7	健康なライフスタイル①	健康づくりと食生活
8	健康なライフスタイル②	痩身と肥満（拒食と過食）
9	健康なライフスタイル③	飲酒・喫煙と健康
10	健康なライフスタイル 41	薬物乱用と健康
11	心と身体の健康①	メンタルヘルス　―　身体的・心的緊張緩和
12	心と身体の健康②	ストレスマネジメント　―　ストレスと精神障害
13	現代の健康問題①	成人・老年期の健康（生活習慣病とその予防）
14	現代の健康問題②	高齢化社会と介護予防
15	現代の健康問題③	国民観光づくり運動〔健康日本２１〕他

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

健康な生活を将来にわたり送るために必要な知識と問題点、その対応策を学ぶ。パワーポイントや視聴覚メディアを使い、からだの仕組みや健康づくり対策、ここの健康について学び、現代日本の抱える健康問題について考えていく。各種健康づくり施策等取り組みを知り、生活習慣病の予防や介護予防について考え、健康寿命の延伸につながる基礎知識を身につける。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験又はそれに代わるレポート（70%）
②授業貢献度・授業内の活動、授業での活動（30%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

スポーツレクレーション実習

（9）オフィスアワー・その他

特になし

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
スポーツレクレーション実習（スポーツを通じた健康増進法により健康長寿社会の実現を目指す）◆	奥野　雅久	1	後期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養習得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の習得」）。

（2）授業概要と目的

「運動習慣」とは日常生活の一部になり、継続実施している行動様式をいい、国民栄養調査では、「1回３０分以上、週2回以上、1年以上」運動を継続している者を「運動習慣あり」としている。しかし社会はますます便利になり、健康の維持・増進に必要な運動習慣は減る一方である。そこで、このスポーツレクレーション実習の時間を、積極的に身体活動・運動に取り組み、生涯スポーツへの取り組みと運動習慣を定着化する機会としたい。この時間では、各種運動（バレーボール、卓球、バドミントン、サッカー、ソフトボール他）の実践を通し、日頃の運動不足を改善し、体力の向上と健全なる心身を育成する。

（3）到達目標

健康を保持増進するためには日常生活において、身体活動・運動を取り込んだライフスタイルの形成が重要である。そこで、こころと身体を一つとしてとらえ、身体活動・運動についての理解と実践を通し、明るく豊かで活力ある生活を営むことのできる資質や能力を育てることを目標とする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方について、パス・サーブ練習その他
2	バレーボール	アンダーハンド・オーバーハンドパス・サーブ・レシーブ練習、ミニゲーム
3	〃	〃　・設定ルールによるリーグ戦形式のゲーム
4	〃	〃　・設定ルールによるリーグ戦形式のゲーム
5	〃	〃　・設定ルールによるリーグ戦形式のゲーム
6	バドミントン	基本ショットの練習（スマッシュ、ドロップ、ロブ、クリア等）
7	〃	〃　・設定ルールによるリーグ戦形式のゲーム
8	〃	〃　・設定ルールによるリーグ戦形式のゲーム
9	〃	〃　・設定ルールによるリーグ戦形式のゲーム
10	〃	〃　・設定ルールによるリーグ戦形式のゲーム
11	卓　　球	基本ストローク練習（フォアハンド・バックハンド・サーブ等）・ミニゲーム
12	〃	〃　・設定ルールによるリーグ戦形式のゲーム
13	〃	〃　・設定ルールによるリーグ戦形式のゲーム
14	〃	〃　・設定ルールによるリーグ戦形式のゲーム
15	〃	〃　・設定ルールによるリーグ戦形式のゲーム

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

各運動種目（バレーボール、バドミントン、卓球、ソフトボール、サッカー他）の実習を通し、運動能力の向上、運動技術の習得を目指す。また、人の成長、発達を理解し、人と人の関係、社会との関係を運動実習のチームプレーの中から学び、身につけておかなければならないコミュニケーション能力を培うとともに、到達目標を達成を目指す。※状況によって変更有

（6）成績評価の方法と基準

①授業貢献度及び授業内の活動を評価（授業の準備、進行への協力、安全確認の協力、出席等々）
②授業で提示する課題の処理

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし；			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

健康論

（9）オフィスアワー・その他

特になし

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
日本文学概説（日本近現代文学を学ぶ）	渡邊　浩史	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

「文学とは何か」――本講義ではこのような問いについて、明治から平成にかけての近現代小説や近代詩を扱っていくなかで検討し、文学作品の読み方について学んでもらいたいと考える。具体的には、近代小説及び近代詩のなかでも、何事かに向け、情熱や悲哀をかたむける登場人物を描いた作品に焦点を絞り、そこから人間存在のありようについて考察していく。さらにこの授業では、「文学」が、人間が社会生活を送っていく際に突きつけられる矛盾や不条理に対し、どのように対処すべきなのかという「選択」する力を身につける学問であることも理解してもらうことも目的である。

（3）到達目標

① 「文学とは何か」を理解し、文学作品の読み方について学んでいく。
② それぞれの文学者の作風、各作品の叙述、構想、主題をとらえ、個々の問題意識を深め、理解できるようになる。
③ 文学作品の読解を通して、将来起こる自身の問題についての「選択」する力を身につける。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	文学を学びたい人のために
2	文学とは何か①	「文学」と「国語」の違いとは何か？
3	文学とは何か②	「文学」とは「人間学」である
4	近代文学史（1）	明治の日本文学　――写実主義／擬古典主義／浪漫主義／自然主義などの文学――
5	近代小説を読む（1）	田山花袋「蒲団」
6	近代文学史（2）	明治の日本文学　―反自然主義／耽美派などの文学―
7	近代小説を読む（2）	谷崎潤一郎「刺青」
8	近代文学史（3）	大正の日本文学　――白樺派／新思潮派などの文学――
9	近代小説を読む（3）	武者小路実篤「お目出たき人」
10	近代文学史（4）	芥川竜之介「西郷隆盛」
11	近代小説を読む（5）	昭和・平成の日本文学　―プロレタリア文学／モダニズム文学／戦時下／戦後の文学―
12	近代小説を読む（6）	江戸川乱歩「人間椅子」　　葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」
13	近代小説を読む（7）	太宰治「斜陽」
14	近代小説を読む（8）	文学史のまとめ（確認テスト）
15	近代詩を読む／まとめ	中原中也・草野心平・茨木のり子などの詩／授業のまとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく（レジュメ使用）が、複数回にわたりペアまたはグループ活動を行う。授業では特定の教科書は使用しないが、授業内で配布する文学史に関するプリントや文学作品については、時間外学習として読んでおくことが望ましい。授業後には毎回コメントシートを使用し、近代文学史に関しての確認テストを１度行なう予定でいる。

（6）成績評価の方法と基準

① 授業内課題（７０%）、② 定期試験に代わるレポート（３０%）の合計点により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

（9）オフィスアワー・その他

講義に関する質問はオフィスアワーや Teams のチャット等でも受け付ける。授業の進度・内容は、授業の状況により若干の変更の可能性がある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
哲学（哲学の基本的問題の紹介と解説）	永野　潤	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

哲学（フィロソフィー）の語源は、「知を愛する」という意味のギリシア語である。この講義では、哲学の基本的問題について考える。ただし、哲学は、問題に答を出すことをかならずしも目的にはしていない。むしろ、問題を見つけだし、 答の出ない問題について考えるその過程が哲学だ、と言える。

この講義では、さまざまな問題について「哲学的に考える」ということがどういうことか知ってもらい、その「おもしろさ」を体験してもらいたい。題材として、マンガ、映画などみなさんになじみの深いものを用いる予定である。

（3）到達目標

① 哲学の基本的問題について説明できる。
② 「哲学的に考える」ことができる。
③ 柔軟に思考できる。
④ 論理的に思考できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	哲学について	タウマゼイン、嘘つきのパラドックス他
2	認識について　1	素朴実在論、知覚の因果説、第二性質
3	認識について　2	無限後退、洞窟の比喩
4	意識について　1	夢の懐疑、水槽の脳、５分前創造仮説
5	意識について　2	我思うゆえに我あり、現象学
6	身体について　1	心身二元論、機械の中の幽霊、心身問題
7	身体について　2	心的一元論、物的一元論、現象的身体
8	自由について　1	機械論と目的論、決定論、リベットの実験
9	自由について　2	不安と自由のめまい、自己欺瞞
10	自己について　1	数的同一性と質的同一性、テセウスの船、人格の同一性
11	自己について　2	転送機のパラドックス、非反省的意識、対自存在
12	他者について　1	他我問題、逆転スペクトル、独我論
13	他者について　2	類推説、行動主義、対他存在
14	演技について　1	実存と本質、チューリングテスト、イライザ
15	演技について　2	オリジナルとコピー、規律訓練、パノプティコン

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

・パワーポイント、視聴覚メディアを使用して講義する。
・次回授業までに Teams(microsoft forms)を使用して授業についてのコメントを記入してもらい、フィードバックとして、次回授業の最初に主だったコメントを匿名で紹介し教員からコメントを返す。
・教科書の該当箇所、授業で指定する参考図書を読んで復習をすること。

（6）成績評価の方法と基準

① レポート（３５%）、② 毎回の授業コメントおよび授業中の活動の提出（４５%）③理解度確認テスト（２０%）の合計点により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	改訂版　イラストで読むキーワード哲学入門	永野潤	白澤社	1,980 円
参 考 書	必要に応じて紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

倫理学

（9）オフィスアワー・その他

授業終了後、または、Teams、メールなどで対応する。
進捗状況によるスケジュールの前後や変更がありえる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
倫理学（倫理学の基本的理論の紹介と実例による考察）	永野　潤	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

倫理学は、道徳哲学とも言われるが、世間で通用している善や道徳をそのまま受容するのではなく、善や道徳について哲学的に考察する学問である。この授業では、そうした倫理学の基本的考え方について講義するが、同時に、障害、安楽死、優生学、ジェンダーなどの具体的問題についてともに考えながら学ぶ。講義中に配布するプリントに沿って授業を進める。

マンガや映画などを題材に、かたくるしくない授業をめざす。

実際に自分の頭で考えながら授業に参加してほしい。

（3）到達目標

① さまざまな社会問題について説明できる。
② 偏見や先入観にとらわれず思考できる。
③ 創造的に思考できる。
④ 人権について説明できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	はじめに	倫理学とは何か
2	自己決定の問題1	自己決定とパターナリズム
3	自己決定の問題2	バイオエシックス、健康格差
4	義務論と目的論1	ベンサムと功利主義、カントの倫理学
5	倫理的ジレンマの問題	倫理的ジレンマの批判
6	障害と社会の問題1	医学モデルと社会モデル
7	障害と社会の問題2	障害者の権利獲得運動
8	安楽死・尊厳死の問題1	安楽死と自己決定
9	安楽死・尊厳死の問題2	社会で支えるという選択肢
10	優生学の問題	優生学の過去と現在
11	ジェンダーの問題	自己決定とジェンダー
12	性的マイノリティの問題	性的マイノリティと人権
13	格差と貧困の問題	生存権と生活保護
14	移民・難民問題	南北問題と移民・難民
15	環境問題と戦争	差別と公害、携帯電話と戦争

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

・パワーポイント、視聴覚メディアを使用して講義する。

・次回授業までに Teams(microsoft forms)を使用して授業についてのコメントを記入してもらい、フィードバックとして、次回授業の最初に主だったコメントを匿名で紹介し教員からコメントを返す。

・教科書の該当箇所、授業で指定する参考図書を読んで復習をすること。

（6）成績評価の方法と基準

① レポート（３５%）、② 毎回の授業コメントおよび授業中の活動の提出（４５%）③理解度確認テスト（２０%）の合計点により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。プリントを配布する。			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

哲学

（9）オフィスアワー・その他

授業終了後、または、Teams、メールなどで対応する。
進捗状況によるスケジュールの前後や変更がありえる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
美術史（日本の美術に親しむ）	山盛　弥生	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

美術作品には、それらを生み出した人々、鑑賞してきた人々、それらを現在まで伝えてきた人々など、多くの人々の様々な思いやメッセージが込められている。それらを読み解き、意味を考えることは、美術作品に対する理解を深めるだけでなく、それらを生みだし伝えてきた、過去の社会や文化についての理解を身につけることにもつながっていく。

授業では、平安時代から江戸時代までの日本の代表的な美術作品を取りあげ、作品に関する基礎的な知識を習得するとともに、作品の表現するもの（特徴、表現形式、デザインなど）について考え、その魅力を味わい、鑑賞する力を養うこと、また、美術作品が、それらを生み出し伝えてきた、時代や地域の歴史的・文化的な状況と密接に関わっていたことを理解することを目的とする。

（3）到達目標

① 平安時代から江戸時代までの、日本美術の大きな流れを理解し、説明できるようにする。
② 各時代の代表的な作品を知り、それぞれの作品の様式的な特色を説明し、論じることができるようにする。
③ 各作品が生み出された文化的・社会的な要因について解説し、作品を鑑賞する際に、制作背景を説明することができるようにする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、美術史を学ぶ意味、主な美術館・博物館
2	平安時代の美術Ⅰ	仏画
3	平安時代の美術Ⅱ	絵巻　源氏物語絵巻・鳥獣人物戯画
4	平安時代の美術Ⅲ	絵巻　信貴山縁起絵巻・伴大納言絵巻
5	平安・鎌倉時代の美術	平安時代の工芸・鎌倉時代の仏画
6	鎌倉・南北朝時代の美術Ⅰ	絵巻と神道美術
7	鎌倉・南北朝時代の美術Ⅱ	肖像画と水墨画
8	室町時代の美術Ⅰ	水墨画と狩野派　狩野正信・元信　雪舟・雪村
9	室町時代の美術Ⅱ	大和絵と工芸
10	桃山時代の美術	狩野派と障壁画　狩野永徳・長谷川等伯
11	桃山・江戸時代の美術Ⅰ	狩野派と大和絵　狩野探幽・住吉具慶・土佐光起
12	桃山・江戸時代の美術Ⅱ	琳派　俵屋宗達・本阿弥光悦・尾形光琳・酒井抱一・鈴木其一
13	桃山・江戸時代の美術Ⅲ	風俗画と浮世絵
14	江戸時代の美術Ⅰ	南画と写生画　池大雅・与謝蕪村・円山応挙
15	江戸時代の美術Ⅱ	奇想の画家　伊藤若冲・曽我蕭白

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業では、パワーポイントを使用して、多くの作品の画像を紹介する。拡大画像で作品の細部まで示し、作品の造形的な特徴を解説する。取り上げた作品の作品名、作家名等を記載した印刷物を毎回配付する。理解度を確認するため、授業内で小レポートを提出してもらい、翌週の授業内でフィードバックとして、小レポートの内容にコメントをする。授業で取り上げた作品について、大月短期大学図書館・大月市立図書館所蔵の美術全集等の大型図版を細部までよく見て、作品の造形的な特色を理解するようつとめること。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験に代わるレポート（40%）②授業内での小レポート（60%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし。			
参　考　書	授業内指示。プリント配布。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

（9）オフィスアワー・その他

質問等については、授業の前後やteamsのチャットにて対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
世界史	早川　理穂	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

西洋史を中心として他地域との関係にも目配せしつつ、古代から現代に至るまでの世界史の大きな流れを理解できるようにする。また、歴史学の方法論についても学び、様々な歴史的事象の因果関係を意識して学ぶ目を養うと共に、一つの事象を多面的に見ることができるようにする。さらに現在世界で起きている出来事も、歴史の積み重ねの上に起こっているということを理解し、歴史を学ぶということは単に過去の出来事を学ぶだけでなく、現在の社会の成り立ちや出来事をより良く知るためであるという意識を持つようにする。

（3）到達目標

教養としての世界史の知識を習得し、現在世界で起こっている出来事を、歴史的背景を学ぶことでより深く理解できるようになる。歴史学がどのような学問かを理解した上で歴史を学ぶ姿勢を身につける。歴史上の問題（例えば奴隷制度や戦争など）についての是非など、自分の意見を整理して伝えられるようにする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、歴史学とは何か。
2	古代ギリシア世界	古代ギリシアの民主政と古典文化。
3	古代ローマ帝国	ローマ帝国の繁栄と衰退。
4	古代から中世へ	西ヨーロッパ世界の成立。
5	中世ヨーロッパとキリスト教	中世ヨーロッパ社会とキリスト教。
6	中世都市の成立とイスラム世界	中世都市がどのように誕生したか、イスラム世界の成り立ち。
7	近世ヨーロッパの形成	主権国家体制の成立
8	近世国家の統治	絶対王政の社会。
9	近代社会の確立	市民革命の時代。
10	自由主義と国民主義	19 世紀ヨーロッパ社会の潮流。
11	帝国主義	列強による植民地支配への道。
12	第一次世界大戦	第一次世界大戦の原因と影響について。
13	戦間期の世界	第二次世界大戦へと至る過程。
14	第二次世界大戦	第二次世界大戦の原因と影響。
15	東西冷戦と総括	第二次世界大戦後の社会。

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントの画像資料、配布プリントを参照しながら講義形式で進めていく。数回、リアクションペーパーを書いて提出してもらい、それに対する総評をコメントする。高校の世界史教科書程度の知識はあるものという前提で授業を進めて行くので、事前に世界史の教科書には目を通しておくこと。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（60%）②リアクションペーパー（40%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	『論点・西洋史学』	金澤周作（監修）	ミネルヴァ書房	3,520 円
	『子どもたちに語るヨーロッパ史』	ジャック・ル・ゴフ、前田耕作・川崎万里訳	ちくま学芸文庫	1,210 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

（9）オフィスアワー・その他

質問などは授業の前後に受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
地球科学	尾崎　宏和	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

地震、津波、火山、気象、地形形成のような、地球における諸活動を理解しようとするのが地球科学である。本授業は、これらと私達の生活とのかかわりを理解すること、地球活動を知り地球のすばらしさを科学的に把握すること、これらによって防災や減災につなげることなどをめざす。

まず、日本列島が地球科学的に無縁ではいられない地震に着目する。そして、日本列島の形成、大月市周辺における地球科学的トピック、天気と気象、災害と地球科学などについて理解を深める。さらに、気候変動や環境汚染など、今日深刻化が進む環境問題について扱う。受講生が各種資料を読み合わせしたり、受講生どうしで議論したりする時間をもつ。時間が許せば校外の見学を行う。以上を通じ、私達の生活や環境の維持と改善について地球科学的な観点をもち、意見を持ち行動できるようにする。

（3）到達目標

① 地球の構成員の一人として、地球活動および自然と自らの関わりを理解し、説明することができる。
② 自然災害に対して、地球科学的に予防策や対応策を考え、冷静な対応策を採ることできる。
③ 環境問題の改善および良好な自然環境の維持について、地球科学的な根拠をもって論じることができ、行動することができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	地球科学とは、地球の活動	地球の活動、地球の誕生、地球の構造、世界遺産に見る地球科学
2	東日本大震災	東北地方太平洋沖地震、津波、原発事故
3	地球の大地形	地球の地形概観、プレートテクトニクス、地震、火山、断層、造山運動
4	日本列島	日本列島の形成、フォッサマグナ・中央構造線、地震、環太平洋火山帯
5	地域地形	河岸段丘、扇状地、氷河地形等
6	大月周辺の地球科学	富士山、八ヶ岳、岩殿山、上野原の河岸段丘
7	大月市郷土資料館、猿橋見学	（所要時間等の関係で、内容または日時を変更する可能性がある）
8	地球の歴史と注目イベント	地球史の概観、氷河期襲来、恐竜の絶滅、人新世
9	生命を育む海	生命の誕生、進化
10	気象と地球科学	四季の天気、天気図、観天望気、気象通報
11	災害と地球科学	地震、津波、火山、台風、干ばつ、ヒートアイランドと温暖化
12	気候変動、地球環境問題	地球温暖化、海洋循環、気候変動
13	鉱産資源と環境汚染	資源の形成、地球の元素組成、環境汚染問題
14	「地球科学と私たちの生活」	グループ発表準備
15	「地球科学と私たちの生活」	グループ発表

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

配布した資料を基に、パワーポイントや視聴覚メディアを使用して講義を行う。講義の中では、受講生に対して問いを出すので、気を楽にして積極的に発言していただきたい。

最終回は、地球科学と私達の生活のかかわりについて、グループでの議論にもとづき、発表を行う。

（6）成績評価の方法と基準

① レポート（５０%）、② 授業内の活動・課題（グループ発表）への貢献度（５０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	授業内に指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

関連科目として生物学など。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは、メールで適宜約束した日時とする。

授業は上記の予定とするが、スケジュールの前後や変更がありうる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
生物学	尾崎　宏和	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

約 46 億年前に地球が形成され、原始生命が誕生したのは約 38 億年前と考えられている。現在、170 万種以上の生物が知られるが、未発見の種を含めると約 870 万種に及ぶと推定されている。一方宇宙においては、地球以外での生命の存在は、その可能性が言われるにとどまるのが現状である。地球という生命の惑星は、きわめて貴重な奇跡の存在だ。ところが現在、人為起源の有害な化学物質が多数生産され、地球環境問題の深刻化も進んでいる。本授業では、生命とは何か、前半では生物活動に関して私たちの生活実感の中でとらえ、後半では環境問題と生物に関して着目する。具体的には、前半では生物と生態系を中心に扱う。後半はレイチェル・カーソン「沈黙の春」を輪読し、意見交換や発表も含むアクティブラーニング形式の授業とする。以上を通じ、私達の生活や環境の維持と改善について生物学的な観点をもち、意見を持ち行動できるようにする。

（3）到達目標

① 生命のすばらしさ、大切さを感じ、生物やその生息環境への興味関心を高める。
② ヒトを含む生態系の観点から生命の基本、生物の活動を理解する。
③ 生物学的な観点にもとづいて、環境問題の改善および良好な自然環境の維持のための人の生き方を考え、行動することができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	生命、生物、生物学とは	生命とは、生命の誕生、生物はなぜ死ななければならないのか
2	生命の進化と地球の歴史	生物の分類、生命の進化、地球の歴史
3	生命の場「生態系」(1)	生態系の構成要素、生物間相互作用、食物網
4	生命の場「生態系」(2)	生物の分布、植生・遷移、生物多様性・固有種・外来種、環境問題と生物、生物濃縮
5	生命の場「生態系」(3)	クマと人の共存の道は？ 「有害鳥獣」対策、SDGs
6	個体レベルの生物学	細胞、代謝、遺伝、人の健康
7	有害物質と生物	化学物質、人為起源有害化学物質、毒性作用機構、水俣病・イタイイタイ病、等
8	「沈黙の春」輪読 (1)	「沈黙の春」の内容概観、第 3 章 死の霊薬、第 4 章 地表の水、地底の海
9	「沈黙の春」輪読 (2)	第 4 章の続き、第 5 章 土壌の世界
10	「沈黙の春」輪読 (3)	第 6 章 みどりの地表、第 8 章 そして鳥は鳴かず
11	「沈黙の春」輪読 (4)	第 12 章 人間の代価
12	「沈黙の春」輪読 (5)	第 15 章 自然は逆襲する
13	「沈黙の春」輪読 (6)	第 16 章 迫り来る雪崩、第 17 章 べつの道
14	「SDG s の 17 目標と生物学の役割」	グループ発表準備
15	「SDG s の 17 目標と生物学の役割」	グループ発表

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

資料や書籍と、パワーポイントや視聴覚メディアを使用して講義を行う。生物学と私達の生活のかかわりについて、輪読、グループでの議論や発表を交え、主体的な学習を促していく。講義の中では、受講生に対して問いを出すので、気を楽にして積極的に発言していただきたい。
授業内容は上記の予定とするが、スケジュールの前後や若干の変更がありうる。

（6）成績評価の方法と基準

① レポート（５０%）、② 授業内の活動・課題（グループ発表）への貢献度（５０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	沈黙の春	レイチェル・カーソン 青樹簗一 翻訳	新潮文庫	Amazon にて 中古 数百円
参 考 書	沈黙の春を読む	レイチェル カーソン日本協会 (編集)	かもがわ出版	Amazon にて 中古 数百円
参 考 書	その他、授業内に指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

関連科目として地球科学、文化人類学など。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは、メールで適宜調整するなど適宜の日時で設定する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
数学（経済学のための数学）	上西　雄太	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

数学は、経済学の根幹を支える重要な学問であり、この道具なくして現代の経済・社会を分析し語ることはできない。一方で、数学は理系のものとして経済を学ぶ学生に忌避されがちであるが、これは非常に勿体ない。数学を理解してこそ経済学を深く学ぶことができ、経済・社会の実態を解明し問題を解決する面白みにありつけるのだから。本講義は、その第一歩として経済学に関わる数学の入門的内容（おもに「関数」と「微分」について）を扱う。下記の授業計画は『[改訂版] 経済学で出る数学』を教科書として、高校の数Ⅰレベルの数学からスタートし大学初等レベルの微分までを学ぶものとなっている。経済学をより理解したい、編入学のために「ミクロ経済学」や「数学」が必要である、あるいは純粋に数学を頑張ってみたいと思う学生は積極的に履修を検討して欲しい。

（3）到達目標

① 経済学を学ぶ上で必要とされる数学の入門的な内容を理解する。
② 講義内の演習問題をこなすことで、基本的かつ重要な数学の問題を解けるようする。
③ 数学の抽象的な考え方・プロセスを学ぶことで、論理的思考力を高める。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義方針と内容の案内
2	1次関数	関数と変数、1次関数、逆関数、1次関数を利用した市場均衡の理論
3	2次関数（1）	グラフの平行移動の公式、2次関数と平方完成
4	2次関数（2）、指数と対数（1）	平方完成とグラフの例、最大値と最小値、指数法則
5	指数と対数（2）	基本的な指数方程式、指数の連立方程式、対数の導入
6	指数と対数（3）	指数関数と対数関数のグラフ、対数法則、底の変換公式、対数方程式
7	極限、数列	極限の導入、ネイピア数、等比数列、等差数列、級数
8	1変数関数の微分（1）	微分の理解と導入、導関数の定義
9	1変数関数の微分（2）	n 乗の微分、微分演算の線形性、合成関数の微分
10	1変数関数の微分（3）	積の微分、商の微分、指数・対数関数の微分
11	1変数関数の微分（4）	関数の増減と最大・最小、最大化・最小化問題
12	多変数関数の微分（1）	多変数関数について、偏導関数の定義
13	多変数関数の微分（2）	偏微分の計算例、チェインルール
14	多変数関数の微分（3）	制約条件なしの最適化問題
15	多変数関数の微分（4）、補足	制約条件ありの最適化問題（ラグランジュの未定乗数法）、定期試験について

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。教科書の内容に沿って板書で解説・補足を行うので、ノートをとって欲しい。また、基本的に毎講義の最後に演習問題を解く。この演習の積み重ねにより、理解が深まることを期待する。なお、予習については基本的に不要である。むしろ、授業内容を復習し同様の問題を解く練習を重ねて欲しい。復習用の練習問題も提供する予定である。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験 80％　② 授業内での課題 20％　詳細については、初回講義時に説明する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『[改訂版] 経済学で出る数学』	尾山大輔・安田洋祐 編著	日本評論社	2,310 円
参 考 書	『数研講座シリーズ 大学教養 微分積分の基礎』	市原一裕 著	数研出版	2,750 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

ミクロ経済学やマクロ経済学の理論を深く理解するための基礎的な数学を、本講義は提供する。また、統計学Ⅰ/Ⅱの一部内容やその発展的な内容（数理統計学）、計量経済学などとも関係しており、関連・応用分野は広い。

（9）オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、1人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
統計学Ⅰ（統計学によるデータの分析）	上西　雄太	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

統計学は、数字データを分析する上で基本的かつ有力なツールを提供する学問である。経済学のみならず社会科学の幅広い分野で、データを要約・説明したり、仮説を検証したり、将来を予測するために統計学が応用されており、この道具なしに専門的な学習や研究はできないと言っても過言ではない。逆に言うと、文系学生でも統計学を身に付ければ、専門性を高める上で強力な武器を手に入れたことになる。本講義は、統計学的なデータ分析の手法を習得したいと考える学生に向けた、統計学の入門講義である。前期は高校レベルの内容から始まり、記述統計の基本と確率変数・確率分布について学ぶ。「統計学Ⅱ」「計量経済学」をセットで履修しマスターできたら、各々の関心ある分野で専門的なデータ分析ができるようになるであろう。

（3）到達目標

① 統計学の基本的な概念と手法を理解する。
② 演習問題をこなすことで、各々が問題関心のある分野について統計学的な手法を用い分析できるようにする。
③ 統計学の手法を用いて分析した結果を、各々の口で説明できるようにする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容・進め方・評価などの説明
2	データの記述（1）	分布の中心を示す尺度
3	データの記述（2）	分布の散らばりを示す尺度
4	データの記述（3）	度数分布とヒストグラム
5	データの記述（4）	度数分布表からの統計量
6	確率（1）	確率の概念、場合の数に関する計算について
7	確率（2）	公理主義的な定義による確率、基本的な確率法則、独立
8	確率変数と確率分布（1）	確率変数の導入、離散型の確率変数の導入
9	確率変数と確率分布（2）	離散型の確率変数の期待値・分散・標準偏差
10	確率変数と確率分布（3）	連続型の確率変数と確率密度関数、連続型の確率変数の期待値・分散・標準偏差
11	演習	これまでの内容に関する総合演習
12	確率変数の変換	標準化、偏差値化
13	正規分布（1）	正規分布の導入
14	正規分布（2）	標準正規分布、標準正規分布の確率表
15	正規分布（3）、まとめ	正規分布に関する演習、内容の復習と整理、定期試験について

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。基本は教科書に沿った講義レジュメを配布し、その解説・補足を行う。また、必要に応じて講義の最後に演習問題を解き、内容への理解を深める。予習については基本的に不要である。しかし、復習と講義外演習には十分な時間を取って欲しい。なお、演習用の練習問題は教科書に豊富に載っている。また、教科書各章の付録にある Excel による分析の手引きを模倣すれば実践的な研究・レポートで役立つスキルが身につくので、復習の一環としてそれにも取り組んでほしい。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験 ８０％　② 授業内/外での課題 ２０％　詳細については、初回講義時に説明する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『統計学基礎講義 第３版』	秋山裕 著	慶應義塾大学出版会	3,960 円
参 考 書	『はじめての統計学』	鳥居泰彦 著	日本経済新聞出版	2,456 円
参 考 書	『データ分析に必須の知識・考え方　統計学入門』	阿部真人 著	ソシム	2,750 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

後期の統計学Ⅱで、この講義の続きの内容を扱う。また経済統計学は、本講義を補足する内容が多く含まれているのでセットで履修することを勧める。なお、本講義で身につく統計学的手法は、経済学の広い分野で応用が効く。

（9）オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、１人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
統計学Ⅱ（統計学によるデータの分析）	上西　雄太	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

統計学は、数字データを分析する上で基本的かつ有力なツールを提供する学問である。経済学のみならず社会科学の幅広い分野で、データを要約・説明したり、仮説を検証したり、将来を予測するために統計学が応用されており、この道具なしに専門的な学習や研究はできないと言っても過言ではない。逆に言うと、文系学生でも統計学を身に付ければ、専門性を高める上で強力な武器を手に入れたことになる。本講義は、統計学的なデータ分析の手法を習得したいと考える学生に向けた、統計学の入門講義である。後期は「統計学Ⅰ」の続きの内容として、推測統計のコアである「信頼区間の推定」や「仮説検定」について主に学ぶ。「計量経済学」をセットで履修しマスターできたら、各々の関心ある分野で専門的なデータ分析ができるようになるであろう。

（3）到達目標

① 統計学の基本的な概念と手法を理解する。
② 演習問題をこなすことで、各々が問題関心のある分野について統計学的な手法を用い分析できるようにする。
③ 統計学の手法を用いて分析した結果を、各々の口で説明できるようにする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容・進め方・評価などの説明
2	統計学Ⅰの復習	確率変数、確率変数の変換、正規分布などの復習
3	中心極限定理（1）	2個の確率変数の和とその期待値・分散・標準偏差
4	中心極限定理（2）	n 個の確率変数の和とその期待値・分散・標準偏差
5	中心極限定理（3）	標本平均の分布、中心極限定理
6	信頼区間の推定（1）	点推定と区間推定について
7	信頼区間の推定（2）	中心極限定理による母平均の信頼区間の推定
8	信頼区間の推定（3）	信頼係数、信頼区間の推定の利用例、信頼区間の推定の条件と例外
9	信頼区間の推定（4）	t 分布の導入、t 分布表、Student の定理
10	信頼区間の推定（5）	t 分布と信頼区間の推定、利用例
11	演習	これまでの内容に関する総合演習
12	仮説検定（1）	仮説検定の具体例、仮説検定の流れ、統計学的な仮説の立て方と扱い
13	仮説検定（2）	第Ⅰ種・第Ⅱ種の過誤、有意水準、検定統計量
14	仮説検定（3）	棄却域、検定の実施と結論、利用例
15	仮説検定（4）、まとめ	仮説検定に関する演習、内容の復習と整理、定期試験について

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。基本は教科書に沿った講義レジュメを配布し、その解説・補足を行う。また、必要に応じて講義の最後に演習問題を解き、内容への理解を深める。予習については基本的に不要である。しかし、復習と講義外演習には十分な時間を取って欲しい。なお、演習用の練習問題は教科書に豊富に載っている。また、教科書各章の付録にある Excel による分析の手引きを模倣すれば実践的な研究・レポートで役立つスキルが身につくので、復習の一環としてそれにも取り組んでほしい。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験　８０％　② 授業内/外での課題　２０％　詳細については、初回講義時に説明する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『統計学基礎講義 第３版』	秋山裕 著	慶應義塾大学出版会	3,960 円
参 考 書	『はじめての統計学』	鳥居泰彦 著	日本経済新聞出版	2,456 円
参 考 書	『データ分析に必須の知識・考え方　統計学入門』	阿部真人 著	ソシム	2,750 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

統計学Ⅰの履修が必須となっている。計量経済学では回帰分析に関して深掘りを行うので、実証研究やデータサイエンス関係の職業に関心のある学生は是非履修して欲しい。なお、本講義で身につく統計学的手法は、経済学の広い分野で応用が効く。

（9）オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、１人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
心理学Ａ（心理学で自分探し）	川島　洋	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

（2）授業概要と目的

心理学は、「心の科学」としてマス・メディアなどでも頻繁に取り上げられ、どこか神秘的で占いのようなものと誤解されがちである。本講義では、とかく誤解されやすい心理学という学問の概要を正しく学び、科学としての心理学を理解する事を目標とする。そして、心への興味・関心・理解を深め、心理学的に自分や他者の行動を理解する力を養っていただきたい。

科学としての心理学を正しく理解するために、心理学の基本的な理論(知覚と認知・感情・欲求・ 学習)や、「意識と無意識」、「アイデンティティ」などといった、心理学の基礎的用語を学ぶと共に、 心理学を「自分探し」の手掛かりとして正しく使用できるよう、心理学的なものの見方・考え方(論 理的思考能力・客観的分析能力)が出来るようになることを目指す。また、心理学の理論を応用した、「行動経済学」についても触れていく。

（3）到達目標

①性格について学び、性格形成の要因について知り、自らの性格について客観視できるようにする。
②錯覚や思い込みからのミスなどを減らし、他者に対しての先入観を無くして自分として正しい行動を選択することが出来るようにする。
③心の健康や社会的な行動の仕組みを科学的に学ぶことで、自分自身の心身のケアに役立てる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	大学で心理学を学ぶということ、心理学前史。
2	知覚と認知Ⅰ	こころの世界―知覚の特性と認知のプロセス。
3	知覚と認知Ⅱ	こころの世界―知覚の特性と認知のプロセス。行動経済学について。
4	感情と情動の心理Ⅰ	情動の発生と無意識的・意識的感情について。
5	感情と情動の心理Ⅱ	情動の発生と無意識的・意識的感情について。
6	感情と情動の心理Ⅲ	情動に関わる神経伝達物質とホルモン。
7	動機と欲求Ⅰ	生理的欲求と社会的欲求。
8	動機と欲求Ⅱ	生理的欲求と社会的欲求。
9	学習と記憶の心理	学習のメカニズム、記憶のメカニズム。
10	性格分析と自己理解Ⅰ	類型論と特性論、ＹＧ性格検査法の実習。
11	性格分析と自己理解Ⅱ	性格検査の種類と特徴、エゴグラム(交流分析)の実習。
12	性格分析と自己理解Ⅲ	血液型性格診断(類型論)の誤りと問題点。
13	ストレスと心の健康Ⅰ	うつ病の種類と症状。
14	ストレスと心の健康Ⅱ	うつ病の治療法。
15	ストレスと心の健康Ⅲ	不安障害について。

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は講義形式で行う。毎回レジュメや資料を配付し、パワーポイントを使って授業を進めていくが、一方的に私が話すだけではなく、性格検査(心理テスト)の実習や、各自が個々の考えを表現する機会(コメントを書いてもらうなど)をできるだけ多く持ち、フィードバックとして性格検査、コメントに対する解説・回答を行う。また、「心」という捉えづらい事柄を理解しやすくするために映像資料も多く活用する。特に事前に予習をする必要はないが、授業で学んだことを日常生活の中で活かしていただきたい。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに変わるレポート（70%）、②毎回のコメント・授業での課題（30%）の合計点数により評価をする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。レジュメを配布する。			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

心理学Ａでは心理学の基礎を学ぶ、そのため心理学Ｂ、生涯発達論を学ぶ上での基礎ともなる。心理学をより深く広く理解したいのであれば、心理学系科目である心理学Ｂ、生涯発達論を履修することを勧める。

（9）オフィスアワー・その他

①質問や相談については、授業の前後、あるいはTeamsのチャット、メールにて随時対応する。
②授業進度および内容については、心理学の新たなトピックがあった場合や、学生の理解度により変更される場合がある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
心理学Ｂ（常識を問い直す）	川島　洋	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

「心理学A」では主に個人の心理に焦点を当てたが、「心理学B」では、「社会心理学」とその応用分野に焦点を当て、他者の存在(1対1の対人関係、集団、社会・文化)が、我々のこころ(思考・ 感情・行動)に対しどのような影響を与えているのかを学ぶ。そして、学んだ知識を自己理解、あるいは他者理解に役立てられるようになることを目標とする。

社会心理学を理解するために、社会心理学の基礎的用語、概念などを学び、身近な対人関係や現代日本社会における社会・文化事象について、発達障害・セクシュアリティの問題(男女格差、性的マイノリティー…)などの事例を通して、社会的価値観あるいは社会規範としての「常識」と「非常識」についての分析･考察を行う。また、社会心理学の応用分野 である「恋愛心理学」「色彩心理学」「広告心理学」などを取り上げ、我々が日常生活を送る上で 心理学がどのような関わりを持つかについて理解する。

（3）到達目標

①普段「当たり前」と思っている現代日本社会における様々な偏見や常識について再考し、自分自身のこころの成長、あるいは他者や現代社会について見直す手がかりにする。
②異文化や世代による価値観の違いを知り、多様な視点で物事を捉えられるようにする。
③各自の生と性(セクシュアリティ)を尊重し、生き方を模索できるようにする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容、方針などの紹介、社会心理学とは。
2	自己と社会心理	社会心理学の４つのレベル、私的自己意識と公的自己意識。
3	こころの理論	発達障害について(自閉症スペクトラム・ADHD)。
4	恋愛の心理学Ⅰ	対人行動と社会心理、対人魅力の心理的要因。
5	恋愛の心理学Ⅱ	対人魅力の心理的要因(相手の行動特徴)。
6	恋愛の心理学Ⅲ	対人魅力の心理的要因(非言語的身体運動)。
7	恋愛の心理学Ⅳ	対人魅力の心理的要因(自己の特性)。
8	ユング心理学	ユングによる性格分類、夢分析とは。
9	ジェンダーと社会心理Ⅰ	ジェンダーギャップ(男女格差)。
10	ジェンダーと社会心理Ⅱ	音楽史とジェンダーギャップ。
11	ジェンダーと社会心理Ⅲ	セクシュアリティの構造。性的マイノリティーについて。
12	文化と社会心理Ⅰ	場の理論、社会化と県民性。
13	文化と社会心理Ⅱ	個人主義と集団主義、日本人の価値観。
14	流行と社会心理	流行の特徴、色のイメージと心理効果。広告の心理学。
15	マイノリティーと差別	マイノリティーと差別を描いた映画を鑑賞し考察を行う。

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は講義形式で行う。毎回レジュメや資料を配付し、パワーポイントを使って授業を進めていくが、一方的に私が話すだけではなく、性格検査(心理テスト)の実習や、各自が個々の考えを表現する機会(コメントを書いてもらうなど)をできるだけ多く持ち、フィードバックとして性格検査、コメントに対する解説・回答を行う。また、「社会心理」という捉えづらい事柄を理解しやすくするために映像資料も多く活用する。特に事前に予習をする必要はないが、授業で学んだことを日常生活の中で活かしていただきたい。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに変わるレポート（70%）、②毎回のコメント・授業での課題（30%）の合計点数により評価をする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。レジュメを配布する。			
参 考 書	図説 社会心理学入門	齊藤 勇	誠信書房	3,024 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

心理学Ｂを学ぶ上で心理学Ａはその基礎となる。また、生涯発達論は心理学Ｂと関連する。心理学をより深く広く理解したいのであれば、心理学系科目である心理学Ａ、生涯発達論を履修することを勧める。

（9）オフィスアワー・その他

①質問や相談については、授業の前後、あるいはTeamsのチャット、メールにて随時対応する。
②授業進度および内容については、心理学の新たなトピックがあった場合や、学生の理解度により変更される場合がある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
生涯発達論（発達心理学を学ぶ）	川島　洋	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

人間の心は生涯にわたって発達し続ける。その人間の心理的発達について、これまでの発達心理学の理論や考え方、研究成果などから学び理解する。そして、学んだ知識を自己理解、あるいは他者理解に役立てられるようになることを目標とする。

発達心理学では、人間の心理的発達過程を「乳幼児期」、「児童期」、「青年期」、「成人期」、「老年期」といった世代ごとに 区分し、発達を段階的に考える。本講義では、各発達段階における発達心理学としての考え方や発達課題について、現代日本社会における社会事象や社会問題(親子関係の問題・発達障害など)、あるいは映画・アニメなど「物語」を通して理解する。特に「青年期 」については、ちょうど大学生にあたる時期であり、「自分は何者なのか」という問題(アイデンティ ティ)が発達課題となる時期である。現時点での自分自身の発達課題をより深く理解できるよう、青年期については 特に多くの時間をかけていく。

（3）到達目標

①人々が抱える心の問題について、性格や遺伝などその人が元々持っている内面的な要因と、環境など外面的な要因の両面から考えることを学び、自分や他者を客観的に見ることができるようにする。
②各発達段階の課題を理解し、今何をしなければならないのか、また、この先どのように生きてゆくのが望ましいのかを考える。
③発達心理学を学び、自己理解あるいは他者理解に役立てられるようにする。また、人生の意味、生き方などについて考える。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法などについての説明。発達心理学とは何か。
2	発達段階と発達課題	フロイト、エリクソン、ハヴィガーストの発達理論。
3	乳幼児期の発達Ⅰ	母子関係の成立―アタッチメント(愛着理論)。
4	乳幼児期の発達Ⅱ	自我の芽生え、対人関係の発達。
5	児童期の発達Ⅰ	社会性の発達、大人との関係。
6	児童期の発達Ⅱ	「物語」から児童期の発達を考える。
7	青年期Ⅰ	青年期の発達課題。
8	青年期Ⅱ	青年期におこる変化。
9	青年期Ⅲ	「物語」から青年期の発達を考える。
10	青年期Ⅳ	アイデンティティの確立と拡散。
11	青年期Ⅴ	親密性(恋愛)の獲得。
12	成人期Ⅰ	成人期の発達課題。
13	成人期Ⅱ	親密性課題(結婚)、生殖性課題(育児)を考える。
14	成人期Ⅲ	「物語」から成人期の発達を考える(アイデンティティの問い直し)。
15	老年期の発達	死の受容、自分の生の受容。

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は講義形式で行う。毎回レジュメや資料を配付し、パワーポイントを使って授業を進めていくが、一方的に教員が話すだけではなく、各自が個々の考えを表現する機会(コメントを書いてもらうなど)をできるだけ多く持ち、フィードバックとしてコメントに対する解説・回答を行う。また、「心の発達」という捉えづらい事柄を理解しやすくするために映画など映像資料も多く活用する。特に事前に予習をする必要はないが、授業で学んだことを自己理解・他者理解に活かしていただきたい。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに変わるレポート（70%）、②毎回のコメント・授業での課題（30%）の合計点数により評価をする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。レジュメを配布する。			
参 考 書	こころの旅―発達心理学入門	山岸明子	新曜社	2,052 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

心理学Ａは生涯発達論(発達心理学)の基礎であり、心理的Ｂは生涯発達論に関連する。発達心理学をより深く広く理解したいのであれば、心理学系科目である心理学Ａ、心理学Ｂを履修することを勧める。

（9）オフィスアワー・その他

①質問や相談については、授業の前後、あるいはTeamsのチャット、メールにて随時対応する。
②授業進度および内容については、発達心理学の新たなトピックがあった場合や、学生の理解度により変更される場合がある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
身体論	青山　公美嘉	1	前期集中	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

私たちは普段何気なく会話をしたり、自分の意志で行動をしているが、なぜそれが出来るのか、なぜその行動が成り立つのかといった事に注意を向ける事は少ない。身体は発信器であり、受信機である。身体が様々なシグナルを受け取り、身体を動かして送り出す事でそう言った行動は成り立っている。

この講座では自ら動き考える事で、私たちが普段行っているコミュニケーションや行動をもう一度意識下に置き、自分の行動を点検してみたいと考えている。

（3）到達目標

① 出身や年齢ここまでの経歴や目指す専門や興味関心などの背景が違う人達とどのように一緒に活動をしていくことが出来るようになる。
② 自分がどのように他者とやりとりする人間なのかを理解する。
③ 人と人との間にどのようなやり取りが起こるのかそれはどのように見えるのかを考え協議する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	この授業がどのように行われていくのかを体験する。
2	自分の身体を知る	意外と知らない自分の体を探ってみる。
3	自分の身体を操る	無意識に行っている自分の行動を意識的にとらえ直す。
4	他の人と関わってみる	一対一や複数での身体的コミュニケーションを行ってみる。
5	言語で関わってみる	相手や相手との距離などで自分の話し方が変化することに気づく。
6	集団を考える	集団の中でどのようなことが起こるか体験してみる。それらの意味を考える。

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

演劇的手法を用いた活動を中心とした体験学習を中心に行う。シアターゲームと呼ばれるようなゲームやエクササイズなどペアやグループでのアクティブな活動を積極的に行っていく。授業の性質上予習は必要ない。授業時間外の学習は基本的にはないが授業内で同意できたものについては何らかの課題が出る場合もある。

（6）成績評価の方法と基準

① 授業への貢献（５０%）、② 授業内の課題（５０%）。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	特になし。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

人間関係論など他者と関わることを考える授業を受けると何らかの繋がりを見出すことができるかもしれない。

（9）オフィスアワー・その他

集中講義なので基本的に講義日の講義時間の前後３０分程度在校しています。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
法学Ａ（日本国憲法を学ぶ）	山崎　恭代	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本講義では、国家の基本法であり、最高法規である日本国憲法について、解説を行う。

日本国憲法の成立過程に触れた上で、日本国憲法の基本原理（基本的人権の尊重主義、国民主権主義、平和主義）、国家の統治機構の概要を学習する。日本国憲法の特徴を、大日本帝国憲法と比較しながら学習し、その成立の経緯を理解することによって、日本国憲法の問題点や今後の課題について、論ずることができるようにする。

憲法では、抽象的な概念が非常に多いことから、授業内容の理解を深めるために、授業のテーマと関連する具体的な時事問題があれば、適宜、取り上げて紹介する。

（3）到達目標

①法を学ぶための基礎（条文の読み方、法の適用領域、法の理念など）を修得する。
②憲法についての基本的な知識を修得する。
③憲法の成立過程、基本的人権、統治機構に関する基礎的な知識を修得する。
④日本国憲法の今後の課題について、意見を述べることができるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法の説明等
2	憲法の歴史と特徴	憲法の概要と大日本帝国憲法、日本国憲法の特徴を学ぶ
3	日本国憲法成立の経緯	大日本帝国憲法改正、日本国憲法成立の経緯を学ぶ
4	日本国憲法成立の法理	日本国憲法成立の法理論を学ぶ
5	国民主権と象徴天皇制（1）	国民主権主義と象徴天皇制との関係について学ぶ
6	国民主権と象徴天皇制（2）	国民主権の意義と日本国憲法における天皇の地位について学ぶ
7	平和主義	日本国憲法９条の構造を学ぶ
8	基本的人権（1）	基本的人権の概要、公共の福祉の概念を学ぶ
9	基本的人権（2）	思想・良心の自由、表現の自由について学ぶ
10	基本的人権（3）	信教の自由、政教分離原則について学ぶ
11	基本的人権（4）	経済的自由について学ぶ
12	統治機構（1）国会	権力分立、国会の組織、活動、権限を学ぶ
13	統治機構（2）内閣	内閣の組織、権能、行政権を学ぶ
14	統治機構（3）裁判所	裁判所の種類、構成、司法権を学ぶ
15	地方自治	地方公共団体の組織、運営について学ぶ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式で授業を進めていく。配布した印刷物の空欄に用語を記入しながら、学習を進める。毎回、授業時間の数分を利用して、理解度を確認するための復習問題を 2～3 問程度出題する（授業内課題）。フィードバックとして、次回の授業で問題の解説を行うか、または、チームズで解説を送信する。特殊な用語や言い回しが多いため、事前の予習よりも、授業後の復習に重点をおいた学習をすること。授業で解説した教科書の該当箇所、板書をまとめたノート、配布資料を読んで、復習を行うこと。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（65%）、②授業内課題（35%）の合計点数により評価を行う。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ピンポイント憲法	デイリー法学選書編修委員会［編］	三省堂	1,760 円
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

授業後、教室で質問を受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
法学B（法律を使う・なれる）	山崎　恭代	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本講義では、民事訴訟法と刑法について、解説を行う。

現代においては、権利意識が向上したことと、情報化社会であることにより、私人間での紛争が増加傾向にある。紛争当事者間での話し合いで、紛争が解決できなければ、民事訴訟を起こすことによって、裁判で解決しなければならないことになるが、その時の訴訟手続について定めた法律が民事訴訟法である。そこで、民事訴訟の基礎的知識を修得し、民事訴訟の一連の流れを概観する。また、重大な刑事事件について、裁判員裁判が行われていることから、犯罪の成立要件を学習した上で、裁判員裁判制度の解説を行う。

手続法である民事訴訟法の理解を深めるために、授業のテーマと関連する具体的な時事問題があれば、適宜、取り上げて紹介する。

（3）到達目標

①紛争を解決するための方法を修得する。
②訴訟手続きに関する基本的な知識を修得する。
③訴訟を起こされた場合に対応することができる。
④裁判員に選ばれた場合に裁判員裁判に参加できるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法の説明等
2	民事訴訟法（1）	民事訴訟の特徴を、刑事訴訟との比較において学ぶ
3	民事訴訟法（2）	民事訴訟に関する原則（処分権主義、職権主義など）を学ぶ
4	民事訴訟法（3）	訴えの提起、訴えの種類を学ぶ
5	民事訴訟法（4）	口頭弁論の諸原則を学ぶ
6	民事訴訟法（5）	証拠と証明について学ぶ
7	民事訴訟法（6）	訴訟の終了について学ぶ
8	民事訴訟法（7）	判決の種類、判決の効力を学ぶ
9	民事訴訟法（8）	上訴（控訴、上告）について学ぶ
10	民事訴訟法（9）	判決以外の裁判（決定、命令）を学ぶ
11	民事訴訟法（10）	具体的な事例を取り上げて解説を行う
12	刑法（1）	刑法の機能、罪刑法定主義を学ぶ
13	刑法（2）	犯罪の成立要件（構成要件該当性）を学ぶ
14	刑法（3）	犯罪の成立要件（違法性、有責性）を学ぶ
15	刑法（4）	裁判員裁判を学ぶ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式で授業を進めていく。配布した印刷物の空欄に用語を記入しながら、学習を進める。毎回、授業時間の数分を利用して、理解度を確認するための復習問題を 2～3 問程度出題する（授業内課題）。フィードバックとして、次回の授業で問題の解説を行うか、または、チームズで解説を送信する。特殊な用語や言い回しが多いため、事前の予習よりも、授業後の復習に重点をおいた学習をすること。授業で解説したことを、板書をまとめたノート、配布資料を読んで、復習を行うこと。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（65%）、②授業内課題（35%）の合計点数により評価を行う。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし			
参　考　書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

授業後、教室で質問を受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
文化人類学（世界の民族と異文化研究）	山内　健太朗	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している(導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

（2）授業概要と目的

文化人類学の理論を紹介し、世界の民族と異文化について学習する。人類学理論の主な内容は、文化相対主義、機能主義、伝播論、構造主義などである。これらの理論と共に、文化における理解やその課題について講義する。また、講義内容に沿った映像を用いてより理解を深める。映像ではパプアニューギニア、南米アマゾン密林地帯の先住民族、中国ナシ族、日本などの生活を紹介する。文化人類学の理論と映像から「異文化とは何か」、「民族問題」、「多文化共生」などのテーマや、フィールドワークの事例をあげながら文化人類学からみた現代を学ぶ。

上記を通じて、文化人類学の基礎理論を学習し、文化人類学的な視座の獲得を目的とする。

（3）到達目標

①文化摩擦の課題を学び思考する方法を習得する。
②文化人類学の古典から現在までの理論を学び、異文化理解ついて論じることができる。
③文化人類学的な視座を習得する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	「当たり前」ってなんだろう？の学問
2	文化とは何か	文化の定義と議論について
3	文化人類学理論①	フィールドワークとトロブリアンド諸島
4	家族と親族	わたしたちの家族を結ぶものは何か
5	文化人類学理論②	トロブリアンド諸島の芋と家族
6	文化人類学理論③	「未開社会」の幻想（機能主義Ⅰ）
7	文化人類学理論④	クラ交換（機能主義Ⅱ）
8	文化人類学理論⑤	贈与と互酬性
9	イゾラド	南米アマゾン密林地帯の先住民族
10	文化人類学理論⑥	文化はどのように伝わるのか（伝播論Ⅰ）
11	文化人類学理論⑦	芋はどこから伝わったのか（伝播論Ⅱ）
12	文化人類学理論⑧	日本の地域性
13	文化人類学理論⑨	構造主義について
14	儀礼について	通過儀礼とは何か
15	まとめ	講義まとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式によって進めていく(パワーポイントの併用)。その際、受講生の理解度を高めるために、資料や視聴覚メディア等の各種教材を使用する。上記の配布資料以外に、コメントシートを配布し、回収後に解説やコメントをすることで受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに代わるレポート(70%)、②授業への意欲的参加（30%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	必要に応じて示す			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

質問や相談等は授業後やTeamsにて受け付ける。また、本講義はコメントシートに寄せられた内容を可能な限り講義で紹介する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
ジェンダー論（ジェンダーとセクシュアリティの理解を深める）	川島　洋	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

近年「ジェンダー」に関して、SNS や YouTube などで極端で過激な意見や間違った考え方が多く発信され、その影響もありジェンダーについて多くの誤解が生じ、ジェンダーという言葉に嫌悪感を持つ人も少なくないと感じる。ジェンダーとは「社会的に規定された性別や性に関する価値観や常識」のことであり、決して男女の対立を煽るものでも特定の人を責めるものでもない。

ジェンダーは男女の性別役割や権力・賃金格差、教育、家族制度、性的マイノリティ(LGBTQ)など、政治・経済・教育・文化様々な社会問題に関わっている。本講義ではこのジェンダーを正しく理解し、ジェンダーを起因とする問題についてより多角的な分析と理解ができるようになることを目指す。また、あたりまえとされている性規範や性に関する「常識」をあえて問いなおすことで自己や他者への理解を深め、積極的に人や社会との関係を構築できるコミュニケーション能力を養っていくことを目標とする。

（3）到達目標

①ジェンダーをめぐる諸問題を自分自身の問題として再認識し、他者への理解や共感を育む。
②現代社会の多様な事象をジェンダー的視点で読み解くことができるようになる。
③現代社会において「男性である」「女性である」といった性別は、どのように意味づけられ、それが経済・政治・教育・家族制度、セクシャリティ(LGBTQ)・性別役割など、社会の様々な側面にどのように関わっているかについて理解できるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容、方針などの説明
2	ジェンダーに関する基礎知識	ジェンダーの内容について
3	ジェンダーについて考える（1）	マンガを通して異文化のジェンダー問題を考えるⅠ
4	近代社会とジェンダー（1）	近代社会における男女の地位のありかた
5	近代社会とジェンダー（2）	家父長制とジェンダー
6	学校教育とジェンダー（1）	かくれたカリキュラム
7	学校教育とジェンダー（2）	「物語」を通して考える学校における LGBT の問題
8	フェミニズムとは	フェミニズムの歴史とその思想
9	セクシュアリティの理解を深める（1）	生物学的性差とジェンダーの関連性からセクシュアリティを考える
10	セクシュアリティの理解を深める（2）	「性」の多層構造とセクシュアリティ
11	セクシュアリティの理解を深める（3）	性的マイノリティ(LGBTQ)について
12	過去を知ることで現在を知る	日本社会における LGBTQ
13	ジェンダーについて考える（2）	マンガを通して日本社会のジェンダー問題を考えるⅡ
14	見過ごしがちなジェンダー問題（1）	男性の生きづらさを考える
15	見過ごしがちなジェンダー問題（2）	ジェンダー的視点(社会的視点)で月経を考える

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は講義形式で行う。毎回レジュメや資料を配付し、パワーポイントを使って授業を進めていくが、一方的に教員が話すだけではなく、各自が個々の考えを表現する機会(コメントを書いてもらうなど)をできるだけ多く持ち、フィードバックとしてコメントに対する解説・回答を行う。また、「ジェンダー」という捉えづらい事柄を理解しやすくするための資料として、マンガや映像資料も多く活用する。特に事前に予習をする必要はないが、授業で学んだことを日常生活の中で活かしていただきたい。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに変わるレポート（70%）、②毎回のコメント・授業での課題（30%）の合計点数により評価をする。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし。レジュメを配布する。			
参　考　書	必要に応じて紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

男女の経済格差などを理解する上で社会保障論、地域福祉論を、ジェンダーに関する心の問題を理解する上で心理学系の科目(心理学 A、生涯発達論、心理学 B)の履修を勧める。

（9）オフィスアワー・その他

①質問や相談については、授業の前後、あるいは Teams のチャット、メールにて随時対応する。
②授業進度および内容については、ジェンダーに関する新たなトピックがあった場合や、学生の理解度により変更される場合がある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
情報化と社会（IT を知るための基礎知識）	深澤　克朗	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

現代社会は、激しく情報化が進展している。インターネット技術やＩＯＴ、ＡＩ技術の進展により、企業や人々の生活が大きく変化してきている。本講座においては、コンピュータの歴史や基礎的な知識を学び、生成ＡＩ・ビッグデータ・データサイエンスなどについてもその仕組みや問題点などについても紹介するものである。A.トフラー氏が予言した「第三の波」がこの情報化社会だと思われる。この著しい情報化は社会構造をも変えてきている。ＳＮＳを新しいコミュニケーションツールとして、人々や企業や政府も使っている。しかし、そこには大きな問題点も存在している。我々はその新しい情報化ツールを使いこなすばかりではなく、そこに潜む問題なども意識すべきである。本講座は、情報化の技術的な側面と社会への影響を理解し、現代社会を学ぶことを目的とする。

（3）到達目標

①コンピュータの基本的な原理とその歴史を学ぶ。
②AI、ビッグデータ、DX などの先端的技術の理解を深める。
③情報化社会についてどのような変革がもたらされるのかを、各自考えることを目的とする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ビッグデータとデータサイエンス	ビッグデータとは、ビッグデータの利用例や分析方法を紹介。
2	コンピュータの歴史	コンピュータの開発の歴史を紹介。半導体について。
3	コンピュータの基本原理	コンピュータのハードウエアについて説明。
4	ＯＳ・ソフトウェア・アプリ	ＯＳの役割、ソフトウェア・アプリの原理。
5	プログラミング	プログラミング言語の紹介、プログラミングの方法についてデモを行う。
6	２進数、１６進数	2 進数、16 進数とは。その計算方法。
7	ネットワーク	コンピュータネットワークやプロトコルについて。
8	インターネットの仕組み	インターネットの原理や仕組み。ＩＰアドレスなど。
9	セキュリティ	マルウエア（ウイルス）、ランサムウエアやその対策。
10	暗号化	セキュリティ対策のための暗号化手法とその原理。
11	人工知能（ＡＩ）	ニューラルネットワーク、ディープラーニング、ＧＡ、生成ＡＩの仕組みついて。
12	データベース	データベースとは、データベースシステムについて説明。
13	ＳＮＳ	様々なＳＮＳ、監視社会、マイクロ・ターゲッティングなどについて。
14	知的財産権	情報化社会での著作権や特許権などについて
15	暗号資産	暗号資産などの仕組み（ブロックチェーン）などついて。

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で行う。パワーポイントなどによる資料説明や資料配布は teams にて行うが、各自ノートもとることを勧める。質問などは講義内でも受け付けるが、teams でしてもらっても可である。質問などは、回答などにより皆の理解が深まるので 15 回の講義内で各自最低１回はするように。最終レポートは各自が興味を持った分野の内容を深く掘り下げて、現代社会との関連について考えを述べてもらいたい。推薦図書は講義内で何冊か紹介する。

（6）成績評価の方法と基準

①課題レポート（３０％）講義内で興味を持った内容について自分の考えを入れたレポートを作成。
②最終試験（７０％）知識を問う内容と考えを問う内容の筆記試験を予定。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	オリジナル資料配布			
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

情報リテラシー

（9）オフィスアワー・その他

質問等は、授業の前後や teams にて対応します。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
キャリアデザイン論Ａ　◆	槇平龍宏／専任教員／キャリアラボ担当教員	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

本授業は、将来の進路を主体的に考える力を身につけることを目的とし、1 年後期のゼミ選択や、その理由を言語化した「研究計画書」の作成をキャリアデザインと結び付けて考察するための科目である。自己理解（興味・価値観・強み)、社会理解（職業・業界・地域社会の課題)、学問理解（ゼミで何を学ぶか?）を段階的に整理し、自身の関心や将来像を明確にする。授業では、ワークやプレゼンテーションを通じて、「研究計画書」と進路との関係を整理し、自分の考えを言語化する。そのプロセスを通じて、ゼミ選択をゴールとせず、進学・就職・学び直しなど多様な進路を見据え、短大での学びを将来につなげて考える進路意識を養うことを目指す。

（3）到達目標

①自身の興味・価値観・強みを整理し、将来の進路やキャリア形成について主体的に考えることができる。
②社会や職業、地域の課題を理解し、自身の学びや関心との関係を説明することができる。
③ゼミで取り組みたい研究テーマを研究計画書としてまとめ、その意義を進路との関連から説明することができる。
④研究計画書と将来像を踏まえ、自身の考えを論理的に整理し、口頭および文章で表現することができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	短大の学びとキャリアの関係
2	自己理解①	興味・価値観ワーク
3	自己理解②	強み・学びのスタイル、キャリアデザインの重要性
4	専門理解①	社会人文科学の学びと領域
5	専門理解②	履修内容に基づくワーク
6	社会理解①	労働市場と社会人文科学系の進路
7	社会理解②	業界・職種研究（ワークやクイズ等)
8	資格と学びの接点	キャリアデザインにおける資格の意味
9	自己表現①	コミュニケーションとプレゼン基礎
10	自己表現②	今後の履修計画ポートフォリオ作成
11	ライフキャリア設計①	編入学・就職・学び直しの可能性
12	ライフキャリア設計②	地域社会・社会貢献との接点
13	ゼミ選択に向けた自己 PR 演習①	ゼミ志望理由の言語化
14	ゼミ選択に向けた自己 PR 演習②	グループでの相互フィードバック
15	最終プレゼンテーション	短大での学びを将来のキャリアにどう結びつけるか

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は、講義、ワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションを組み合わせて進める。授業内では、自己理解・社会理解・学問理解を段階的に深め、研究計画書およびキャリアデザインの作成を主体的に作成できる力を身につける。授業時間外には、適性検査結果の振り返り、業界・職業に関する情報収集、研究テーマに関する文献調査を行い、ポートフォリオや発表資料として整理する。これらを通じて、自身の進路を主体的に考える力を養う。

（6）成績評価の方法と基準

①最終課題レポート（50%)、②授業貢献度、課題授業に関わる振り返りレポート（50%)

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	授業中に指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

自身が関心を持つ入門科目、キャリアデザイン論 B、インターンシップ実習 A

（9）オフィスアワー・その他

本授業は全員履修科目となる。授業の進め方などは第 1 回目のオリエンテーション時に説明する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
キャリアデザイン論B　C１・C２　◆	槇平　龍宏／キャリアラボ担当教員	１	後期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

２．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

キャリアデザインとは何か？それは、学歴・職歴を積み重ねていく過去に残る行為と、学業・仕事・生活を計画し開発していく未来を展望する行為から成り立つ。この過去と未来のデザインによって、今を精一杯、学び・生きるモチベーションが醸成されるものである。本授業では、これを目的にキャリア理論の理解を進め、本学でのすべての学びにおける学習意欲を向上させていく。

そして、卒業後の進路をにらんだ、編入学受験や就職活動につながる、きわめて実践的なキャリア行動も習得する。これらを通じて、専門演習や卒業レポートを特徴とする本学での授業カリキュラムと、各学生自身の進路活動を効果的・直接的に連動させる。

（3）到達目標

① 自身の研究・職業・生活に関わる生涯キャリアを思考することで、持続的な「学習意欲」を確保する。
② 実践的なキャリア理論を学び、変化し続ける仕事環境においても満足のいく人生を創り出していける「学習スタイル」を築く。
③ 就職希望学生（C1）は、就活で求められる活動内容を理解し、自身が志向する仕事の「職種分析力」を習得する。
④ 編入学希望学生（C2）は、将来のキャリアを見据えた受験予定大学を選択し、その「研究企画力」を獲得する。

（4）授業計画

	テーマ（C1・C2 合同）	授　業　内　容		
1	オリエンテーション	未来の働き方は？　短大卒ロールモデルの紹介（就職と進学）　短大卒の優位性		
2	キャリア年表の再考（演習）	短大での学びと人生 100 年時代のキャリア戦略との接合		
3	卒業生キャリアフォーラム	先輩卒業生（２名／卒業後“就職”と“進学”のキャリア）の講演		
／	【 就職希望クラス／C1 】		【 編入学希望クラス／C2 】	
4	就職活動の手引き	就活のアウトラインとキャリア年表	編入学の意義と４年制大学の理解	４年制大学での学びとその意義
5		エントリーシートと履歴書の作成		編入学制度の概要
6		職種・業界・企業分析		一般入試、推薦入試の内容
7		自己分析、筆記試験と面接試験		志望校選定と４年制大学リサーチのすすめ
8	職種研究セミナー（外部講師）	税理士・会計士の仕事（税理士会）		編入学受験の短大学習の活かし方
9		自治体・公務員の仕事（山梨県庁）	受験科目と自己教育力	小論文問題の対策
10		仕事研究のための経営者講話		英語問題の対策
11	就活実践セミナー（外部講師）	就活スタートアップ（ハローワーク）		志望理由書の書き方、研究企画力
12		自己表現／着こなし、身だしなみ		前年度の受験実績の検証
13		採用の現状と実践的な就活		先輩合格者からの体験談
14	就活総仕上げ	先輩内定者からの体験談	２年次への計画	学習計画、合格に必要なこと
15		就活の直前の総括点検、職種分析		２年後の就職活動のアウトライン

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

第１回～3 回までは、クラス共通の内容をもって、キャリア教育の基礎から応用へと展開していく。これを踏まえ、第４回以降は、Class１を就職希望クラス（C1）、Class2 を編入学希望クラス（C2）として、学生の希望を聞いたうえで、２クラスに分けて運営する。卒業後の進路活動をより確かなものにするため、ロールプレイング形式による演習や、外部講師によるセミナー、実務家・先輩・卒業生からの体験談など多彩な講師陣をもって授業運営がなされる。

（6）成績評価の方法と基準

① 最終課題レポート（60%）　② 授業貢献度、毎回授業に関わるコメントペーパーやミニ課題（40%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

キャリアデザイン論A、インターンシップ実習Ａ

（9）オフィスアワー・その他

本授業は全員履修科目となる。就職（C1）と編入学（C2）のクラス分けは、第１回目の授業で確定する。また、途中からのクラス変更は、原則、認めないので留意する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
インターンシップ実習Ａ・Ｂ　◆	槇平　龍宏　／キャリアラボ担当教員	１・２	集中	１

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

インターンシップとは、学生が企業等で自分の専攻している専門分野での学習やキャリアに関連した就業体験を行うことである。これにより、学生は、将来のキャリア形成に向けた短大での学びの強化や見直しの機会を得ることができる。インターンシップの形態は様々であるが、単位取得を前提として、「企業においての就業体験を通して学習の必要性を認識し、学習意欲を高める契機とする」、「社会人としてのマナーを育成する」、「職業選択の材料にする」といったことを目的としている。

（3）到達目標

インターンシップを実施することで、就業経験を積み将来の進路決定に役立てるとともに、社会人としてのモラルや自己啓発による人格形成の確立を目指す。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1 2	事前学習	・受入企業の公開に合わせて希望企業を選択する ・インターンシップ前のマナー講座
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	実習	・１日８時間×５日＝４０時間以上の実習（夏季休業中のみ） ・実習日誌（実習日数分） ※インターンシップ実習の形態として、①地域インターンシップ、②自主的インターンシップがある（下記参照）。
14 15	事後学習	・実施報告提出 ・成果報告会にて成果報告

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

当実習は、下記２つの形態がある。ともに、１年次か２年次の夏季休業期間中における集中講義として行うものである。
① 地域インターンシップ： 担当教員やコーディネーター教員が指定する市内・県内の事業所職業体験を行う。地域企業との協働的プロジェクト（例：プロモーション動画の制作）も併せて実施することで、地域貢献力も養う。
② 自主的インターンシップ：各自が受け入れしてくれる企業を選びキャリアラボに申請をする。受け入れ条件等が確認できたところで許可となる。実習中は、会社の規則等に従い、かつ、社員の指揮及び監督に従うこと。

（6）成績評価の方法と基準

① 原則として１日８時間×連続５日＝４０時間以上の実習、② 実習先は各自で探し申請を行い受け入れ先企業と覚書を交わす。
③ 実習先の評価、④ 実習日誌、⑤ 報告書、⑥ 事前・事後指導等を総合して評価認定をする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

キャリアデザイン論Ａ・Ｂ

（9）オフィスアワー・その他

○２年次生が１年次に「インターンシップ実習Ａ」を修得しており、別の事業所等の職業体験をしたい場合は、「インターンシップ実習Ｂ」の履修になる。
○実習に当たり知り得た秘密を、研修期間中のみならず、その終了後も第三者に漏らさないことを厳守する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
大月学入門（地域社会の歴史と現状を知り、将来を考える）◆	山口　隆太郎	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

本授業は、短大が立地する大月市及び周辺地域について、歴史・文化、地理、産業・経済構造、福祉、企業活動、観光、市民活動等のテーマ別に、毎回学外からゲスト講師を招いてレクチャーして頂き、地域経済・社会の現状と課題を学ぶとともに、これからの展望を考える「地元学」に関する科目である。

大月市は約2万1千人の人口を擁し、県内でもとくに東京都市圏に近接する地方都市であるとともに、JR 中央線や富士急行線、中央自動車道等が行き交う交通の要衝でもある。富士登山の入り口でもあり、猿橋などの観光資源にも恵まれている。地域活性化のためにはその地域の実情を包括的に理解することが不可欠であり、大月市を知ることを通じて地域課題を認識し理解する力を身につける。

（3）到達目標

・地域社会や経済を包括的に理解することを通じて、地域の抱える諸課題の原因を自ら考え理解した上で、文章で表現することができるようになる。
・1年後期からの地域実習の選択や、専門基礎演習等で学ぶテーマ発見につながる基礎的知識を習得する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ガイダンス
2	大月市（その1）市勢	市勢の現状と将来ビジョン
3	大月市（その2）歴史文化	大月市の歴史と文化
4	大月市（その3）活性化	大月市の魅力発見と発信・地域づくりと課題
5	大月市（その4）福祉	大月市の地域福祉と今後の課題
6	大月市の地域経済（その1）	市の産業構造、観光の現状と課題
7	大月市の地域経済（その2）	大月市の中小企業の現状と課題
8	大月市の地域経済（その3）	周辺自治体との比較から大月市を知る
9	大月市の地域経済（その4）	中小企業の経営戦略と雇用・人材育成の課題
10	大月市の地域経済（その5）	大月市をめぐる、不動産と生活の状況
11	市民活動とコミュニティ（その1）	地域コミュニティの活動内容
12	市民活動とコミュニティ（その2）	NPO 法人「大月エコの里」と地域農業振興
13	市民活動とコミュニティ（その3）	地域の魅力を発信する活動
14	市民活動とコミュニティ（その4）	大月における高齢者介護と地域福祉
15	まとめ	大月の地域課題をふりかえる

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

多彩なゲストスピーカーからのレクチャーを聴き、様々な問いかけに答える形式で進める。授業の最後に、感想やゲストへの提案などをまとめたレポートを執筆する時間を取り、毎回提出してもらう。適宜授業の最初に、前回のゲストの話の振り返りや質問への回答を紹介し、フィードバックと自身の考えの整理に役立てる。

（6）成績評価の方法と基準

①授業後に提出の小レポートの評価（80%)、②ゲスト講師への質問やアイディアなどの提言力（20%）

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特に定めない			
参　考　書	特に定めない			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

公共政策入門、経営学入門等の入門科目、公共政策分野の諸科目

（9）オフィスアワー・その他

自身が所属する短大が立地する地域に関する内容が主であるため、優先順位を高くして履修することを薦める。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
地域実習（体験）◆	槇平　龍宏・山口　隆太郎・佐藤　克春・稲垣　自由	1	後期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

本科目は、１年次前期の「大月学入門」で学んだ地域理解を、実習を通じて体得していく科目である。具体的には、学生自らが地域コミュニティの現場に入って大月市等における地域活性化をテーマとして地域の人々との協働作業や体験学習等を行う。その目的は、実社会での様々な実情や課題を自ら体験し、地域社会に対する問題意識を醸成させることに置く。

履修学生は、大月市の地域課題に即した以下の４つのテーマグループから一つ選択し実習を行う。

① 農業グループ　…NPO 法人「おおつきエコの里」等との連携による農業体験と農村地域振興について学ぶ
② 地域資源探索グループ　…大月市内の文化遺産を見学し、地域資源から情報を引き出す方法を学ぶ
③ 再生可能エネルギーグループ　…大月各所で再生可能エネルギーの実現性を検討する
④ 地域の情報発信グループ　…大月の面白いところに実際訪問して、その魅力についてレポートを作成する

（3）到達目標

① 地域で行われている活動に触れ、地域が抱える問題や地域再生の活動の意義を語れることができる。
② 地域の現場から自らの思考で問題を発見し、その解決策の具体的なアイデアを提示することができる。
③ 異なる世代・異なる地域の人と交流し、多様な価値観のなかでコミュニケーションをとることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	実習の進め方、グループ分け
2	実習（学外活動）①	・農業：おおつきエコビレッジで棚田米や小麦、野菜等の農業体験、放牧畜産体験 ・地域資源探索：大月市内の文化遺産を見学・体験する ・再生可能エネルギー：大月各所で再生可能エネルギーの実現性を検討する ・地域の情報発信：大月の面白いところに実際訪問して、その魅力についてレポートを作成する ※各グループの日程・場所など詳細は履修時「ガイダンス」で案内し、そのうえでグループの所属を確定する。
3	実習（学外活動）②	
4	実習（学外活動）③	
5	実習（学外活動）④	
6	実習（学外活動）⑤	
7	座学等 ①	実習の準備と振り返り、成果発表等を実施
8	座学等 ②	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業の進め方の基本は、学外における体験学習である。具体的な方法として、フィールドでの調査や討議、発表、実演などを取り入れる。したがって、履修学生は活動に対する自主的・積極的な参加が求められることになる。また、座学においては、学外活動の事前準備を行うとともに振り返りを行い、体験学習の到達目標の定着を図る。

（6）成績評価の方法と基準

実習等の参加状況と活動姿勢（１００%)。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

公共政策入門、経営学入門、大月学入門

（9）オフィスアワー・その他

実習の日程は各テーマグループで異なる。詳細は「ガイダンス」で案内する。一度確定したグループは異動ができないので留意する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
地域実習（応用）◆	山口　隆太郎・槇平　龍宏・稲垣　自由	2	前期	1

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

本科目は、1年次後期の「地域実習（体験）」で得た地域理解を応用し、学生の主体的な実習活動が求められる科目である。一連の地域実習に共通することとして、学生自らが地域コミュニティの現場に入って大月市等における地域活性化をテーマとして地域の人々との協働作業や体験学習等を行いながら実社会の課題等を整理し、その課題の背景や要因等についてヒアリング調査等を行って課題解決に向けて分析を行うことを目的とする。地域実習（応用）においては、履修生は以下の3グループから1つ選択し、実習を進めていく予定である。

① 農業グループ　…NPO法人おおつきエコの里等との連携による農業体験と農村地域振興について学ぶ
② 地域資源探索グループ　…大月市内の文化遺産を見学し、地域資源から情報を引き出す方法を学ぶ
③ 地域の情報発信グループ　…大月の面白いところに実際訪問してその魅力についてレポートを作成

（3）到達目標

① 地域で行われている活動に触れ、地域が抱える問題や地域再生の活動の意義を説明することができる。
② 地域の問題構造を明らかにし、その解決策として具体的なアイデアを提示することができる。
③ 異なる世代・異なる地域の人と交流し、多様な価値観のなかで主体的なコミュニケーションを発揮することができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	実習の進め方、グループ分け
2	実習（学外活動）①	・農業：おおつきエコビレッジで棚田米や小麦、野菜等の農業体験 ・地域資源探索：大月市内の文化遺産を見学・体験する ・地域の情報発信：大月の魅力を実際に取材して情報発信 ※各グループの日程・場所など詳細は履修時「ガイダンス」で案内し、そのうえでグループの所属を確定する。
3	実習（学外活動）②	
4	実習（学外活動）③	
5	実習（学外活動）④	
6	実習（学外活動）⑤	
7	座学等 ①	実習の準備と振り返り、成果発表等を実施
8	座学等 ②	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業の進め方の基本は、学外における体験学習である。具体的な方法として、フィールドでの調査や討議、発表、実演などを取り入れる。したがって、履修学生は活動に対する自主的・積極的な参加が求められることになる。また、座学においては、学外活動の事前準備を行うとともに振り返りを行い、体験学習の到達目標の定着を図る。

（6）成績評価の方法と基準

実習等の参加状況と活動姿勢（１００%）。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	授業内指示。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

公共政策入門、経営学入門、大月学入門

（9）オフィスアワー・その他

実習の日程は各グループで異なる。詳細は「ガイダンス」で案内する。一度確定したグループは異動ができないので留意する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
地域実習（提言）◆	槇平　龍宏・稲垣　自由	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

本科目は、学生自らが地域コミュニティの現場に入って、大月市等における地域活性化をテーマとして地域の人々との協働作業や体験学習を行うものである。その目的は、実社会での様々な課題を解決するための具体的なアイデアや政策を構想し、それを「提言する」ことに置く。具体的には、大月市の地域課題に即した以下のグループから一つ選択し、実習を進めていく。

① 農業グループ …NPO 法人おおつきエコの里等との連携による農業体験と農村地域振興について学ぶ
② 地域資源探索グループ …大月市内の文化遺産を見学し、地域資源から情報を引き出す方法を学ぶ

（3）到達目標

① 地域で行われている活動に触れ、地域が抱える問題や地域再生の活動の意義を語れることができる。
② 地域の現場から自らの思考で問題を発見し、その解決策の具体的なアイデアを提示することができる。
③ 異なる世代・異なる地域の人と交流し、多様な価値観のなかでコミュニケーションをとることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	実習の進め方、グループ分け
2	実習（学外活動）①	・農業：おおつきエコビレッジで棚田米や小麦、野菜等の農業体験 ・地域資源探索：大月市内の文化遺産を見学・体験し、活用方法について考える ※各グループの日程・場所など詳細は履修時「ガイダンス」で案内し、そのうえでグループの所属を確定する。
3	実習（学外活動）②	
4	実習（学外活動）③	
5	実習（学外活動）④	
6	実習（学外活動）⑤	
7	座学等 ①	実習の準備と振り返り、成果発表等を実施
8	座学等 ②	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業の進め方の基本は、学外における体験学習である。具体的な方法として、フィールドでの調査や討議、発表、実演などを取り入れる。したがって、履修学生は活動に対する自主的・積極的な参加が求められることになる。また、座学においては、学外活動の事前準備を行うとともに振り返りを行い、体験学習の到達目標の定着を図る。

（6）成績評価の方法と基準

① 実習等の参加状況と活動姿勢（６０%）、② 提言に関わる課題・レポート等（４０%）。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

公共政策入門、経営学入門、大月学入門

（9）オフィスアワー・その他

① 実習の日程等の詳細は各学期初頭の「ガイダンス」で案内する。一度確定したグループは異動ができないので留意する。
③ 当科目は、他の地域実習が１単位に対して、特別に２単位を配している。その理由として、地域提言のレポート等を課しているからであり、履修学生はこのことに留意すること。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
地域文化遺産論（地域と文化遺産）◆	稲垣　自由	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

文化遺産とは、地域の歴史や文化の中でつくられ、地域住民によって現在まで保存・継承されてきたものである。これらを法や条例によって保護していくのが文化財の指定・登録制度であるが、近年では文化遺産を保存するだけでなく、観光やまちづくりの中で位置づけ、活用することも求められている。また、文化財として固定した学術的・芸術的な価値基準のみならず、地域住民がどのような点に価値を見出して文化遺産を捉えているのか把握することは保存・活用を図るうえで重要な視点となる。

本講義では、講義形式の授業で文化遺産について学習することに加え、大月市の文化遺産を中心に画像・映像を用いて紹介する。そして文化遺産の保護に関する政策と文化遺産のもつ多様な価値について理解し、地域の情報を読み解く資料として文化遺産を捉えることができる視座の修得を目指す。

（3）到達目標

①文化遺産について知り、その保護制度について説明することができる。
②文化遺産の多様な価値を理解し、自身の身の回りのものに置き換えて考察することができる。
③文化遺産を地域の情報を読み解く資料とする視座を修得し、他分野にも応用することができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	文化遺産とは	文化とは何か、遺産とは何か
2	文化遺産を保護する制度①	文化財保護法について
3	文化遺産を保護する制度②	ユネスコと世界遺産について
4	文化遺産を保護する制度③	大月市文化財保護条例と文化財保護について
5	大月市の文化財①	重要文化財　星野家住宅
6	大月市の文化財②	県指定無形民俗文化財　追分の人形芝居
7	大月市の文化財③	名勝猿橋
8	埋蔵文化財	埋蔵文化財と発掘調査
9	文化遺産の多様な価値①	文化財活用概念の変化と政策
10	文化遺産の多様な価値②	本質的な価値とは何か、様々な視点について
11	文化遺産の多様な価値③	大月桃太郎伝説の分析
12	文化遺産の多様な価値④	文化遺産を活用した地域活動について
13	文化遺産の多様な価値⑤	文化遺産の教育活用と観光活用について
14	文化遺産の保存・継承における課題	文化財保護法改正と文化財保存活用地域計画について
15	まとめ	これまでの総括と今日的な論点

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で授業を進めていくが、各自の考えや疑問点を共有し、教員と共に考える時間(具体的には終了後のコメントカード提出とそれに対するリアクションをする)を毎回設定する。このためコメントカードには1～2行の簡潔なものや質問の羅列ではなく、多くの記述を求める。授業はレジュメを配付し、パワーポイントを使って画像や映像資料を利用しながら進め、文化遺産について具体的なイメージを持てるようにする。

（6）成績評価の方法と基準

①学期末にレポートを提出する（60%)、②コメントカードへの記入内容や授業貢献度（40%）の合計点数によって評価する。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし。プリント配布。			
参　考　書	授業内指示。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

大月市の文化遺産を中心に取り上げるため、大月学入門を履修し大月市の情報を知っているとより理解が深まる。

（9）オフィスアワー・その他

特になし。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
経済学入門Ｃ１（経済学の基本的問題）	范　立君	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。

（2）授業概要と目的

本講義は経済学の歴史と経済思想を重視しながら、経済学がどのような問題を取り上げ、どのようにその問題の解決に取り組んでいるのかを説明する。さらに、そのような問題への扱い方や解決の仕方によっては、経済学のいくつかの主要な分類を入門レベル的に紹介する。本講義は主に以下の３つの内容から成る。
第１　経済学は主にどのような問題を取り上げるか
第２　マクロ経済学、ミクロ経済学の基礎知識
第３　社会経済学の基礎知識

（3）到達目標

① 将来、経済系大学に進学するための基礎学力をつける。
② 立派な社会人として、多くの分野に応用できる物事の見方や考え方を知ること。
③ 経済関連のニュースを読んで、聞いて、ある程度関心を持つこと。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	経済学入門C1で何を学ぶか
2	学問と人類の歴史	すべての学問は人類の歴史の中で創出されている
3	経済と社会	『ロビンソン・クルーソー』と経済の意味、社会のとらえ方
4	経済学の歴史①	古典派経済学（重商主義と重農主義）
5	経済学の歴史②	新古典派経済学、ケインズ経済学、政治経済学（マルクス経済学）
6	経済学の歴史③	発展段階論
7	交換と市場の問題①	市場とはなにか？（動画資料視聴）
8	交換と市場の問題②	市場の力と政府の役割
9	需要と供給の問題①	価格と価値、付加価値の高い商品とはなにか？
10	需要と供給の問題②	需要曲線と供給曲線（動画資料視聴）
11	資本の問題①	資本とはなにか？原始共同社会から資本主義社会まで、社会主義社会は？
12	資本の問題②	資本のグローバル的な展開
13	労働の問題	労働と労働力の違い、労働の疎外問題
14	国民所得とその分配の問題①	GDP と GNP の違い
15	国民所得とその分配の問題②	所得分配とは、幸福の源泉

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は授業シラバスを見て、予習できる部分を事前に予習することを望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物をも利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

（6）成績評価の方法と基準

① 期末定期試験（70%)、② ひと言カードへの感想・疑問への記入（30%）の合計点数により評価をする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	図解　社会経済学	大谷禎之介	櫻井書店	3,300 円
	入門経済学　第４版	伊藤元重	日本評論社	3,300 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学、基礎経済学など、「経済分野の主要科目」の履修を勧める。

（9）オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）　　※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
経済学入門Ｃ２（経済学は役に立つのか？）	伊藤　誠一郎	１	前期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

２．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

（２）授業概要と目的

18 世紀末にアダム・スミスによって作り出された経済学も、20 世紀末あたりになると、マルクスやケインズがつくった経済図式もゆきづまりをみせ、経済学そのものへの信頼が失われてきた。ソビエト型社会主義が崩壊したあと、一見信頼を取り戻したかのように見えた徹底した自由主義経済も、2008 年の世界金融危機によって行き詰まりを露呈し、コロナ禍とそのただ中から始まった複数の戦争と際限のないインフレの中で人々は途方に暮れるだけである。しかし、こうした事態を逆から見ると、いまこそ経済に、そしてそれを理解する方法である経済学に、どのような問題があったのか考える絶好の機会ともいえる。実際、さまざまな問題に突き当たって、政策的にも、理論的にもさまざまな解決策が次々と示されてきている。本講義では、諸個人の倫理という視点から、あらためて経済学がなにをどのように解決できるのかを探っていきたい。

（３）到達目標

① 経済学的な思考方法を身につける。
② 経済学の基本用語や基本的な知識を身につける。
③ 経済学の前提となる、社会全体に対する視点についても考える。

（４）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	生きるとは	働くこと、遊ぶこと
2	働きすぎ(1)	労働は楽になっているのか
3	働きすぎ(2)	働いているのか、働かされているのか
4	資本主義のはじまり	資本主義の歴史はたかだか200年
5	資本主義のメリット	自由競争のメリット
6	資本主義のメカニズム	需要と供給
7	労働(1)	労働という商品
8	労働(2)	失業
9	雇用政策とケインズ	ケインズ政策
10	貨幣市場	カジノ資本主義
11	豊かさとはなにか	バブル経済の中身
12	豊かさをもとめて	住みやすい社会
13	環境と経済	環境問題は環境だけの問題ではない
14	生活と経済	新しいライフ・スタイルを求めて
15	経済と歴史	歴史から見た経済、経済学の歴史

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、毎回の授業内課題(質問に対する答え、自由コメントなど)への回答を通じて、理解を深める。

（６）成績評価の方法と基準

① 授業内課題（１００%）。

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	授業内指示			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（９）オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後、オフィスアワーでも答えます。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
経済学入門Ｃ３(経済及び経済学への導入)	内藤　敦之	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。

（2）授業概要と目的

経済というのはどういう現象であるのか。この講義では経済学への導入を目的とするが、まず、最も基本的な点に重点を置いて展開していく。経済現象は、必ずしも、あまり意識されることはないが、日常生活において重要な役割を果たしている。例えば、景気や物価であるとか、失業や給料の水準といった労働の問題等々がある。こういった問題を簡潔に説明するだけでなく、関連する理論も紹介しながら、経済現象及び経済学がどのようなものであるかを学ぶことを目標としたい。このため、様々な経済トピックを紹介しつつ、経済理論および、他の講義での内容への導入となるように構成していく。

（3）到達目標

① 経済現象及び、経済学への関心を高めること。
② 初歩的な経済理論を学んだ上で、簡潔な分析ができること。
③ 経済において、特に日本経済における重要なトピックを知った上で、簡潔な分析ができること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	日本経済の概観	日本経済における重要なトピック
3	所得①	GDP とは何か、国民所得
4	所得②	三面等価の原則、GDP の意味
5	様々な経済学①	経済学の歴史と様々な経済学
6	様々な経済学②	古典派、新古典派、ケインズ
7	マクロ経済学①	有効需要の原理
8	マクロ経済学②	マクロ経済政策
9	ミクロ経済学①	需要と供給
10	ミクロ経済学②	需要曲線と供給曲線による分析
11	政府と財政	政府の役割と財政の問題
12	金融	貨幣とは何か、銀行の役割
13	労働と社会保障	失業、賃金、年金
14	グローバルな経済	貿易と国際金融、グローバリゼーション
15	日本経済の課題	長期不況、少子高齢化

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teams により、毎回、課題を課す。講義資料は Teams 上で事前配布する。毎回、コメントペーパーを配布し、次回の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習してくることを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験(60%)、② 課題(40%)、③ 授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済データの読み方、基礎経済学。
その他、経済系科目とは内容上の関連があるため、積極的な履修が望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問は Teams のチャット等でも受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
経済学入門Ｃ４（経済学を通して社会を観察する）	山口　隆太郎	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。

（2）授業概要と目的

この講義は、経済学に含まれる主要なトピックの基礎的な知識を学び、各専門科目への導入とすることを目的とする。日々私たちはGDPや、経済成長、物価、景気、失業率、賃金、増税、財政赤字などの言葉を新聞やテレビで目にしている。これまでの生活ではあまり意識してこなかったかもしれないが、これから社会と関わることが多くなるにつれて、こういった経済現象を理解する重要性は高まってくる。この講義を通してこれらの問題を理解するのみならず、さらに他人に説明できるようなレベルに達することを目標とする。様々な論点を扱うことで、各専門科目の導入となるような構成の講義になる。

（3）到達目標

①経済、および経済学への関心を高めること。
②基本的な経済理論を学ぶこと。
③現代的な社会経済問題への関心を高め、かつ理解すること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義概要の説明
2	マクロ経済学①	国の経済規模を把握する、GDPとは何か
3	マクロ経済学②	マクロ経済政策　―財政政策か、金融政策か―
4	日本経済の歩み①	産業革命からパクス・ブリタニカへと、金本位制
5	日本経済の歩み②	安定成長からバブル崩壊後、デフレ下の日本の経済状態を把握する
6	世界経済の歩み①	産業革命からパクス・ブリタニカへと、金本位制
7	世界経済の歩み②	世界恐慌とパクス・アメリカーナの時代
8	ミクロ経済学①	限界効用とは　―経済的主体の行動基準―
9	ミクロ経済学②	需要と供給　―価格と供給量はどう決まっていくか―
10	貨幣と信用①	お金とは何だろう、そしてそれを発行する中央銀行とは
11	貨幣と信用②	金融制度のしくみと、資本主義経済
12	社会政策	安心して生活するための社会保障とは
13	経済における政府の役割①	政府の経済活動である財政のGDPに占める位置
14	経済における政府の役割②	社会保障政策の変化とそれによる国民負担の増加
15	日本経済の課題	少子高齢化時代における経済のあり方を考える

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく（レジュメと資料を毎回配布する)。各授業の開始時に、前回の授業で出た質問・感想についてコメントをしていく。テキストを使用しないので、予習の必要はないが、授業を受けた日のうちにレジュメを見かえし、議論の内容を復習すること。現実社会を読み解くために学んだ知識をどのように活用するのか、新聞記事を読むなどして修得してほしい。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（70%）と②授業内における課題等（30%）により評価する。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	なし			
参　考　書	なし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

授業前後以外での質問方法などは、授業にて指示を出す。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
公共政策入門Ｃ１（現代日本の公共政策）	澁谷　朋樹	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。

（2）授業概要と目的

本講義は、公共政策の意義をふまえつつ、政策形成に必要な視点と方法を中心に学ぶ。公共政策とは、社会が直面する課題に対し、解決に向けた方策を提示し実行していくための取り組みである。現代日本では、財政赤字への対応、社会保障制度の持続可能性、地域間の経済格差など解決しなければならない課題が数多く存在する。また、少子高齢化が進んでいる中で、どのように現状を把握していくのか、課題を検討していくのかを考えることは重要である。そこで、現代日本の政策問題を発見・分析するために必要な視点を、国や地域の具体的な事例を交えながら学んでいく。

本講義を通じて、現代日本が抱える諸問題を明らかにし、政策課題を解決するための提言を行うことができる基礎的な力を身につけることが目標となる。あわせて、提言の妥当性を検討するために必要となる各種データの基本的な活用方法についても習得する。

（3）到達目標

①公共政策の実態について基礎的な知識を理解することができる。
②政策づくりの視点を理解した上で、政策課題を発見することができる。
③収集した各種データを利活用し、持続可能な社会づくりのための政策提言を行うことができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義の計画と各テーマについて
2	公共政策とは何か①	福祉国家と公共政策の発展、公共政策学の誕生とその特徴
3	公共政策とは何か②	政策づくりの視点、政策サイクル・ＰＤＣＡサイクル
4	国と地方自治体①	「中央集権」と「地方分権」、日本における政府間関係
5	国と地方自治体②	日本の予算・決算制度、政府間財政関係
6	国と地方自治体③	地方自治体の役割、地方財政の現状
7	現代日本と政策問題①	少子高齢化の進展と人口減少社会
8	現代日本と政策問題②	社会保障をめぐる諸問題
9	現代日本と政策問題③	地域間格差と過疎地域
10	公共政策と地域①	富山県富山市の事例
11	公共政策と地域②	岩手県紫波町の事例
12	公共政策と地域③	長崎県大村市の事例
13	公共政策と地域④	新潟県柏崎市の事例
14	持続可能な社会と公共政策	持続可能な地域の発展と公共政策のあり方
15	まとめ	講義のまとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で進める（板書とパワーポイントを併用)。受講生の理解を深めるため、配布資料や視聴覚メディア等の各種教材を適宜活用する。また、コメントペーパー等を用いて意見や疑問を共有し、双方向性を高める工夫を行う。なお、講義では時事的な問題も積極的に取り上げる予定である。そのため、受講生は日頃から各種メディアの報道に触れ、現代の政策課題に関する情報を継続的に把握しておくことが望ましい。

（6）成績評価の方法と基準

①期末レポート（７０％)、②コメントペーパー（３０％）の合計点数により評価をする。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし。資料を配付する。			
参　考　書	必要に応じて紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

地域経済論、地方自治論、地方財政論など「公共政策分野」の主要科目の履修を勧める

（9）オフィスアワー・その他

担当科目に関連する質問や相談は、基本的に講義の前後に受け付けます。また、本講義は上記の内容で進めていく予定ですが、コメントペーパーに寄せられた意見を講義に反映させていきます。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
公共政策入門Ｃ２（環境問題から考える）	佐藤　克春	１	前期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

２．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。

（２）授業概要と目的

環境問題は、その地域のあり方と結びついて発生している。戦後の高度成長期には、経済成長を優先するあまり、人々の健康を蝕む深刻な公害が発生してきた。四大公害はその典型である。本講義では、環境問題がもたらす地域へのインパクトと、それらを改善するための政策について、公害他、公共事業による環境破壊、まちづくりなどの具体的なケース・場を通じて論じる。

（３）到達目標

① 環境問題の幅広いアプローチについて具体的問題を通じて学ぶ
② 環境問題の発生要因を構造的に学ぶ
③ そのうえで解決のための主体的姿勢を身に着けることです。

（４）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	ガイダンス。講義の進め方。評価方法について。
2	環境問題の諸領域	汚染・自然保護・アメニティ
3	水俣病①	健康被害と被害構造
4	水俣病②	なぜ被害は拡大したのか？企業責任と行政責任
5	水俣病③	被害の救済，未認定患者問題
6	水俣病④	環境再生
7	イタイイタイ病①	鉱業による公害
8	イタイイタイ病②	公害発生企業から環境配慮企業へ
9	四日市ぜんそく①	工場由来の大気汚染
10	四日市ぜんそく②	課徴金による汚染抑制
11	公共事業による環境破壊①	川辺川ダムにみる環境破壊と治水論争
12	公共事業による環境破壊②	環境アセスメントの検討
13	まちづくり	景観紛争
14	ナショナル・トラスト	自発的取り組みによる自然保護・アメニティ保全
15	本講義のまとめ	

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義内では、関連書籍を紹介する。興味のあるものを選び、各自読み込むこと。日々、環境問題のニュースを収集すること。

（６）成績評価の方法と基準

① レポート（８０%)、② 授業内コメント（２０%）

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	講義内で指示する			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門科目・公共政策入門科目・環境経済学

（９）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼とする。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
公共政策入門Ｃ３（公共空間における諸問題と政策課題）◆	槇平　龍宏	１	前期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

２．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。

（２）授業概要と目的

本講義では、公共政策の重要な概念である「社会的共通資本」に注目しながら、地域経済問題ならびに環境問題や少子・高齢化問題などのさまざまな社会的課題と公共政策との関わりについての基礎的な知識を習得することを目的とする。持続可能な地域社会の構築に適合的な公共政策や地域政策のあり方についても考えてみたい。

本講義は、主に公共政策の企画立案に必要な能力を養うための基盤づくりをするものである。地方自治の重要性に注目が集まっている中で、地方自治体にも政策形成能力が求められている。どのように地域の現状を把握するのか、政策的課題を検討するかを考えることは重要である。そこで、地域を観察・分析するために必要な視点を、具体的な事例を学ぶことにより身につけていく。

（３）到達目標

①地域社会を「公（政府)」・「共（コミュニティ)」・「私（市場)」という３つの側面から捉え、そのバランスある発展を進めるためにはいかなる政策が必要か、ということを、地域の抱える課題に即して考え、自分の意見を述べることができるようになる。
②政策づくりの視点を理解した上で、その地域の課題を明らかにすることができる。
③収集した各種データを利活用できる。

（４）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	本講義の内容と目的
2	グローバル化と地域経済①	グローバル化する社会と地域コミュニティ
3	グローバル化と地域経済②	経済社会システムの進化プロセスと定常化社会への展望
4	我が国の地域政策の歴史①	「全国総合開発計画」の展開と地域経済の変貌
5	我が国の地域政策の歴史②	「外来型地域開発政策」の功罪
6	地域経済再生の新戦略①	「内発的発展」に基づく人間と地域の再生
7	地域経済再生の新戦略②	国内・海外における持続可能な発展に向けた地域戦略の事例
8	持続可能な地域社会へ向けた政策課題	持続可能な経済・社会へ向けた地域政策の課題と展望
9	政策とは何か	「政策」と「政策科学」、政策づくりの視点
10	地域政策と公共	政策サイクル、政策評価・行政評価
11	地域を捉える視点	過疎地域の諸問題、「関係人口」とは何か
12	まちづくり事例①	富山県富山市の事例
13	まちづくり事例②	北海道猿払村の事例
14	まちづくり事例③	岩手県紫波町の事例
15	まちづくり事例④	島根県海士町の事例

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式によって進めていく（板書とパワーポイントの併用)。その際、受講生の理解度を高めるために、資料や視聴覚メディア等の各種教材を使用する。また、コメントペーパー等を活用して、受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。

毎回配布するプリント資料は穴埋め形式とし、重要な語句や解法などを自ら記入することにより、知識の定着と自ら考える力を養う。

（６）成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに代わるレポート（80%)、②授業へのリアクション・ペーパー（「ひとことカード」）の内容（20%）の合計点数により評価をする。

（７）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし。レジュメを配布する。			
参　考　書	必要に応じて紹介する。			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

地域経済論、地方自治論、地方財政論、農業経済学、環境経済学など「公共政策分野主要科目」の履修を勧める。

（９）オフィスアワー・その他

原則として上記の内容及びスケジュールに従い講義を行うが、理解度や時事的な問題を取り扱うことによる内容やスケジュールの前後・変更がありうる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
経営学入門（企業の基礎を学ぶ）◆	Ｃ１：上笹　恵、Ｃ２：矢賀部　裕	１	前期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。

（2）授業概要と目的

本授業では企業組織を運営するための基礎的な理論を学ぶ。企業にとって、変化の激しい経営環境に適応しながら存続・成長することは重要な経営課題であり、そのためには一定水準の利益を確保しなければならない。利益の確保に向けて、たとえば中長期的な視点に立った経営戦略を立案し、計画的で柔軟な組織づくりを進め、また従業員を育成・管理するなど、多様な要素を考慮する必要がある。

経営学は、企業が一連の事業活動を継続する際により多くの成果を獲得するための道筋を示す学問である。科学としての経営学を最大限に活用すれば、事業の成功確率を高めることができる。本授業は一連の経営学講義の出発点として、この分野を網羅的・体系的に理解することに重点をおく。初歩的理論を学習しながら、時事ニュース等で具体的な理論の定着も図る。

（3）到達目標

① 経営学の基礎を体系的・理論的に学習しながら、経営に興味を持ち、ＴＶニュースや新聞から企業行動の目的や意図が理解できるようになる。
② 企業や経営の仕組みを理解することで、将来組織で働く際の意識を持つことができる。
③ 経営分野を志す場合、卒業レポートのテーマ案や問題意識を設定することができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	はじめに	経営学の定義と対象、授業の全体像の把握
2	経営の基本要素をおさえる	経営資源、経営機能、マネジメント、PDCA サイクル
3	経営組織をつくる	組織とは何か、組織形態（機能別組織、事業部制組織、プロジェクト組織など）
4	従業員を管理する①	雇用管理（採用、異動、退職）、人事評価、賃金管理、能力開発、働き方改革
5	従業員を管理する②	リーダーシップ、モチベーション、職場の人間関係
6	経営戦略を立てる	経営理念、経営環境分析、成長の戦略、競争の戦略
7	マーケティングを考える	セグメント、ターゲット顧客、マーケティング・ミックス（４つのP）
8	企業の力を測る（会計）	財務諸表（貸借対照表、損益計算書等）の読み方、経営指標の算出と評価
9	資金を管理する（財務）	会計と財務の違い、資金調達（間接金融、直接金融等）、投資評価
10	情報を管理する（経営情報）	情報システム、デジタル経営、セキュリティ、イノベーション
11	企業システムを統治する①	会社法と株式会社、株主総会・取締役・監査役
12	企業システムを統治する②	株式公開制度、コーポレートガバナンス、法令順守
13	事例研究①	企業経営の成功要因（組織、人的資源、、リーダーシップ）
14	事例研究②	企業経営の成功要因（戦略、マーケティング、デジタル、企業統治）
15	経営学の課題	卒業レポート執筆にみる経営学、経営学の今日的な論点

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

C1：重要な項目はすべて板書する。授業内容を復習する際には、理解した内容を文章で表現する訓練を継続すること。
C2： 需要な項目はパワーポイントの場合強調して表現する。授業内容を復習する際は、経営者もしくは社会人になったつもりで再考してみるとよい。

（6）成績評価の方法と基準

①期末テスト（80%）　②コメントペーパーの内容や質疑応答に関わる等の授業貢献度（20%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「経営学」の基礎となる。履修・単位修得後は、人的資源管理論や経営組織論、経営戦略論、マーケティング論などの科目履修を薦める。

（9）オフィスアワー・その他

授業時間外の質問にはオフィスアワー等で応じる。シラバスは進捗状況によって変更する場合がある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
社会文化入門Ｃ１(文化と差異)	渡邊　浩史	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。

（2）授業概要と目的

大学生活のなかで必要となる能力について考えていく。人間は成長過程において、様々な人間関係や日々変化する社会、文化の在り方に影響を受けている。このような時代状況を生き抜いていくには、自分の個性を磨き、様々な〈知〉を身につけねばならない。

本講義では人間、社会、文化に関係する諸問題に多角的・分析的なアプローチを試み、主体的に取り組んでいく。その結果、目の前にある〈現実〉を違う価値観で捉えている様々な人間と共に生きていく態度を身につけてもらう。違う価値観、つまり〈差異〉を認めることで、多様性を守っていく。そのなかで、自分の将来の生き方について深く学んでもらうことを最終的な到達目標としたい。

（3）到達目標

① 自分自身が他者（人間)、社会、文化とどのような関係性にあるのか、それらを多角的に考える力を身につける。
② 文化と差異について考える。
③ 自分の将来の生き方について学んでいく。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	私の生き方について	大学での〈学び〉の仕組みについて考える①（導入編)
3	私と他者と社会、文化との関係性	大学での〈学び〉の仕組みについて考える②（考察編)
4	社会と文化①	ハイカルチャー／サブカルチャーについて考える
5	社会と文化②	ジェンダー①　女性学について考える
6	社会と文化③	ジェンダー②　男性学について考える
7	社会と文化④	ルッキズム（外見至上主義）について考える
8	社会と文化⑤	オタクについて考える
9	社会と文化⑥	恋愛について考える
10	社会と文化⑦	生きにくさについて考える①
11	社会と文化⑧	生きにくさについて考える②
12	社会と文化⑨	生きにくさについて考える③
13	社会と文化⑩	道徳・倫理を超えた人間の本質について考える①
14	社会と文化⑪	道徳・倫理を超えた人間の本質について考える②
15	総括	全体のまとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

前半は講義形式で授業を進めていく。そして、学生の知識量・理解度を確認するために、中盤からグループワークを活用したり、個別に指名して質問に答えてもらったりすることがある。また、毎回の授業内課題(リアクションペーパーなど)への回答を通じて、理解を深める。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに代わるレポート（50%)、② 授業内課題(50%)の合計点により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

後期の日本文学概説（文学）など。その他「社会文化分野」に関係する講義の積極的な履修が望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

講義に関する質問はオフィスアワーや Teams のチャット等でも受け付ける。授業の進度・内容は、授業の状況により若干の変更の可能性がある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
社会文化入門Ｃ２（社会文化学への招待）	松岡　昌和	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。

（2）授業概要と目的

社会文化学は、社会を文化という視点で読み解いていく、学際的な領域である。この講義では、文化研究をベースに、本コースで提供する歴史研究、社会学、国際関係論など、他の領域へとつなげていく。文化研究は、広く文化についての考察を行うものであり、大衆文化やサブカルチャーあるいは社会や集団で共有された行動様式や思考様式も含めた広い意味での「文化」までを扱う。そして、人びとの日常に入り込んだ文化が人種、ジェンダー、階級、植民地主義、国際関係とどのように関係しているのか、そしてそれが人びとの認識にどのような影響を及ぼしているかを問い、わたしたちの生活や行動の意味を探究していくものである。本講義は社会文化学の入り口として、いくつかのトピックを概観していきたい。

（3）到達目標

① 社会文化学の基本的な論点について理解する。
② わたしたちの日常の思考や行動について、理論的に考察することができる。
③ 自身の問題関心を言語化して説明することができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	文化とはなにか	生活文化、大衆文化、サブカルチャー
2	文化研究の方法	社会と文化へのアプローチの方法
3	大衆社会とメディア１	大衆メディアとファシズム
4	大衆社会とメディア２	メディアとサブカルチャー
5	歴史と国際関係１	近代世界システムとグローバルな経済格差
6	歴史と国際関係２	国民国家とナショナリズム
7	歴史と国際関係３	語られない歴史を語る
8	歴史と国際関係４	歴史修正主義と陰謀論
9	表象文化１	オリエンタリズムと芸術
10	表象文化２	オリエンタリズムと日本
11	表象文化３	戦争と大衆文化
12	ジェンダー1	ジェンダーの歴史
13	ジェンダー2	フェミニズム
14	ジェンダー3	多様なジェンダー
15	まとめ	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で行う。必要に応じて文献や資料の講読を行う。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験 100%

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	なし（資料を配布）			
参 考 書	『ゆさぶるカルチュラル・スタディーズ』	稲垣健志編	北樹出版	2,530 円
	『ふれる社会学』	ケイン樹里安・上原健太郎編著	北樹出版	1,980 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会文化分野各科目、世界史、ジェンダー論

（9）オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
経済データの読み方（経済データからの経済入門）	内藤　敦之	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

経済データは、経済理論や経済政策において、基礎となっている。すなわち、経済データを元に理論や政策は成り立っている。そこで、この講義では、基本的な経済データの内容と読み方を学習する。さらに、経済データから現実の経済の動きを読み取り、関連する理論に関しても簡潔に学んでいく。講義ではトピック毎に、日本経済の現状を簡潔に説明した上で、関連する理論を紹介し、講義の後半では、実際の経済データを取り上げ、その読み方とデータについて検討していく。経済および経済学に関する多少の知識があることを前提として講義を行い、また、経済学の様々な分野への入門という点を重視したい。

（3）到達目標

① 日本経済に関する経済データを通じて、経済的な現象への関心を持つこと。
② 様々なトピック毎に基本的な知識を身につけて、トピックへの関心を高めること。
③ 経済データの読み方を学習した上で、自分で経済データに基づいて簡潔な分析を行うことができること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	所得1	GDP とは何か、国民所得
3	所得2	国民経済計算の概要、GDP の意味
4	景気	景気循環、景気動向指数、景気の分析
5	財政	政府の予算、国債、地方財政
6	金融1	金利、金融政策
7	金融2	マネーサプライ、資金循環統計、株価
8	消費と貯蓄	個人消費、貯蓄、消費動向
9	生産と産業構造1	産業構造、鉱工業生産
10	生産と産業構造2	法人企業統計、設備投資、中小企業
11	雇用、人口、社会保障	失業率、賃金、労働時間、年金、人口の推移
12	物価	物価指数、インフレーションとデフレーション、地価
13	貿易と国際金融	国際収支、貿易収支、外国為替、外貨準備
14	食料、農業、環境	食糧自給率、環境統計
15	経済データの探し方	統計サイトの見方、データの取り扱い、表･グラフの作成方法

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teams により、毎回、課題を課す。講義資料は Teams 上で事前配布する。毎回の講義の後半においては配布した実際の統計資料の解説を行う。毎回、コメントペーパーを配布し、次回の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習してくることを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

（6）成績評価の方法と基準

①レポート(60%)、②課題(40%)、③授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
参 考 書	『経済データの読み方　新版』	鈴木正俊	岩波書店	902 円
参 考 書	『経済指標はこう読む』	永濱利廣著	平凡社	902 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門
その他、多くの経済系科目とは内容上の関連があるため、積極的な履修が望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問は Teams のチャット等でも受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
基礎経済学（経済理論入門）	内藤　敦之	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

経済学は、様々な分野から構成されているが、最も基本的な部分は経済理論である。この講義では、基本的な経済理論を学習する。具体的には、ある国全体の経済のあり方を分析するマクロ経済学と、個人の立場から経済の具体的な仕組みを考察していくミクロ経済学の二つに分けて、学習する。ミクロ経済学では、最も重要な需要と供給の概念を中心に価格が市場においてどのように決まるのかを検討する。マクロ経済学では、一国の経済の規模を表すGDPがどのように決定されるかを示す国民所得の決定理論を中心に講義を行う。経済学には、数式は欠かせないものであるが、この講義では、むしろ、数式だけではなく、理論の基本的な考え方を必ずしも、数式に頼らず、説明する。

（3）到達目標

① 基本的な経済理論の習得、特にその基本的な考え方を学ぶこと。
② 基本的な経済理論によって、現実の経済を理解した上で、簡潔な分析ができること。
③ マクロ経済政策の基本を理解した上で、簡潔な分析が出来ること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	ミクロ経済学とは何か	ミクロ経済学の概要、基本的な概念、需要と供給による分析
3	需要曲線	需要曲線とは何か、弾力性分析、需要曲線のシフト
4	消費者の行動	需要と効用、需要曲線の傾き、需要と収入
5	供給曲線	供給曲線とは何か、生産と費用、供給曲線のシフト
6	余剰	余剰とは何か、余剰分析
7	市場の均衡	市場における均衡、均衡とは何か、完全競争の意味
8	マクロ経済学とは何か	マクロ経済学の概要、基本的な概念、マクロ的な経済循環
9	国民経済計算	国民経済計算、フローとストック、三面等価の原則
10	国民所得	GDPとGNP、GDPの意味、ISバランス
11	基礎的な分析	総需要と総供給、有効需要の原理とセイ法則
12	消費と投資	消費性向、消費関数、資本の限界効率、投資関数
13	国民所得の決定理論	45度線分析、国民所得の決定、乗数分析
14	計算問題の演習1	ミクロ経済学の計算問題
15	計算問題の演習2	マクロ経済学の計算問題

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teamsにより、毎回、課題を課す。講義資料はTeams上で事前配布する。毎回、コメントペーパーを配布し、次回の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習してくることを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験(60%)、②課題(40%)、③授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	『入門経済学　第4版』	伊藤元重	日本評論社	3,300円
参　考　書	『入門マクロ経済学　第6版』	中谷巌	日本評論社	3,080円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、経済データの読み方、マクロ経済学A・B、ミクロ経済学A・B。
その他経済系科目の基礎となるので積極的な履修が望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問はTeamsのチャット等でも受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
マクロ経済学ＡＣ１(国民所得の決定理論と IS/LM 分析)	内藤　敦之	２	前期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

この講義では、マクロ経済学の基礎概念と標準的な理論の学習を目的とする。マクロ経済学は、ある国全体の経済のあり方を分析するものである。この講義では、特に国民所得の決定理論としてのマクロ経済学を中心に取り扱う。第一に、マクロ経済学の基礎的な概念を重視する。第二に、基本的なマクロ経済学を学習する。第三に、国民所得分析において無視されがちな貨幣及び金融的側面を重視する。第四に、実際の経済現象との関わりを重視する。内容は基礎的な概念から、IS/LM 分析までを学ぶ。 また、理論だけでなく、実際の経済現象との関係についても、特に政策面を重視したい。さらに高度な内容は後期に開講されるマクロ経済学 B で取り扱う。なお、基礎経済学をすでに履修していることが望ましいが、未履修者にも配慮してマクロ経済学の基本的な概念から説明を行う。

（3）到達目標

① マクロ経済学の標準的な理論を習得すること。
② 日本経済をはじめとするマクロ経済の概要を理解した上で、簡潔な分析ができること。
③ マクロ経済政策の概要について理解した上で、簡潔な分析が出来ること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	基礎的概念	マクロ的な経済循環、マクロとミクロ、フローとストック
3	国民経済計算	GDP と GNP、国民経済計算とは何か、三面等価の原則
4	国民所得	IS バランス、GDP の意味
5	基礎的な分析	総需要曲線と総供給曲線、有効需要の原理とセイ法則
6	消費と投資	消費性向、消費関数、資本の限界効率、投資関数
7	国民所得の決定理論	45 度線分析、乗数分析、ビルトインスタビライザー
8	貨幣とは何か	貨幣の機能、ストック市場のワルラス法則、貨幣需要
9	貨幣供給	貨幣の定義、金融政策、貨幣乗数
10	IS/LM モデル	IS 曲線、LM 曲線、同時均衡
11	政策の効果	財政金融政策の効果、クラウディングアウト、流動性の罠
12	国際収支と為替相場制度	国際収支、為替相場制度
13	国際マクロモデル	マンデル=フレミングモデル
14	国際マクロにおける政策	金融財政政策の効果と為替相場制度
15	計算問題の演習	マクロ経済学の計算問題の演習

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teams により、毎回、課題を課す。講義資料は Teams 上で事前配布する。毎回、コメントペーパーを配布し、次回の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習してくることを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験(60%)、② 課題(40%)、③ 授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『入門マクロ経済学　第６版』	中谷巌	日本評論社	3,080 円
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、経済データの読み方、基礎経済学、マクロ経済学B、ミクロ経済学A・B
その他経済系科目の基礎となるので積極的な履修が望ましい

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問は Teams のチャット等でも受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
マクロ経済学Ｂ(総需要･総供給分析と経済の動態)	内藤　敦之	２	後期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

この講義では、マクロ経済学Aに引き続いて、マクロ経済学の基礎概念と標準的な理論の学習を目的とする。特に、国民所得の決定理論としてのマクロ経済学を中心に取り扱う。第一に、マクロ経済学の基礎的な概念を重視する。第二に、基本的なマクロ経済学を学習する。第三に、国民所得分析において無視されがちな貨幣及び金融的側面を重視する。第四に、実際の経済現象との関わりを重視する。内容は総需要･総供給分析だけでなく、経済の動態、すなわち、物価変動の分析や経済成長論までを学ぶ。理論だけでなく、実際の経済現象との関係についても、特に政策面を重視したい。また、マクロ経済学 A を履修していることを前提として、講義を行うため、未履修者はその範囲を独習することが望ましい。

（3）到達目標

① 標準的なマクロ経済学を習得すること。
② マクロ経済のあり方について理解を深め、現実のマクロ経済政策等において、何が問題であるかを分析しうる知識及び能力を習得すること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	長期モデル	長期均衡モデル、労働市場、長期の意味
3	貨幣数量説と利子率	貨幣数量説、古典派の二分法、名目利子率と実質利子率
4	総供給曲線	総供給曲線、労働者錯覚モデル、硬直的価格モデル
5	AD/AS 分析	物価水準の決定、政策の効果、実質残高効果
6	インフレーション１	フィリップス曲線、オークンの法則
7	インフレーション２	インフレーションの動学、物価水準の調整、均衡への調整過程
8	インフレーション３	インフレーションと期待、スタグフレーション、合理的期待形成
9	インフレーション４	インフレーションとデフレーションの社会的費用
10	消費の理論	短期と長期の消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説
11	投資の決定	加速度原理、ストック調整モデル、トービンのｑ
12	経済成長１	ハロッド・ドーマー・モデル、新古典派成長理論
13	経済成長２	成長会計、内生的成長理論
14	日本経済とマクロ経済政策	戦後の経済政策の歴史、最近のトピック
15	マクロ経済政策と国家	グローバリゼーション、マクロ経済学と国家、ソブリン問題

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式でプレゼンテーションソフト使用、Microsoft Teams により、毎回、課題を課す。講義資料は Teams 上で事前配布する。毎回、コメントペーパーを配布し、次回の講義における前回の復習等の時間において適宜、疑問点や質問などに対するフィードバックを行う予定。毎回の講義は事前に配付した講義資料を予習してくることを前提として行う。また、復習は内容上、必須である。

（6）成績評価の方法と基準

①レポート(60%)、② 課題(40%)、③ 授業貢献度(10%以内、ただし課題に含める)。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『入門マクロ経済学　第６版』	中谷巌	日本評論社	3,080 円
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、経済データの読み方、基礎経済学、マクロ経済学A、ミクロ経済学Ａ・Ｂ。
その他経済系科目の基礎となるので積極的な履修が望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワー以外でも講義に関する質問は Teams のチャット等でも受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
ミクロ経済学ＡＣ１（市場メカニズムの基本的理解）	佐藤　克春	２	前期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本講義では、ミクロ経済学の基礎について勉強する。ミクロ経済学の多くは数式や図を多用することから、一見難しいように思えるが、日ごろ私たちが暮らしている世界を理解するのに役立つ、身近な分野である。私たちは、自分の物と相手の物を交換することによって成り立つ市場経済に暮らしている。ミクロ経済学ＡＣ１では、この市場の基本的な仕組みやメリットについて学んでいく。

本講義では、なるべく数学を使わず、ミクロ経済学の考え方について勉強していく。回によって、受講者の理解度を測るための小テストを行う場合がある。尚、市場はメリットばかりではない。後期に開講するミクロ経済学Ｂでは、市場が持つ限界などを含め、より幅広くミクロ経済学について学ぶ。併せての履修を勧める。

（3）到達目標

① ミクロ経済学の基本的な考え方を習得する
② 市場メカニズムの基本的な仕組みを理解する

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	講義の進め方について、評価方法などについて説明
2	ミクロ経済学とは?	交換の利益の最大化を目指す考え方
3	個人の選択を考える①	効用の最大化・インセンティブとは何か
4	個人の選択を考える②	トレードオフ・機会費用とは何か
5	個人の選択を考える③	限界的とは?際（キワ）・端（ハシ）という考え
6	需要曲線と供給曲線①	完全競争市場とは?財・サービスと市場とは何か
7	需要曲線と供給曲線②	弾力性とは何か?価格に需要量・供給量がどのように反応するか
8	需要曲線と供給曲線③	需要曲線・供給曲線　ミクロ経済学の基本図式
9	市場均衡と効率性①	消費者余剰と生産者余剰　消費者・生産者にとってよりハッピーとなるもの
10	市場均衡と効率性②	完全競争市場の効率性，市場均衡点の変化
11	政府介入①	完全競争市場への政府介入　政府介入がもたらす厚生への変化
12	政府介入②	価格規制・参入規制　政府介入がもたらす厚生への変化
13	政府介入③	税金と補助金　政府介入がもたらす厚生への変化
14	消費者洗濯の理論	消費者の満足のメカニズム　何をどのくらい選んで消費するか
15	本講義のまとめ	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義の進め方は、パワーポイントによる解説となる。本講義はいわゆる暗記科目ではなく、ミクロ経済学の考え方を論理的に習熟するものである。配布レジメの復習を勧める。また、講義内で指示する参考書を読み進めることも併せて勧める。

（6）成績評価の方法と基準

評価は期末テストが１００％である。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	プリント配布			
参 考 書	マンキュー経済学Ｉミクロ編第３版	Ｎ・グレゴリー・マンキュー（足立英之ほか訳）	東洋経済新報社	4,400 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

ミクロ経済学Ｂ

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼に設定する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
ミクロ経済学ＡＣ２（消費者行動と生産者行動）	范　立君	２	前期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している　(専門的な知識の修得)。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

ミクロ経済学は家計や企業などの、個別の経済主体の経済活動の動きに着目し、個々の市場―労働市場、為替市場、米市場など―の需要や供給について、分析する学問である。これに対して、景気の動き、マクロ経済政策、経済成長など、経済全体の大きな動きについて分析するのがマクロ経済学である。本講義では、ミクロ経済学を取り上げ、以下の３点を中心に講義する。第１に、市場において、需要と供給から価格がどう決まるか、第２に、そうした価格形成に伴って企業の生産活動や消費者の消費行動はどうのように影響を受けるか、第３に、経済資源の最適分配のメカニズムについてしっかり理解する。

（3）到達目標

① ミクロ経済学の目的を理解する。
② 身近な家計や企業の経済活動をミクロ経済学の考え方で理解する。
③ 関連するテレビニュースや新聞記事を理解する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、ルール、アンケート調査、ミクロ経済学の特徴
2	価格はどう決まる	動画教材―市場は人類の大発明：価格はどう決まる
3	家計の行動と需要曲線①	需要と供給の分析
4	家計の行動と需要曲線②	需要曲線のシフト、消費者余剰
5	家計の行動と需要曲線③	DVD 教材―家計は効用を最大化する、予算制約線と無差別曲線
6	家計の行動と需要曲線④	価格弾力性の応用
7	家計の行動と需要曲線⑤	計算問題の演習、およびその説明
8	小テスト①	家計の行動と需要曲線
9	企業の行動と供給曲線①	供給曲線とは、供給曲線のシフト
10	企業の行動と供給曲線②	費用の構造と供給行動、限界的とは、完全競争
11	企業の行動と供給曲線③	DVD 教材―企業は利益を最大化する
12	企業の行動と供給曲線④	計算問題の演習、およびその説明
13	企業の行動と供給曲線⑤	企業費用の練習問題とその回答
14	小テスト②	企業の行動と供給曲線
15	まとめ	市場取引と資源配分

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は授業シラバスを見て、事前に予習することを望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物をも利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。理解力をチェックするため、授業内で練習問題をやってもらう。

（6）成績評価の方法と基準

① 期末定期試験(70%)　② 小テストおよびひと言カードへの感想・疑問への記入（30%)、の合計点数により評価をする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	入門経済学 第４版	伊藤元重	日本評論社	3,300 円
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

基礎経済学、経済学入門、ミクロ経済学Ｂなど、「経済分野の主要科目」の履修を勧める。

（9）オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）
※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
ミクロ経済学Ｂ（市場の失敗）	佐藤　克春	２	後期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

前期のミクロ経済学ＡＣ１・ＡＣ２では、市場のメカニズム・メリットについて主に学んできた。しかし、市場は万能ではない。現実社会において、政府は様々な形で市場経済に介入している。

ミクロ経済学Ｂでは、ミクロ経済学ＡＣ１・ＡＣ２をふまえ、市場の限界と政府の役割について学んでいく。より現実社会・経済に一歩近づいた分析を行う。本講義では、なるべく数学を使わず、ミクロ経済学の考え方について勉強していく。回によって、受講者の理解度を測るための小テストを行う場合がある。

（3）到達目標

① 市場メカニズムの基本的な仕組みを理解する。
② 市場の失敗の基本的な考え方を理解する。
③ 市場の失敗への政府介入の基本的な考え方を理解する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	講義の進め方、評価方法のレクチャー
2	ミクロ経済学とは?	ミクロ経済学ＡＣ１のおさらい　総余剰の最大化を目指して。
3	市場の失敗と政府①	市場の失敗とは?・政府介入の例を考える。
4	市場の失敗と政府②	政府の失敗とは何か?
5	外部性①	外部性とは?正の外部性・負の外部性を考える。
6	外部性②	外部性を解決・軽減する取り組み　ピグー税の適用可能性を考える。
7	公共財①	公共財とは何か?　非競合性・非排除性を考える。
8	公共財②	準公共財とは?公共財の供給とフリーライダー問題を考える。
9	取引費用①	コースの定理とは何か?　権利設定の政策利用を考える。
10	取引費用②	法と経済学のエッセンス。　取引費用の経済学を考える。
11	情報の非対称性	情報の非対称性とは何か。レモンの原理を考える。
12	独占	独占がもたらす非効率性とその対策。　独占禁止法を考える。
13	交易の利益	各国が得意分野に特化するメリット。　リカードの比較優位費説の適用を考える。
14	ゲーム理論	競争と協調のメカニズム。　囚人のジレンマを考える。
15	講義のまとめ	本講義のまとめ、期末テスト説明。

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義の進め方は、パワーポイントによる解説となる。本講義はいわゆる暗記科目ではなく、ミクロ経済学の考え方を論理的に習熟するものである。配布レジメの復習を勧める。また、講義内で指示する参考書を読み進めることも併せて勧める。

（6）成績評価の方法と基準

評価は期末テストが１００％である。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	プリント配布			
参 考 書	マンキュー経済学Ｉミクロ編第３版	Ｎ・グレゴリー・マンキュー（足立英之ほか訳）	東洋経済新報社	4,400 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

ミクロ経済学A

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼に設定する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
経済学説史Ａ（経済学の生誕）	伊藤　誠一郎	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

アダム・スミスが経済学を作ったということ、彼の描いた自由主義経済の理想は今日なお理想として追い求められていることは、21 世紀になった今になってすら実感できることである。しかし、実際の経済・社会の歴史のプロセスは直線的なその理想の追求とはほど遠いこと、そしてなによりもスミス自身がどのような「現実」のなかで彼の理想を語っていたのかにはあまり注意が払われないのも事実である。アダム・スミスがいた社会はすでに今日と同じように、貨幣・金融、貿易、貧困などの経済問題や政治についての諸問題が激しく議論されていた社会であり、スミスの『国富論』はそれに対するひとつの解答でもあった。本講では、こうした視点から、まずスミスが登場するまでのイギリス、そしてヨーロッパにおいて、なにが問題とされどのように議論されていたのかを示し、それに対してスミスが与えた新しい経済・社会像はどのようなものであったのかをみていく。

（3）到達目標

① 思想史の学び方について考える。
② 17・18 世紀のヨーロッパ社会がどのような問題を抱えていたのかを知る。
③ アダム・スミスにおける経済学の創造に至るプロセスおよび、その特徴を学ぶ。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	経済思想の過去と現在(1)	「経済学の生誕」、スミスの理想＝新しい社会像
2	経済思想の過去と現在(2)	スミスの幻想、スミスの前提としてのホッブズの政治哲学
3	スミス以前の現実(1)	ホッブズと恐怖に満ちた社会
4	スミス以前の現実(2)	国際社会と経済
5	スミス以前の現実(3)	オランダとの競争
6	スミス以前の現実(4)	国際競争の中の貿易、利子、金融制度
7	スミス以前の現実(5)	フランスとの競争
8	富と徳(1)	古典共和主義
9	富と徳(2)	新しい富の台頭と徳の腐敗
10	為政者と経済学(1)	有能な為政者・徳による統治
11	為政者と経済学(2)	ジェームス・ステュアート、為政者の経済学
12	スミスと経済学の成立(1)	仁愛か正義か
13	スミスと経済学の成立(2)	自然法学と経済学
14	スミスと経済学の成立(3)	重商主義批判
15	スミスと経済学の成立(4)	スミスの経済学、自由主義の理想と現実

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、授業内課題(質問に対する答え、自由コメントなど)への回答を通じて、理解を深める。適宜、とくに定期試験前には、ノートの通読を各自おこなうことを求める。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験（５０%）、② 授業内課題（５０%）。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
参　考　書	『徳・商業・文明社会』	坂本・長尾編	京都大学学術出版会	6,600 円
参　考　書	『経済学史』	水田他編	ミネルヴァ書房	3,520 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学説史Ｂ

（9）オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後、オフィスアワーでも答えます。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
経済学説史Ｂ（経済学の限界とマルクス）	伊藤　誠一郎	２	前期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

18 世紀末アダム・スミスによって「経済学の生誕」が告げられてまもない 19 世紀初頭、その経済学を数学的に体系化しようとしたリカードは、そしてそれを批判的に継承した J.S.ミルは、すでに資本主義経済に限界が来ることを予見していた。実際 19 世紀から、今日の 21 世紀に至るまでの経済学の歴史は、絶望と試行錯誤の連続であった。1980 年代サッチャー首相やレーガン大統領による新自由主義によって新古典派経済学がその普遍性を獲得したかのような幻想があくまでも幻想だったことは、2008 年の世界金融恐慌をはじめ今日の経済が抱えている諸問題をみればすぐわかる。本講では、その時々の‘流行’の経済学に振り回されず、われわれ自身の未来をわれわれ自身で築いていくための確かな知識をうるために、経済学の確立以降のこの学問の格闘の姿を見ていきたい。

（3）到達目標

① スミスの『国富論』の主張がどういう点にあったのかをみる。
② スミスの『国富論』からどのようにその後のマルクス経済学、新古典派経済学、ケインズ経済学が発展していったかを学ぶ。
③ 経済思想の展開と非経済学(政治、社会など)との関係について考える。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	資本主義の限界	利潤率逓減
2	未来像(1)	改良、ミルと社会主義
3	未来像(2)	革命、マルクスと共産主義
4	『資本論』(1)	マルクスの価値論
5	『資本論』(2)	マルクスの労働、再生産の理論
6	価値と価格(1)	労働ではかるか、効用ではかるか
7	価値と価格(2)	ワルラスの一般均衡理論
8	帝国主義(1)	ヒルファディング、金融独占、組織資本主義論、経済の社会化
9	帝国主義(2)	レーニン、産業独占、革命へ
10	自由か介入か(1)	市場の不完全性とケインズの時代
11	自由か介入か(2)	ハーヴェイ・ロードの前提
12	自由か介入か(3)	市場経済と福祉、ケインズ、ベヴァレッジ
13	ケインズ後	分配がさきか、価格がさきか
14	新自由主義	スミスの再登場、もしくは曲解？
15	第三の道	マルクスは死んだのか？ - 新しい経済学の可能性へむけて

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、授業内課題(質問に対する答え、自由コメントなど)への回答を通じて、理解を深める。適宜、とくに定期試験前には、ノートの通読を各自おこなうことを求める。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験（５０%）、② 授業内課題（５０%）。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	『経済学史』	水田他編	ミネルヴァ書房	3,520 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学説史Ａ

（9）オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後、オフィスアワーでも答えます。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
経済統計学（経済指標と統計的分析）	上西　雄太	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

経済学の指標や指数を把握することは、経済・社会の現状や問題を把握する上で重要である。また一方で、データの収集や統計学的な分析手法を理解することも、経済分析のレポートや論文を読み解く上で不可欠と言える。本講義は、経済分析の基本となる指標・指数について複数解説する。また、データ収集や統計データの基本的な読み方、回帰分析や因果推論などの統計的手法の考え方・概略についても扱う。講義内で練習問題を複数解くことで、統計の基本や指標についての理解を深めてもらう予定である。なお、「統計学Ⅰ/Ⅱ」を履修していなくても理解できる内容になっているので、それらを履修していない人も安心して本講義に参加して欲しい。

（3）到達目標

① 経済統計学における基本的な指標・指数を説明できる。
② 基本的な統計学の考え方を習得し、回帰分析と因果推論の概略を説明できる。
③ 経済データを分析し説明する力を高める。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容・進め方・評価などの説明
2	データの収集（1）	社会調査の基本、母集団と標本抽出
3	データの収集（2）	統計データの収集・種類について
4	記述統計（1）	平均、中央値、最頻値
5	記述統計（2）	母集団と標本調査、分散、標準偏差
6	記述統計（3）	度数分布とヒストグラム
7	記述統計（4）	度数分布表からの統計量、平均の種類
8	所得格差の分析（1）	格差の種類、ローレンツ曲線
9	所得格差の分析（2）	ジニ係数、演習問題
10	貧困の分析	貧困線、貧困率、貧困ギャップ率
11	経済指数の理論（1）	個別指数と総合指数、金額指数、物価指数と数量指数
12	経済指数の理論（2）	パーシェ指数とラスパイレス指数
13	回帰分析	回帰分析の概念、分析例
14	因果推論（1）	相関関係と因果関係、疑似相関とそのパターン
15	因果推論（2）	社会科学における「実験」、因果推論の手法

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。教科書は無く、独自の講義用レジュメを配布しそれに従い解説・補足を行う。また、必要に応じて講義の最後に練習問題を解く。この積み重ねにより、理解が深まることを期待する。予習については基本的に不要である。むしろ、授業内容をよく復習し理解する作業に時間を費やして欲しい。より意欲のある学生は、講義内で紹介する参考文献を読むと良い。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験　８０％　② 授業内での課題　２０％　詳細については、初回講義時に説明する。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし。レジュメを配布する。			
参　考　書	種類が多いので、適宜講義内で紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

統計学Ⅰ/Ⅱと関連する内容、それを補足する内容を多く含んでいる。また、本講義で学ぶ指標・指数を理解するとマクロ経済学の理解が深まる。様々な種類のデータに関心がある学生は、経済データの読み方を履修するのも良い。

（9）オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、１人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
計量経済学（回帰分析の概念と手法）	上西　雄太	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

計量経済学は、経済理論が現実の経済に当てはまっているのかをチェックしたり、表面的には把握しにくい経済的な法則性・関連性を発見したりするために、統計学から発展した学問分野である。また近年の情報処理技術の発達に伴い、Excel や R などの統計ソフトを用いることで容易にそのような分析ができるようになった。本講義は、計量経済学のコアともいえる回帰分析の概念をおもに学び、Excel を用いて回帰分析の手法による現実経済の分析ができるようになることを目的としている。講義の最初は統計学のおさらいから始め、単回帰分析・重回帰分析とその周辺を学んでいく。「統計学Ⅰ/Ⅱ」をセットで履修しマスターできたら、各々の関心ある分野で専門的なデータ分析ができるようになるであろう。

（3）到達目標

① 計量経済学の基礎である、回帰分析に関する基本的な概念と手法を理解する。
② 演習問題をこなすことで、各々が問題関心のある分野について回帰分析の手法を用い分析できるようにする。
③ 計量経済学の考え方・プロセスを学ぶことで、論理的思考力や説明力高める。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容・進め方・評価などの説明
2	確率と統計のおさらい（1）	大数の法則と中心極限定理
3	確率と統計のおさらい（2）	信頼区間の推定（1）
4	確率と統計のおさらい（3）	信頼区間の推定（2）、仮説検定（1）
5	確率と統計のおさらい（4）	仮説検定（2）、演習問題
6	関連の分析（1）	散布図と共分散
7	関連の分析（2）	相関係数、具体的な相関係数の分析
8	回帰分析（1）	回帰分析の導入、単回帰分析
9	回帰分析（2）	古典的最小２乗法
10	回帰分析（3）	Excel を用いた単回帰分析の方法
11	回帰分析（4）	誤差分散、標準誤差、決定係数（傾きの回帰係数の説明力）
12	回帰分析（5）	傾きの回帰係数の信頼区間の推定
13	回帰分析（6）	傾きの回帰係数の有意性（仮説検定による有意性のチェック）
14	回帰分析（7）	重回帰モデル、Excel を用いた重回帰分析の方法、回帰係数の説明力と有意性
15	補足、まとめ、レポートについて	重回帰分析の注意点、レポートの詳細と注意点

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。教科書は無く、独自の講義用レジュメを配布しそれに従い解説・補足を行う。必要に応じて講義の最後に演習問題を解く予定である。また、Excel を用いて実際に分析する過程を見せる予定である。各々ノート PC を持ち込んで、模倣して分析の練習をしても良い。予習については基本的に不要である。しかし、復習と講義外課題には十分な時間を取って欲しい。

（6）成績評価の方法と基準

① レポート　８０％　② 授業内/外での課題　２０％　詳細については、初回講義時に説明する。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし。レジュメを配布する。			
参　考　書	『統計学基礎講義 第３版』	秋山裕 著	慶應義塾大学出版会	3,960 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

統計学Ⅰ/Ⅱを履修していると話が分かりやすいが、未履修の人にも分かるよう必要な統計学の知識をおさらいしつつ講義を進めていく。なお、本講義で身につく回帰分析の手法は、経済学の広い分野で応用が効く。

（9）オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、１人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
現代経済論（オムニバス講義）	佐藤(克)・伊藤　・　内藤・槇平　・　范　・　山口・荒・松岡	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

本講義は、複数の教員によるオムニバス講義である。教員が、それぞれの専門の視点から、現代社会が抱える課題・テーマについて、時事的なトピックを含め自由に論じるものである。各教員が 1～2 回ずつ担当する。内容は、担当教員の専門領域である経済思想、マクロ経済、環境、金融、農業、財政、政治、歴史といった視点に基づいたものとなる。最終回は担当教員によるパネル・ディスカッションを行い、現代社会の課題や受講者の関心のあるテーマについて検討する予定である。

本講義は、各教員がどんな事柄に関心を持ち、研究をしているかを知る手がかりとなる。特に 1 年生のゼミ選択の判断材料の一つとしてほしい。

（3）到達目標

① 通常の講義では扱えない時事的な問題を通じて、経済現象への関心を高めること。
② 様々な角度からの議論を聞くことにより、経済現象への多角的な理解、認識を身に付けること。
③ コース、ゼミ選択のために必要な情報を提供すること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス（佐藤克)	講義内容の説明
2	戦後日本の経済思想（伊藤)	民主主義と資本主義という免罪符
3	ケインズとマクロ経済学１（内藤)	ケインズとは誰か、ケインズの生涯と業績
4	ケインズとマクロ経済学２（内藤)	マクロ経済学の誕生とケインズ、マクロ経済政策とは何か
5	現代日本の財政と少子高齢化（山口)	日本財政の現状と課題
6	現代日本の財政と少子高齢化（山口)	少子高齢化時代を生き抜く知恵とは？
7	農業・食料問題と暮らし（槇平)	農業・食料問題とは何か、農業・食料と市場
8	農業・食料問題と暮らし（槇平)	農業・食料に関する政策的課題、農村地域社会問題を学ぶ
9	現代中国経済の基本構造（范)	改革開放（1978 年）以降の中国経済の概観
10	現代中国経済の基本構造（范)	出稼ぎ少女と中国の経済発展―日本の高度成長との比較
11	生物多様性の経済学（佐藤克)	生態系サービスの恩恵とその保全
12	足元からの気候変動対策（佐藤克)	地域から考える気候変動対策
13	大衆史の中の暴力（荒)	戦時下フィリピンにおける対日協力と暴力
14	文化＝政治＝経済（松岡)	現代文化を政治と経済から読み解く
15	パネル・ディスカッション	複数教員によるディスカッション

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義はオムニバス形式で行い、教員 8 名が 1～2 回ずつ担当する。各教員が現代経済の最先端に関わるトピックを扱うので、日頃のニュースに気を配ること。また講義前後での積極的な発言や、リアクションペーパーでのコメントを求める。

（6）成績評価の方法と基準

① 10 回以上の出席が必須である。期末レポート（100%）で評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	講義内で指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門科目・公共政策入門科目

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後とする。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
社会経済学（資本主義体制の仕組み）	范　立君	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している　(専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

本講義は現代社会の経済（資本主義生産体制）の仕組みについて、説明する。講義内容は主に以下の３つの内容からなる。
第１　経済学は「何を」明らかにする学問であろうかについて、考察する。
第２　(社会)経済学の土台＝労働を基礎とする社会把握について、勉強する。
第３　資本主義的生産様式はどのようなものであり、どのような仕組みをもち、どのようにして再生産されているのか、を勉強した上、さらに、資本主義の経済的運動法則、すなわちその発生・発展・消滅の法則をも考える。

（3）到達目標

① 将来、経済系大学に進学するための基礎学力をつけること。
② 立派な社会人として、多くの分野に応用できる物事の見方や一定の問題の解決方法を知ること。
③ 自分のキャリア計画を含め、人類、そのものの行方について、視野に入れることができること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	社会経済学で何を学ぶか
2	現代社会と社会経済学	現代社会の特質は資本主義という社会形態にある、経済学の対象と方法
3	労働と生産	労働と労働力の違い、生産力と生産関係
4	生産様式とその交替	生産力の発展と社会発展の一般的法則
5	資本の生産過程①	商品と貨幣、貨幣の機能、資本とはなにか
6	資本の生産過程②	付加価値とは何か、資本と利潤
7	資本の生産過程③	利潤率の傾向的に低下法則
8	生産力発展のための諸方法①	協業、分業とマニュファクチュア
9	生産力発展のための諸方法②	機械と大工業
10	授業内小テスト	上記今までの内容の考察
11	資本主義的生産関係と労賃①	資本主義的に生産関係＝資本・賃労働関係の具体的に内容
12	資本主義的生産関係と労賃②	労賃とはなにか、その本質と現象形態
13	資本の再生産①	単純再生産
14	資本の再生産②	資本の蓄積と拡大再生産
15	資本の再生産③	資本主義的生産の歴史的位置

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は授業シラバスを見て、予習できる部分を事前に予習することを望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物をも利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

（6）成績評価の方法と基準

① 期末レポート（70%)、② ひと言カードへの感想・疑問への記入（30%）の合計点数により評価をする。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	図解 社会経済学	大谷禎之介	桜井書店	3,300 円
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、マクロ経済学など「経済分野の主要科目」の履修を勧める。

（9）オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）
※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
日本経済史Ａ（戦前期）	福地　幸文	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

この授業では、主に幕末期から第二次世界大戦期までの日本の経済史について学ぶ。
最初に日本の近代経済史の起点となる江戸時代の経済的到達点を確認する。
幕藩体制から明治維新、そして大正・昭和と、日本は激動の時代の中にあって、大きくその姿を変えてきた。
この授業では「経済史」という物差しをつかって、日本という急激に成長した国家の姿を捉え、現代の我々の生活にどのようにつながってきたのかを学習する。

（3）到達目標

① 明治維新から第二次世界大戦期までの日本の経済・社会の発展過程を理解している。
② 日本という後発資本主義国家の成長モデルについて理解している。
③ 現在の私たちの生活がどのような経緯に規定されているのかを考察できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	授業内容の説明など
2	江戸時代の経済的達成状況	人口・教育・生活、農業と工業、経済政策とインフレーション
3	明治維新１	地租改正・秩禄処分など、維新の制度改革の内容と社会への影響
4	明治維新２	日本における近代的貨幣制度の確立過程
5	明治維新３	新産業と会社制度、ならびに殖産興業政策
6	産業化１	技術導入とその変容、在来産業の展開、産業化の担い手たち
7	産業化２	明治期の情報革命
8	日清戦後経営	日清戦争と戦後経営（社会政策）
9	日露戦後経営	日露戦争と戦後経営（社会政策）
10	戦間期１	第一次世界大戦、重化学工業と都市化、戦後デフレーションと恐慌
11	戦間期２	1920 年代の経済構造、関東大震災と金融恐慌
12	戦間期３	昭和恐慌
13	戦間期４	1930 年代の経済成長と高橋財政、1930 年代の経済機構
14	戦時経済	戦時直接統制、太平洋戦争、被害と戦後への「遺産」
15	まとめ	授業の総括、定期試験について

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

① 基本的に講義形式で行う（パワーポイントを投影する）。授業の配布資料を事前に Teams にアップロードする。
② Teams を使って課題を提示する（10 回を予定）。
③ 毎回、出席の確認をする。必要に応じて理解度の確認を行う。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（５０%）、②授業の課題（４０%）、③ 授業貢献度（１０%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特に指定しない			
参 考 書	日本経済―その成長と構造〔第３版〕	中村隆英	東京大学出版会	4330 円
	明治大正期の経済	中村隆英	東京大学出版会	3600 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本経済史Ｂ、西洋経済史

（9）オフィスアワー・その他

授業後に受け付けます（要予約）。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
日本経済史Ｂ（戦後期）	福地　幸文	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

この授業では、主に敗戦直後から現在までの日本の経済史について学ぶ。
戦後の改革を通して日本がどのように生まれ変わったのかを理解する。
加えて、戦前からどのような要素が引き継がれたのかを見ながら、戦後復興期、高度成長期、バブル期を経て、現代へとつながる日本経済の姿を追う。
また、経済政策が日本経済の在り様にいかなる影響をもたらしているのかを考える。

（3）到達目標

① 戦後における日本経済発展の仕組みを理解している。
② 現代の日本経済の問題点がどこにあるのかを歴史的に考察できる。
③ 経済と政治の関係を踏まえた上で、経済政策の効果を考察できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	授業内容の説明など
2	敗戦直後の日本経済	敗戦直後の日本社会、敗戦直後の日本経済、敗戦直後の統計
3	戦後の民主化政策	敗戦前後の経緯、財閥解体、農地改革、労働改革、まとめ
4	経済の復興１	初期の占領政策と日本の対応、アメリカの政策転換
5	経済の復興２	ドッジ・ライン、労働政策の変化、朝鮮戦争、サンフランシスコ講和条約
6	高度成長期１	高度成長の 20 年、国際環境、成長と循環
7	高度成長期２	財政投融資、所得倍増計画、成長分野と停滞分野、高度成長は日本を変えた
8	高度成長期３	まとめ（高度成長期の政策、事業および社会問題の主要な側面）
9	1970 年代の日本経済１	ニクソン・ショックの背景、２つのショックと高度成長の終焉
10	1970 年代の日本経済２	成長率低下への調整、減量経営と戦後社会の転換
11	1980 年代の日本経済１	国際経済・通貨の激動、新自由主義改革の始まり
12	1980 年代の日本経済２	バブル経済
13	バブル崩壊以後の日本経済１	バブル反動不況、不況の二番底、【参考】権限と責任
14	バブル崩壊以後の日本経済２	長期不況からの脱出、小泉内閣の構造改革
15	世界金融危機前後の日本経済	世界金融危機、東日本大震災前後の日本経済

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

① 基本的に講義形式で行う（パワーポイントを投影する）。授業の配布資料を事前に Teams にアップロードする。
② Teams を使って課題を提示する（10 回を予定）。
③ 毎回、出席の確認をする。必要に応じて理解度の確認を行う。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（５０%）、②授業の課題（４０%）、③ 授業貢献度（１０%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特に指定しない。			
参 考 書	日本の経済　―歴史・現状・論点	伊藤　修	中央公論新社	990 円
	日本経済―その成長と構造〔第３版〕	中村隆英	東京大学出版会	4330 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本経済史A、西洋経済史

（9）オフィスアワー・その他

授業後に受け付けます（要予約）。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
西洋経済史（西洋経済の近現代史）	福地　幸文	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

この授業では，私たちが生活する資本主義世界に対する分析や理解を深めるために、近代以降において西洋（主にヨーロッパと北米）の経済活動や人々の生活から資本主義がどのように発展，変容してきたのかを学ぶ。
西洋経済における近代化の歴史的起点を確認した上で、商業革命、市民革命、そして産業革命へと展開する西洋の経済発展の過程を考察する。また、二度にわたる世界大戦の西洋経済に与えた影響、並びに第二次世界大戦後の西洋経済の発展過程を概観する。
そして最後に、近年のグローバル経済について検討する。

（3）到達目標

① 近代西洋経済の発展過程を理解している。
② パクス・ブリタニカ、パクス・アメリカーナなど覇権国家の形成・移行過程を理解している。
③ これからのグローバル経済について考察できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	授業内容の説明、世界の GDP の推移、グローバル経済の形成
2	商業革命と「中世の世界経済」の解体	中世貿易の枠組みの分解、地理上の発見と東インド貿易、アジア域内貿易
3	16～17 世紀の経済発展	価格革命、農業、工業、イギリス毛織物工業のセクター転換
4	絶対王政と市民革命	絶対王政、イギリス革命、フランス革命、フランス革命の波及
5	イギリスの重商主義	イギリス重商主義の支配体制、重商主義の経済政策
6	産業革命前夜のイギリス経済	農産物需給関係の逆転、大衆的購買力の上昇、18 世紀前半のイギリス経済の特質
7	イギリスの産業革命	産業革命へのスタート、綿工業における工場制度の成立、イギリス産業革命の特質
8	技術進歩と工業化	ヨーロッパ大陸諸国の産業革命、技術進歩と工業化
9	世界市場の成立とアメリカ経済の発展	世界市場の成立と構造、アメリカ経済の発展１
10	アメリカ経済の発展と大不況の到来	アメリカ経済の発展２、19 世紀末の大不況と資本主義の構造転換
11	第一次大戦前の世界経済	第一次大戦前の世界経済
12	世界大戦とヨーロッパ経済１	第一次世界大戦の経済史的意味、１９２０年代の繁栄から世界恐慌
13	世界大戦とヨーロッパ経済２	世界恐慌とヨーロッパ経済、第二次世界大戦
14	第二次世界大戦後のヨーロッパ経済１	戦後国際経済の枠組みと冷戦、経済成長の時代
15	第二次世界大戦後のヨーロッパ経済２	危機とグローバル経済、EU への道

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

① 基本的に講義形式で行う（パワーポイントを投影する）。授業の配布資料を事前に Teams にアップロードする。
② Teams を使って課題を提示する（10 回を予定）。
③ 毎回、出席の確認をする。必要に応じて理解度の確認を行う。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（５０%）、②授業の課題（４０%）、③ 授業貢献度（１０%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	新版　西洋経済史	石坂昭雄・船山榮一・宮野啓二・諸田實	有斐閣	1980 円
参 考 書	グローバル経済史入門	杉山伸也	岩波書店	990 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本経済史A、日本経済史B

（9）オフィスアワー・その他

授業後に受け付けます（要予約）。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
日本経済論	山口　隆太郎	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。

（2）授業概要と目的

本講義では、現代の日本経済とその特徴を学び、また現在抱えている課題を把握していく。そしてなぜ、そのような現状になっているのか、戦後からの経済発展の軌跡をてがかりに検討していく。現代の日本の経済構造は、GHQ による戦後改革のあった戦後復興期、高度経済成長期、オイルショック後の安定成長期、バブル経済とその崩壊、また平成期の不況といった各時期の社会・経済状況に影響された結果として、今日の姿になっている。この講義を通して各時期に日本が直面していた問題と、どのようにその解決を図ろうとしていたのかを学ぶことで、少子高齢化を迎えたこれからの日本経済・社会のあり方を考えるための、知識を身につける。

（3）到達目標

①日本経済・社会の構造とその形成過程を理解する。
②日本経済・社会が現在抱えている課題についての知識を身につける。
③日本社会を数値で把握する

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	日本社会のこれから	少子高齢化のもとでの、日本経済・社会の現状と課題
3	戦後改革と経済復興	連合国・GHQ 下における戦後の政治・経済改革　―もはや戦後ではない―
4	成長のメカニズム	経済成長に必要な投資を支えたメカニズムとは
5	日本特有のメインバンクシステム	戦後の経済構造の基礎をなしたメインバンクシステム
6	土建国家と公共事業①	均衡ある国土の発展を目指した土建国家
7	土建国家と公共事業②	財政投融資は都市と地方の所得保障にどうかかわったのか
8	日本型福祉社会論と企業①	人々の暮らしを守る福祉のあり方と企業
9	日本型福祉社会論と企業②	家族（女性）が福祉を提供する体制を支えた住宅政策
10	貿易立国①	Made In Japan はいつから信用を得たのか?
11	貿易立国②	日米自動車摩擦、牛肉とオレンジ
12	円は強い?	プラザ合意と輸出産業
13	バブル崩壊と失われた 20 年	バブル崩壊後の経済の苦境
14	構造改革と日本経済	構造改革は何をもたらしたのか
15	まとめ	日本経済のこれから

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく（レジュメと資料を適宜配布する)。各授業の開始時に、前回授業ででた質問・感想についてコメントをしていく。テキストを使用しないので、予習の必要はないが、授業を受けた日のうちにレジュメを見かえし、議論の内容を復習すること。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（70%）と授業内における課題等（30%）により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	なし			
参 考 書	なし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

とくになし

（9）オフィスアワー・その他

授業前後以外での質問方法などは、授業にて指示を出す。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
日本企業論	唐澤　克樹	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本講義では、グローバル化が進展する現代において日本企業がどのような特徴や課題をもち、社会の一員としてどのような貢献をしているか考察することが目的である。そのために、戦後日本における産業構造や就業構造の変化、ライフスタイルの変化、就業形態や働き方の変化、地場産業や地域商業の変化、中小企業政策の変化について考察する。本講義の前半では主に雇用・労働やライフスタイルなど側面から日本企業について検討し、就職活動や就職後における自分自身のキャリアについて考える。後半では、主に中小企業に焦点をあて、地場産業の事例として繊維・アパレル産業について検討し、地場産業やその主たる担い手である中小企業の経営的特徴と課題、地域との関係性について考察する。これらを通じて、グローバル化が進展するなかで日本企業がどのような存在となっていくのかを考えていく。

（3）到達目標

①戦後日本における産業や企業の変化について説明することができる。
②就職活動や就職後に自分のキャリアデザインを考えることができる。
③繊維・アパレル産業の事例を基に地場産業や中小企業が抱える諸問題や解決策を考えることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	日本企業論を学ぶ目的と意義、授業の内容、授業の進め方、評価方法
2	産業と企業の捉え方	産業の分類、企業の分類、中小企業の定義
3	グローバル化と日本企業	グローバル化とは、産業と企業の変化、六大企業集団、グローバル大企業
4	大学生の就職活動と日本企業	就職活動、新卒採用、OJT、OFF-JT、日本的雇用慣行
5	仕事とキャリア	働くことと進学すること、キャリアデザイン、職業キャリア、ライフキャリア
6	就業形態の多様化と働き方	就業形態の多様化、働き方、労働者性、最低賃金、労働運動
7	起業・創業と M&A	中小企業、ベンチャー企業、スタートアップ企業、倒産・廃業、M&A
8	企業誘致と地域開発	コンビナート開発、企業誘致、公害問題、環境再生
9	地場産業と中小企業（1）	地場産業とは、地域の歴史・文化、地域の社会・経済
10	地場産業と中小企業（2）	繊維・アパレル産地、アパレルとファッション、ファッションと資本主義
11	地場産業と中小企業（3）	ファストファッションの功罪、トレンドと価格、品質、労働問題、貧困問題
12	地場産業と中小企業（4）	外国人労働力、デザイン戦略、中小企業のネットワークと連携
13	地域商業と中小企業	大規模小売店、Web 販売、中小小売業、商店街、買い物難民対策
14	中小企業政策	中小企業政策の歴史、中小企業政策の必要性と範囲
15	まとめ	グローバル化の進展、大企業経営、中小企業経営、企業と地域の社会・経済

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

板書、スライド、配付資料を併用しながら授業を展開する。必要に応じて、動画、写真、マップやストリートビューを用いる。受講生自身が文献調査をしたり、ディスカッションをしたりする場を設けるなどして、アクティブラーニングを積極的に取り入れる。毎回の授業で、授業に対する意見、感想、質問等をまとめたリアクション・ペーパーの提出を求める。その内容は、次回以降の授業を通じてフィードバックする。受講生は、授業で見聞きしたことを基にノートを作成し、自分なりの意見をもつことが望まれる。

（6）成績評価の方法と基準

①授業内課題（40%）、②期末レポート（60%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	地域づくりの経済学入門（増補改訂版）	岡田知弘	自治体研究社	2,970 円
参 考 書	地域とつながる中小企業論	長山宗広　他	有斐閣	2,420 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門、日本経済論、地域経済論などを勧める。

（9）オフィスアワー・その他

社会や経済の情勢に注視し、それに対する自分なりの考えをもつこと。講義内容は、社会情勢の変化や受講生の興味関心によって若干変更する場合がある。質問等は、毎回の授業終了後や授業コメントで受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
金融論Ａ（銀行の歴史と制度）	伊藤　誠一郎	２	前期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

資本主義という経済システムは、その始まりの時点においてすでに金融、とくに銀行の存在なしにはありえなかった。そして同時に、それはつねに銀行みずからがつくりだした金融システムの不安定性と脆弱性のなかで生き続けてきた。最近のユーロ圏の一連の騒動をみるまでもなく、とくに日本のバブル崩壊以降立て続けに起きてきた数々の金融危機が示すように、そもそも今日われわれが生きている貨幣社会の存立根拠は、人間が作り出した空想のなかにしかない非常に危ういものである。そして資本主義社会がその危うい貨幣制度なしでは発展できないのも事実である。本講では、そうした視点を持ちながら、そもそも銀行が、銀行券がどのようにつくられてきたのか、そしてそれがどうして中央銀行というものをつくりだす必要があったのか、歴史の現実を参照しつつみていきたい。

（3）到達目標

① 金融制度の生成と歴史についての知識を習得すること。
② とくに銀行制度の仕組みを学ぶ。
③ 中央銀行というものがどのような経緯で必要となってきたかを知る。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	金融とはなにか	さまざまなかたちの金融
2	金融システムと銀行	金融システムにおける銀行の位置付け
3	貨幣について（1）	銀行券と貨幣
4	貨幣について（2）	貨幣の起源
5	銀行券の誕生(1)	アムステルダム銀行、金匠銀行
6	銀行券の誕生(2)	商業手形の流通とその限界
7	銀行券の誕生(3)	手形割引と信用創造
8	銀行券の誕生(4)	戦争と銀行券
9	銀行制度の展開(1)	イングランド銀行と兌換停止
10	銀行制度の展開(2)	地金論争、通貨論争
11	銀行制度の展開(3)	ピール条例と発券の集中
12	中央銀行の成立(1)	中央銀行と準備金
13	中央銀行の成立(2)	中央銀行の金融政策
14	中央銀行のあり方(1)	中央銀行の独立性
15	中央銀行のあり方(2)	各国の中央銀行、およびその政策(ＥＵ、アメリカ、日本)

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、授業内課題(質問に対する答え、自由コメントなど)への回答を通じて、理解を深める。定期試験前には、ノートの通読を各自おこなうことを求める。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験（５０%)、② 授業内課題（５０%)。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	授業内指示。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

マクロ経済学Ａ・Ｂ

（9）オフィスアワー・その他

本講義では補いきれない理論的な部分は、上記関連科目で行なうのでできるだけ履修すること。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
金融論Ｂ（金融の理論と現状））	伊藤　誠一郎	２	後期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

金融システムの安定性、健全性が経済全体の行方にとっていかに重要なものであるか、そしてそれが国家の政策といかに深くかかわっているかは2008年の世界金融危機、2011年のユーロ危機の経緯を見ればよくわかる。金融システムは政治が、人間がつくりだしたものであり、その設計の仕方によっては、金融のみならず経済全体に破滅的なダメージを与えることになる。しかし、いつもそうした危機がおきるまで正しい設計がなにか分からないままである。なぜなのだろうか。本講ではこうした疑問への解答を探るために、金融システムのあり方を、日本の金融制度を具体例としてあげ、それを理論的に分析し、その上で現状がなぜそのようになってしまうのかを明らかにしていきたい。

（3）到達目標

① 今日の金融システム、現状、理論についての知識を習得する。
② 貨幣数量説など、金融の基本的な分析手法を学ぶ。
③ 今日の日本の銀行システムや証券市場についての仕組み、基本的な知識を学ぶ。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	金融とは何か	間接金融と直接金融
2	貨幣と物価（1）	貨幣数量説
3	貨幣と物価（2）	貨幣数量説をめぐる諸説
4	わが国の貨幣（1）	さまざまなかたちの貨幣
5	わが国の貨幣（2）	日本銀行券、その他
6	金融政策（1）	決済システムと中央銀行
7	金融政策（2）	準備預金制度
8	金融政策（3）	公定歩合操作と公開市場政策
9	ケインズ政策（1）	ケインズの貨幣理論
10	ケインズ政策（2）	長期不況と金融政策、財政政策
11	国際通貨の興亡	IMF体制とその崩壊、金廃貨
12	バブルと日本経済（1）	高度成長期の日本の金融
13	バブルと日本経済（2）	低成長と資産インフレ
14	バブルと日本経済（3）	バブル崩壊と平成不況
15	新しい金融のあり方	不良債権処理とその後

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、授業内課題(質問に対する答え、自由コメントなど)への回答を通じて、理解を深める。適宜、とくに定期試験前には、ノートの通読を各自おこなうことを求める。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験（５０%)、② 授業内課題（５０%)。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

マクロ経済学Ａ・Ｂ

（9）オフィスアワー・その他

本講義では補いきれない理論的な部分は上記関連科目で行なうのでできるだけ履修すること。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
国際経済学（国際貿易の基礎理論の考察）	千原　則和	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

「国際経済学」は、財やサービスの国境を越えた取引を分析する「国際貿易論」と、カネの国境を越えた取引を分析する「国際金融論」の2つの柱で構成されている。本講義では、前者の「国際貿易論」に焦点を絞って、国際貿易の基礎理論および貿易政策の基礎を学習する。後者の領域は、2年次から履修可能な「国際金融論（国際的な金融取引の仕組みと歴史）」で学ぶことができる。

本講義の目的は、国際貿易論の基礎理論の学習を通じて、国家間で貿易を行うこと（＝自由貿易）のメリットと、貿易を制限すること（＝保護貿易）のデメリットを理解することにある。具体的には、①国家間で貿易を行うと国際経済にどのようなメリットが生じるのか、②途上国が先進国と貿易を行ってもメリットがあるのか、③政府が貿易を制限すると国内経済や国際経済にどのようなデメリットが生じるのか、④にもかかわらずなぜ国は貿易に制限をかけようとするのか、について考察していく。

（3）到達目標

①国際貿易論・貿易政策の基礎を習得し、編入試験・大学院入試・資格試験等に必要な知識を積み上げることができるようになる。
②基礎的な貿易理論を自力で説明することができるようになる。
③経済学のテキストに示されている図表が、何を意図し何を伝えようとしているのかを汲み取ることができるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	「国際経済学」の学問体系と本講義で学習する「国際貿易論」の範囲を紹介する
2	比較優位と分業の利益①	国際貿易の基本概念を理解する：交換・特化・分業の利益、絶対優位・比較優位
3	比較優位と分業の利益②	比較優位に基づく分業で特化の利益を生むメカニズムを理解する：比較優位・機会費用
4	比較優位と国際貿易①	比較優位に基づく国際分業で特化の利益を生むメカニズムを検討する：比較生産費説
5	比較優位と国際貿易②	「比較生産費説（リカード・モデル）」を検証する：閉鎖経済・開放経済（自由貿易）
6	比較優位と国際貿易③	自由貿易が先進国・途上国双方にメリットをもたらすメカニズムを把握する
7	部分均衡分析①：基礎	「余剰分析」の手法を理解する：消費者余剰・生産者余剰・総余剰、大国・小国の事例
8	部分均衡分析②：小国のケース	自由貿易による経済厚生の向上（＝貿易利益）を「見える化」する：総余剰の変化
9	部分均衡分析③：大国のケース	大国の行動が国際価格や経済厚生に及ぼすメカニズムを検討する：2国モデル
10	比較優位の決定要因	供給面で比較優位性を決定づける5つの要因を考察する：ヘクシャー＝オリーン定理 等
11	国内産業保護政策（小国のケース）①	輸入制限のデメリットを検討する：輸入関税・輸入割当・「デッドウェイト・ロス」
12	国内産業保護政策（小国のケース）②	輸入制限に代わる国内産業保護政策を考察する：生産補助金・消費税
13	国内産業保護政策（小国のケース）③	国内産業保護政策の効果と課題について検討する：レント・シーキング、ロビー活動
14	国内産業保護政策（大国のケース）	大国が関税賦課で利益を生むメカニズムを理解する：最適関税
15	国内産業保護政策・まとめ	保護貿易を正当化する3つの主張を反証する：①最適関税・②市場の失敗・③雇用確保

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

参考書『国際経済学をつかむ（第2版）』の内容に沿って、プリント資料とパワーポイントを併用して講義形式で進める。講義で使用したプリント資料やパワーポイントは、終了後にMicrosoft Teams「R8国際経済学」にアップロードする。「国際経済学」の内容に関係する時事問題については、随時、講義で紹介する（主に報道・ドキュメンタリー番組）。各単元終了時、または講義終了後に、Microsoft Forms を介して「理解度チェックテスト」を実施する。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（80%）と ②授業内及び授業後課題（20%）の合計点数により評価をする。定期試験は、参考書『国際経済学をつかむ（第2版）』の中から出題する。授業内及び授業後課題は、授業内で取り上げた時事問題も含まれる。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
参　考　書	国際経済学をつかむ（第2版）	石川 城太 他	有斐閣アルマ	2,420円
参　考　書	国際経済学	阿部 顕三・遠藤 正寛	有斐閣アルマ	2,640円
参　考　書	コンパクト 国際経済学	多和田 眞	新世社	2,035円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門・基礎経済学などの基礎的な経済学の科目を復習しておくことが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの調整や変更がありうる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
アジア経済論（中国の躍起）	范　立君	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している　(専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

第２次世界大戦後、貧困と停滞の地として語られていたアジアは、1970 年代以降、地域として工業化と対外開放を進め、「東アジアの奇跡」と呼ばれた急速な経済成長を遂げた。アジア経済と関連して、人々の暮らしは急激に変化してきた。私たちの住むアジアの変化の特徴とその背景を理解することは、私たちの今と将来を考えるうえで、ことのほか重要である。本講義は、以下の３つの側面から、アジア経済について、基本的な知識を中心に学ぶ。

第１：第２次世界大戦後におけるアジア経済の歩み
第２：第２次世界大戦以降の中国経済の歩み
第３：中国、日本、韓国と ASEAN を中心とする経済統合

（3）到達目標

① アジア地域の経済に関して、関心・興味を深める。
② 第２次世界大戦後、中国経済の展開、躍起とその問題点について考える。
③ アジアの経済統合の仕組みについて、把握してもらう

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	アジア経済論で何を学ぶか
2	アジアの概況とアジア経済の現状	本講義で扱うアジアの範囲、およびその経済の現状など
3	「日本一極」の 20 世紀①	日本の戦後復興と高度成長
4	「日本一極」の 20 世紀②	雁行形態型発展モデル、キャッチアップ型工業化論など
5	「日本一極」の 20 世紀③	NIEs の躍進、中国の「復帰」
6	アジアの経済統合①	デファクトの経済統合とグローバル・バリューチェーン
7	アジアの経済統合②	デジュールの経済統合と今後の課題
8	「世界の工場」から「世界の市場」へ	アジア生産ネットワークの組み立て現場としての中国、消費大国化しつつある中国
9	中国の台頭と新興アジア経済へ①	鄧小平と改革問題の提起
10	中国の台頭と新興アジア経済へ②	労働市場と農村からの出稼ぎ労働者
11	中国の台頭と新興アジア経済へ③	中国の出稼ぎ少女たち（動画資料視聴）
12	中国の台頭と新興アジア経済へ④	人口ボーナスと経済発展
13	中国の台頭と新興アジア経済へ⑤	金融改革、国有企業改革、日中国交回復など、中国の超高成長の原因について考える
14	中国の台頭と新興アジア経済へ⑥	低所得国の成長率が高い理由、中所得国の罠
15	アジアの時代を生き抜くために	日本衰退論を超えて、アジアとともに未来を築く

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は授業シラバスを見て、予習できる部分を事前に予習することを望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物をも利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

（6）成績評価の方法と基準

① 期末定期試験（70%）、② ひと言カードへの感想・疑問への記入（30%）の合計点数により評価をする。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし			
参　考　書	現代中国の中小企業金融（増補版） アジア経済とは何か	范　立君（2021） 後藤健太（2019）	時潮社 中公新書	3,520 円 902 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）
※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
財政学	山口　隆太郎	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
4．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。

（2）授業概要と目的

財政学の基本的な考え方を、理論と実際の両面から学ぶ。人々が求める公共サービスには、租税の徴収、公債の発行、補助金などすべてのサービスには財源が伴っている。周知のように日本は巨額の財政赤字を抱えており、将来の社会保障や公共サービスの提供が財政破綻によりなくなるのではないかという不安を多くの国民が抱えている。すなわちこれは公債の発行に依存しすぎた結果なのだが、なぜこのような財政問題が日本では生じているのか。そしてどのようにすれば解決できるのだろうか。授業ではこれらを考えるのに必要な知識・物事の見方を学ぶ。(2年前期科目の地方財政論の履修を考えている学生は、この授業を履修することを強く薦める)

（3）到達目標

①財政理論の基本を学び、財政学的視点から社会問題の背後にある問題の背景を理解する。
②日本の税制など、財源の仕組みについて理解し、説明できる。
③政府の役割と市場の役割の違いを理解し、公共サービスの意義と課題を説明できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	財政とは何か	財政の役割とは何か　―なぜ政府がサービスを提供するのか―
3	財政理論の歴史的展開①	王様の財布から公共のお金へ　―近代財政のおこり―
4	財政理論の歴史的展開②	政府の役割の変化　―アダム・スミスからケインズへ―
5	予算論①	予算原則　―民主主義を機能させるしくみ―
6	予算論②	日本における予算編成の実態と財政民主主義
7	租税論①	租税原則　―わかりやすく、無駄がなく、公平な税制とは―
8	租税論②	租税理論とその歴史的展開
9	租税論③	主要税目について（所得税・消費税）
10	租税論④	地方税の理論と実際
11	租税論⑤	所得税の計算をしてみよう（労働者O月A子さんを例に）
12	公債論①	政府が借金をすることの意味と、そのルール
13	公債論②	日本における財政赤字と財政健全化への取り組み
14	政府間財政関係	中央政府と地方自治体の仕事にはどのような違いがあるのか
15	現代日本財政の課題	少子高齢化時代における財政運営のあり方

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく（レジュメと資料を適宜配布する)。各授業の開始時に、前回授業ででた質問・感想についてコメントをしていく。テキストを使用しないので、予習の必要はないが、授業を受けた日のうちにレジュメを見かえし、議論の内容を復習すること。時間外学習としては財政に関する新聞記事を読むなど、つねに社会・経済の問題に関心を持つことが必要。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（70%)、②授業内における課題等（30%）により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	なし			
参 考 書	なし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

地方財政論

（9）オフィスアワー・その他

2年次科目の「地方財政論」は本授業の内容から発展した学修をする科目になっているので、「地方財政論」履修予定の学生は本授業を履修しておくこと。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
国際金融論（国際的な金融取引の仕組みと歴史）	千原　則和	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

「国際金融論」は、「国際経済学」の学問領域に属し、「カネ」の国境を越えた取引を分析する学問である（「財・サービス」の国境を越えた取引を分析するのは「国際貿易論」で、1年次後期より履修可能）。本講義では、新聞やテレビ等で毎日のように取り上げられる国際的な金融取引に関するトピック（外国為替相場・金融のグローバル化・金融危機など）に焦点を絞り、国際金融の基礎的な知識・制度・歴史を学習する。

本講義の目的は、「①外国為替市場や外国為替取引はどのような仕組みになっているのか」、「②国際通貨制度はどのような変遷をたどり、ドル・ユーロ・円は今どうなっているのか」、「③金融のグローバル化は世界経済にどのような影響をもたらしたのか」を理解することにある。金融理論の習得よりも、まさに今起こっている問題をより深く理解することの方に重点を置いて、講義を進める。

（3）到達目標

①国際金融の基礎的な知識を習得し、編入試験・大学院入試・資格試験等に必要な知識を積み上げることができるようになる。
②国際的な金融取引に関する主要なトピックについて、自力で説明することができるようになる。
③国際金融に関する時事問題に関心を持ち、自ら調べ、をより深く理解することができるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	「国際経済学」の学問体系と本講義で学習する「国際金融論」の範囲を紹介する
2	外国為替のしくみ①	外国為替の仕組みとリスクについて理解する：内国為替・外国為替・為替リスク
3	外国為替のしくみ②	貿易取引の決済がどのように行われているかを理解する：信用状取引
4	外国為替相場	様々な為替相場の種類や性格を把握する：直物・先物相場、銀行間・対顧客相場
5	外国為替市場①	外国為替市場の構成メンバーや取引手法を理解する：為替ブローカー・電子取引
6	外国為替市場②	世界の外国為替市場や国際金融市場の概要を理解する：ユーロ市場・オフショア市場
7	為替リスクとヘッジ手段	為替リスクヘッジの手段や方法を把握する：デリバティブ（フォワード・オプション等）
8	国際収支	国際収支の概念と仕組みを理解する：経常収支・金融収支
9	国際通貨制度の変遷①	国際通貨制度の役割と性格を把握する：国際通貨・基軸通貨・国際金融のトリレンマ
10	国際通貨制度の変遷②	第二次世界大戦前までの通貨制度を概観する：国際金本位制度・国際金為替本位制度
11	国際通貨制度の変遷③	第二次世界大戦後の通貨制度を概観する①：固定相場制・ブレトンウッズ体制
12	国際通貨制度の変遷④	第二次世界大戦後の通貨制度を概観する②：変動相場制・国際的な政策協調
13	欧州通貨統合①	通貨統合の経緯・背景を理解する：ECSC・EEC・EC、EMS（欧州通貨制度）
14	欧州通貨統合②	通貨統合の意義・課題を理解する：EU・ユーロ、欧州通貨危機・ユーロ圏危機
15	金融グローバル化の功罪	金融グローバル化の功と罪を把握する：通貨危機、ユーロ圏危機、リーマンショック

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

主として参考書『新・国際金融のしくみ』の内容に沿って、プリント資料とパワーポイントを併用して講義形式で進める。講義で使用したプリント資料やパワーポイントは、終了後にMicrosoft Teams「R8 国際金融論」にアップロードする。「国際金融論」の内容に関係する時事問題については、随時、講義で紹介する（主に報道・ドキュメンタリー番組）。各単元終了時、または講義終了後に、Microsoft Forms を介して「理解度チェックテスト」を実施する。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（80%）と ②授業内及び授業後課題（20%）の合計点数により評価をする。定期試験は、参考書『新・国際金融のしくみ』の中から出題する。授業内及び授業後課題は、授業内で取り上げた時事問題も含まれる。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
参 考 書	新・国際金融のしくみ	西村 陽造・佐久間 浩司	有斐閣アルマ	2,530 円
参 考 書	はじめて学ぶ国際経済（新版）	浦田 秀次郎 他	有斐閣アルマ	2,200 円
参 考 書	国際金融論のエッセンス	高浜 光信・高屋 定美 編著	文眞堂	2,970 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門・基礎経済学などの基礎的な経済学の科目を復習しておくことが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの調整や変更がありうる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
地方財政論	山口　隆太郎	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

家を出て大学に着くまでに目にするもの、あるいは使うものにはどのようなものがあるだろうか。蛇口をひねって顔を洗うところから一日は始まり、道路を歩いて駅に向かい、そして電車に乗る。あるいは大学までバスかもしれない。またその道すがら、保育園や小・中学校のにぎわい、あるいは街を巡回する消防車・パトカーを目にする。そして大学に着き、教室で講義に臨む。

これらのことに財政は関っている。とりわけ地方財政は私たちの生活に密接に関わっており、道路や上下水道などのインフラストラクチャー、様々な教育制度、社会福祉制度など人々の生活を支える多くの公共サービスは、地方自治体によって提供されている。

地方財政論の基礎となる理論・知識を習得し、地方自治体における諸課題を理解し、それらを説明できる素養を身につける授業となっている。

（3）到達目標

①地方財政論の基本を学び、身近な社会問題を地方財政の観点から理解する。
②社会の変化と人々の新たなニーズを理解し、これを充足するための公共サービスの意義と問題点を理解する。
③地域住民が主体的に地域の自治に関わることの重要性を説明できるようにする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	地方財政とは	地方財政とは何か　―地域のことを地域で決める、自治とは―
3	政府間財政関係①	国と地方の役割分担　―補完性の原理とは―
4	政府間財政関係②	日本における政府間財政関係の実態　―地方交付税制度①―
5	政府間財政関係③	日本における政府間財政関係の実態　―地方交付税制度②―
6	地方の税と予算、公債	地方自治体の税と予算、公債の特徴
7	行政サービスのあり方①	変わっていくサービスのかたち　―現金給付・現物給付、普遍主義・選別主義―
8	行政サービスのあり方②	最低限度の生活を守る保障のあり方　―生活保護制度―
9	行政サービスのあり方③	少子高齢化の進行と人口減少社会における地方分権と自治体合併
10	変化する社会と地方財政①	女性の社会進出と子育て保育の実態
11	変化する社会と地方財政②	高齢者介護のありかた　―人々を包摂する―
12	変化する社会と地方財政③	これからの公共事業　―作る、から維持へ―
13	持続可能な社会をつくる①	医療サービス　―国民皆保険制度現状と課題―
14	持続可能な社会をつくる②	高齢者の生活を支える　―年金制度のしくみ―
15	まとめ	地方自治体が抱える課題と展望

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく（レジュメと資料を適宜配布する）。各授業の開始時に、前回授業ででた質問・感想についてコメントをしていく。テキストを使用しないので、予習の必要はないが、授業を受けた日のうちにレジュメを見かえし、議論の内容を復習すること。新聞を読むなど、つねに社会・経済の問題に関心を持つこと。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（70%）、②授業内における課題等（30%）により評価する。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	なし			
参　考　書	なし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

財政学、とあわせて受講することでより講義内容の理解が深まる。

（9）オフィスアワー・その他

授業前後以外での質問方法などは、授業にて指示を出す。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
地域経済論（地域経済における理論的・実証的諸課題と展望）◆	槇平　龍宏	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

グローバル化とローカル化の同時進行の下で、また資源・環境問題が重視される中で、地域的生産システムのあり方が問われている。本講義では、地域的生産システムに関する既存の議論（需要主導型／供給主導型）に加えて、産業立地論や集積論、都市経済論の成果を導入するかたちで、グローバル経済下における地域経済の実態と問題、今後のあり方に関する理解を深めて行きたい。
前半では、講義の前提として、国家の枠組みを超えて進む地域主義とグローバリズムの実態について概観し、併せて地域経済の成長に関する理論、不均等発展に関する理論、累積的成長理論、産業立地の理論、新しい空間経済理論等について理解を深める。後半では、我が国の地域政策と地域問題を学習し、我が国の国土開発政策の歴史的検討、さらには「地域経済活性化」を含む「地域づくり」をどのように進めていくかという政策的課題について考察を進めたい。

（3）到達目標

①グローバル経済下における地域経済の問題点を経済学的に説明し、評価できるようになる。
②今後の地域経済と国民生活との関係性について自らの問題意識から仮説を立て、自ら調べ、考えをまとめ、意見を述べることができるようになる。
③身近な地域の経済的課題についての考察結果を自らの言葉でレポートできるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	はじめに	新しい地域主義とグローバリズムの並進
2	地域経済論の理論（1）	地域経済の成長と交易に関する理論
3	地域経済論の理論（2）	地域間格差と人口移動に関する理論
4	地域経済論の理論（3）	産業立地と集積の理論
5	地域経済論の理論（4）	都市システムと土地利用に関する理論
6	地域経済と地域問題（1）	地域経済の多様性の形成プロセス
7	地域経済と地域問題（2）	東京一極集中と都市問題
8	地域経済と地域問題（3）	産業構造の転換と地域経済構造
9	地域開発政策の展開（1）	高度経済成長期～低経済成長期
10	地域開発政策の展開（2）	低経済成長期～現代
11	地方財政と地方分権（1）	地域経済のマクロ・バランスとは何か?
12	地方財政と地方分権（2）	地域経済の循環とは何か?
13	地域づくりと課題（1）	内発的発展論を中心に
14	地域づくりと課題（2）	「産業の地域化」と「地域の産業化」
15	おわりに	地域経済活性化へ向けた政策的課題

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントとプリント資料を併用して講義形式で進める。講義終了後に感想や疑問をリアクションペーパー（「ひとことカード」）に記入してもらい、次の授業の始まりの際に主だった感想や質問に対してコメントを行うことにより、要点の振り返りと疑問を解消し、講義内容の定着を図る。毎回配布するプリント資料は穴埋め形式とし、重要な語句や解法などを記入することにより、知識の定着と自ら考える力を養う。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに変わるレポート（80%）、②「ひとことカード」への感想・疑問等の記入内容（20%）の合計点数により評価をする。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし。レジュメを配布する。			
参　考　書	必要に応じて紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済政策、地方自治論、地方財政論、農業経済学、環境経済学

（9）オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後や変更がありうる。講義内容は連続しているため、特別な理由なく欠席はしないこと。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
経済政策（実践的に学ぶ経済政策）	佐藤　克春	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

長期不況、格差、貧困、社会保障、財政赤字、そして経済のグローバリゼーション、これらはどれも経済政策と深く関わるテーマである。経済政策は私たちの生活に直接かかわる実践的な分野である。本講義は、経済政策について理論と現実のズレを意識しながら、その基本的な考え方と、仕組みについて学ぶ。

本講義では、経済政策の手段についての基礎的な知識の習得を前半に行う。後半においては、近年特に日本、そして世界で問題となっている格差問題の是正に向けた再分配政策について学ぶ。

尚、本講義は毎年受講者が少ないため、受講者と相談のうえで講義内容・進め方を変更する場合がある。そのため初回講義は必ず出席すること。

（3）到達目標

① 経済政策の基本的な考え方と仕組みについて理解する。
② 経済学的な考え方を応用して、自分なりの主張ができるようにする。
③ 現代日本の格差問題について理解し、自分なりの解決策を提示する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	講義の進め方と評価方法についてのレクチャー。
2	経済政策とは	歴史的になぜ経済政策が求められてきたかを考える。
3	成長と安定の経済政策	長期・短期の経済政策を考える。
4	財政政策の考え方	GDP とは何か。付加価値を増やすという経済政策。
5	財政政策の手段	歳入・歳出政策，財政投融資について考える。
6	金融政策の考え方	物価と貨幣供給量。お金の出し引きによる景気のコントロール。
7	金融政策の手段	金融政策の諸手段。上記の具体的手段を考える。
8	再分配政策①	現代日本の格差構造。「一億総中流」から格差社会へ。
9	再分配政策②	所得再分配に関する考え方。功利主義・格差原理・リバタリアニズム。
10	再分配政策③	労働政策，非正規雇用の現状。労働条件がどのように悪化したのか。
11	再分配政策④	所得再分配の諸手段。累進課税・公的扶助について考える。
12	再分配政策⑤	最低賃金。日本の最低賃金の現状と、先進諸国の潮流。
13	再分配政策⑥	ベーシック・インカム。所得再分配の一つの考え方。
14	格差社会出現の構造	グローバリゼーションと新自由主義。世界的な格差構造。
15	本講義のまとめ	本講義のまとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントによる解説と、受講者による文献輪読と報告・議論からなる。また日々の経済政策のニュースを収集すること。

（6）成績評価の方法と基準

① 期末レポート（５０%）、② 文献報告（５０%）

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし			
参　考　書	講義内で指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門・公共政策入門

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼に設定する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
環境経済学（気候変動問題から考える）	佐藤　克春	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

環境経済学では、地球温暖化問題を通じて、環境と経済の関係、そして環境経済学の諸理論を学ぶ。現在、地球温暖化問題にかんする自然科学研究の権威である IPCC（気候変動に関する政府間パネル）によると、産業革命以後の気温上昇を少なくとも 1.5℃以内に抑えないと、目を覆いたくなるような結果が私たちを襲うと予測されている。2030 年までに世界の温室効果ガス排出量を約半分に、2050 年までにゼロにしなければならない。目標達成には、現在の私たちのエネルギー構造・産業・ライフスタイル・そして社会構造の根本的な見直しが不可欠である。21 世紀最大の環境問題と言える地球温暖化問題を通じて、環境と経済の関係を考える。また、地球温暖化問題への政策アプローチを考える際に、環境経済学の諸理論・考え方が実際に使われている。外部性・環境税・排出権取引などの政策理論を学んでいく。

（3）到達目標

① 環境と経済の係わりについて理解する。

② 環境経済学の基礎理論を理解する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	講義の進め方と評価方法についてのレクチャー。
2	温暖化による被害予測①	IPCC1.5℃特別報告書を読む
3	温暖化による被害予測②	外部性の概念・世代間の責任論
4	温暖化による被害予測③	共通だが差異ある責任
5	温暖化対策の国際的枠組み①	気候変動枠組条約
6	温暖化対策の国際的枠組み②	京都メカニズム
7	温暖化対策の国際的枠組み③	排出権取引
8	日本のエネルギー政策①	日本の温暖化対策はなぜ失敗してきたのか？
9	日本のエネルギー政策②	誰がどれだけ排出しているのか？
10	日本のエネルギー政策③	国内排出権取引市場と環境税
11	原発偏重の温暖化対策①	原発とは何か？
12	原発偏重の温暖化対策②	原発のコストとは？社会的費用論アプローチ
13	再生可能エネルギーの普及に向けて①	再生可能エネルギーと地域内経済循環
14	再生可能エネルギーの普及に向けて②	公共財の理論と発送電分離
15	本講義のまとめ	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義の進め方は、パワーポイントによる解説となる。また、講義内で指示する参考書を読み進めることも併せて勧める。

（6）成績評価の方法と基準

①レポート（80%）、②リアクションペーパー（20%）で評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	プリント配布			
参 考 書	講義内で指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

地方財政論・公共政策入門・地域経済論

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼に設定する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
社会政策	徐　堯	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

資本主義経済と民主主義政治を前提とする現代国家は、社会政策を通じて雇用関係システムと社会保障システムの機能不全に対処し、社会的再生産を図る。1970 年代以降、労働市場の流動化、女性の就業率の上昇、福祉の市場化・民営化などに伴い、社会的リスクの構造が転換すれば、雇用政策と社会保障制度の一層の連携が求められるようになった。

本講義では、労働、所得保障、社会福祉などの領域で展開される政策を取り上げ、現代の社会政策における主要な論点を整理する。特に、介護政策、子育て支援対策、ワークライフバランス（WLB）政策といった新しい社会政策の潮流に焦点を当て、制度的背景や政策的課題について解説する。

（3）到達目標

① 学問としての社会政策の基本的枠組みを理解し、従来の社会政策の到達点と限界を分析できるようになる。
② 日本型雇用システムの形成と変容について説明できる。
③ ケアの社会化が進行する現状について適切に理解し、説明できる。
④ 国際比較の視点を踏まえ、日本におけるワークライフバランス政策の展開について説明できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の目的と概要、社会政策のテーマと原理
2	社会政策の歴史（1）	欧米における社会政策の展開
3	社会政策の歴史（2）	日本における社会政策の展開
4	所得格差と再分配政策（1）	格差をめぐる諸概念、不平等の構造
5	所得格差と再分配政策（2）	さまざまな平等観、格差の測定方法、所得格差の推移
6	労働市場（1）	労働力取引の基本ルール、労働市場論
7	労働市場（2）	日本型雇用システムと周辺的雇用システム
8	雇用保障政策	消極的雇用政策と積極的雇用政策、雇用政策の展開
9	労使関係	労使和解体制、産業民主主義
10	ジェンダー視点で見る社会政策	労働力の女性化、男女間格差問題、男女平等政策の展開
11	社会政策とケア（1）	日本と諸外国の高齢者介護
12	社会政策とケア（2）	日本と諸外国の保育・子育て支援
13	社会政策と WLB	ワークライフバランス政策の意義と課題、各国の動向
14	福祉国家と福祉多元主義	福祉国家の形成と再編、福祉多元主義の行方
15	まとめとディスカッション	全体の総括

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本講義は講義形式で進める。授業中に紹介する基礎文献については、学生自身による自主的学習を促進することを目的とする。
各回の授業ではレジュメ資料を配布する。授業内容に関するコメントカードの提出を必須とする。

（6）成績評価の方法と基準

①期末レポート 60%、②授業後のコメントカード 40%

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	『社会政策：福祉と労働の経済学』	駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂	有斐閣	2,750 円
	『社会政策の国際動向と日本の位置』	居神浩	放送大学教育振興会	3,080 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会保障論 A、社会保障論 B、労働経済論

（9）オフィスアワー・その他

第 1 回目の授業では目的・概要および進め方について説明するため、必ず出席すること。質問等は授業の前後で対応する。受講生の構成によって授業の進度・内容を変更する可能性がある。参考書と配布資料を用いて解説を行うため、難易度は高い。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
労働経済論（労働市場の現在）	吉村　さくら	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

1990 年代以降、日本経済をとりまく環境は、グローバル化、少子高齢化などを主因に大きく変化してきた。そして、経済状況の変化にともない、非正規雇用の拡大や女性、高齢者の就業促進、兼業・副業の促進が図られ、働き方の多様化が進んでいる。そうしたなかではまず、これから社会に出るみなさんが、今日の我が国の労働市場においていかなるポジションに置かれているのかを理解することが重要である。
上記の点を踏まえ、「労働経済論」では、現在の労働市場におけるトレンドや問題点に重点を置き、受講者のみなさんに直接関連する事例、具体的には、若年層、女性、高齢者、外国人労働者といった対象を中心にとりあげ、現代日本における労働市場の現状と課題について考える。

（3）到達目標

① 現代日本の労働市場について理解し、その現状と課題について説明できる。
② 毎回の講義内容の要点を的確に把握し、それに対する自分なりの考え方を養うこと。
③ 自分の望む「働き方」に関して、現実的な展望を描くことができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の目的・概要、進め方の説明 労働経済論を学ぶことの意義
2	人口と労働力、産業構造	少子高齢社会における労働力と人口、産業別就業者の推移
3	労働時間と働き方①	労働時間の規定と現状、推移と背景
4	労働時間と働き方②	日本における労働時間と働き方の特徴と課題
5	「日本型雇用」とは何か	正規雇用とは何か。働き方とその変化
6	労働市場の変化と「流動化」①	非正規雇用とは何か。パートタイマーと派遣労働
7	労働市場の変化と「流動化」②	「雇用によらない働き方」の広がり
8	ジェンダーと労働市場①	女性労働市場の概観
9	ジェンダーと労働市場②	女性の就業実態、男女賃金格差
10	ジェンダーと労働市場③	性別役割分業をめぐる意識と実態、男女共同参画
11	高齢者と労働市場	高齢者の就業問題の概観
12	グローバル化と労働市場①	外国人労働者の労働市場参入
13	グローバル化と労働市場②	現代日本の外国人労働者の就業実態
14	グローバル化と労働市場③	現代日本の外国人労働者と社会的包摂
15	まとめ	「日本型雇用慣行」の変容と労働市場の変化

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業内で配布するレジュメ、参考資料に基づき、講義形式で授業を進めていく。
その際、受講生の理解度を高めるために、文献や視聴覚メディア等の各種教材を使用する。
また、授業内で受講者によるグループディスカッション等の実施や、発言を求める場合がある。
なお、定期試験のほかに、小テストを実施する。

（6）成績評価の方法と基準

①期末テスト（55%）、②小テスト（45%）

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし			
参　考　書	必要に応じて示す			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会保障論Ａ、社会保障論Ｂ、労働経済論、社会政策、ジェンダー論

（9）オフィスアワー・その他

質問等は、授業の前後に対応する。授業の進度・内容は、受講生の構成により若干の変更の可能性がある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
社会保障論Ａ（総論と現金給付部門の制度）	徐　堯	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

社会保障制度は、老齢、疾病、失業などの生活上のリスクに対処するための公的責任を明確化した仕組みである。しかし、人口構造の変化や財政状況の不安定化を背景に、社会保障給付の持続可能性が問われている。本講義では、社会保障の基本概念を解説するとともに、制度成立の社会的・経済的・政治的背景に対する理解を深め、社会保障改革の動向を主体的に評価する能力を養うことを目的とする。

社会保障論Ａでは、現金給付部門を中心に、日本および諸外国における社会保障の理念・理論・歴史を概観し、各制度の仕組み、目的、機能について基礎から考察する。

（3）到達目標

⑤　社会保障制度の全体像を把握する。
⑥　社会保障制度の背後にある理念や哲学について理解する。
⑦　社会保障を構成する各制度の内容とその動向についての知識を習得したうえで、制度全般が抱える課題を明らかにする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の目的と概要、社会保障の定義と範囲
2	社会保障の理念	社会保障の基本理念
3	社会保障の歴史	欧米における社会保障の歴史
4	社会保障を取り巻く環境（1）	社会経済
5	社会保障を取り巻く環境（2）	人口動態
6	公的年金制度（1）	老齢というリスク、年金制度の体系
7	公的年金制度（2）	公的年金制度の沿革、給付水準の決め方
8	公的年金制度（3）	被保険者と保険料、年金財政
9	公的年金制度（4）	最近の制度改正と課題
10	失業保障	雇用保険制度の仕組み
11	労働災害と社会保障	労働者災害補償保険制度の仕組み
12	公的扶助制度（1）	貧困・低所得問題
13	公的扶助制度（2）	生活保護制度の仕組み
14	公的扶助制度（3）	自立支援プログラム
15	まとめとディスカッション	社会保障の諸機能、財政方式、規模を測る指標

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本講義は講義形式で進める。指定の教科書を使用する。事前に教科書および参考書の関連する章を読んで予習し、事後には講義内容を復習し、指定された課題を自分の言葉でまとめることを求める（事前・事後学習の所要時間は2時間程度)。

各回の授業ではレジュメ資料を配布する。授業内容に関するコメントカードの提出を必須とする。

（6）成績評価の方法と基準

①期末レポート60%、②授業後のコメントカード40%

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	『はじめての社会保障：福祉を学ぶ人へ』4月時点での最新版が望ましい	椋野美智子・田中耕太郎	有斐閣	1,980円
参　考　書	『よくわかる社会保障（第5版)』	坂口正之・岡田忠克編	ミネルヴァ書房	2,860円
	『ちょっと気になる社会保障V3』	権丈善一	勁草書房	2,420円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会保障論Ｂ

（9）オフィスアワー・その他

第1回目の授業では目的・概要および進め方について説明するため、必ず出席すること。質問等は授業の前後で対応する。受講生の構成によって授業の進度・内容を変更する可能性がある。教科書と配布資料を用いて解説を行うため、難易度は高い。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
社会保障論Ｂ（現物給付部門の制度）	徐　堯	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

社会保障制度は、老齢、疾病、失業などの生活上のリスクに対処するための公的責任を明確化した仕組みである。しかし、人口構造の変化や財政状況の不安定化を背景に、社会保障給付の持続可能性が問われている。本講義では、社会保障の基本概念を解説するとともに、制度成立の社会的・経済的・政治的背景に対する理解を深め、社会保障改革の動向を主体的に評価する能力を養うことを目的とする。

社会保障論Ｂでは、現物給付部門を中心に、日本および諸外国における社会保障の理念・理論・歴史を概観し、各制度の仕組み、目的、機能について基礎から考察する。

（3）到達目標

⑧　社会保障制度の全体像を把握する。
⑨　社会保障制度の背後にある理念や哲学について理解する。
⑩　社会保障を構成する各制度の内容とその動向についての知識を習得したうえで、制度全般が抱える課題を明らかにする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の目的と概要、ビスマルク型社会保険とベヴァリッジ型社会保険
2	医療保険（1）	医療保険の基本原理、診療報酬制度の種類
3	医療保険（2）	国民皆保険のあゆみ、職域保険と地域保険の仕組み
4	医療保険（3）	保険料と保険給付、医療保険の財政
5	医療保険（4）	制度改革と課題
6	介護保険（1）	要介護リスク、介護保険制度の創設
7	介護保険（2）	保険給付とサービス提供
8	介護保険（3）	制度改革と課題
9	家族政策	仕事と子育てを両立するための支援策
10	社会福祉制度	児童、老人、障害者福祉制度
11	社会保険と民間保険	保険の仕組み、社会保険と民間保険の同異
12	新しい現金給付の可能性	社会手当、ベーシック・インカム
13	先進国の社会保障	イギリス、ドイツ、スウェーデンにおける社会保障の概要
14	後発国の社会保障	韓国と中国における社会保障の概要
15	まとめとディスカッション	日本の社会保障制度の変遷

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本講義は講義形式で進める。指定の教科書を使用する。事前に教科書および参考書の関連する章を読んで予習し、事後には講義内容を復習し、指定された課題を自分の言葉でまとめることを求める（事前・事後学習の所要時間は2時間程度）。

各回の授業ではレジュメ資料を配布する。授業内容に関するコメントカードの提出を必須とする。

（6）成績評価の方法と基準

①期末レポート60%、②授業後のコメントカード40%

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	『はじめての社会保障：福祉を学ぶ人へ』4月時点での最新版が望ましい	椋野美智子・田中耕太郎	有斐閣	1,980円
参　考　書	『よくわかる社会保障（第5版）』	坂口正之・岡田忠克編	ミネルヴァ書房	2,860円
	『ちょっと気になる社会保障V3』	権丈善一	勁草書房	2,420円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会保障論Ａ

（9）オフィスアワー・その他

第1回目の授業では目的・概要および進め方について説明するため、必ず出席すること。質問等は授業の前後で対応する。受講生の構成によって授業の進度・内容を変更する可能性がある。教科書と配布資料を用いて解説を行うため、難易度は高い。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
地方自治論（住民主体のまちづくり）	吉澤　佑葵	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

「地方自治」と聞くと難しく感じるかもしれないが、ゴミ収集から消防、福祉、教育に至るまで、私たちの毎日の暮らしは自治体の仕事によって支えられている。しかし、現在の自治体は、少子高齢化・人口減少や財政難などの困難な課題に直面している。

本講義では、まず日本の地方自治の理念や仕組み、戦前から現在に至る歴史を整理し、地方自治の全体像について学んでいく。その上で、地方分権改革や市町村合併、地方創生が地域に何をもたらしたのかについて考えたい。講義の後半では、行政だけでは解決できない地域課題に対する、NPO や地域コミュニティの役割にも目を向ける。ひとりの住民として、今後の地域のあり方を考える力を養うことが、本講義の目的である。

（3）到達目標

① 地方自治に関する基礎的な知識を習得する。
② 地域の一員として、地方自治の観点から身近な地域の課題について考え、説明することができる。
③ 講義の内容をもとに、地域の課題の解決の方法について、論じることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	講義の進め方	ガイダンス
2	「地方自治」の理念と意義	「地方自治」とは
3	日本の自治体の仕組み	自治体の制度と役割：国・都道府県・市町村の役割分担
4	自治体議会の仕組み	自治体議会の制度と課題
5	自治体行政の仕組み	自治体行政の制度と課題
6	日本の地方自治の歴史①	戦前の地方行政
7	日本の地方自治の歴史②	戦後の自治制度改革：戦後改革から 1980 年代まで
8	地方分権改革の推進①	地方分権改革の潮流と背景
9	地方分権改革の推進②	地方分権改革の到達点と今日の課題
10	自治体合併の歴史と課題	市町村合併の歴史と課題
11	人口減少と地方創生	「地方創生」の背景と現状
12	地域コミュニティの現状と課題	自治会・町内会と新たな地域コミュニティ
13	NPO・住民協働	地域の担い手としての NPO と住民協働
14	政策と条例	政策とは何か：条例と政策法務
15	地方自治とまちづくり	持続可能なまちづくりに向けて

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に講義形式で授業をおこなう（パワーポイントやレジュメを併用）。くわえて、国や自治体の動向や取組み事例等を紹介する資料を配布する。講義内容を踏まえた理解度確認のためのコメントシートを記入してもらい、コメントシート回収後は、解答の解説等をおこなうこともある。予習は必要ないが、普段から国や自治体に関するニュース等に関心を持っておくことが望ましい。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（60%）、② 授業での課題（30%）、③ 授業貢献度（10%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	『これからの地方自治の教科書　改訂版』	大森彌・大杉覚	第一法規	2,750 円
	配布プリント			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

1 年時に政治学、行政学、公共政策系科目群を取得していることが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは、授業の前後に対応する。授業の進め方、内容等は第 1 回目の授業で説明する。なお、授業の進度・内容は、受講生の構成により若干変更の可能性がある。地域に関心がある幅広い学生を求める。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
農業経済学（農業・食料・農村地域をめぐる諸課題と展望）◆	槇平　龍宏	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

授業の内容として、特に理解を深めることを重視したい項目は以下のとおりである。①農業及び農業関連産業の特徴②わが国・特定地域の農業・農政を理解する上での国際比較の重要性③農業生産システムの特徴と農村地域社会の実態④農産物流通及びフードシステムの仕組みとアグリビジネスの展開⑤食料消費構造の特徴と新展開⑥世界の農業と食料需給⑦農産物貿易の経済理論と農業保護⑧食をめぐる豊かさとは何か⑨高齢化･少子化社会における食生活の特徴⑩現代社会と食文化－その接点と意義－⑪食をめぐる国際化の進展⑫現代社会における「食」をめぐる関心と利害関係、その関係の多様化と安定性の確保⑬食生活の広がり－需要者（消費者）と供給者（生産者）の接点と動機の多様化⑭農の現場と食の現場の距離の拡大と縮小という二極化の進展⑮農産物供給の安全性と持続性の確保⑯食をめぐるリスク管理を可能にするシステムの確立。

（3）到達目標

①農業や農業関連産業の存立構造を規定する食料の需給問題と、それを反映した農業政策や農産物市場の特質、農産物貿易のあり方について、また農業に特徴的な生産要素である土地と労働について、さらに食品関連産業の発展と食品安全をめぐる諸課題について理解を深める。食料需給構造やフードシステムから農業及び農業関連産業の課題を見通せるようになる。
②農村地域社会の諸問題を知り、課題解決のための諸施策について理解を深める。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本講義の概要と目的
2	農業経済学の領域と課題	農業・農業関連産業とは何か、「農業・食料・農業問題」とは何か
3	国際的に見た農業の多様性	農業や食料需給の多様性理解、比較農業・政策論の重要性
4	農産物貿易の理論と実態	国際マクロ経済・貿易理論と農産物貿易の実態
5	各国の農業・食料政策（1）	先進国農業・食料政策、フードシステムと食品安全問題
6	各国の農業・食料政策（2）	新興国、発展途上国の農業・食料政策
7	食料の需要と供給（1）	食料需要の所得弾力性・価格弾力性
8	食料の需要と供給（2）	食料供給・農産物市場の不安定性
9	経済発展と農業・農村（1）	農業史分野の研究成果から
10	経済発展と農業・農村（2）	戦後の農業経済分析の研究成果から
11	農業・食料技術の新展開	農業・食料をめぐる技術進歩と今後のイノベーションの方向性
12	農業・農村組織の展開	「組織間関係」に着目して農業・農村の組織をみる
13	農業経営多角化の論理	「経営戦略」に着目して農業・農村をみる
14	アグリビジネスの展開	アグリビジネスの経営戦略とフードシステムの変貌
15	おわりに	持続可能な農業・農村へ向けた政策的課題

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントとプリント資料を併用して講義形式で進めていく。講義の終了時に感想や疑問をリアクションペーパー（「ひとことカード」）に記入してもらい、次の授業の始まりの際に主だった感想や質問に対してコメントを行うことにより、要点の振り返りと疑問を解消し、講義内容の定着を図る。毎回配布するプリント資料は穴埋め形式とし、重要な語句や解法などを記入することにより、知識の定着と自ら考える力を養う。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに変わるレポート（80%）、②「ひとことカード」への感想・疑問等の記入（20%）の合計点数により評価をする。定期試験やレポートの回答例は、補講等を通じて解説する。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし。レジュメを配布する。			
参　考　書	必要に応じて紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済政策、地方自治論、地方財政論、地域経済論、環境経済学などの公共政策分野の諸科目

（9）オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後や変更がありうる。講義内容は連続しているため、特別な理由なく欠席はしないこと。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
地域福祉論	中畑 充弘	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

地域福祉は、社会福祉における新しい考え方であり新しい福祉サービスシステムである。2000年に社会福祉法が制定された以降、社会福祉のメインストリームとして着目されている。本講義ではソーシャルワーク実践にかかわる社会福祉援助の理念・方法と地域自立生活を支援する基盤となるシステムや条件整備について視聴覚教材なども援用しながら学習する。ソーシャルサポートの機能とは、個人を孤立・疎外させることなく、信頼・愛情・見守りなどの情緒的サポートや、具体的な手段的サポートである社会資源の提供、情報の交換により人を支えるものである。生活上のニーズ（苦悩・困難)、人生の見通し・希望などの個人因子と、それをとりまく環境因子のどこに問題があるのかを究明しよりよい地域福祉を醸成・推進していく様々な取り組みを学んでいく。社会的孤立をなくし自己肯定感をもちながら誰かのために役立つことのできる社会、豊かな人間関係に囲まれた「しあわせ」を希求する学問である。

（3）到達目標

①あくまで主体的な住民参加が原則であり、地域住民ができないことを公的サービスで支えていくという協業であることを理解する。
②地域内の声かけ・思い遣り・配慮・助け合いなどの交流を通じて豊かな人間関係を拡げ醸成していく実践が身につくようになる。
③学生諸君も主体性ある一市民として、地域の担い手である自覚をもって欲しい。地域住民自身が地域の問題に対応できる力を養う。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	地域福祉の歴史的展開	戦前/後 復興期から、現在の‘システム’としての地域福祉を考える
2	生活困窮者自立支援	生活困窮の状況と生活困窮者支援における地域福祉の役割を学ぶ
3	地域福祉の理念と考え方	社会福祉の目的である自立生活・地域自立生活支援のあり方を知る
4	地域福祉の主体と福祉教育	社会福祉協議会・学校教育・福祉政策の「協同実践」と地域の支え
5	行政組織と民間組織の役割	行政・社会福祉法人に加え登場する多様な組織を学ぶ　cf. NPO 法人
6	コミュニティソーシャルワーク	コミュニティソーシャルワークの考え方と特徴、専門職の役割を学習する
7	住民参加の方法と意義	住民が主体的に地域社会や福祉行政に「参加」することの意義を学ぶ
8	ソーシャルサポートネットワーク	左記 ネットワークの概要とエコロジカルアプローチについて学ぶ
9	社会資源の活用と開発	社会資源（ハード/ソフト）の内容と福祉サービスの開発について知る
10	福祉ニーズの多様化と把握	福祉ニーズの把握方法、アウトリーチ(出向き)・インタビュー方法を学ぶ
11	地域トータルケアシステム	左記 システムと保健・医療・福祉・介護との連携ネットワークを知る
12	福祉サービスの評価方法	多様な評価の仕組みとシステム、「プログラム評価」について学ぶ
13	災害支援と地域福祉	対人援助・ソーシャルワーク・生活再建・地域復興との関係を学ぶ
14	地域福祉の欧米比較・影響	イギリスの公私関係やアメリカのソーシャルワークについて学ぶ
15	介護予防・生活支援事業	介護制度の概要と支え合い体制づくり、介護予防・自立支援を学ぶ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習

基本的には、講義形式で授業を展開していく。配布したレジュメプリントをベースとして適宜、板書・パワーポイントと視聴覚資料を図示、併用しながら授業を進めていく。本講義は、自身を取り巻く家族や地域または共同体に密接した事象、身近な環境における諸問題を扱うので随時、身近な事例や意見、建設的かつ双方向的な議論を求めることもある（全くもって難解なものではない)。

（6）成績評価の方法と基準

①定期テスト50%　②授業中での課題20%　③小レポート20%　④授業への意欲的参加および平常点10%

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。レジュメを配布する。			
参 考 書	『地域福祉の理論と方法 第3版』	福祉臨床シリーズ編集委員会 編	弘文堂	2,700円
	『よくわかる地域福祉 第5版』	上野谷、山縣、松端 編	ミネルヴァ書房	2,376円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「地域」という連合符、例えば「―政策入門」「―経済論」「―金融論」「―実習」は勿論であるが、とりわけ生涯発達論・キャリアデザイン論・人間関係論・大月学入門・社会保障論・行政学・社会学・健康論・スポーツレクレーション実習は効果的。

（9）オフィスアワー・その他

日頃から、新聞（一般紙）の社会面、とりわけ「地方版」の記事を読み、福祉・保健・介護・医療などの諸問題について考えを巡らせておくとよい。授業の進度・内容は、受講生の構成（特別聴講生・市民の皆様の多少）により、若干の変更の可能性がある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
労働と法（働く前に知っておきたい労働のルール）◆	中野　宏典	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

法は、社会生活を営む上で不可欠のツールであり、法的なものの考え方に親しんでおくことは、法律を直接扱う職に就く場合は無論のこと、そうでない場合にも、さまざまな課題解決という場面で大いに有用である。本講義は、社会人として特に関係が深い労働法の基本的な知識を学ぶとともに、労働法を題材として、法的なものの考え方の基本を育み、今後、社会に出たときに少しでも役立つような内容とする。

パワーポイント資料を用いた解説と学生からの発言・意見交換に重点を置く。特別な準備・予習を求めるものではないので、気軽に参加し、意見を交わして、自分の世界を広げていただきたい。授業の後半では、模擬労働審判なども行いたい。

（3）到達目標

①労働三法（労働基準法、労働契約法及び労働組合法）を中心とした労働関係法規に関する基本的な知識・考え方を説明できる。
②実際の事例を題材に、現実の社会問題について、法的なものの考え方の基本を意識しながら積極的に議論し、課題を解決できる。
③答えの分からない問題に対しても自分なりの筋道を立てて答えを導き、他者に対し、判断過程とともに説明できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	法とは何か	労働法関係の前提となる法や契約に関する基礎知識
2	憲法と労働関係	憲法における労働権の位置付けと労働条件の基本原則
3	就職活動と労働法	採用、内定、試用期間を中心とした労働契約開始の場面
4	就業規則	就業規則の意義・効力と、作成や変更に関する規制
5	賃金	賃金支払いの諸原則と最低賃金制度
6	労働時間・休暇	労働時間の原則と例外、休暇に関する諸規制
7	安全衛生と労働災害	労災保険法を中心に労働災害に対する補償制度を概観
8	職場内トラブル	セクハラ、パワハラなど、職場内で生じるトラブル
9	企業秩序と懲戒	懲戒に関する基本事項、人事にも若干触れる
10	労働契約の終了	解雇に関する基本事項と解雇権濫用法理
11	アルバイトと労働法	期間雇用、パートタイム労働及び労働者派遣の概観
12	労働紛争解決	労働委員会による紛争調整と司法的解決手続、とりわけ労働審判
13	模擬労働審判	模擬労働審判の実施
14	労働組合と不当労働行為	労働三権の意義と労働組合、不当労働行為
15	団体交渉と団体行動	団体交渉の意義と具体的内容

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

毎回、テーマに沿ったレジュメを配布し、パワーポイント資料を用いて、実務経験も踏まえた基本的知識の説明を行う。裁判例や実務上の具体例、ニュースを挙げて、問題の所在や解決の方法をイメージしやすいようにする。できる限り毎回「今日の設例」を設定し、基本的知識を踏まえつつ双方向型で討議を行う。授業の最後に、出欠確認も兼ねて、簡単な感想を提出してもらう。

（6）成績評価の方法と基準

①授業における積極性及び感想（40%）、②定期試験に代わる期末レポート（60%）の合計点により評価する。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	労働法（Next 教科書シリーズ）第3版	新谷眞人（編）	弘文堂	2,530 円
参　考　書	有斐閣アルマ『ベーシック労働法』第9版	浜村彰ほか（著）	有斐閣	2,090 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

法学A・B

（9）オフィスアワー・その他

決まったオフィスアワーは設けないが、必要があれば時間を設けるので（要事前予約）、遠慮なくご相談されたい。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
政治学（民主主義と私たち）	吉澤　佑葵	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

「政治」という言葉には、権力争いや不祥事といったネガティブな印象があるかもしれないが、社会の利害を調整し、共通のルールを作るための不可欠な仕組みである。

本講義では、まず政治学のキーワードである「権力」や「自由主義・民主主義」といった基本概念について学び、国家や政府がどのような歴史を経て、現在の「福祉国家」という形態に至ったのかを考える。また、民意を政治に反映させるための「議会」や「選挙」の仕組み、利益集団の役割など、政治が実際に動くプロセス（政治過程）にも焦点を当てる。講義の終盤では、グローバル化が進む中での国家の役割や、現代日本政治の課題についても考えたい。国内外のニュースや社会での出来事を、客観的かつ批判的に捉えるための力を身につけることが、本講義の目的である。

（3）到達目標

① 政治学の基礎的な知識を習得する。
② ニュースや新聞の内容を政治学的な観点から関連付けることができる。
③ 習得した政治学の理論や知識によって、政治的事象を論じることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	講義の進め方	ガイダンス
2	政治学を学ぶ意義	政治学を学ぶための前提知識
3	権力とは何か	権力をめぐる諸理論
4	自由と自由主義	消極的・積極的自由と自由主義
5	自由主義と民主主義	自由民主主義体制の成立と課題
6	福祉国家とは	福祉国家の成立と課題
7	代表制と議会	議会の仕組みと議会制民主主義
8	執政部・官僚制	官僚制の課題と政官関係
9	政治過程とは①	政治過程のモデルと個人
10	政治過程とは②	政治過程における組織
11	選挙と政治参加	選挙制度と政治参加の多様化
12	現代のデモクラシー	デモクラシーをめぐる諸理論
13	中央地方関係・政府間関係	連邦制国家・単一国家における集権と分権
14	ガバナンス	ガバメントからガバナンスへ
15	現代の日本政治について	現代の日本政治の動向と課題

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に講義形式で授業をおこなう（パワーポイントやレジュメを併用）。くわえて、国内外の動向を紹介する資料を配布する。講義内容を踏まえた理解度確認のためのコメントシートを記入してもらい、コメントシート回収後は、解答の解説等をおこなうこともある。予習は必要ないが、普段からさまざまな分野のニュース等に関心を持っておくことが望ましい。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（60%）、② 授業での課題（30%）、③ 授業貢献度（10%）

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし			
参　考　書	『政治学　第2版』	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会	2,420 円
	『政治学 補訂版』	久米郁男・川出良枝［他］	有斐閣	3,740 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

行政学、地方自治論の履修を考えるものは、履修が望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは、授業の前後に対応する。授業の進め方、内容等は第1回目の授業で説明する。なお、授業の進度・内容は、受講生の構成により若干変更の可能性がある。国内外の政治に関心がある幅広い学生を求める。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
行政学（行政の仕組みを理解する）	吉澤　佑葵	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

現代社会において、政治的な決定の多くは行政を通じて具体化・実施され、私たちの生活に届けられる。したがって、今日の社会を理解するためには、政策の立案・実施を担う「行政」の構造と機能の理解が不可欠である。

本講義では、まず福祉国家化に伴う行政機能の拡大や官僚制論といった基礎的な理論について学ぶ。その上で、政治と行政の関係、日本の中央省庁の組織構造、公務員制度、および財政・予算の仕組みを体系的に解説したい。講義の終盤では、強い権限を持つ行政をどう監視・統制するかという「行政統制」や、人口減少時代に求められる「行政経営」のあり方についても目を向ける。行政の基本的な構造や機能を理解し、これからの行政のあり方を考える視座を養うことが、本講義の目的である。

（3）到達目標

① 現代の統治の仕組み（三権分立）から行政の役割について述べることができる。
② 行政学の基礎的な理論を述べることができる。
③ 行政学の理論を現実の問題に応用することができる。
④ 今後の行政と国民・住民の関係をふまえ、これからの行政経営のあり方を論じることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	講義の進め方	ガイダンス
2	行政機能の肥大化と福祉国家	行政機能肥大化の歴史と福祉国家化
3	行政学の歴史と展開	行政学の成立と展開
4	官僚制をめぐる諸論点	官僚制の基本的構造と諸理論
5	行政の管理と組織の理論	行政の仕組みとメカニズム
6	執政制度（議院内閣制と大統領制）①	議院内閣制と大統領制の仕組み
7	執政制度（議院内閣制と大統領制）②	各国の執政制度と日本の課題
8	日本の行政組織①	中央省庁の仕組みやその特徴
9	日本の行政組織②	中央省庁等の改革の意義と課題
10	日本の公務員制度①	公務員制度の仕組みと人事行政
11	日本の公務員制度②	現代における公務員制度の課題
12	財政の役割	予算・決算制度の仕組みと財政の現状
13	行政責任と行政統制	行政統制の手法と責任の関係
14	地方自治と自治体行政	地方自治制度の仕組みと自治体行政の役割
15	これからの行政経営	これまでの講義の振り返りと人口減少時代の行政経営のあり方

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的に講義形式で授業をおこなう（パワーポイントやレジュメを併用）。くわえて、政治・行政の動向を紹介する資料を配布する。講義内容を踏まえた理解度確認のためのコメントシートを記入してもらい、コメントシート回収後は、解答の解説等をおこなうこともある。予習は必要ないが、普段からさまざまな政治・行政のニュース等に関心を持っておくことが望ましい。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（60%）、② 授業での課題（30%）、③ 授業貢献度（10%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	『はじめての行政学　新版』	伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔	有斐閣	2,090 円
	配布プリント			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

1年生は政治学を履修することを勧める。関連科目：地方自治論。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは、授業の前後に対応する。授業の進め方、内容等は第1回目の授業で説明する。なお、授業の進度・内容は、受講生の構成により若干変更の可能性がある。国内外の政治・行政に関心がある幅広い学生を求める。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
人的資源管理論（企業の競争力を強化する従業員の管理）　◆	上笹　恵	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

企業が保有する経営資源のなかでも、組織の競争力の向上や維持にもっとも強い影響を与えるのが人的資源である。たとえば、世の中を大きく変えるほどの革新的な製品を開発し、自社製品への市場からの支持を高めるのは、優れた研究開発スタッフなどの存在による。また、長期にわたって顧客との良好な関係づくりを行うには、市場との接点で高い水準の対応ができる人材が必要となる。このような優れた人材は計画的に採用し、管理・育成していくことが重要である。

講義では好ましい人材を確保し、企業の長期的な発展を可能にするための人的資源管理の技術や視点について検討する。組織と個人との関係、採用、人員配置、訓練、業績管理や報酬体系などを網羅的に学び、真の意味で組織を強くする人的資源管理の方策を考える。企業の事例なども取り上げながら普遍性の高い理論を習得し、常に企業経営の現場に役立つ知見を持てるよう配慮する。

（3）到達目標

① 人的資源を強化するための理論や手法を習得し、それらが現場でどう活用されているのか説明できる。
② 自分が働く場を想像しながら学び、学んだ内容を将来設計に活用する視点を確立する。
③ 就職活動において企業に評価される要素がわかり、それに向けた準備につなげることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	はじめに	講義の進め方と全体像の紹介
2	人的資源管理の役割	経営資源と人、人的資源管理論の歴史、日本の人的資源管理の特徴
3	採用管理	採用計画、採用プロセス、採用に伴う不確実性への対策
4	配置・異動・昇進	初任配属、人事異動、自己申告制度、複線型人事制度
5	人的資源の訓練と開発①	ＯＪＴ、Ｏｆｆ-ＪＴ、ジョブ・ローテーション、自己啓発
6	人的資源の訓練と開発②	キャリア開発計画、選択型研修、選抜型研修
7	人的資源の訓練と開発③	ＯＪＴ改革、次世代リーダーの育成、イノベーターの育成
8	評価体系	人事考課の仕組み、評価基準の考え方、目標管理による評価
9	給与と福利厚生	報酬のタイプ、賃金構造、変動賃金、カフェテリアプラン
10	従業員関係	安全管理、従業員の健康、職場のセキュリティー
11	組織と個人の関係①	心理的契約、職務満足と忠誠心、組織コミットメント
12	組織と個人の関係②	従業員の欠勤、離職の種類、人的資源の退職防止策
13	多様性管理	ダイバーシティ・マネジメント
14	人的資源管理の事例	老舗企業に見る人的資源管理の手法
15	これからの人的資源管理	人的資源管理の新しい動き、資源の枯渇や消耗を避ける方策

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

板書内容を能動的に理解しつつノートを取り、応用力が効く知識や物の見方を身につける。授業の中頃に新聞記事から企業の事例などを紹介し、理論と実際の問題との接点について考える時間を常にもつ。また、学んだ内容をとなりにいる学生に説明したり、意見を言い合ったりする時間を設ける。なお、出席カードに書く質問や情報はプライバシーに配慮したうえで共有し、理解を深める。復習するときには、学んだ内容を文章で書く訓練を続けることを望む。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験（９０%）、② 授業への貢献度（１０%）。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	使用せず			
参　考　書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門、経営組織論などの科目を履修し、人的資源管理の本質をより深く理解することを勧める。

（9）オフィスアワー・その他

質問等には、授業の前後の時間またはTeamsを使って応じる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
経営戦略論（企業の戦略を学ぶ）◆	矢賀部　裕	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

経営戦略論は、企業が競争優位性を確立し、維持するために採用する戦略について学ぶ学問分野である。
この講義では、企業の外部環境（市場、業界、競合他社）と内部環境（資源、能力）を分析し、長期的な成功を収めるための戦略策定と実行について検討する。
また、演習において
① 基本的な事業分析フレームワークを体験することによって、経営戦略の理解を深める。
② ビジネスプランの簡易版を書けるようになり、起業者の実務を疑似体験する。

（3）到達目標

①経営戦略に関する基本的な概念と理論を理解する。
②実務に基づいたケーススタディを通じて、理論の応用力を養う。
③現代のビジネス環境における戦略の重要性を批判的に考察できるようになる。
④このようにして習得した知識を基礎に、農業や地場産業などの身近な事業に応用する能力を身につける。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	シラバス説明／経営戦略論の基本概念
2	全社・事業・機能戦略について	企業とは何か、企業の組織がどうなっているか、戦略意志決定がどのように行われるか
3	フレームワークについて①	事業方向性を決めるフレームワーク：アンゾフのマトリックス、PPM 分析
4	フレームワークについて②	業界構造分析のフレームワーク：PEST 分析、ポーターのファイブフォース
5	フレームワークについて③	事業戦略立案のためのフレームワーク：3C 分析、SWOT 分析
6	演習	身近な製品を例にとって、フレームワークを使い解析する
7	全社戦略：企業の中核技術	演習フィードバック／コア・コンピタンス、リソース・ベースド・ビュー（RBV）
8	全社戦略：多角化経営について	多角化企業について利点を学ぶ
9	全社戦略：垂直統合	垂直統合にについて学ぶ／ビジネスプランの書き方
10	ビジネスプランおよび演習	エレベータピッチ説明／演習
11	全社事業戦略：ブルーオーシャン	レッドオーシャン・ブルーオーシャンにについて学ぶ。
12	演習	エレベーターピッチの発表および講評
13	全社事業戦略：破壊的イノベーション	クリステンセンの理論解説
14	全社事業戦略：両利きの経営	破壊的イノベーションの解決策とも言われており、深堀する能力と探索する能力を学ぶ
15	機能戦略：製品ライフサイクル	製品ライフサイクル学ぶ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントを用い、講義形式で進める。講義では重要事項は板書するようにする。日頃から、講義で学んだ内容とのつながりを意識しながら企業活動に関する情報に触れることで、経営戦略の知識やものの見方を身につけていってもらいたい。また、学生は自らプレゼンテーションを行うことで、理解力をさらに高めるようにする。

（6）成績評価の方法と基準

①期末レポート（60%)、②授業内の課題・授業貢献度等（40%）の合計により、総合的に評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門を受講することが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況によるスケジュールの前後や変更がありうる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
人間関係論（企業内で形成される多様な人間関係）◆	上笹　恵	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

企業などの組織内で形成される、多様で複雑な人間関係や仕事の進め方についてみていく。最初に、経営学の原点である科学的管理法が確立するなかで発生した労働疎外の問題を取り上げる。そして、労働疎外を緩和、解消するための新しい枠組みとして登場した、人間関係論の理論の枠組みを理解する。それらをふまえ、組織内で形成される非公式組織や同調と逸脱、集団の凝集性を高める手法などを検討する。また、従業員の動機付けに関するモデルを取り上げ、彼らの有効な管理の方向性を見出す。

講義では抽象度の高い理論を紹介するだけでなく、可能な限り多くの事例を取り上げ、職場で役立つ物の見方を提示する。全体の調和を保って組織を運営するために、私たち一人ひとりに何ができるのか、受講生とともに考えたい。

（3）到達目標

① 標準化や機械化が過度に進んだ職場で発生する労働疎外の現状について説明できる。
② 企業が従業員の意欲を高め、まとまりの良い組織をつくるための方法論を修得する。
③ 組織内で発生しがちな対立や葛藤について、建設的な緩和・解消の方法を提案できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	はじめに	講義の進め方と全体像の紹介
2	科学的管理論の展開①	経営管理の科学化、テーラーの科学的管理法、課業管理
3	科学的管理法の展開②	フォードの総合同時的管理論、科学的管理の功罪
4	人間関係論の芽生え	ホーソン工場実験、社会的欲求の充足
5	集団力学①	公式組織と非公式組織、集団の形成過程、集団凝集性
6	集団力学②	同調と逸脱、小集団の活用、プロジェクトチーム、会議と委員会
7	モチベーション①	満足と組織の成果、ハーズバーグの２要因説、公平説
8	モチベーション②	強化（学習）説、ポーターらの期待説、内発的動機づけ
9	組織ストレス①	組織ストレスのモデル、ストレスの諸相、バーンアウト
10	組織ストレス②	モデレーター要因の効用、対処行動、社会的支持
11	ジョブ・デザイン①	労働疎外と労働の人間化、職務充実・職務拡大、ハックマンモデル
12	ジョブ・デザイン②	ジョブ・デザインと組織との適合性、情報化とジョブ・デザイン
13	対人葛藤①	職場における人間関係、葛藤関係の効用、対人葛藤の動態
14	対人葛藤②	官僚制化と葛藤の関係、葛藤管理の実際、シュミットモデル
15	組織で働くために	ゆらぎと調和、組織における自由と規律

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

板書内容を能動的に理解しつつノートを取り、応用力が効く知識や物の見方を身につける。授業の中頃に新聞記事から企業の事例などを紹介し、理論と実際の問題との接点について考える時間を常にもつ。また、学んだ内容をとなりにいる学生に説明したり、意見を言い合ったりする時間を設ける。なお、出席カードに書く質問や情報はプライバシーに配慮したうえで共有し、理解を深める。復習するときには、学んだ内容を文章で書く訓練を続けることを望む。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験（９０%）、② 授業への貢献度（１０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	使用せず			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営組織論、人的資源管理論と関連付けて学ぶと理解が深まる。

（9）オフィスアワー・その他

質問等には、授業の前後の時間またはTeamsを使って応じる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
消費者行動論（複雑化する消費行動の説明と予測）◆	上笹　恵	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

現代の市場においては、企業や個人が手がけるマーケティングの手法が高度化するのに伴って、品質の良い商品やサービスが市場空間を埋め尽くしている。その市場のなかで、消費者は無数といえる商品群のなかから購買を含めた何らかの意思決定を行っている。消費者の意思決定のあり方は多様性を帯びており、その実像を解明することが本講義の目的である。

複雑で多様な消費者の行動を理解するには伝統的な理論を知り、緻密な考え方に基づいて人々の行動を観察する必要がある。それと同時に、最新の研究成果を把握しておくことが不可欠である。講義では消費行動の根底にある重要な理論と新しいトピックを紹介し、消費行動の分析を通じて自分や世の中への理解を深める点に主眼を置く。

（3）到達目標

① 伝統的な消費者行動の理論を正確に理解している。
② 学んだ理論をもとに、多様化する消費者行動を一定レベルまで解き明かすことができる。
③ 消費者行動の理解をふまえた企業の適切なマーケティング戦略について提案できる。
④ 自らの消費行動の水準を引き上げ、消費を通じた心理的な豊さを実感できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	はじめに	講義の進め方と全体像の紹介
2	消費者行動とは何か	消費者行動の定義、消費者行動とマーケティング活動との関連性
3	消費者の購買意思決定プロセス	情報検索、代替案の評価、購買と購買後の評価、消費者行動の類型化
4	伝統的選択行動アプローチ	ハワード・シェスモデル、ベットマンの意思決定モデル
5	知覚と学習	露出、注意、組織化、解釈、古典的条件付け、道具的条件付け、観察学習
6	記憶と態度	記憶のメカニズム、短期記憶、長期記憶、製品関与、多属性態度モデル
7	ブランド選択の心理	合理的な選択、認知的不協和、ブランドロイヤルティ
8	セグメンテーション	人口統計的変数、地理的変数、心理的変数、VALS、AIO アプローチ
9	説得的コミュニケーション	発信源効果、メッセージ効果、精緻化見込みモデル
10	店頭マーケティング	状況、インストア・マーチャンダイジング、非計画購買
11	集団	準拠集団、オピニオン・リーダー、口コミ
12	集団内での消費行動	顕示的消費、ティドロ効果、トリクルダウン理論
13	特別な消費行動	贈り物と消費者行動、贅沢な消費行動、神聖な消費行動
14	消費者間の相互作用	情報処理と多重ネットワーク、ソーシャルメディアと消費行動
15	最近の消費者行動研究	新聞記事や経営、マーケティングの専門誌から新しい研究成果を紹介

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

板書内容を能動的に理解しつつノートを取り、応用力が効く知識や物の見方を身につける。授業の中頃に新聞記事から企業の事例などを紹介し、理論と実際の問題との接点について考える時間を常にもつ。また、学んだ内容をとなりにいる学生に説明したり、意見を言い合ったりする時間を設ける。なお、出席カードに書く質問や情報はプライバシーに配慮したうえで共有し、理解を深める。復習するときには、学んだ内容を文章で書く訓練を続けることを望む。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験（９０%）、② 授業への貢献度（１０%）。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	使用せず			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門

（9）オフィスアワー・その他

質問等には、授業の前後の時間またはTeams を使って応じる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
マーケティング論（マーケティングの考え方に触れる）◆	矢賀部　裕	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

このコースでは、マーケティングの基本的な概念、戦略、手法について学び、実際のビジネス環境でそれをどのように活用するかを理解する。講義では、消費者行動、ブランド戦略、デジタルマーケティングなどの重要なテーマをカバーする。

マーケティングとは「製品を消費者に売り込む」ものではなく「製品が売れるようにする仕組みを作る」ためのものである。変化が激しい現代社会において、企業はさまざまな商品やサービスを開発し、消費者に受け入れられるような努力を続けている。過去から現在にいたるまで、企業は生き残りをかけてさまざまなマーケティング活動を展開していることを学ぶ。また、演習を通して、基本的なマーケティングのフレームワークを使えるようになることを目指す。

（3）到達目標

① マーケティングの基本的な概念と理論を理解する。
② 市場調査と消費者行動に基づいた意思決定の方法を学ぶ。
③ 企業の戦略的マーケティング活動を設計、実行できる能力を身につける。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	シラバス説明／マーケティングの基本概念
2	マーケティングとは	ＳＴＰと４Ｐ／マーケティングの５つのステップ
3	BtoB と BtoC の違い	BtoB マーケティングと BtoC マーケティングの違いを理解する。
4	自社の現状把握①	3C 分析／PPM 分析／ファイブフォース分析
5	自社の現状把握②	SWOT 分析／PEST 分析
6	演習	身近な製品で分析を行ってみよう
7	ビジネスモデル①	演習講評／プラットフォーム戦略／オープン・クローズド戦略
8	ビジネスモデル②	ジレットやネスレのビジネスモデル／SPA 戦略
9	ビジネスモデル③	フリーミア戦略／マーケティングの７P
10	ビジネスモデル④	BOP マーケティング／４つの競争地位
11	ビジネスモデル⑤	イノベーター理論とキャズム／製品ライフサイクル
12	マーケティング理論①	水平思考／PASONA の法則／マインドシェア
13	マーケティング理論②	ハワード・シェスモデル／SNS（インフルエンサー、アンバサダー)
14	マーケティング理論③	結果価値と経過価値／コンテクスト・マーケティング／プロダクト・プレイスメント
15	マーケティング理論④	ドミナント戦略／ショールーミング、グルーポン／サービス・ドミナント・ロジック

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントを用い、講義形式で進める。講義では重要事項などは板書する。また、演習も途中段階で入れているので、自分の考えを述べてほしい。さらに、日常的に企業のマーケティング活動に興味を抱き、さまざまな記事に目を通してマーケティングに対する感性を養っていただきたい。

（6）成績評価の方法と基準

①期末レポート（７０%)、②授業内の課題・授業貢献度等（３０%）の合計により、総合的に評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営戦略論を受講することが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況によるスケジュールの前後や変更がありうる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
経営組織論（組織の構造づくりと従業員の動機づけ）◆	上笹　恵	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

企業にとっては、合理的で高い生産性を実現できる組織を作って運営し、外部環境への適応力を高め、売上や利益などの面で好ましい成果を獲得することが重要な経営課題である。そのためにはどのような組織にも適用できる原理を丁寧に学び、その考え方を柔軟に取り入れた組織づくりを進める必要がある。

講義では組織運営の伝統的な理論とともに最近の研究における特徴を紹介し、会社組織の全体を把握できるようにする。主に大企業が採用する組織戦略を取り上げ、その有効性や課題を探っていく。また、組織の形式面からのアプローチに加え、組織構成員の心理的な側面からのアプローチについても学ぶ。それは、多様な価値観を持つ従業員の動機づけをどう行うかという問題である。これら二つの観点から、厳しい外部環境に適応できる組織運営のあり方を検討する。

（3）到達目標

① 組織設計および運営の基本理論を身に付け、組織の発展を可能にする物の見方ができる。
② 組織構成員の動機づけの方策を学び、活力のある組織づくりを行うための視点を提示できる。
③ 組織内で発生しがちな問題とその建設的な対処方法について、理論をふまえた提案ができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	はじめに	講義の進め方と全体像の紹介
2	経営組織の意義	組織とは何か、経営戦略と組織、経営組織論の生成・発展
3	経営組織の基本概念	ラインとスタッフ、集権と分権、ライン組織、職能別組織
4	経営組織の設計①	事業部制組織の特性と問題点、プロジェクト組織
5	経営組織の設計②	プロジェクトチーム、マトリックス組織、カンパニー制
6	組織設計の原理	組織デザインの手順、有機的組織と機械的組織
7	従業員の心理と行動①	モチベーションの概念、コミュニケーションの類型
8	従業員の心理と行動②	リーダーシップの概念と型、変革型リーダーシップ
9	組織文化	組織文化の形成過程、組織文化の機能
10	組織間関係	組織間関係論の発展、組織間関係と経営戦略
11	経営組織と倫理	組織の犯罪、反社会的行動、内部告発、組織と市民道徳
12	経営組織の今日的課題	企業統治、M&A、多国籍企業の組織構造
13	組織の変革①	組織変革の意義、近視眼的変革、組織学習、知識創造
14	組織の変革②	組織変革の阻害要因、組織開発の概念と手法
15	組織デザインのあり方	構造アプローチとモチベーションアプローチの統合

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

板書内容を能動的に理解しつつノートを取り、応用力が効く知識や物の見方を身につける。授業の中頃に新聞記事から企業の事例などを紹介し、理論と実際の問題との接点について考える時間を常にもつ。また、学んだ内容をとなりにいる学生に説明したり、意見を言い合ったりする時間を設ける。なお、出席カードに書く質問や情報はプライバシーに配慮したうえで共有し、理解を深める。復習するときには、学んだ内容を文章で書く訓練を続けることを望む。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験（９０%）、② 授業への貢献度（１０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	使用せず			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門、人的資源管理論を学び、組織運営の基本的な概念を理解しておくと良い。

（9）オフィスアワー・その他

質問等には、授業の前後の時間またはTeams を使って応じる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
経営イノベーション論（イノベーションとは何かを学ぶ）◆	矢賀部　裕	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本授業の目的は、イノベーションの理論的背景とその実践的なアプローチを学び、学生がイノベーションを理解し、自ら実践的なイノベーションを推進する能力を育成すること。特に、イノベーションが経済、企業、社会に与える影響を理解し、創造的な解決策を見出すための方法論を学ぶ。また、イノベーションといえば、新技術や新商品の開発といった活動を思い浮かべる人が多いであろうが、かつてイノベーションは「技術革新」と訳され、画期的な技術や商品を意味する用語であった。しかし、現代においては「新たな技術やアイディアを活用することで、それまでにない価値を生み出し、社会に大きな変化をもたらすこと」という本来の意味が浸透してきていることを考え発展させていく。

（3）到達目標

①イノベーションについて正しく理解すること。
②イノベーションを自ら考える土台を作ること。
③身近なもののイノベーションを感じられるようになること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	講義の進め方の説明／授業の全体像の把握
2	イノベーションとは何か	シュンペンターの新結合／ドラッカーの7つの機会
3	イノベーションのプロセス	イノベーションのプロセス（魔の川、死の谷、ダーウィンの海）
4	イノベーションのパターン	製品ライフサイクル／技術進捗のS字カーブ
5	企業の競争力の影響①	ラディカルイノベーションと既存大企業の不適応
6	企業の競争力の影響②	スマートフォンの事例
7	研究・技術開発のマネジメント①	技術ロードマップの作成と活用
8	研究・技術開発のマネジメント②	業界標準のマネジメント／デファクトスタンダード等
9	新製品開発のマネジメント	組織マネジメント・PMの役割
10	発想法	KJ法・NM法・シンキング法等
11	演習	発想法を用いたグループワーク
12	知的財産について	特許に触れてみよう
13	イノベーションの他種類	オープンイノベーション／リバースイノベーション／SECIモデル
14	環境からのイノベーション	環境観点からのイノベーション
15	生物模倣からのヒント	生物模倣（バイオミメティクス）について紹介

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントを用い、講義形式で進める。講義では重要事項などは板書する。また、演習も途中段階で入れているので、自分の考えを述べてほしい。また、日常的に企業のイノベーションに興味を抱き、さまざまな記事に目を通してイノベーションに対する感性を養っていただきたい。

（6）成績評価の方法と基準

①期末レポート（70%）、②授業内の課題・授業貢献度等（30%）の合計により、総合的に評価する。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし			
参　考　書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営戦略論を受講することが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況によるスケジュールの前後や変更がありうる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
観光ビジネス論（「稼ぐ観光」の設計：事業構想力の最前線）◆	永野　和雄	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

【目的】
観光需要を一時の「ブーム」で終わらせず、持続可能な「収益事業」へと転換させる経営ノウハウを学びます。自由な発想と、市場ニーズを捉える鋭い分析力を養い、自分だけのビジネスモデルをゼロから構想する力を手に入れます。

【概要】
本講義では「高収益ビジネスとしての観光」を徹底的に研究します。前半は、世界的な宿泊ビジネスの潮流やシェアリングエコノミー等の最新トレンドを分析し、中盤は、深刻な人手不足や旅館再生という日本の課題に対し、サウナやキャンプ、分散型ホテル等の成功事例などから収益化のセオリーを導き出します。後半はこれらの知見を用いて、大月市を舞台に実践的なビジネス創造に挑戦します。リサーチから収支計画策定、プレゼンテーションまでを行い、社会で即戦力となる「事業構想力」を身につけます。

（3）到達目標

①観光ビジネスの構造理解：観光の世界的潮流を理解し、持続可能かつ高収益なビジネスモデルの構造を多角的に説明できる。
②課題解決に向けた戦略立案：人手不足や地域衰退等の課題を分析し、収益性と社会性を両立させた解決策を論理的に導き出せる。
③実践的な事業構想と提案：地域の資源を活かした事業収支計画を策定し、独自のビジネスモデルを構築・策定・説明できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	経験経済と観光ビジネスの潮流	「モノ」から「体験」といった観光の価値の変化を、最新ビジネスの潮流から学ぶ。
2	オルタナティブツーリズムへの変遷	大衆旅行の限界を知り、個性を売る「オルタナティブツーリズム」の仕組みを解明。
3	環境問題と観光ビジネスの革新	世界が注目するエコビジネス（「環境保護」を利益に変える）の成功戦略を分析。
4	健康志向に適合する観光商品	ウェルネス需要の潮流を捉えた、驚異的な高収益ビジネスモデルに迫る。
5	シェアリングエコノミーと収益化	Airbnb 等の所有から共有へのシェア型サービスが変えた観光の新しいルール。
6	高収益宿泊業の世界的な潮流	世界の富裕層が積極的に選ぶブティックホテルなど宿泊業高収益化の最前線を解剖。
7	観光業の人件費問題の解決方法	人手不足や人件費高騰など、世界の成功例から、日本の観光業が生き残る術を探る。
8	実体験に基づく旅館再生の実際	斜陽する旅館を救うための、顧客設定からコスト削減まで、再生に向けた実戦セオリー。
9	アルベルゴ・ディフーゾの破壊力	街を一つのホテルにするイタリア発「分散型ホテル」の成功法則と日本での実例。
10	地方創生ビジネスの実際（1）	サウナで街が生き返る？地域資源を活かした新機軸のビジネスモデルをゼロから学ぶ。
11	地方創生ビジネスの実際（2）	キャンプ×循環型経営。地域を豊かにしながら稼ぎ出す、多角化収益の極意。
12	「大月市」観光ビジネスの魅力（1）	大月の魅力を再発見！持続可能なビジネスを立ち上げるための資源抽出と商品設計。
13	「大月市」観光ビジネスの魅力（2）	自分のアイデアを形に！大月を活性化させるビジネスモデルを磨き上げ、提案する。
14	「大月市」観光ビジネスの魅力（3）	理想を現実の「数字」に。事業を持続させるための具体的な収支計画を策定する。
15	「大月市」観光ビジネスの魅力（4）	観光ビジネスのプロへ。全 15 回の学びを凝縮し、次世代のリーダーへ向けた総括。

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本講義は「講義」と「ワーク」のハイブリッド形式で進めます。ビジュアル重視の講義でビジネスの理論を掴んだ後は、それを使って何をするか?を自問自答する個人ワークに進みます。授業外で資料を整え、クラス全体に向けて自分のビジョンをプレゼンする。この一連のプロセスは、就活や社会人生活で求められる「論理的思考力」と「事業構想力」を最短距離で鍛えます。単位取得を超えた、一生モノのビジネス・スキルを手に入れましょう。

（6）成績評価の方法と基準

①個人によるプレゼンテーション（40%）、②授業後の感想や課題への記入（40%）、③授業中の発言など授業への貢献（20%）

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	とくになし。			
参　考　書	授業内において随時紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

地域文化遺産論、経営学入門、マーケティング論

（9）オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後や変更がありうる。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
商法（会社）	山崎　恭代	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

日本経済の担い手である企業の中で、特に株式会社の企業活動は、株主（投資家)、企業、労働者をはじめ、国民生活全般に影響を及ぼす重要なものである。本講義では、会社法の基礎的知識を修得することを目標とし、株式会社の基本構造、社員の意義、株式の意義、株式制度、会社の機関（株主総会、取締役会）などを学ぶ。

株式会社制度の基本を理解したうえで、格差拡大、雇用不安、企業の倫理意識の低下などの、会社法の基本理念と密接に関連する現代的課題に対する問題意識を身につける。

授業内容の理解を深めるために、授業のテーマと関連する時事問題があれば、適宜紹介する。

（3）到達目標

①会社企業の基本的な仕組みと運営について説明できる。
②起業や株式投資に必要な株式制度について説明できる。
③会社企業の法的仕組みを把握することによって、経済、経営、会計学に応用できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法の説明等
2	会社の意義	会社とは何か、会社の法的意義を学ぶ
3	会社の種類	合名・合資・合同・株式会社という 4 種類の会社の意義と特色を把握する
4	社員の意義	社員とは何か、有限責任、無限責任とは何かについて学ぶ
5	会社の設立方法	株式会社の設立方法を修得する
6	株式の意義	株式の意義・内容、株券電子化の意義を考察する
7	株主の権利と義務	株主平等原則、株主の諸権利と義務について考察する
8	会社の機関①	株主総会の意義、権限、決議方法を学ぶ
9	会社の機関②	取締役会の意義、権限、決議方法を学ぶ
10	会社の機関③	監査役、会計参与の意義、権限について学ぶ
11	取締役の義務と責任	取締役の責任と、社外取締役、株主代表訴訟制度を学ぶ
12	株式会社の資金調達手段①	新株発行の意義、形態について学ぶ
13	株式会社の資金調達手段②	自己株式の取得とストックオプションについて学ぶ
14	企業の再編成（M&A）①	合併、親子会社について学ぶ
15	企業の再編成（M&A）②	株式交換・株式移転制度について学ぶ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式で授業を進めていく。配付した印刷物の空欄に用語を記入しながら、学習を進める。毎回、授業時間の数分を利用して、理解度を確認するための復習問題を 2～3 問程度出題する（授業内課題)。フィードバックとして、次回の授業で問題の解説を行うか、または、チームズで解説を送信する。特殊な用語や言い回しが多いため、事前の予習よりも、授業後の復習に重点をおいた学習をすること。授業で解説した教科書の該当箇所、板書をまとめたノート、配布資料を読んで、復習を行うこと。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（65%)、②授業内課題（35%）の合計点数により評価を行う。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	現代商法入門〔第 12 版〕	近藤光男〔編〕	有斐閣	2,310 円
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

授業後、教室で質問を受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
企業法務論（商法一般、消費者取引）	山崎　恭代	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

今日の日本経済の発展が、企業活動によってもたらされていることは、疑う余地がない。そして、その企業活動から生ずる生活関係を規制対象とする法律が商法である。商法には、「商法」以外にも、会社法、特定商取引法、消費者契約法など、広く、ビジネスに関するルールを含む。

本講義では、企業関係を規律する基本法である商法（商法総則・商行為）、旧統一教会の被害者救済のために成立した改正消費者契約法や、特定商取引法などで規定されている、悪質業者から消費者を保護するための各制度や、事業者が守るべき法的ルールについて、解説を行う。商取引において適用されている特則は、一般原則である民法との比較において、紹介、解説を行う。

（3）到達目標

①契約を締結する際の基本的なルールを説明できる。
②悪質商法の被害にあった場合に、適切に対処することができる。
③商業登記、商号、商業使用人、商業帳簿の仕組みを説明できる。
④普段利用している物品運送や旅客運送の仕組みと特色を、説明できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法の説明等
2	商法総則（1）	商人、消費者取引①（訪問販売）を学ぶ
3	商法総則（2）	商業登記、消費者取引②（ネガティブオプション①）を学ぶ
4	商法総則（3）	商号、消費者取引③（ネガティブオプション②）を学ぶ
5	商法総則（4）	商業帳簿、消費者取引④（電話勧誘販売）を学ぶ
6	商法総則（5）	商業使用人（支配人等）、消費者取引⑤（クーリングオフ①）を学ぶ
7	商法総則（6）	代理商、消費者取引⑥（クーリングオフ②）を学ぶ
8	商行為（1）	商行為①、消費者取引⑦（クーリングオフ③）を学ぶ
9	商行為（2）	商行為②、消費者取引⑧（クーリングオフ④）を学ぶ
10	商行為（3）	商事売買、消費者取引⑨（訪問購入①）を学ぶ
11	商行為（4）	企業取引の補助者①、消費者取引⑩（訪問購入②）を学ぶ
12	商行為（5）	企業取引の補助者②、消費者取引⑪（事業者の規制）を学ぶ
13	商行為（6）	運送営業（物品運送）、消費者取引⑫（通信販売）を学ぶ
14	商行為（7）	運送営業（旅客運送）、消費者取引⑬（特定継続的役務提供）を学ぶ
15	商行為（8）	匿名組合、消費者取引⑭（消費者契約法）を学ぶ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式で授業を進めていく。配付した印刷物の空欄に用語を記入しながら、学習を進める。毎回、授業時間の数分を利用して、理解度を確認するための復習問題を、2～3問程度出題する（授業内課題）。フィードバックとして、次回の授業で問題の解説を行うか、または、チームズで解説を送信する。特殊な用語や言い回しが多いため、事前の予習よりも、授業後の復習に重点をおいた学習をすること。授業で解説した教科書の該当箇所、板書をまとめたノート、配布資料を読んで、復習を行うこと。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（65%）、②授業内課題（35%）の合計点数により評価を行う。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	現代商法入門〔第12版〕	近藤光男〔編〕	有斐閣	2,310円
参　考　書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

授業後、教室で質問を受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
初級商業簿記Ａ（簿記の基礎を学ぶ）	永岩　尊暢	1	前期	2

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

企業で行われている様々な経済的諸活動を貨幣数値すなわち金額で表し、企業の業績の良し悪しを表わす財務諸表にまとめあげるのが簿記の役割であり、それを実行するのが経理業務と呼ばれる会社業務である。
本講義では企業の基本的な経理業務が一通りこなせる程度の簿記の知識と技術を習得し、6・11・2 月に実施される日本商工会議所主催簿記検定 3 級に合格することを目標としている。なお、初級商業簿記 A では、検定合格のための土台づくりを行うものとする。具体的期には、売掛金や未収入金のような債権科目の使い分けあるいは買掛金や未払金のような債務科目の使い分けの基礎的会計処理を学んでいく。

（3）到達目標

① 計数感覚が身につく。
② 会社の経営状態が読める。
③ 会社の経営活動から生じた数値の意味が分かるようになるための土台を作る。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	はじめに	簿記とは何か
2	簿記の基礎①	企業会計の意義、貸借対照表
3	簿記の基礎②	損益計算書、取引と勘定
4	簿記の基礎③	仕訳、転記、試算表
5	簿記の基礎④	６桁精算表、決算
6	簿記の基礎⑤	確認演習
7	期中取引の処理①	商品売買取引
8	期中取引の処理②	売掛金・買掛金・未収入金・未払金
9	期中取引の処理③	手付金・内金の処理・商品券
10	期中取引の処理④	クレジット売掛金
11	期中取引の処理⑤	手形取引～約束手形を中心として
12	期中取引の処理⑥	電子記録債権・債務
13	期中取引の処理⑦	有形固定資産の取得・修繕と改良
14	確認テスト	小テスト
15	まとめ	質疑応答

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

① 教科書に沿って進める。
② 授業後に確認問題に取り組み、次回の授業時に解説を行う
③ 電卓の持参は必須。

（6）成績評価の方法と基準

① 期末試験（９０%）、② 授業内課題（１０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	簿記講義　3級　商業簿記	渡部・片山・北村編著	中央経済社	880 円
問 題 集	簿記ワークブック３級商業簿記	渡部・片山・北村編著	中央経済社	880 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

中級商業簿記　工業簿記　　会計学

（9）オフィスアワー・その他

質問の際は、休み時間にて対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
初級商業簿記Ｂ（簿記の基礎を学ぶ）	永岩　尊暢	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

企業で行われている様々な経済的諸活動を貨幣数値すなわち金額で表し、企業の業績の良し悪しを表わす財務諸表にまとめあげるのが簿記の役割であり、それを実行するのが経理業務と呼ばれる会社業務である。

本講義では企業の基本的な経理業務が一通りこなせる程度の簿記の知識と技術を習得し、6・11・2 月に実施される日本商工会議所主催簿記検定３級に合格することを目標としている。

適宜、実践的な演習問題に取り組むことで、検定対策としての実践力を養うことができる。

（3）到達目標

① 計数感覚が身につく。
② 会社の経営状態が読める。
③ 会社の経営活動から生じた数値の意味が分かるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	はじめに	基本的な仕訳取引の確認
2	決算整理①	決算とは
3	決算整理②	現金過不足の処理
4	決算整理③	売上原価・売上総利益の計算
5	決算整理④	貸倒れの処理
6	決算整理⑤	有形固定資産の減価償却
7	決算整理⑥	貯蔵品
8	決算整理⑦	当座借越
9	経過勘定項目	経過勘定項目・精算表
10	株式会社会計①	株式の発行
11	株式会社会計②	剰余金の配当と処分
12	株式会社会計③	税金
13	伝票	入金伝票・出金伝票・振替伝票
14	確認テスト	小テスト
15	まとめ	質疑応答

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

① 教科書に沿って進める。
② 授業の終盤において、演習課題に取り組み、次回の授業時に解説を行う。
③ 電卓の持参は必須。

（6）成績評価の方法と基準

① 期末試験（９０%）、② 授業内課題（１０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	簿記講義　3級　商業簿記	渡部・片山・北村編著	中央経済社	880 円
問 題 集	簿記ワークブック３級商業簿記	渡部・片山・北村編著	中央経済社	880 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

初級商業簿記の学習後に、中級商業簿記・工業簿記を履修することが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

質問の際は、休み時間にて対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
中級商業簿記Ａ（株式会社の簿記を学ぶ）	永岩　尊暢	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

初級商業簿記の内容を理解・習得しているものを対象とし、その上位の日商簿記２級の内容の知識習得に向けて講義を行う。各単元ごとに一定量の問題に取り組み、スムーズに知識の定着が図れるよう、適宜問題に取り組んでいただくことになる。

本講義では、初級の内容を土台として、さらに内容を深く掘り下げていき、その範囲も広げていくことになる。例えば、減価償却の単元を例にあげれば、これまでの中心は定額法による会計処理のみを取り上げて学習を進めてきた。本講義ではさらに、定率法や生産高比例法も学んでいくことになる。さらには記帳方法として直接法に加えて間接法の処理も学ぶことになる。これにより、株式会社会計についての一定の知見を得ることができるであろう。

（3）到達目標

① 株式会社会計への理解を深めることができる。
② 日商簿記検定２級商業簿記の問題が解けるようになる。
③ 会計記事を読みこなすために必要となる会計知識を習得することができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	日商簿記３級の内容の確認①	基礎重要論点の確認
2	日商簿記３級の内容の確認②	振り返り演習
3	株式の発行、剰余金の配当と処分	株式会社とは
4	合併と無形固定資産	合併とは
5	法人税等と消費税	税金の分類
6	商品売買等	商品売買取引の記帳方法
7	手形と電子記録債権・電子記録債務	電子記録債権とは
8	銀行勘定調整表	銀行勘定調整表の作成
9	固定資産会計	減価償却について・定率法・生産高比例法等
10	固定資産会計	改良・修繕時の会計処理
11	リース会計	借り手側の会計処理を中心として
12	研究開発費	研究開発費について
13	有価証券	有価証券の範囲と分類
14	有価証券	有価証券の会計処理
15	確認テスト	終了テスト

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

① テキストにもとづいて進めていく
② 適宜演習問題に取り組む
③ 授業の事前・事後において、テキストにしっかり目を通すこと

（6）成績評価の方法と基準

① 確認テスト（８０%)、② 授業態度（２０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ガイダンスにて提示			
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

簿記の基礎を習得していることが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

質問に際しては、休み時間等に対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
中級商業簿記Ｂ（株式会社の簿記を学ぶ）	永岩　尊暢	１	後期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

初級商業簿記の内容を理解・習得しているものを対象とし、その上位の日商簿記２級の内容の知識習得に向けて講義を行う。各単元ごとに一定量の問題に取り組み、スムーズに知識の定着が図れるよう、適宜問題に取り組んでいただくことになる。

本講義では、初級の内容を土台として、さらに内容を深く掘り下げていき、その範囲も広げていくことになる。例えば、引当金の単元を例にあげれば、これまでの中心は貸倒引当金の会計処理のみを取り上げて学習を進めている。本講義ではさらに、退職給付引当基金・修繕引当金などその他の引当金も取り上げていくことになる。さらには、外貨建取引を取り上げ、その換算事例について、取引の発生時、代金の決済時、換算時に分けて考察を進めていくことになる。また、連結財務諸表の内容についても学んでいくことになる。これにより、株式会社会計についての一定の知見(日商簿記検定２級程度)を得ることができるであろう。

（3）到達目標

① 株式会社会計への理解を深めることができる。
② 日商簿記検定２級商業簿記の問題が解けるようになる。
③ 会計記事を読みこなすために必要となる会計知識を習得することができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	中級商業簿記基礎	基礎重要論点の確認
2	中級商業簿記基礎認②	振り返り演習
3	引当金	引当金について
4	外貨換算会計	為替換算
5	税効効果会計	税効果会計とは
6	収益認識の基準	収益認識の基本
7	精算表と財務諸表	決算手続きと精算表
8	帳簿の締め切り	各勘定の締め切り
9	本支店会計	本支店間取引
10	連結会計Ⅰ	資本連結Ⅰ
11	連結会計Ⅱ	資本連結Ⅱ
12	連結会計Ⅲ	成果連結
13	連結会計Ⅳ	連結株主資本等変動計算書
14	製造業会計	製造業を営む会社の決算処理
15	確認テスト	終了テスト

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

① テキストにもとづいて進めていく
② 適宜演習問題に取り組む
③ 授業の事前・事後において、テキストにしっかり目を通すこと

（6）成績評価の方法と基準

① 確認テスト（８０%）、② 授業態度（２０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ガイダンスにて提示			
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

簿記の基礎を習得していることが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

質問に際しては、休み時間等に対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
工業簿記Ａ（製造業の簿記）	永岩　尊暢	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

簿記は、それが適用される業種により、商業簿記や工業簿記などに分類される。商業簿記が商品売買業に適用される簿記であるのに対し、工業簿記は製造業に適用される簿記である。

製品を製造するためにかかった費用のことを原価といい、原価を算定する計算手続きを原価計算という。製造業において製造活動の記録・計算を正確に行うためには、原価計算により算定された数値が必要になる。工業簿記と原価計算は密接な関係にあり、原価計算により算定された数値が、工業簿記により記録されることになる。本講義では建設業等で用いられる個別原価計算を中心としてその計算方法の学習をすすめていく。

（3）到達目標

工業簿記Ａでは、造船業、建設業、工作機械業などのように、異なる個々の製品を個別に生産する業種(個別受注生産形態)に適用される原価計算(個別原価計算)の習得を目指している。

本講義を通じて、原価計算の初歩を習得することができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	工業簿記の基礎①	工業簿記とは
2	工業簿記の基礎②	工業簿記の基礎知識
3	工業簿記の基礎③	原価計算の基本的な流れ
4	材料費①	材料費の分類及び計算
5	材料費②	棚卸減耗発生時の処理・予定消費単価を用いる場合等
6	労務費①	労務費の分類及び処理
7	労務費②	予定消費賃率を用いる場合
8	経費①	経費とは
9	経費②	経費を消費したときの処理
10	個別原価計算①	顧客からの注文にもとづいて作る製品の原価の計算方法とは
11	個別原価計算②	製造直接費の賦課・製造間接費の配賦
12	部門別個別原価計算①	作業の分業化と部門ごとの原価の計算
13	部門別個別原価計算②	予定配賦率による部門別計算
14	部門別個別原価計算③	予定配賦額との実際発生額の差異を考える
15	確認テスト	内容の確認

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

1）　テキストにもとづいて進めていく
2）　適宜演習問題に取り組む
3）授業の事前・事後において、テキストにしっかり目を通すこと

（6）成績評価の方法と基準

① 確認テスト（８０%)、② 授業態度（２０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ガイダンスにて提示			
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

初級商業簿記Ａ・Ｂ履修後の受講が望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

質問に際しては、休み時間等に対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
工業簿記Ｂ（製造業の簿記）	永岩　尊暢	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

企業の生産形態は大きく分けて２つある。１つは、種類の異なる製品を個別的に生産する場合であり、もう１つは、同じ種類または異なる種類の製品を連続して大量に生産する場合である。このような生産形態の違いは、原価の計算方法にも影響を及ぼす。前者は、個々の製品ごとに原価を計算する個別原価計算が採用される。後者は、１原価計算期間に発生したすべての原価要素を集計して当月製造費用を計算し、それを完成品の数量で割って完成品の単位原価を計算する。本講義では、後者の総合原価計算についての学習をすすめていく。

（3）到達目標

コンビニエンスストアやスーパーなどで販売されている商品は、製造メーカーが大量に生産している製品である。大量に作られる製品の原価は、どのように計算するのであろうか。
本講義では、食品工業、製粉業、自動車工業などのように、同種製品を反復連続的に大量に生産する業種(市場見込生産経営)において用いられる原価計算の習得を目指す。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	工業簿記の基礎の確認	原価計算の基本的な流れを確認
2	総合原価計算	工程別総合原価計算
3	総合原価計算	組別総合原価計算
4	総合原価計算	等級別総合原価計算
5	工業簿記における財務諸表	工業簿記における財務諸表とは
6	工業簿記における財務諸表	製造原価報告書の作成
7	本社工場会計	工場会計の独立
8	本社工場会計	本社が製品を売り上げたときの処理
9	標準原価計算	標準原価の設定
10	標準原価計算	標準原価の計算
11	標準原価計算	原価差異の分析
12	直接原価計算	損益分岐点の売上高
13	直接原価計算	目標営業利益を達成するための売上高
14	直接原価起算	予算実績際分析
15	確認テスト	総復習

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

1） テキストにもとづいて進めていく
2） 適宜演習問題に取り組む
3）授業の事前・事後において、テキストにしっかり目を通すこと

（6）成績評価の方法と基準

① 確認テスト（８０%)、② 授業態度（２０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ガイダンスにて提示			
参 考 書				

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

工業簿記の基礎を習得していることが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

質問に際しては、休み時間等に対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
会計学Ａ（ビジネスの言語を学ぶ）	永岩　尊暢	１	後期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（２）授業概要と目的

本講義では、「会計学A」に引き続いて、財務会計領域の中の負債の会計、純資産の会計を学ぶ予定である。負債の会計では、引当金や社債等について取り上げ、純資産の会計では株主資本と純資産の関係等について学んでいく。

現代の企業においては親会社とその支配下にある子会社という形態で企業集団を形成することによって日々の経済活動を営んでいるケースも少なくない。そこで、１つの企業集団に属する企業の個別財務諸表を総合して作成する連結財務諸表の作成についても取り上げる。

企業活動の国際化にともなう会計の諸問題について学び、とりわけ外貨建取引を学ぶことによって、受講者は、会計基準の国際的統合化の必要性を理解することができよう。

（３）到達目標

① 会計用語の習得
② 財務諸表の形式への理解を深める
③ 会計記事を読みこなすことができ

（４）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	会計とは何か①	会計情報とは
2	会計とは何か②	会計規制の役割
3	会計の仕組み①	複式簿記と会計
4	会計の仕組み②	会計の基本的前提
5	財務諸表の作成原理①	財務諸表の体系
6	財務諸表の作成原理②	財務諸表作成のルール
7	棚卸資産の会計①	売上原価の計算
8	棚卸資産の会計②	棚卸資産の期末評価
9	固定資産の会計①	有形固定資産
10	固定資産の会計②	無形固定資産
11	固定資産の会計③	繰延資産
12	金融資産の会計①	有価証券、デリバティブ
13	金融資産の会計②	キャッシュ・フロー計算書
14	まとめ	質疑応答
15	確認テスト	小テスト

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

① レジュメに沿って進める。
②演習課題に取り組み、次の授業時に解説を行う。
③ 電卓を毎時間持参すること。

（６）成績評価の方法と基準

① 後期試験（８０%）、② 授業態度（２０%）

（７）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	授業時に指示			
参　考　書	授業時に指示			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

簿記を併せて学ぶことが望ましい。

（９）オフィスアワー・その他

質問については、休み時間に対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
会計学Ｂ（ビジネスの言語を学ぶ）	永岩　尊暢	１	後期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本講義では、「会計学A」に引き続いて、財務会計領域の中の負債の会計、純資産の会計を学ぶ予定である。負債の会計では、引当金や社債等について取り上げ、純資産の会計では株主資本と純資産の関係等について学んでいく。

現代の企業においては親会社とその支配下にある子会社という形態で企業集団を形成することによって日々の経済活動を営んでいるケースも少なくない。そこで、１つの企業集団に属する企業の個別財務諸表を総合して作成する連結財務諸表の作成についても取り上げる。

企業活動の国際化にともなう会計の諸問題について学び、とりわけ外貨建取引を学ぶことによって、受講者は、会計基準の国際的統合化の必要性を理解することができよう。

（3）到達目標

① 会計用語を習得する
② 財務諸表の形式への理解を深める
③ 会計記事を読みこなすことができる

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	負債の会計	負債の範囲と区分
2	負債の会計	引当金の本質と設定要件
3	負債の会計	社債、長期借入金
4	純資産の会計	株主資本と純資産
5	純資産の会計	払込資本
6	純資産の会計	組織再編
7	収益の会計	収益の計上基準
8	費用の会計	費用の計上基準
9	税効果会計	繰延税金資産と繰延税金負債
10	連結財務諸表	連結財務諸表の必要性
11	連結財務諸表	連結財務諸表の範囲
12	外貨換算会計	換算における会計問題
13	総括	授業のまとめ
14	時事問題	日本経済新聞等の記事を読む
15	確認テスト	小テスト

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

① レジュメに沿って進める。
② 演習課題に取り組み、次の授業時に解説を行う。
③ 電卓を毎時間持参すること。

（6）成績評価の方法と基準

① 後期試験（８０%）、② 授業態度（２０%）

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	授業時に指示			
参　考　書	授業時に指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

初級商業簿記を併せて学ぶことが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

質問については、休み時間に対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
経営分析（企業価値評価）	永岩　尊暢	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

初めて企業評価を学ぶ学生の皆さんが、基本的な分析を行えるようになることを目的に、企業評価に必要なポイントを提示しつつ、実際の企業の財務データを用いながら企業評価手法を学んでいきます。

様々な企業を分析していく中で、色々な企業を分析できるようになります。そして、その過程でこの指標は絶対に確認しておこうとか、私はこういう企業を高く評価するといった自分なりの分析や評価の軸が備わってきます。財務分析や企業評価には、こうすればできるという定石のようなものはありませんが、本講義では、実際の企業の財務諸表を用いながら分析のポイントについてわかりやすく説明をしていきます。

（3）到達目標

分析のコツを習得することで、全く知らなかった企業について数字を見ただけで業績が好調か、今後の業績は伸びそうか、どこに課題があるのか、ということが見えてくるようになります。ここで大事なことは、ポイントを押さえて目的に沿った分析ができるかという点にあります。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の概要について
2	企業評価と財務諸表分析①	企業評価の概要
3	企業評価と財務諸表分析②	財務諸表分析の概要
4	貸借対照表の分析①	貸借対照表の分析に必要な知識
5	貸借対照表の分析②	貸借対照表の分析の方法
6	貸借対照表の分析③	貸借対照表の数字を用いた株式・企業価値評価
7	損益計算書の分析①	損益計算書の分析に必要な知識
8	損益計算書の分析②	損益計算書の分析の方法
9	損益計算書の分析③	損益計算書の分析を用いた株式・株式評価
10	キャッシュフロー計算書の分析①	キャッシュフロー計算書の分析に必要な知識
11	キャッシュフロー計算書の分析②	キャッシュフロー計算書の分析の手法
12	収益性分析	分析事例の研究
13	効率性分析	分析事例の研究
14	安全性分析	分析事例の研究
15	成長性の分析	分析事例の研究

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

企業の分析・評価に必要となる財務諸表の基礎として、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の基本と分析のポイントについて説明を行います。また、財務比率の分析を取り上げ、収益性、効率性、安全性、成長性の観点から企業の分析を行う手法について紹介していきます。適宜演習課題あり。

（6）成績評価の方法と基準

① 後期試験（８０%)、② 授業内課題（２０%)

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	なし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

初級商業簿記を履修していることが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

質問については、休み時間に対応する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
保険論（はじめて学ぶ保険の仕組み）◆	福地　幸文	2	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

この授業では、はじめて保険について学ぶ人を対象にして、主に民間の保険の仕組みや制度の現状などを、理論と統計を中心に学ぶ。自動車保険や年金保険など保険加入は生活に密着した身近な問題で、保険産業は募集関係だけでも延べ数百万人を超える人々が関わる一大産業になっている。一方、保険は複雑な仕組みで、自分の加入している保険の保障（補償）内容がよく分からないという人が多くいるのも事実である。しかし、順序立てて学べば比較的スムーズに基本的な保険制度を理解できるようになる。特にこの授業では、生命保険の保険料計算演習を実施し、より実践的に金融リテラシーを習得できる授業となるように努める。

（3）到達目標

① 保険の原理や機能を理解できている。
② 保険契約の基礎知識を習得している。
③ 社会保険と民間保険の補完関係を考察できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	くらしの中の保険	授業内容の説明、不安を減らすための方法、保険と貯蓄の違い
2	保険の原理１	リスクの概念、保険の基礎知識、保険の基本要素
3	保険の原理２	保険制度の基本基則、保険のマクロ経済的役割、保険料の構造
4	保険の歴史	保険のマクロ経済的役割、海上保険、火災保険、生命保険、日本の保険の歴史
5	現在の保険制度	保険を規制する必要性、保険規制の歴史と今後
6	保険契約者の保護	保険契約者の保護、保険会社の破綻とその対応
7	金融機関としての保険会社	保険会社の資産運用とポートフォリオ、予定利率と逆ざや問題、保険料計算演習
8	保険会社の経営課題	相互会社と株式会社、リスク細分化と新しい保険商品
9	生命保険商品	生命保険商品の種類、解約返戻金と契約内容を変更するための制度
10	火災保険	住宅火災保険、地震保険
11	自動車保険	自動車賠償責任保険（自賠責保険)、任意自動車保険
12	その他の保険	第三分野の保険、その他の保険
13	社会保険	公的医療保険、介護保険、雇用保険、労災保険
14	年金	長寿化と老後生活の保護、公的年金制度、企業年金
15	新しい保険の登場	天候保険と天候デリバティブ、CAT ボンド、代替的リスク移転

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

① 基本的に講義形式で行う（パワーポイントを投影する)。授業の配布資料を事前に Teams にアップロードする。
② Teams を使って課題を提示する（10 回を予定)。
③ 毎回、出席の確認をする。必要に応じて理解度の確認を行う。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験（５０%)、②授業の課題（４０%)、③ 授業貢献度（１０%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	はじめて学ぶ保険のしくみ　第3版	家森信義編著	中央経済社	2640 円
参 考 書	はじめて学ぶリスクと保険　第5版	下和田功編	有斐閣	3080 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

（9）オフィスアワー・その他

授業後に受け付けます（要予約)。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
日本文化講義Ａ（新聞・雑誌記事を中心に日本文化を学ぶ）	渡邊　浩史	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。

（2）授業概要と目的

新聞や雑誌で紹介された日本文化に関係する記事を中心に、そこから日本文化について様々な知識を習得するとともに、グループワークを通じてより深い理解につなげていく。講義の進め方としては、第１に新聞・雑誌で紹介された様々な日本文化に関する内容を学んでもらう。次に、そこで見出された問題点についてさらに深めていくために、受講者がディスカッションを通してより深い理解につなげていく。本講義を通して、世の中に生起する様々な日本の文化に関心をもち、今後自分たちが選択する専門分野の重要性について理解してもらうことも目的である。

（3）到達目標

① 新聞・雑誌記事の読解能力のスキルを学ぶ。
② グループワークでのディスカッションを通して、最近の日本文化の背景を学び、より深い〈情報〉の獲得を目指す。
③ 様々な日本文化に触れることを通して、専門分野で研究する重要性について理解できるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	新聞記事の基礎知識	新聞や雑誌記事の特徴・読むときの注意点などについて説明する
3	日本文化に関しての説明	幾つかの項目に分けて説明していく
4	新聞・雑誌記事による日本文化①	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
5	新聞・雑誌記事による日本文化②	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
6	新聞・雑誌記事による日本文化③	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
7	新聞・雑誌記事による日本文化④	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
8	新聞・雑誌記事による日本文化⑤	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
9	新聞・雑誌記事による日本文化⑥	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
10	新聞・雑誌記事による日本文化⑦	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
11	新聞・雑誌記事による日本文化⑧	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
12	新聞・雑誌記事による日本文化⑨	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
13	新聞・雑誌記事による日本文化⑩	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
14	新聞・雑誌記事による日本文化⑪	日本文化に関する話題を扱った記事を用いての講義・グループワーク
15	総括	全体のまとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は教員が提示する幾つかの日本文化の紹介・説明を受けた学生が、より深い理解度に到達するためにグループワークを行うという形式で進めていく。グループワークによって高められた理解度の成果については、毎回行うコメントペーパーによって確認する。

（6）成績評価の方法と基準

① 授業内課題（６０%)、② 定期試験に代わるレポート（４０%）の合計点により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会文化入門Ｃ１や履修後の日本文化講義Ｂなど。その他「社会文化分野」に関係する講義の積極的な履修が望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

講義に関する質問はオフィスアワーや Teams のチャット等でも受け付ける。授業の進度・内容は、授業の状況により若干の変更の可能性がある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
日本文化講義Ｂ（文学作品・雑誌記事を中心に日本文化を学ぶ）	渡邊　浩史	１	後期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（１）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

２．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

（２）授業概要と目的

日本文化に関して、後期は前期の日本文化講義Ａよりもより深い内容に迫っていく。後期は哲学的な内容や社会学的な内容をより深めた記事を扱い、そこから日本文化について様々な知識を習得するとともに、グループワークを通じてより深い理解につなげていく。講義の進め方としては、前期の日本文化講義Ａとほぼ同じ進め方で行う。第１に教員が選択した記事で紹介された様々な日本文化に関する内容を学んでもらう。次に、そこで見出された問題点についてさらに深めていくために、受講者がディスカッションを通してより深い理解につなげていく。本講義を通して、様々な日本文化に関心をもち、今後自分たちが選択する専門分野の重要性について理解してもらうことも目的である。

（３）到達目標

① 日本近現代文学作品の読解能力のスキルを学ぶ。
② グループワークでのディスカッションを通して、作品に現出する日本文化の背景を学び、より深い〈解釈〉の獲得を目指す。
③ 様々な日本文化に触れることを通して、専門分野で研究する重要性について理解できるようになる。

（４）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	文化とは何か	文化の定義
3	哲学的／社会学的記事での日本文化①	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
4	哲学的／社会学的記事での日本文化②	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
5	哲学的／社会学的記事での日本文化③	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
6	哲学的／社会学的記事での日本文化④	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
7	哲学的／社会学的記事での日本文化⑤	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
8	哲学的／社会学的記事での日本文化⑥	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
9	哲学的／社会学的記事での日本文化⑦	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
10	哲学的／社会学的記事での日本文化⑧	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
11	哲学的／社会学的記事での日本文化⑨	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
12	哲学的／社会学的記事での日本文化⑩	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
13	哲学的／社会学的記事での日本文化⑪	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
14	哲学的／社会学的記事での日本文化⑫	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
15	総括	全体のまとめ

（５）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業は教員が提示する幾つかの日本文化の紹介・説明を受けた学生が、より深い理解度に到達するためにグループワークを行うという形式で進めていく。グループワークによって高められた理解度の成果については、毎回行うコメントペーパーによって確認する。

（６）成績評価の方法と基準

① 授業内課題（６０%）、② 定期試験に代わるレポート（４０%）の合計点により評価する。

（７）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	授業内指示			

（８）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会文化入門Ｃ１や日本文化講義Ａなど。その他「社会文化分野」に関係する講義の積極的な履修が望ましい。

（９）オフィスアワー・その他

講義に関する質問はオフィスアワーや Teams のチャット等でも受け付ける。授業の進度・内容は、授業の状況により若干の変更の可能性がある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
アジア文化講義Ａ（アジアの言語と社会）	松岡　昌和	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。
2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

（2）授業概要と目的

本講義では、特に自他ともに認めるアジアの「多言語社会」であるシンガポール・マレーシア・台湾を取り上げ、その歴史から言語政策やマイノリティの運動など現代社会の状況までを言語という視点からとらえていく。言語は一般的にコミュニケーションの単なる道具で、中立的なものであるかのように見られているが、言語は地域文化や政治・経済と切り離して考えることはできない。言語教育・言語学習もまた、価値中立的な営みではなく、そこに文化・政治・経済の諸要因がはたらく。言語をとりまくこれらの要素は、特に「多言語社会」において顕著に見ることができる。言語と地域文化や政治・経済との関係を見ていくことを通じ、多様性に富むアジア文化について理解を深めていきたい。同時に、他国の事例を通じて、「多言語社会」日本の現状について考えていく契機にもしたい。

（3）到達目標

① 言語を文化・政治・経済の観点からとらえ、多言語社会や異文化コミュニケーションへの理解を深めていく。
② 言語をとりまくさまざまな問題を認識することで、批判的思考を身に着けていく。
③ 高等学校の世界史や公民科の知識を発展させ、アジア文化への理解を深めていく。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	言語とはなにか
2	言語と社会（1）	方言・国語・公用語
3	言語と社会（2）	多言語社会・ダイグロシア・言語政策・言語権・ピジン・クレオール
4	言語と社会（3）	言語帝国主義・World Englishes
5	シンガポールの言語と社会（1）	東南アジアの歴史と文化
6	シンガポールの言語と社会（2）	植民地統治・移民・「複合社会」
7	シンガポールの言語と社会（3）	英語国家としてのシンガポール
8	シンガポールの言語と社会（4）	華人社会としてのシンガポール
9	マレーシアの言語と社会（1）	多言語社会としてのマレーシアとマレー語世界としてのマレーシア
10	マレーシアの言語と社会（2）	英語化するマレーシア
11	台湾の言語と社会（1）	台湾の歴史と文化
12	台湾の言語と社会（2）	植民地統治・日本語教育
13	台湾の言語と社会（3）	戦後台湾の言語と社会
14	台湾の言語と社会（4）	民主化以降の多言語社会
15	まとめ	社会の多言語性を考える

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で行う。教科書は使用しない。毎回資料を配布し、スライドを使用して解説を行う。必要に応じて映像も用いる。中国語などアジア言語の学習は前提としないが、知識があると有用である。高等学校レベルの世界史や公民科の知識については、各自必要に応じて確認すること。試験では、知識の暗記ではなく、知識をどのように組み立てて議論を展開するかといった点を評価する。下記の参考書のほか、適宜講義において参考書を紹介する。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験（１００%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
参 考 書	『社会言語学のまなざし』	佐野直子	三元社	1,760 円
参 考 書	『東南アジアを学ぶ人のために』	中西嘉宏・野中葉編	世界思想社	2,420 円
参 考 書	『台湾の歴史と文化』	大東和重	中央公論新社	1,100 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

中国語、韓国・朝鮮語、フランス語、ドイツ語、英語など外国語関連科目、海外語学研修 B、アジア文化講義 B、国際関係論（A・B)、社会学（A・B）など

（9）オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
アジア文化講義Ｂ（海域アジアのなかの日本）	松岡　昌和	１	後期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

２．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

現在は過去の積み重ねの上にあり、歴史を知ることは現代の世界のなりたちを知る上で極めて重要である。一方で、歴史を見る際に現代の主権国家を過去に投影してしまう危険もある。本科目では、国民、国境、一元化された政府といった現代国家のかたちを前提とせず、広く海域アジアやグローバル世界のなかに日本列島を位置づけてその歴史について考えていきたい。それにより、「日本」の成り立ちの多様性を知り、歴史という営みを通じて批判的な思考を身につけることを目標とする。本科目では、主に古代から近世までの時代を扱い、一部近代についても触れる。

（3）到達目標

① 歴史を学ぶことで長期的で広い視野を身につける。
② 異なる世界を知ることで異文化に対する理解を深めていく。
③ 歴史上の資料や記録を読み解いていくことで、情報に対するリテラシーを身につける。
④ さまざまな歴史観・世界観を知ることで批判的な思考をできるようにする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	
2	海域アジア概論１	「日本」とは何か
3	海域アジア概論２	海域世界から日本を見る
4	通史編１（～9 世紀）	律令国家と東アジア
5	通史編２（10～12 世紀）	国交なき通商の拡大
6	特別編１	国風文化は「国風」か～唐物の歴史
7	通史編３（13～14 世紀）	モンゴル帝国と日本
8	通史編４（15～16 世紀）	倭寇の時代
9	通史編５（17 世紀）	「鎖国」という外交
10	特別編２	日本社会は「無宗教」か
11	通史編６（18 世紀Ⅰ）	互市システムと鎖国
12	通史編７（18 世紀Ⅱ）	東アジア・東南アジアの「伝統社会」
13	通史編８（19 世紀）	近代世界と東アジア
14	特別編３	近代化と「伝統の創造」
15	まとめ	

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で行う。毎回資料を配布し、スライドを使用して解説を行う。教科書は使用しない。必要に応じて映像も用いる。高等学校レベルの世界史・日本史の知識については、各自必要に応じて確認すること。試験では、知識の暗記ではなく、知識をどのように組み立てて議論を展開するかといった点を評価する。参考書は下記のほか、講義の際に適宜紹介する。

（6）成績評価の方法と基準

① 定期試験（１００％）

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
参　考　書	『東アジア海域のなかの日本 歴史・交易・文化』	山崎覚士	東方書店	1,980 円
参　考　書	『東アジア海域から眺望する世界史』	鈴木英明編	明石書店	4,180 円
参　考　書	『3 か月でマスターする 江戸時代』	野島博之ほか	NHK 出版	1,760 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義Ａ、国際関係論Ａ、世界史

（9）オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
欧米文化講義Ｂ（近世北アメリカ）	塚田　浩幸	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得)。
2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

（2）授業概要と目的

アメリカ合衆国がまだなかった時代の歴史をその国家の枠組みで書いてきた不条理さを克服し、近世北アメリカ史研究は先住民とヨーロッパ人のせめぎあいの時代として、その時代特有の見方がなされるようになっている。この授業では、ここ数十年の近世北アメリカ史研究の空間論的転回ならびに先住民論的転回の成果（どこからどこまでを研究対象にするか、誰の目線で叙述するか等の変化）をふまえ、先住民・植民者関係の様々な事象を、歴史上あるいは現代の他の地域にも適用できそうな（現にされているものも含む）概念やキーワードを使いながら考察する。

（3）到達目標

①これまでの専門的議論の歩みを理解するとともに、依然残っている問題を抽出するなかで、既存の歴史像や学問のあり方を批判的に問い直すことができるようになる。
②歴史に向き合う際の観点・見地の多様性を理解し、歴史上あるいは現代の問題を複眼的に考察することができるようになる。
③近世北米史像をベースにして、地域的特性・歴史的背景をふまえた合衆国理解を身につける。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	北米大陸／アメリカ合衆国の全体像
2	初期アメリカの研究史	フロンティア学説、空間論的転回、先住民論的転回
3	大陸史、植民地主義の類型	大陸的視座からみた近世史の流れ
4	大西洋史、奴隷制、1619 プロジェクト	奴隷制の法的根拠・正当化言説、ならびにその暴力的慣行の広まり
5	事件と構造、学問の自由とその制約	ポカホンタス助命の真偽をめぐる議論、歴史学研究の方法論上の植民地主義的問題
6	異文化コミュニケーション	不確実性低減理論、コミュニケーションのモデル
7	文化相対主義、翻訳方略、ジェンダー	ディズニー『ポカホンタス』視聴
8	男性的文化、女性的文化	ホフステードの文化の 6 次元などの議論をふまえて異文化衝突を考察
9	複合君主政、新しいブリテン史	アメリカ先住民を含むかたちでのイギリス帝国史の再構築
10	アイデンティティ	アイデンティティの複合性・重層性、他者化
11	ジェノサイド	ピークォート戦争を例にしたジェノサイドの構成要件・共犯関係の考察
12	セトラー・コンプレックス	17～18 世紀ニューイングランドの異人種間の同盟関係
13	先住民の複合国家	ホデノショニ（イロコイ）先住民の政体原理
14	合衆国の人民主権・連邦制国家の原理	独立戦争から強制移住までの対先住民関係・先住民政策の転換
15	文化相対主義の復習、異文化適応	ディズニー『ポカホンタス II』視聴

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

投影資料を用いた講義形式を主とするが、映画の視聴や、受講者どうしの少人数のグループで考えを共有する機会を設ける。また、予習・復習になる一次史料・二次文献をこちらで指定し、授業外でそれを読み授業内で解説することで専門的な議論に直に触れつつ、各自の理解を促進させる。各回（毎回の義務とはしない)、コメントシートを回収し、適宜次回の授業時などでそれに応答する。

（6）成績評価の方法と基準

①授業貢献度・コメントシート 25%、②文献の読解（3 つ）45%、③期末レポート 30%（授業内で扱った概念やキーワードを、歴史上または現代の他の事例、関連する映画その他文学作品、ないしは自分自身のことにあてはめて考察する）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

地域的にはアメリカやヨーロッパに関する科目、ならびに帝国主義・植民地主義の経験という意味では世界史全般。テーマ的には歴史、文学、国際法、国際関係、人種や民族、ジェンダーを扱う科目。

（9）オフィスアワー・その他

授業内容に関する質問はコメントシートを介して、または授業前後の教室で直接受け付ける。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
国際関係論Ａ（異文化間衝突と紛争予防の学習）	荒　哲	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

この授業では、中学校や高校で十分教えられてこなかったと思われる日本近現代史を国際関係論的視点に基づきながら学習する。その中でも特に19世紀後半の江戸時代末期から現代までの日本史の学習を行う。日本が欧米文化を吸収しつつ、富国強兵に基づいた近代国家の基礎を築きながら、その後、全体主義体制へと国家全体が傾倒し、帝国主義の道を歩んでいった過程を学ぶ。その後、アジア太平洋戦争に敗北し、戦後の冷戦環境の国際関係の中で平和国家構築を目指しつつも、一方で外交、安全保障面において対米依存を深化させ、とりわけ対米政策において独自外交を発揮できない現在の矛盾に満ちた日本外交と日本国内政治の特色を理解していく。

（3）到達目標

現代の日本社会文化の本質的背景をこの授業を通しながら理解できるようにする。日本近代化の歴史が実のところ、アジア蔑視感に基づいた内政・外交によって形成されてきた事実を一つ一つの史実を掘り下げながら理解できるようにする。そして、現在の日本社会に未だに根付く反民主的かつ反動的な文化的ないし社会的背景を説明できるようにする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	国際関係という言葉の意味について	オリエンテーションなど
2	日本を取り巻く環境	日本と近隣諸国（中国、朝鮮半島との関係）
3	幕末時代の国際環境	19世紀末の日本を取り巻く国際関係
4	日本の朝鮮半島支配	３・１独立運動について
5	日清戦争と日露戦争について	日本帝国主義の起源
6	第一次世界大戦について	世界史上初の総力戦とは
7	共産主義の勃興について	資本主義が生み出した社会矛盾と大衆運動
8	第二次世界大戦について	戦間期の欧米と欧米植民地主義
9	日本に期待したアジア民族主義者	フィリピン革命家、リカルテ将軍について
10	日本のアジア侵略の歴史	全体主義国家への傾倒、治安維持法の制定
11	東京裁判について　その１	明治時代以降の日本近代史について
12	東京裁判について　その２	東京裁判に見る国体護持の問題、戦争責任問題
13	ナチスの勃興とホロコースト	ユダヤ人に対する迫害と大量虐殺
14	戦後復興のヨーロッパ	非ナチ化政策と冷戦の始まり
15	現代日本社会の政治的諸問題	21世紀前後の日本政治の多様性。連続する保守主義と右傾化する日本社会の中の若者

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義では教師が作成したパワーポイントに沿った授業を展開する。授業終了直前の１５分前に各回の授業内容についての振り返りシートを作成し提出する。時折、映像を鑑賞しながら講義内容を理解できるような工夫を施しながら授業を展開していく。授業展開によってはグループ学習を行い、学習した内容を他のクラスメートに報告する為のプレゼンテーションを行うことを計画している。

（6）成績評価の方法と基準

期末テスト70%、授業ごとに提出される振り返りシートの内容20%、授業貢献度10%する。ただし、グループ学習によるプレゼンテーションが行われた場合は、授業貢献度の10%をプレゼンテーション評価に充当する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書				
参 考 書	日本政治史 -- 外交と権力 増補版	北岡伸一	有斐閣　2017年	2,200円
	日本史は逆から学べ	河合　敦	光文社　2018年	1,452円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義

（9）オフィスアワー・その他

月曜日　15時～16時、第8研究室にて。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
国際関係論Ｂ（異文化間衝突と紛争予防の学習）	荒　哲	１	後期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

２．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

（2）授業概要と目的

この授業では、１６世紀の終わり頃から始まったヨーロッパの大航海時代により欧米諸国の植民地支配を受けたアジア諸国における植民地史の学習をする。その後、１９世紀の後半から顕著となった日本帝国主義の歴史を主に学習する。同時に欧米諸国による植民地支配の歴史と比較検討しつつ、明治維新以降、日本がいかにして膨張主義あるいは領土拡張主義的外交を模索しながら、なぜ帝国主義の道を歩まざるを得なかったのか、その要因を探る。そして、最終的にアジア太平洋戦争という未曾有の惨禍を招いた要因を探りながら、複雑な国際関係の中で、今後日本がいかにして暴力の連鎖に依らない平和へのビジョンを構築していくかを考えていく。

（3）到達目標

中学校の社会並びに高校の日本史や世界史の授業において深く学ぶ機会が少なかったと思われる19世紀以降のアジアにおける欧米諸国による植民地史並びに日本帝国主義の歴史について基礎的な知識を習得する。アジア太平洋戦争がもたらした暴力と惨禍についても詳細に認識できるようにする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	国際関係という言葉の意味について	オリエンテーションなど
2	冷戦の始まり	第二次世界大戦に始まった冷戦とは
3	ヒトラーのナチズム	１９３０年代のドイツを席巻したナチズムについて
4	ホロコースト	なぜユダヤ人は殺されなければならなかったのか
5	戦後復興のヨーロッパ	戦後復興と社会分断に喘ぐかつてのドイツ占領下の国々
6	第二次世界大戦後のアジア	冷戦下のアジアについて
7	戦後復興の東南アジア	旧日本占領下にあった国々の問題
8	インドシナ紛争	アメリカのベトナム介入
9	カンボジア紛争	米軍撤退後のベトナム
10	南北に分断された朝鮮半島	朝鮮戦争について
11	アメリカの世界政策	CIA の暗躍について（イランの例、南米の例）
12	ジェンダーの文脈から見た歴史　1	社会史の中のジェンダー論について（映画、Casualties of War）
13	ジェンダーの文脈から見た歴史　2	近代化途上の日本社会の矛盾（映画、二十四の瞳）
14	現在の国際関係について	米中が台頭する国際政治
15	日本を取り巻く国際関係（総括）	２１世紀の日本を取り巻くアジアの国際関係について

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義では教師が作成したパワーポイントに沿った授業を展開する。授業終了直前の１５分前に各回の授業内容についての振り返りシートを作成し提出する。時折、映像を鑑賞しながら講義内容を理解できるような工夫を施しながら授業を展開していく。授業展開によってはグループ学習を行い、学習した内容を他のクラスメートに報告する為のプレゼンテーションを行うことを計画している。

（6）成績評価の方法と基準

期末テスト 70%、授業ごとに提出される振り返りシートの内容 20%、授業貢献度 10%する。ただし、グループ学習によるプレゼンテーションが行われた場合は、授業貢献度の 10%をプレゼンテーション評価に充当する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
参 考 書	国際政治史	小川浩之編著	有斐閣　2018 年	2,530 円
	危機の 20 年	EH カー（原 彬久　翻訳）	岩波文庫　2011 年	1,452 円
	想像の共同体	ベネディクト・アンダーソン	書籍工房早川2007年	2,200 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義

9）オフィスアワー・その他

月曜日　15 時～16 時、第８研究室にて。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
社会学Ａ（社会学基礎）	徐　堯	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

本講義は、初めて社会学に触れる学生のための入門科目として、社会学のものの見方と考え方を基礎から学ぶ。前期は制度的アプローチに基づき、「家族」、「ジェンダー」、「労働」、「福祉」、「社会階層」などを題材にして、社会学の全体像を提示する。後期は問題関心を社会調査へ接続し、データにもとづいて社会的事実を説明する基礎力を鍛える。理論と具体例を交えながら、現代社会の諸問題と諸現象に取り組み、日常を見つめ直す社会学的想像力を養うことを目的とする。

「社会学Ａ」では、近代化の社会理論を学ぶとともに、社会を構成する制度領域に即して社会学的知見を解説する。

（3）　到達目標

①社会学に固有の「言葉」、その意味と用法を習得する。
②「当たり前」や「常識」を相対化し、「私と社会」の関係についての理解を深める。
③社会学理論の発想とその応用について学び、現代社会の成り立ちを社会学的に理解する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	社会学への招待
2	理論と方法（1）	古典的な社会学者、社会学の基礎理論
3	理論と方法（2）	社会学の方法
4	行為と共同性（1）	相互行為と自己
5	行為と共同性（2）	社会秩序と権力
6	行為と共同性（3）	メディアと情報化
7	私的領域を問う（1）	家族と親密圏
8	私的領域を問う（2）	ジェンダーとセクシュアリティ
9	私的領域を問う（3）	ライフコースと高齢化
10	公的領域を問う（1）	国家とグローバリゼーション
11	公的領域を問う（2）	産業と労働
12	公的領域を問う（3）	福祉国家と福祉社会
13	公的領域を問う（4）	社会階層と社会階級
14	公的領域を問う（5）	文化と再生産
15	まとめとディスカッション	後期近代の理論

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本講義は講義形式で進める。指定の教科書を使用する。講義内容と関連する文献をたくさん読む必要がある。事前に教科書および参考書の関連する章を読んで予習し、事後には講義内容を復習し、指定された課題を自分の言葉でまとめることを求める（事前・事後学習の所要時間は2時間程度)。

各回の授業ではレジュメ資料を配布する。授業内容に関するコメントカードの提出を必須とする。

（6）成績評価の方法と基準

①期末レポート60%、②授業後のコメントカード40%

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	『社会学（新版)』	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之 ・町村敬志	有斐閣	3,850 円
参　考　書	『社会学の力：最重要概念・命題集（改訂版)』	友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編	有斐閣	2,750 円
	『社会学　第五版』	アンソニー・ギデンズ	而立書房	3,960 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会学Ｂ

（9）オフィスアワー・その他

第1回目の授業では目的・概要および進め方について説明するため、必ず出席すること。質問等は授業の前後で対応する。受講生の構成によって授業の進度・内容を変更する可能性がある。教科書と配布資料を用いて解説を行うため、難易度は高い。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
社会学Ｂ（社会調査入門）	徐　堯	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

本講義は、初めて社会学に触れる学生のための入門科目として、社会学のものの見方と考え方を基礎から学ぶ。前期は制度的アプローチに基づき、「家族」、「ジェンダー」、「労働」、「福祉」、「社会階層」などを題材にして、社会学の全体像を提示する。後期は問題関心を社会調査へ接続し、データにもとづいて社会的事実を説明する基礎力を鍛える。理論と具体例を交えながら、現代社会の諸問題と諸現象に取り組み、日常を見つめ直す社会学的想像力を養うことを目的とする。

「社会学B」では、方法論を中心に、社会現象の捉え方としての「社会調査」に関する基本的事項を概説していく。

（4）　到達目標

⑪　社会調査の目的と意義について理解する。
⑫　データの収集から分析まで、質的調査と量的調査に関する知識とスキルを実践的に習得する。
⑬　自ら問いを立ち、調べる力を身につける。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	社会調査とは何か
2	社会学と社会調査（1）	社会調査の歴史
3	社会学と社会調査（2）	社会調査の目的と種類
4	社会学と社会調査（3）	社会調査の進め方
5	社会学と社会調査（4）	調査企画とテーマ設定
6	社会学と社会調査（5）	社会調査の倫理
7	質的調査法（1）	質的調査の基本
8	質的調査法（2）	質的調査の実際
9	量的調査法（1）	調査票の作成
10	量的調査法（2）	対象者の選定
11	量的調査法（3）	郵送、面接、インタネット調査
12	量的調査法（4）	基本統計量を読む
13	量的調査法（5）	統計的推測
14	量的調査法（6）	データを分析する
15	まとめとディスカッション	社会調査の現代的課題

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本講義は講義形式で進める。指定の教科書を使用する。事前に教科書および参考書の関連する章を読んで予習し、事後には講義内容を復習し、指定された課題を自分の言葉でまとめることを求める（事前・事後学習の所要時間は2時間程度)。

各回の授業ではレジュメ資料を配布する。授業内容に関するコメントカードの提出を必須とする。

（6）成績評価の方法と基準

①期末レポート60%、②授業後のコメントカード40%

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	『入門・社会調査法』4 月時点での最新版が望ましい	轟亮・杉野勇・平沢和司編	法律文化社	2,750 円
参　考　書	『はじめての社会調査』	三井さよ・三谷はるよ・西川知亨・工藤保則編	世界思想社	2,640 円
	『最新・社会調査へのアプローチ』	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編	ミネルヴァ書房	2,750 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会学Ａ

（9）オフィスアワー・その他

第1回目の授業では目的・概要および進め方について説明するため、必ず出席すること。質問等は授業の前後で対応する。受講生の構成によって授業の進度・内容を変更する可能性がある。教科書と配布資料を用いて解説を行うため、難易度は高い。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
教育学Ａ（学校と社会）	喜多下　悠貴	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2．広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

現在、教育政策に係る国の諮問機関である中央教育審議会では、学校教育の教育課程の基準、方向性を定める「学習指導要領」の次期改訂に向けた論点整理が行われている。現行の学習指導要領では「主体的、対話的で深い学び」や「社会に開かれた教育課程」といった方針がキーワードとなっているが、次期学習指導要領においてもこうした方向性を踏襲しつつ、「探究的な学び」の一層の発展・深化に向けた整理が行われているところである。また、上記キーワードの実現には、学校と社会の連携がこれまで以上に不可欠なものとなっており、実際に教員以外の様々な専門職や地域人材が、ますます学校教育に深く関わるようになってきている。

本授業ではこの学習指導要領の読み解きを通して、受講者自身の経験に基づきながら、自らが受けた教育が求められた社会的背景を踏まえ、経験を相対化して理解できるようになることを目的とする。また、教員以外の学校教育の参画者についての理解を深めることで、学校と社会、教育と社会との関係性について理解を深めることを目指す。

（3）到達目標

①学校教育での自身の経験を問い直すことを通して、現代社会における教育を相対的、批判的に捉えられるようになる。
②学校教育に関わる多様な主体の理解を通して、現代の学校教育への要請や課題を多角的に捉えることができるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業計画の説明
2	近代学校教育のはじまり	近代学校教育のはじまり
3	学習指導要領を読む（1）	学習指導要領とは何か／学習指導要領の変遷
4	学習指導要領を読む（2）	現行学習指導要領のキーワードを探る
5	学習指導要領を読む（3）	次期学習指導要領のキーワードを探る
6	学習指導要領を読む（4）	関心に基づく演習・ワークショップ
7	学校と社会・チーム学校（1）	学校に関わる様々な主体と、多様化する教育課題
8	学校と社会・チーム学校（2）	教員の働き方改革
9	学校と社会・チーム学校（3）	スクールカウンセラー／スクールソーシャルワーカー
10	学校と社会・チーム学校（4）	ICT 支援員／部活動指導員（支援員）
11	学校と社会・チーム学校（5）	コミュニティ・スクール／地域学校協働活動
12	学校と社会・チーム学校（6）	コーディネーターという仕事
13	学校と社会・チーム学校（7）	企業等による教育プログラムの提供
14	学校と社会・チーム学校（8）	関心に基づく演習・ワークショップ
15	まとめ	授業の振り返り

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

各授業の前半はパワーポイント及び配布資料による講義形式で行うほか、後半は履修者による「話題提供」や、それを踏まえたディスカッションを行う。「話題提供」とは学生が主体となり数名１組のグループでテーマに関する事例等を発表し、その後ディスカッションを行うものである。授業時間外の学習としては、「話題提供」のための情報収集や予習を求め、配布資料等において復習を求める。授業後に課す感想や課題の提出を復習とし、次回授業冒頭で、履修者からのコメントに対してフィードバックを行う。

（6）成績評価の方法と基準

①定期試験に代わるレポート（８０%)、② 授業内の活動への取り組み状況（２０%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	なし			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

業の内容、進度は学生の人数や、学生からの要望等に応じて若干変更する可能性がある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第２（古典を読む）	伊藤　誠一郎	１	後期	２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

大学や短大などいわゆる高等教育機関で学ぶことの目的は、なによりも社会に出て有意義な社交ができるための教養を身につけることと、より広い視野からの観察力を養うことにある。こうした能力は、例えば、何十年も、何百年も前に書かれたが今日でも読まれ続けるような本、いわゆる古典を読み、著者の意図を理解しようと試み、そのために他者と議論するような作業によって、少しずつ、しかし、確実に鋼のようにしぶとく身につけられる。本演習では、古典といわれる著作から一冊選び、読書ノートを作り、発表し、それをめぐって議論をしていく。今年度は古代ローマの哲学者セネカの『怒りについて』などの著作を輪読する。経済学を作ったといわれるアダム・スミスは、『国富論』の前に『道徳感情論』という倫理学の本を書いており、そこでは、人々は幸福になるためには、自由な行為とともに自己抑制も必要であることが指摘されている。セネカは、スミスがこうした考え方を学んだ古代ローマの哲学者の一人であった。セネカを読むことで、経済自由主義だけでは解決できない現在の社会の問題にたいするヒントも多く学べるはずである。ゼミではそれと同時に、卒業レポート作成に向けて、各自がそれぞれに興味を持つ文献を選び、それについての読書レポートを作成し、報告・提出をしてもらう。

（3）到達目標

① 複数の人々との会話で自分の意見を、明確に伝え、会話が続けられるようにする。
② 読書ノートや輪読用のレジメをつくり、研究の仕方の基礎訓練をする。
③ より説得的な口頭の報告をし、適宜質疑応答ができるようにする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	自己紹介	相互のインタビューにもとづく他己紹介、ゼミでの目標
2	輪読	セネカ『怒りについて』の内容理解とそのための議論
3	輪読	セネカ『怒りについて』の内容理解とそのための議論
4	輪読	セネカ『怒りについて』の内容理解とそのための議論
5	輪読	セネカ『怒りについて』の内容理解とそのための議論
6	輪読、個人報告	セネカ『怒りについて』の内容理解とそのための議論、個人の読書報告
7	輪読、個人報告	セネカ『怒りについて』の内容理解とそのための議論、個人の読書報告
8	輪読、個人報告	セネカ『怒りについて』の内容理解とそのための議論、個人の読書報告
9	輪読、個人報告	セネカ『怒りについて』の内容理解とそのための議論、個人の読書報告
10	輪読、個人報告	セネカ『怒りについて』の内容理解とそのための議論、個人の読書報告
11	輪読、個人報告	セネカ『怒りについて』の内容理解とそのための議論、個人の読書報告
12	個人報告	個人の読書報告
13	個人報告	個人の読書報告
14	輪読	セネカ『怒りについて』の内容理解とそのための議論
15	輪読	セネカ『怒りについて』の内容理解とそのための議論

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

毎回全員が、『怒りについて』の 15 頁程度についての読書ノートを作成し、持参し、毎回１人が授業の最初に自らのノートを配布し読み上げ、それをきっかけに内容についての理解を深めるための質疑応答をする。その際、かならず毎回１人一回以上の発言を求める。司会は学生がおこない、時間管理もおこなう。それとは別に、各人が、教員との個別面談に基づいて決めた一作の著作(岩波新書、岩波文庫等)を読み、ゼミ内で一回報告し、それについて質疑応答する。

（6）成績評価の方法と基準

① 読書ノート作成や議論への参加などゼミ活動への努力（８０%)、② 各自選んだ著作の報告（２０%)。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『怒りについて』	セネカ	岩波文庫	1276 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

（9）オフィスアワー・その他

欠席をしないこと。議論に積極的に参加すること。履修を希望するものはできるだけ夏休み中に購入しておくことが望ましい。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第３（経済のマクロ的･政策的分析）	内藤　敦之	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

本演習では、最初に経済に関わる文献を読んだ上で、レポートを完成させることを目標とする。今年度は、前半で EU に関する文献を輪読し、後半では経済に関する各自のテーマによるレポート作成のための報告を行う。レジュメの作成方法、テーマの決定方法、文献の探し方等、必要な点も学習する。テーマは学生の希望によるが、基本的に経済に関わるものとする。参考までに、過去に受講者が選択したテーマは、バブル経済、高度成長、インフレーション、金融政策、仮想通貨、フィンテック、消費税、デジタル課税、社会保障、年金、格差と貧困、人口移動、少子化、非正規雇用、労働組合、AI と雇用、ワークライフバランス、行動経済学、ゲーム理論、情報の不完全性、スポーツ経済学、モチベーション理論、地域格差、地方財政、地域ブランド、地域通貨、ふるさと納税、観光経済学、農業、再生可能エネルギー、木質バイオマス、SDGs、エシカル消費、シェアリング･エコノミーなどである。

（3）到達目標

① 文章を読み、要約する能力を獲得すること。
② 自分で選択したテーマにふさわしい参考文献を探し、レポートにまとめる能力を獲得すること。
③ 経済に関する基本的な知識を理解した上で、討論に参加することができること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	内容説明とスケジュール決定
2	レジュメの作成	レジュメとは何か、レジュメの作り方、文章の表現
3	テキストの輪読１	レジュメの報告とディスカッション
4	テキストの輪読２	レジュメの報告とディスカッション
5	テキストの輪読３	レジュメの報告とディスカッション
6	研究テーマについて	問い・テーマとは何か、研究テーマの選び方、進め方
7	文献の探し方	情報の検索方法、文献の探し方、図書館の使い方
8	研究発表１	各自のテーマによる報告とディスカッション
9	研究発表２	各自のテーマによる報告とディスカッション
10	レポートの構成について	レポートの構成の仕方、引用の方法、参考文献の記載方法
11	研究発表３	各自のテーマによる報告とディスカッション
12	研究発表４	各自のテーマによる報告とディスカッション
13	研究発表５	各自のテーマによる報告とディスカッション
14	研究発表６	各自のテーマによる報告とディスカッション
15	研究発表７	各自のテーマによる報告とディスカッション

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

テキストの輪読を５週前後行い、その後、各自のテーマでの報告を行う。一人、最低３回報告を行う。報告後は簡潔な討論を行う予定。最後に報告を元にしたレポートを提出する。また、関連するレジュメの作成方法、レポートの作成方法、文献の探し方等についても適宜、レクチャーする。輪読の際は、報告者以外にも Microsoft Teams より課題を課すため、予習が必要である。各自の報告の際は、報告者以外予習の必要はない。テーマ及び、レポートに関しても適宜、面談を行う予定。

（6）成績評価の方法と基準

①報告内容（90%程度)、②報告回数、課題の提出状況、討論への参加状況等の授業貢献度（10%以内)。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『欧州複合危機』	遠藤乾	中央公論新社	946 円
参 考 書	特になし。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、基礎経済学、マクロ経済学A・B、ミクロ経済学A・B、経済データの読み方
その他経済系科目とは内容上の関連があるため、積極的な履修が望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは掲示の通り。ただし、それ以外の可能な時間に関しては別途知らせる。面談はオンラインでも可。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第６（地域・公共　財政研究）	山口　隆太郎	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

この基礎演習は、２年次「専門演習」につながる基礎演習科目である。新しく知る物事や考え方は、多くの場合書物を読むことから得られる。本基礎演習では、政府が社会・経済に関わる財政という問題を扱っていく。具体的には文献の内容を的確にまとめ、各人が持つ問題意識から内容に対して論点を設定し、これをもとに議論をしていく。また、自分で考えたことを他者に積極的に伝える、あるいは相手の議論に即して自身の考えをまとめるなど、これまでみなさんの教育課程では十分に行われてこなかったと考えられるトレーニングも行っていく。さらに、自身の興味のあるテーマをみつけ、文献を探して読み込むことで理解を深め、自身の意見をまとめていくことも行っていく。この演習を通して得られる能力は、２年次における専門科目や専門演習を履修するのに必要なものとなる。

（3）到達目標

①初歩的かつ良質な文献を的確に読解できる。
②文献の内容をまとめ、それに対する自分の意見、考えをまとめる。
③自分の考えを他者に伝える能力の修得。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	本演習の目的、概要
2	情報収集の方法	本の探し方を学ぶ
3	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
4	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
5	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
6	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
7	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
8	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
9	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
10	輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
11	課題に対する報告	ゼミで提示した課題について、調べて内容をまとめて報告する。
12	課題に対する報告	ゼミで提示した課題について、調べて内容をまとめて報告する。
13	課題に対する報告	ゼミで提示した課題について、調べて内容をまとめて報告する。
14	課題に対する報告	ゼミで提示した課題について、調べて内容をまとめて報告する。
15	まとめ	まとめ

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

輪読担当者は、文献を読みレジュメにまとめてくる。またそのときに論点をあげてくること。演習ではその論点を中心にディスカッションを行う。また、文献の探し方、調べ方なども適宜指導する。詳細については授業のなかで説明していく。

（6）成績評価の方法と基準

課題や毎回の演習における受講態度や発言内容を総合的に評価（100%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	大人のための社会科	井手・宇野・坂井・松沢	有斐閣	1,650 円
参 考 書	なし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

財政学、地方財政論

（9）オフィスアワー・その他

授業の進め方は第１回の授業で説明するので、必ず出席のこと。自分の学びたいことと本演習が関連するか迷う場合、事前に遠慮せず相談に来るようにしてください。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第７（環境政策・環境経済論）	佐藤　克春	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本ゼミは、環境経済論・政策論を扱う。ただ、ゼミの最初の４回は、森岡孝二『就職活動とは何か―まともな働き方の条件―』, 2011年, 岩波新書を読む。短大の２年は短く、学生はあっという間に進路選択を迎える。本書は日本の「就職活動」というシステムの特殊性、そして日本の特に若年層をめぐる働き方についての解説書である。本ゼミでは環境経済・政策論を扱う前に、大学生としての教養を付けるために、本書の輪読を行う。その後、環境経済・政策論の文献を輪読してゆく。さしあたり、大島堅一著『原発はやっぱり割に合わない―国民から見た本当のコスト』(2012年, 東洋経済新報社）を輪読する。2011年、福島第１原発事故という深刻な公害事件が発生した。被害者の救済・環境再生はもちろんの事、地球温暖化問題を含めた日本のエネルギー政策、再生エネルギーの普及を通じた農山村の振興といった地域開発のあり方までもが、改めて問われている。

また、参加者の関心に応じて、地球温暖化問題への国際的な取り組みや、脱炭素社会、再生可能エネルギーに関する論文・新書などを輪読する。幅広く環境問題に関心のある学生を歓迎する。また本ゼミでは環境問題の現場に触れ、現地の専門家に最新の動向を聞くフィールドワークも行う。参加は任意であるが、受講生の積極的な参加を望む。

（3）到達目標

① 環境問題に対する幅広い知見を習得する。
② 演習が終わっても、「自分が知りたいことを知る」ことができるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	自己紹介・ゼミの進め方・レジメの書き方のレクチャー
2	文献の輪読①	『就職活動とは何か』の輪読
3	文献の輪読①	『就職活動とは何か』の輪読
4	文献の輪読①	『就職活動とは何か』の輪読
5	文献の輪読①	『就職活動とは何か』の輪読
6	文献の輪読②	『原発はやっぱり割に合わない』の輪読
7	文献の輪読②	『原発はやっぱり割に合わない』の輪読
8	文献の輪読②	『原発はやっぱり割に合わない』の輪読
9	文献の輪読②	『原発はやっぱり割に合わない』の輪読
10	文献の輪読③	地球温暖化問題に関する文献の輪読
11	文献の輪読③	地球温暖化問題に関する文献の輪読
12	文献の輪読③	地球温暖化問題に関する文献の輪読
13	文献の輪読④	フィールドワークに関わる文献の輪読
14	文献の輪読④	フィールドワークに関わる文献の輪読
15	文献の輪読④	フィールドワークに関わる文献の輪読

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

ゼミでは毎回の発言を義務付ける。また、参加者個人がそれぞれ新聞記事を持ちより、時事問題について討議するアフターゼミを、ゼミ後に開催している。参加は任意であるが、環境問題だけでなく日頃から時事問題にアンテナを張る習慣を身に着け、自分なりの見解を説得的に他者に伝える訓練を行う。

（6）成績評価の方法と基準

① 演習での個人報告（７０%）、② 演習での発言（３０%）

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし			
参　考　書	講義内で指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門・公共政策入門・環境経済学

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼とする。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第１０（アカデミック・スキルズ入門）	槇平　龍宏	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

（2）授業概要と目的

文系でも理系でも、勉学は目的を持って行われるものである。その目的が研究であれ資格試験合格であれ自己啓発であれ、目的を明確に設定することが不可欠であるが、肝心の「目的の設定の仕方」を学ぶ機会は少なく、その学び方も必ずしも確立されているわけではない。

本演習では「アカデミックな目的の設定と達成のプロセス」に焦点をあてて、どのように目的を設定すればよいのか、またその目的を達成するためにはどのようにしたら良いのか、という大学生にとって重要な課題について、先人の様々な知恵に学び、自らのこれからの学びに「目的達成」を据えて取り組むことの意義を見いだせるようになりたい。演習という集団学習の場ならではの意見交換や議論を通じて、「学び方の学び」を身につけたい。

（3）到達目標

①テーマに関連した文献を自ら探し、内容を理解し、演習メンバーの前でプレゼンが出来るようになる。
②「目的の設定の仕方と達成する手法」について自らの考えをまとめ、レポートにすることができるようになる。
③グループワークを通じて履修生同士で議論し、得られた結論を教員やメンバーの前でプレゼン出来るようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	はじめに	本演習の概要と目的
2	目的を明確化する①	自らの興味関心を拓く
3	目的を明確化する②	興味関心の解決を目的化する
4	仮説を構築する①	仮説とは何か
5	仮説を構築する②	理論仮説と作業仮説
6	仮説を検証する①	データの読み方
7	仮説を検証する②	データの集め方と加工の仕方、分析の仕方
8	課題解決を政策化する①	政策論の基礎を学ぶ
9	課題解決を政策化する②	政策の種類と目的を学ぶ
10	残された課題を明確化する①	学習成果のまとめ方を学ぶ
11	残された課題を明確化する②	課題と展望を明確化する
12	効果的な発表をするには①	レジュメの書き方を学ぶ
13	効果的な発表をするには②	プレゼン資料の作成を学ぶ
14	レポート作成の技法	引用の振り方、参考文献の記載の仕方
15	おわりに	アカデミック・スキルズ習得を通じて「主体的な学問」について考える

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

グループワークを主体とした学習を重視する。履修生同士が議論を通じて交流し、プレゼン資料を準備し、メンバーの前でプレゼン報告を行うことを一連のアカデミック・スキルズ手法を用いて実践する中で身につける。テーマ設定についても、教員が与えるのではなく、同様の関心を持ち合う学生同士での検討を踏まえて行う。

（6）成績評価の方法と基準

①集団学習への参加態度（50%）、②プレゼンテーションの内容（50%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

・「公共政策分野」や「経済分野」を中心とする自らが興味を持っている諸科目
・コミュニケーションＢなど日本語読解・文書作成能力向上に資する科目はぜひ履修すること。

（9）オフィスアワー・その他

「公共政策分野」に興味関心を持つ学生、またその分野への編入学希望者を歓迎する。原則として上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後・変更がありうる。特別な用事なく欠席しないこと。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第１２（中国の経済と文化）	范　立君	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している　(専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

本演習は、中国の経済史を重視しながら、中国の経済とその背景にある文化について学ぶ。演習形式は参加者の関心と人数に応じて、講義と文献の輪読・報告・討論がある。演習内容は主に以下の３つがある。

第１、文章を読んで、文章の要約の方法について、学習する。第2、共通の文献などを読んで、要約や読書ノートなどを作成し、グループごとに分けて、プレゼンテーションしたり、討論したりする。第3、上記の勉強と理解を踏まえ、中国の経済と文化に関する基本知識を含め、グローバル社会における複眼的視点と思考力を養成する。

（3）到達目標

① 今後の中国経済関連の領域で勉学するための基礎学力をつける。
② 関連する新聞記事やニュースの内容を理解し、要約できるようにする。
③ 読書ノートの作成やゼミでの討論などを含め、基礎的プレゼンテーションができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	基礎演習の進め方・ルール、文献の紹介、スケジュール調整
2	動画資料	中国経済の動向関連の資料
3	要約の書き方	文献を読んで、要約の書き方を説明、練習する。
4	文献の輪読１	文献をゼミのメンバーとともに読み、理解を深める、そのたびに要約を書く。
5	文献の輪読２	文献をゼミのメンバーとともに読み、理解を深める、そのたびに要約を書く。
6	文献の輪読３	文献をゼミのメンバーとともに読み、理解を深める、そのたびに要約を書く。
7	レポートテーマの決定①	各自、レポートテーマと構想について、報告
8	レポートテーマの決定②	レポートに必要な参考文献について、報告
9	レジュメ・レポートの作成	レジュメ・レポートの作り方、報告の仕方
10	動画資料	鄧小平の一生と中国
11	議論１	担当者報告、議論、文献解説
12	議論２	担当者報告、議論、議論の仕方を身に着ける
13	レポート内容の確認	各自、レポートの簡単な要約を報告する
14	ケーススタディ	映像資料：中国の超高度成長関連、最終回のプレゼンテーションの課題説明
15	プレゼンテーション	グループ分けプレゼンテーションと議論

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本ゼミでは、新学期の最初の３回ぐらい、先生が時事問題やゼミ学習の関連内容を印刷物として配布し、ゼミ内の共通課題と輪読資料を提供する。４回目からメンバーが各自の興味テーマに基づいて、報告してもらう。ゼミの大体８回目の時期に卒業論文のテーマを決めてほしい。その後、卒論関連の報告をしてもよろしい。報告中に学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

（6）成績評価の方法と基準

① 報告・議論（80%）、② 授業貢献度（20%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	現代中国の中小企業金融	范　立君	時潮社	3,300 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）
※諸般の事情により、ゼミ内容を多少変更することがある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第１３（経営理論を社会へつなげる）	矢賀部　裕	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

経営学は、企業だけでなく、学校などの教育機関、市役所などの公的機関、病院や福祉施設などの医療機関などさまざまなものを対象とすることができる学問である。そのため、本演習では経営学のものの見方や諸理論などを通して、受講生がそれぞれ興味・関心のあるテーマを自由に選択し、２年次の卒業レポートにつながるような研究を進めることを目的とする。

本演習は、就職および編入試験において、基礎力を養うことを目的とする。具体的には、輪読による文献を読むということに対する慣れを促進することと、学生自身で興味・関心のあるテーマを選択し、発表する後半に分けられる。また、適宜グループワーク演習も行う。

（3）到達目標

①文章のまとめ、発表などの基礎力を身に着けること。
②グループワークを通して、コミュニケーション・論理的思考が取れるようになること。
③常に企業活動に興味・関心をもつようになること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	本演習の目的と進め方の説明、自己紹介、レポートの書き方
2	演習	組み合わせから新製品を考えてみよう
3	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
4	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
5	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
6	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
7	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
8	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
9	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
10	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
11	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
12	演習	ディベート体験
13	プレゼンテーション	各自、興味・関心のあることをプレゼンする
14	プレゼンテーション	各自、興味・関心のあることをプレゼンする
15	プレゼンテーション	各自、興味・関心のあることをプレゼンする

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本演習は大きく前半と後半に分けられる。前半は輪読を行うことにより、文献に慣れるようにする。また、文献より、文章の書き方を学ぶことも狙いである。後半は、受講生の側がそれぞれ自分の興味のあるテーマを選び、研究内容を発表する。できれば、卒業レポートに関する内容であることが望ましい。

（6）成績評価の方法と基準

①輪読の報告（50%)、②発表・授業貢献度等（50%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	授業内指示			
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学関連の科目をなるべく多く履修することが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

原則として、欠席しないことを求める。
ゼミ（内容、進度）は、人数により必ずしも上記の授業計画通りではない場合がある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第１５（日本近現代文学研究）	渡邊　浩史	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本演習は、日本近現代文学の観点から卒業レポート作成に向けた準備段階として講義を行っていく。本演習では「作家論／作品論／テクスト論」という日本文学研究の基本的な研究方法（方法論）を学んでもらい、２年次の卒業レポートにつながるような研究を進めることを目的とする。そこでは、各自で課題を設定し、内容を丁寧に分析し、他者にわかりやすく伝えることが重要になる。

本演習では、各自の問題意識に基づいた「発表」を行なうなかでこの方法論の強化に努めたい。具体的には、発表者が日本近現代文学作品の読解を行なっていくなかで頻出する様々な問題（思想・ジェンダー・社会等）についてゼミ生に提起し、ゼミのメンバーと議論し、その作品の新しい読み方について考察していくというものだ。ゼミでは、日本文学研究で最も基本作業となる作品読解に力点を置いてもらい、作品読解を通して見出される〈問題〉について考えていく能力を養ってもらいたい。

（3）到達目標

① 「作品論」という研究方法を学んでもらう。
② 「作品論」を用いて 文学作品を読解し、そこから魅力ある問題点を探り出す。
③ ①②をふまえ、他者に分かりやすく伝えることができるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	本演習の目的・概要・進め方・自己紹介
2	日本文学研究に関しての説明	日本文学研究の方法論　――作家論・作品論・テクスト論についての説明――
3	方法論の実践	教員によるプレゼンテーション
4	自由討論①	対象とする日本文学作品や方法論について議論する
5	自由討論②	対象とする日本文学作品や方法論について議論する
6	研究発表①	資料の種類やその意義について
7	研究発表②	引用の方法について課題についての検討
8	研究発表③	テーマにもとづいた、グループワーク　(ディスカッションなど)
9	研究発表④	テーマにもとづいた、グループワーク　(ディスカッションなど)
10	研究発表⑤	グループ発表
11	研究発表⑥	テーマ設定
12	研究発表⑦	執筆作業など
13	研究発表⑧	発表の意義、論理的な伝え方とは
14	レポート作成法	レポートの基本的な書き方についての説明
15	まとめ	今後について

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

・日本近現代文学に対する興味・関心があることが前提条件。
・本演習は、講義、グループワーク、ディスカッションを用いた授業形式で行なう。
・各自の発表に入ったら、教員の指示を待ちではなく、主体的／自主的な学びの姿勢で行動すること。

（6）成績評価の方法と基準

演習で行われる研究発表やディスカッションにおいての質疑応答などを総合的に評価していく（100%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	講義内で指示する			
参 考 書	講義内で指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本文化講義A、日本文化講義B、日本文学概説。

（9）オフィスアワー・その他

・オフィスアワーは掲示の通り。
・積極的な演習参加を求める（授業の進度・内容は、受講生の構成により若干の変更の可能性がある。）。
・特別な事情以外の欠席は認めない。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第１７（社会文化学入門）	松岡　昌和	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本演習では、2 年時での卒業レポート執筆をめざして、その基礎となる基本的知識の修得、各自の課題の発見、学問的洞察力の涵養を目的とする。演習では、まず教養演習で学んだアカデミック・スキルズについて改めて確認をし、課題文献を講読することで社会文化学の基本的な考え方を学び、各自の問題関心に応じた読書についての発表を行う。そして、学期末には卒業レポート執筆の基礎的作業となるブックレポートを作成する。演習では特定の課題文献をこちらで指定しており、また担当者の専門は狭義にはアジア史であるが、参加者の研究課題はこれに限定するわけではない。指導可能な主なトピックは以下の通り：近現代の世界史、東南アジア地域研究、20 世紀日本の大衆文化、ジェンダー、植民地主義、メディア、多文化主義、歴史教育、言語と社会など。

（3）到達目標

① 文献を読み、適切に要約し、論点を整理するスキルを身につける。
② 自身のテーマを設定し、その問題意識を的確に他者に伝えるスキルを身につける。
③ 社会と文化について、批判的な視点で捉えることができるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	内容説明、スケジュール調整
2	アカデミック・スキルズ１	レジュメの作成法、レポートの作成法
3	アカデミック・スキルズ２	調査の方法
4	文献講読１	報告と討論
5	文献講読２	報告と討論
6	文献講読３・個人報告１	報告と討論
7	文献講読４・個人報告２	報告と討論
8	文献講読５・個人報告３	報告と討論
9	文献講読６・個人報告４	報告と討論
10	文献講読７・個人報告５	報告と討論
11	文献講読８・個人報告６	報告と討論
12	文献講読９・個人報告７	報告と討論
13	文献講読 10・個人報告８	報告と討論
14	文献講読 11・個人報告９	報告と討論
15	まとめ	卒業レポート作成に向けての案内

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

文献講読および読書報告の担当者は、論点を整理して内容をレジュメにまとめておく。演習ではレジュメの内容をもとに担当者が口頭で報告を行い、参加者全員で討論を行う。報告者のみならず参加者全員が課題文献に予め目を通し、不明な用語については事前に調べ、理解できなかった箇所をきちんと特定しておくことが求められる。各自の読書についての報告の内容については、予め担当教員に相談の上決定することとする。

（6）成績評価の方法と基準

① 授業内報告と討論への参加（50%）
② レポート（50%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『ファッションで社会学する』	藤田結子、成実弘至、辻泉編	有斐閣	2,530 円
参 考 書	『ゆさぶるカルチュラル・スタディーズ』	稲垣健志編	北樹出版	2,530 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会文化分野各科目

（9）オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門基礎演習第１８（国家間・民族間の諸問題の学習）	荒　哲	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

専門基礎演習では、１年生の前期で履修した「教養演習」に基づき、２年生の後期に作成される卒業レポートへ向けて、研究に従事するための基礎力を養う。担当教員の専攻に則した内容と連動したテーマをまず学習し、それに基づき国際関係論一般をテーマとする広い領域での学習も同時に行う。主に教員が指定した書籍ないし論文を要約する訓練を行い、それに基づいた要約報告を行う。学習内容についてのディスカションをしながら、国際関係に関する基礎知識を習得し、批判的なものの見方に慣れていく。授業では、国際政治学、国際政治史関連の名著（例えばＥＨカー「危機の２０年」）などを読みながら、国際関係論、国際政治学の基礎を学習していく。またグループ学習をしながら、関心領域に関するリサーチの基礎的訓練を行う。

（3）到達目標

中学校の社会並びに高校の日本史や世界史の授業において深く学ぶ機会が少なかったと思われる19世紀以降のアジアにおける欧米諸国による植民地史並びに日本帝国主義の歴史について基礎的な知識を習得する。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	専門基礎演習について	オリエンテーションなど
2	国際関係論研究の基礎	その学問的潮流や現在の傾向について
3	有賀貞「国際関係史」を読む1	国際政治学、国際政治史、国際関係論を学習する意味や意義について考える
4	有賀貞「国際関係史」を読む2	国際政治学、国際政治史、国際関係論を学習する意味や意義について考える
5	有賀貞「国際関係史」を読む3	国際政治学、国際政治史、国際関係論を学習する意味や意義について考える
6	カー「危機の２０年」を読む　1	1918年から1939年までの欧州国際政治と第２次世界大戦を回避できなかった事情
7	カー「危機の２０年」を読む　2	1918年から1939年までの欧州国際政治と第２次世界大戦を回避できなかった事情
8	カー「危機の２０年」を読む　3	1918年から1939年までの欧州国際政治と第２次世界大戦を回避できなかった事情
9	アンダーソン「想像の共同体」について１	アジア植民地史を考える上での必読の文献を学習する。
10	アンダーソン「想像の共同体」について２	アジア植民地史を考える上での必読の文献を学習する。
11	アンダーソン「想像の共同体」について３	アジア植民地史を考える上での必読の文献を学習する。
12	各グループによる学習報告会　1	今まで学習した内容の中で特に関心を抱くに至ったテーマについての学習報告
13	各グループによる学習報告会　2	今まで学習した内容の中で特に関心を抱くに至ったテーマについての学習報告
14	各グループによる学習報告会　3	今まで学習した内容の中で特に関心を抱くに至ったテーマについての学習報告
15	各グループによる学習報告会　4	今まで学習した内容の中で特に関心を抱くに至ったテーマについての学習報告

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義では教師が指定した文献購読に沿った授業を展開する。授業終了直前の１５分前に各回の授業内容についての振り返りシートを作成し提出する。時折、映像を鑑賞しながら講義内容を理解できるような工夫を施しながら授業を展開していく。授業展開によってはグループ学習を行い、学習した内容を他のクラスメートに報告する為のプレゼンテーションを行うことを計画している。

（6）成績評価の方法と基準

期末テスト70%、授業ごとに提出される振り返りシートの内容20%、授業貢献度10%する。ただし、グループ学習によるプレゼンテーションが行われた場合は、授業貢献度の１０%をプレゼンテーション評価に充当する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	ワークブック国際関係論	小田桐　確	ナカニシヤ出版	2,300 円
参 考 書	想像の共同体	ベネディクト・アンダーソン	書籍工房早川	2,200 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義

（9）オフィスアワー・その他

月曜日　１５時～１６時、第８研究室にて。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門演習第２（Ａ・Ｂ）- 古典を通じて思想を学ぶ -	伊藤　誠一郎	２	前・後	各２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

社会の現実と、それにたいする人々の分析、つまり思想とはどのように関係あるのだろうか。人間は言葉を持って以来、現実の中で日々生きることだけでなく、それに対するさまざまな思いを語り、語り継ぎ、文字として記録してきた。歴史、文学、哲学、そして経済学にいたるまで、語られるもの、書き記されるものには、何らかの形で人間の思い＝思想が表現されている。では、そうしてできた思想は、逆に現実に対して何の関係もないたんなる感想や推測なのだろうか。本年度の本演習では、昨年度の基礎演習に続きエピクテトスの『人生談義』を取り上げ、これを輪読するなかで、こうした問題を考えたい。本演習では、この本を全員が毎回読書ノートをとり、それを元に議論していく。また、並行して、各自は卒業レポート作成をし、定期的に中間報告を行い、他のメンバーと議論を行う中で、レポートをさらに充実したものにしていく。

（3）到達目標

① 自ら考え、それを自発的に表現できる能力を養う。
② そのための手段である作文や報告の技術を身につける。
③ 資料などを使い、客観的に思考する能力を身につける。
④ 輪読を通じて、古典を読む力を養う。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	輪読	『人生談義』の内容理解とそのための輪読
2	輪読	『人生談義』の内容理解とそのための輪読
3	輪読	『人生談義』の内容理解とそのための輪読
4	輪読	『人生談義』の内容理解とそのための輪読
5	輪読、個人報告	『人生談義』の内容理解とそのための輪読、卒業レポートの中間発表
6	輪読、個人報告	『人生談義』の内容理解とそのための輪読、卒業レポートの中間発表
7	輪読、個人報告	『人生談義』の内容理解とそのための輪読、卒業レポートの中間発表
8	輪読、個人報告	『人生談義』の内容理解とそのための輪読、卒業レポートの中間発表
9	輪読、個人報告	『人生談義』の内容理解とそのための輪読、卒業レポートの中間発表
10	輪読、個人報告	『人生談義』の内容理解とそのための輪読、卒業レポートの中間発表
11	個人報告	卒業レポートの中間発表
12	個人報告	卒業レポートの中間発表
13	個人報告	卒業レポートの中間発表
14	輪読	『人生談義』の内容理解とそのための輪読
15	輪読	前期：『人生談義』の内容理解とそのための輪読 後期：卒業論集の作成

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

毎回全員が、エピクテトス『人生談義』の 15 頁程度についての読書ノートを作成し、持参し、毎回１人が授業の最初に自らのノートのコピーを配布し読み上げ、それをきっかけに内容についての理解を深めるための質疑応答をする。その際、かならず毎回 1 人一回以上の発言を求める。司会は学生がおこない、時間管理もおこなう。それとは別に、各人が、教員との個別面談を経たあと、卒業レポートの中間発表をおこない、それについて質疑応答する。

（6）成績評価の方法と基準

① 読書ノート作成や議論への参加などゼミ活動への努力（７０%）、② 卒業レポートの報告（３０%）。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	『人生談義(上)』	エピクテトス	岩波文庫	1353 円
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学説史Ａ・Ｂ

（9）オフィスアワー・その他

欠席をせず、議論に積極的に参加すること。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門演習第３（Ａ・Ｂ）（経済のマクロ的・政策的分析）	内藤　敦之	２	前･後	各２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

本演習では、主に経済に関わる分野を学習した上で、最終的に卒業レポートを完成させることを目標とする。今年度は、『説得論集』等のケインズの文書の輪読を前期に行い、後期は各自のテーマによる報告を行う予定である。また、プレゼンテーションソフトを用いた報告も行う。レポートの書き方、文献の調べ方等についても、学習する。レポートのテーマは、学生の希望により、決定するが、基本的に経済に関わるものとする。参考までに、過去に受講者が選択したテーマは、バブル経済、高度成長、インフレーション、金融政策、仮想通貨、フィンテック、消費税、デジタル課税、年金、格差と貧困、少子化、非正規雇用、労働組合、AI と雇用、教育経済学、行動経済学、ゲーム理論、情報の不完全性、スポーツ経済学、地域格差、地方財政、地域ブランド、地域通貨、モチベーション理論、観光経済学、農業、再生可能エネルギー、SDGs、エシカル消費、シェアリング･エコノミーなどである。

（3）到達目標

① 文章を読み、要約する能力を獲得すること。
② 自分で選択したテーマにふさわしい参考文献を探し、卒業レポートにまとめる能力を獲得すること。
③ 自分で選択したテーマなどについてプレゼンテーションを行う能力を獲得すること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	内容説明とスケジュール決定
2	レジュメの作成	レジュメとは何か、レジュメの作り方、文章の表現
3	テキストの輪読１	レジュメの報告とディスカッション
4	テキストの輪読２	レジュメの報告とディスカッション
5	テキストの輪読３	レジュメの報告とディスカッション
6	研究テーマについて	問い・テーマとは何か、研究テーマの選び方、進め方
7	文献の探し方	情報の検索方法、文献の探し方、図書館の使い方
8	中間発表	卒業レポートの構成と主要参考文献のプレゼンテーション
9	研究発表１	各自のテーマによる報告とディスカッション
10	レポートの構成について	レポートの構成の仕方、引用の方法、参考文献の記載方法
11	研究発表２	各自のテーマによる報告とディスカッション
12	研究発表３	各自のテーマによる報告とディスカッション
13	研究発表４	各自のテーマによる報告とディスカッション
14	研究発表５	各自のテーマによる報告とディスカッション
15	プレゼンテーション	卒業レポートの概要のプレゼンテーション

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

前期はテキストの輪読と、卒業レポートの目次と主要参考文献のプレゼンテーションを行い、後期は、卒業レポートのテーマの報告と、執筆後に概要のプレゼンテーションを行う。報告後は簡潔な討論を行う。また、レジュメやレポートの作成方法、文献の探し方等についても適宜、レクチャーする。輪読の際は、報告者以外にも Microsoft Teams より課題を課すため、予習が必要である。各自の報告の際は、報告者以外予習の必要はない。テーマ及び、卒業レポートに関しても適宜、面談を行う予定。

（6）成績評価の方法と基準

①報告内容(90%程度)、②報告回数、課題の提出状況等の授業貢献度(10%以内)。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	デフレ不況をいかに克服するか	J.M.ケインズ	文藝春秋	1,232 円
参 考 書	ケインズ全集第９巻　説得論集	J.M.ケインズ	東洋経済新報社	9,900 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、基礎経済学、マクロ経済学Ａ・Ｂ、ミクロ経済学Ａ・Ｂ、経済データの読み方
その他経済系科目とは内容上の関連があるため、積極的な履修が望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは掲示の通り。ただし、それ以外の可能な時間に関しては別途知らせる。面談はオンラインでも可。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門演習第６（Ａ・Ｂ）（地域・公共　財政研究）	山口　隆太郎	２	前・後	各２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得)。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

この専門演習では、政府が社会・経済に関わる財政というテーマに関わる問題を多角的なアプローチから扱っていく。具体的には各人が持つ問題意識にもとづきテーマを選択し、その内容についての情報を的確に整理し、そのうえで論点を設定してこれを議論していくことを財政学的観点から行っていくということである。自分で考えたことを他者に積極的に伝える、あるいは相手の議論に即しながら対話を行うなかで議論を深化させていくなど、これまでみなさんの教育課程では十分に行われてこなかったと考えられるトレーニングも行っていく。政府が関わる活動というのは実に幅広く、学生のテーマ選びにはかなり選択の幅がある。本演習においては、専門的な文献・資料の検索と入手、適切な資料の読解とメモの取り方を学び、卒業レポートの内容の発表と討議を行う。

（3）到達目標

①専門書を的確に読解できる。
②文献の内容をまとめ、それに対する自分の意見、考えをまとめる。
③卒業レポートの作成。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	演習の概要の説明
2	テーマ設定①	各自の問題関心に即した、かつ作成可能なレポートテーマの設定の指導
3	テーマ設定②	各自の問題関心に即した、かつ作成可能なレポートテーマの設定の指導
4	情報収集・資料収集①	レポート作成に必要な文献・資料の収集及び、収集状況の報告
5	情報収集・資料収集②	レポート作成に必要な文献・資料の収集及び、収集状況の報告
6	情報収集・資料収集③	レポート作成に必要な文献・資料の収集及び、収集状況の報告
7	ゼミ生の報告とディスカッション①	各自の卒業レポートをレジュメで報告し、ディスカッションを行う
8	ゼミ生の報告とディスカッション②	各自の卒業レポートをレジュメで報告し、ディスカッションを行う
9	ゼミ生の報告とディスカッション③	各自の卒業レポートをレジュメで報告し、ディスカッションを行う
10	ゼミ生の報告とディスカッション④	各自の卒業レポートをレジュメで報告し、ディスカッションを行う
11	ゼミ生の報告とディスカッション⑤	各自の卒業レポートをレジュメで報告し、ディスカッションを行う
12	ゼミ生の報告とディスカッション⑥	各自の卒業レポートをレジュメで報告し、ディスカッションを行う
13	ゼミ生の報告とディスカッション⑦	各自の卒業レポートをレジュメで報告し、ディスカッションを行う
14	レポートのチェックと修正	レポート内容と形式のチェックと修正の確認
15	まとめ	前期：レポートへの教員の指摘について、リプライを提出する。 後期：専門演習の総括

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

輪読報告者は、文献を読みレジュメにまとめてくる。またそのときに論点をあげてくること。演習ではその論点を中心にディスカッションを行う。また卒業レポートに関しては、テーマ設定のしかた、レポートの書き方を指導する。詳細に関しては授業のなかで適宜説明していく。

（6）成績評価の方法と基準

毎回の演習へ出席して行う報告内容や、ディスカッションにおける発言内容などを総合的に評価（100%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	なし			
参 考 書	なし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

財政学、地方財政論

（9）オフィスアワー・その他

授業の進め方は第１回の授業で説明するので、必ず出席のこと。授業進度等は受講生の構成により若干の変更をすることがあります。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門演習第７（Ａ・Ｂ）（環境経済・環境政策論）	佐藤　克春	２	前・後	各２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本演習は、環境政策・環境経済論を扱う。演習あるいはゼミほど、論理力と知的好奇心を鍛える場所はない。自身による報告や相互議論を通じて、研究の醍醐味を味わって欲しいと考えている。

ゼミの活動は、卒業レポート作成に向けての参加者による個人研究が主となる。参加者は最低限半期に 2 度の報告をすること。また参加者全てが、毎回のゼミで必ず１つは発言すること。

必要があれば、ゼミの時間を延長したりサブゼミをしたりする場合がある。履修面接時にも確認するが、こういったことに対応できる人を希望する。1 年次に専門基礎演習第７を履修することを推奨する。また、参加者の希望に応じて、環境問題の現場での調査「フィールドワーク」を行う。

（3）到達目標

① 環境問題に対する幅広い知見を習得する。
② 演習が終わっても、「自分が知りたいことを知る」ことができるようになる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	自己紹介、ゼミの進め方のレクチャー。
2	スケジュールの確定	担当箇所の割り当て、報告日の確定。
3	研究テーマの選定	アウトラインの作成。　各自、問題関心をパワーポイントで報告。
4	研究テーマの選定	アウトラインの作成。　各自、問題関心をパワーポイントで報告。
5	文献の収集方法	文献の収集方法をレクチャー。自分の知りたい情報をどのように集めるか?
6	研究報告	各自、文献リストを作成。
7	研究報告	各自、文献収集・読み込み、パワーポイントで報告。
8	研究報告	各自、文献収集・読み込み、パワーポイントで報告。
9	研究報告	夏休みにするべきことの整理（現地調査・資料収集など）。
10	論文の書き方	レクチャー（勉強と研究との違い）。
11	研究報告	各自、文献収集・読み込み、論文報告。
12	研究報告	各自、文献収集・読み込み、論文報告。
13	研究報告	章立て構成の作成、論文報告。
14	卒業レポートの作成	章立て構成の作成、論文報告。
15	卒業レポートの作成（前期：課題授業）	前期：卒業レポートテーマの提出 後期：論文執筆

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

ゼミでは毎回の発言を義務付ける。また、参加者個人がそれぞれ新聞記事を持ちより、時事問題について討議するアフターゼミを、ゼミ後に開催している。参加は任意であるが、環境問題だけでなく日頃から時事問題にアンテナを張る習慣を身に着け、自分なりの見解を説得的に他者に伝える訓練を行う。

（6）成績評価の方法と基準

① 演習での個人報告（７０%）、② 演習での発言（３０%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	講義内で指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

専門基礎演習第７、経済学入門、公共政策入門、環境経済学

（9）オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼とする。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門演習第８（Ａ・Ｂ）（経営戦略と組織づくり）	上笹　恵	２	前・後	各２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本演習では、経営学の基礎的な理論を確認したうえで、やや発展的な理論の枠組みについて学ぶ。時にはかなり抽象度の高い理論を取り上げ、それを現実の問題にどう役立てるのかを思索する時間を確保する。そのために経営学の専門書や論文をテキストとし、班単位で報告して議論する形で授業を進める。また、理論を学ぶことに加え、可能であれば企業経営の現場を知る目的で大企業の施設見学を実施する。

上記の内容に加え、各自が決めたテーマに沿って個人研究を行い、卒業レポートを完成させる活動を同時に進める。事例研究が中心となる場合であっても、必ず経営学の理論的な側面を取り入れる努力が求められる。授業ではお互いの研究内容やその進捗状況、研究の進め方などについて知るための時間を設定し、最後に卒業レポートの内容を報告して全員で成果を確認する。

（3）到達目標

① 経営学の理論を学び、経営戦略や組織運営の領域で一定の提案ができる。
② レジュメの作成と報告の技法を身に付ける。
③ それぞれのメンバーが強みを発揮し、グループ全体で価値を創出する知的活動ができる。
④ 常に理論と現場との整合性を確認し、物事を分析的に考えながら卒業レポートを作成できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	はじめに	ゼミ活動１年間の流れの確認、自己紹介
2	経営学の基礎知識	経営学で習得すべき基礎理論の復習
3	経営学の学び方	専門書の選び方と読み方、卒業後に役立つ学習方法の紹介
4	個人研究の進め方	テーマの設定の仕方、文献調査や一次データの収集方法などを学ぶ
5	専門書等の輪読：前期	企業の経営戦略や組織づくりに関する専門書や論文を使用する
6	企業経営の実際	優れた実務家の視聴覚教材を通じて現場のことを知る
7	前期の振り返り	前期に学んだ重要事項などを確認する
8	専門書等の輪読：後期	前期と異なる分野の専門書や論文を班単位で読む
9	個人研究の報告①	テーマを決め、研究計画を作成、報告する
10	ビジネスゲーム	価格設定に関する簡単なビジネスゲームを実施する
11	新聞による事例研究	『日本経済新聞』の読み方と分析の視点を考える
12	最新の経営学に触れる	『ハーバード・ビジネス・レビュー』に挑戦する
13	優れた会社の研究	崇高な経営理念を持つ企業の実態を知る
14	経営哲学の探求	企業に求められる経営精神について考える
15	個人研究の報告②（前期：課題授業）	前期：個人研究の前期までの成果をレポートにまとめる 後期：最終レポートの作成と報告

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

経営学の基礎知識を確認し、応用的な学びへとつなげるための方法を提示する。専門書と論文の要点を各班から報告し、議論を深めることで経営学全般の知見を得る。その際に、班ごとで検討する質問を毎回複数用意する。また、議論のプロセスがわかるように板書しながら、思考を発散させていく手法を体感する。時には受講生が自発的に関連情報を持参し、報告する時間をもつ。報告の手法はスライド方式に限定せず、多様性を認めるので、自分たちの個性を最大限に生かす方法を探究すること。

（6）成績評価の方法と基準

① 授業時の報告と態度（６０%）、② 個人研究の成果等（４０%）。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	授業内指示			
参 考 書	授業内指示			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門、人的資源管理論、経営組織論、消費者行動論、マーケティング論、人間関係論、経営戦略論、経営イノベーション論

（9）オフィスアワー・その他

原則として欠席しないことを求める。卒業レポート作成における個別指導は、学内の施設またはTeamsなどを使って実施する。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門演習第１０（Ａ・Ｂ）（地域問題を経済学で考える）	槇平　龍宏	２	前・後	各２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

私たちが働き生活する地域は多種多様な問題を抱えている。高い相対的貧困率や地域間格差の問題、児童虐待や待機児童等の問題、大気・水質・騒音などの生活環境悪化の問題、地域産業の空洞化や農林業・地場産業の衰退による地域経済の疲弊、来るべき大災害への備えの不十分さと自治体財政ひっ迫、希薄化するコミュニティのつながり等々、数え上げればきりがない。地域とは、私達の暮らし（生活）と仕事（産業）が出会う場であり、双方の歪みが関係しあって、社会的に良くない影響を及ぼすことが「地域問題」の基本的な理解である。本演習では、地域に生じている様々な課題（地域問題）の中から自分が興味のある分野を見つけ出し、それを社会科学的に掘り下げていく力を養う。そのために、課題設定の仕方とともに基礎的な調査分析手法を学習し、自分の選んだテーマをより深く知るためのスキルも身に付ける。

（3）到達目標

① 新聞や文献等を用いて自分の関心のある地域問題を見つけることができるようになる。
② 基礎的な地域調査手法（データ収集・分析、フィールドワーク、レポート作成等）を身につける。
③ 文献や調査等で調べてきたことを効果的に発表できるようになる。
④ グループ学習を通じて、他人の意見を尊重しつつ課題を深めるスキルを身につける。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	はじめに	本演習の概要と目的
2	分析課題を明確化する①	地域に関する自らの興味関心を拓く
3	分析課題を明確化する②	「地域問題」の発見と解決を目的化する
4	仮説を立てる①	仮説とは何か
5	仮説を立てる②	理論仮説と作業仮説
6	仮説を検証する①	データの読み方
7	仮説を検証する②	データの集め方と加工の仕方、分析の仕方
8	課題解決を政策化する①	地域政策論の基礎を学ぶ
9	課題解決を政策化する②	地域政策の種類と目的を学ぶ
10	残された課題を明確化する①	学習成果のまとめ方を学ぶ
11	残された課題を明確化する②	課題と展望を明確化する
12	効果的な発表をするには①	レジュメの書き方を学ぶ
13	効果的な発表をするには②	プレゼン資料の作り方を学ぶ
14	レポート作成の技法	引用の振り方、参考文献の記載の仕方を学ぶ
15	おわりに	前期：自分で立てたテーマについてアカデミック・スキルズを用いてレポートにする 後期：振り返りとまとめ・卒業レポートの発表

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

グループワークを主体とした学習を重視する。履修生同士が議論を通じて交流し、プレゼン資料を準備し、メンバーの前でプレゼン報告を行うことを一連のアカデミック・スキルズ手法を用いて実践する中で身につける。テーマ設定についても、教員が与えるのではなく、同様の関心を持ち合う学生同士での検討を踏まえて行う。

（6）成績評価の方法と基準

①集団学習への参加態度（５０%）、②プレゼンテーションの内容（５０%）の合計点数により評価する。

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし。			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「公共政策分野」や「経済分野」を中心とする自らが興味を持っている諸科目

（9）オフィスアワー・その他

原則として特別な事情なく欠席しないこと。指導教員（槇平）が講義する科目を履修していることが望ましい。夏季休業中に宿泊を伴うゼミ合宿（フィールド・スタディ）を予定しているので、それへの参加を前提として履修を検討すること。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門演習第１２（Ａ・Ｂ）（中国の経済と文化）	范　立君	２	前・後	各２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している　(専門的な知識の修得)。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

（2）授業概要と目的

日中関係は、「政冷経熱」と言われている。政治では、微妙な局面に直面する場面が度々見られるが、経済面においては、経済のグローバル化の深化に伴い、日本と中国も相互補完的な関係をより一層深めている。そうした中、民間レベルでの様々な分野での日中交流が盛んに行われている。近年、大月市に訪ねてくる中国人観光客も年々に増えている様子である。こうした中、中国の経済事情と文化を知ることは、教養としてだけではなく、将来の進学や就職、地域貢献にも繋がる。本演習の前半では、卒論のテーマと形式を確認し、ゼミメンバーをいくつかのグループに分けて、中国社会を中心に、歴史的に形成されて中国思想、中国経済の構造、最近の時事問題、そして中国と日本、中国と世界経済との関連について、検討する。後半では、卒業論文の作成と完成に向けて、各自報告させる。中国に興味を持ち、積極的な姿勢で演習に参加することを希望する。

（3）到達目標

① 文書を読み、理解・要約する能力を身につけ、卒論を完成すること。
② 中国の経済を構造的、体制的諸側面から理解するための基礎知識を提供する。
③ 中国向けビジネスに興味を抱かせ、それを実行するための経済的・文化的基礎教養を身につけてもらう。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	専門基礎演習の振り返り、専門演習の進め方
2	卒論テーマの設定、確認	各自の卒論テーマと文献について報告し、確認する。
3	アウトラインの発表	論文構成の作り方、文献調査の進め方、発表
4	文献の紹介・内容説明	担当箇所の割り当て、報告日の確定
5	文献の輪読（グループ1)	グループ担当者報告、内容解説、議論＋卒論発表
6	文献の輪読（グループ2)	グループ担当者報告、内容解説、議論＋卒論発表
7	文献の輪読（グループ3)	グループ担当者報告、内容解説、議論＋卒論発表
8	DVD 映像資料鑑賞	日中国交回復 40 周年、解説
9	中間報告会1	各自の卒論作成の進捗について報告し、情報交換する。
10	中間報告会2	各自の卒論作成の進捗について報告し、情報交換する。
11	卒論報告1	担当者報告、内容解説、議論
12	卒論報告2	担当者報告、内容解説、議論
13	卒論報告3	担当者報告、内容解説、議論
14	卒論報告4	担当者報告、内容解説、議論、最終回プレゼンテーション課題の説明
15	成果発表会	公開ゼミとしてのプレゼン

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本ゼミでは、新学期の最初の3回ぐらい、先生が時事問題やゼミ学習の関連内容を印刷物として配布し、ゼミ内の共通課題と輪読資料を提供する。4回目からメンバーが各自の卒業論文関連の報告をすることを進めている。各自が自分の意見を先生と交換しながら、先生の指導に基づいて、卒論の修正や作成を行う。報告中に学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

（6）成績評価の方法と基準

① ゼミでの報告・議論（80%)、② 授業貢献度（20%)

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	特になし			
参　考　書	現代中国の中小企業金融	范　立君	時潮社	3,456 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

（9）オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門演習第１３（経営理論を社会へつなげる）	矢賀部　裕	２	前・後	各２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

経営学は、企業だけでなく、学校などの教育機関、市役所などの公的機関、病院や福祉施設などの医療機関などさまざまなものを対象とすることができる学問である。そのため、本演習では経営学のものの見方や諸理論などを通して、受講生がそれぞれ興味・関心のあるテーマを自由に選択し、卒業レポートにつながるような研究を進めることを目的とする。

本演習は、前半部分は卒業レポートにつながる文献を自ら調査し、発表すること（卒業レポートの先行文献につながる）。また後半部分は、卒業レポートの概要を報告・共有化することにより、受講生からの様々な意見を組み入れ、卒業レポートを完成させることを目的とする。

（3）到達目標

①日常的に企業活動に興味・関心をもち、経営学の諸理論を用いて説明できるようになる。
②自分自身の興味ある研究テーマを選択し、他者にわかりやすく伝えることができるようになる。
③興味がある経営学関連の文献を卒業レポートに取り入れられるようになる。
④物事を俯瞰的に捉えられるになり、卒業レポートを作成できる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	本演習の目的と進め方の説明、レポートの書き方
2	演習	簡易的な企業調査の方法
3	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
4	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
5	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
6	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
7	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
8	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
9	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
10	文献の輪読	文献の内容をまとめ、それに対し論点を提示し、ディスカッションを行う
11	卒業レポート概要報告	報告とディスカッション
12	卒業レポート概要報告	報告とディスカッション
13	卒業レポート概要報告	報告とディスカッション
14	卒業レポート概要報告	報告とディスカッション
15	卒業レポート概要報告	報告とディスカッション

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本演習は大きく前半と後半に分けられる。前半は卒業レポートにおける先行文献を輪読を行うことにより、自らの理解を深める。後半部分は、卒業レポートの概要を報告し、受講生を含めて様々意見を組み入れる。これをもって、卒業レポートの完成を目指すこととする。

（6）成績評価の方法と基準

①報告内容（50%）、②発表・授業貢献度等（50%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	特になし			
参 考 書	特になし			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学関連の科目をなるべく多く履修することが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

原則として、欠席しないことを求める。
ゼミ（内容、進度）は、人数により必ずしも上記の授業計画通りではない場合がある。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門演習第１４（Ａ・Ｂ）（住民主体のまちづくり）	吉澤　佑葵	２	前・後	各２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本演習は、主に政治学、行政学、地方自治論の観点から、自らの問いを理論的に組み立て、文章化するための卒業レポート完成に向けたフォローアップとして位置づけられる。具体的には、自分の関心のあるテーマに関する専門的な資料の検索と収集、当該資料の的確な読解、さらに読解した内容の発表と討議という進め方を予定している。これらの過程では、受講者の主体性が要求されることから、指導としてはそのサポートという役割に徹したい。また、討論では、お互いの研究を発表し、課題や疑問を指摘し合うことで、それぞれの研究をブラッシュアップさせていくことを期待したい。

（3）到達目標

① 専門書を読解できるようになる。
② 専門的な研究テーマを設定し、基礎的な情報の整理がおこなえる。
③ ②の内容を適切に口頭報告ができ、質疑応答ができる。
④ ②の内容を卒業レポートにまとめられる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	本演習の目的、概要、進め方について
2	レポートのテーマ設定　①	参加者の関心テーマとアウトラインの設定・討議
3	レポートのテーマ設定　②	参加者の関心テーマとアウトラインの設定・討議
4	参考文献・資料の収集　①	各自が発表内容に関する文献・資料等を収集、状況を報告
5	参考文献・資料の収集　②	各自が発表内容に関する文献・資料等を収集、状況を報告
6	参考文献・資料の収集　③	各自が発表内容に関する文献・資料等を収集、状況を報告
7	各自の発表と討議　①	テーマの発表と受講者間での討議
8	各自の発表と討議　②	テーマの発表と受講者間での討議
9	各自の発表と討議　③	テーマの発表と受講者間での討議
10	各自の発表と討議　④	テーマの発表と受講者間での討議
11	各自の発表と討議　⑤	テーマの発表と受講者間での討議
12	各自の発表と討議　⑥	テーマの発表と受講者間での討議
13	各自の発表と討議　⑦	テーマの発表と受講者間での討議
14	レポートの最終チェック	各自のレポートの最終チェック
15	まとめ	前期：前期までの成果をもとにした中間レポートを作成・発表 後期：レポート発表と討議・総括

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

受講者の主体的な参加を基本として、報告と受講者間での質疑・討論が中心となる。報告者は報告準備をおこなう。授業時間外にも、自分の関心のあるテーマについて、ニュースや新聞などから情報を集めることが望ましい。

（6）成績評価の方法と基準

① 報告内容（70%）、② 演習貢献度（30%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	適宜指示する			
参 考 書	適宜指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

受講に当たっては、政治学、行政学、地方自治論を受講していることが望ましい。

（9）オフィスアワー・その他

・特別な事情以外の欠席は原則認めない。
・演習内でのルール（無断欠席厳禁）を厳守すること。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門演習第１５（Ａ・Ｂ）（日本近現代文学研究の実践）	渡邊　浩史	２	前・後	各２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本演習は、日本近現代文学の観点から卒業レポート作成に向けた準備段階として講義を行っていく。２年次の本演習では、１年次で学んだ近代文学研究の方法論を用いて卒業レポートを完成させていく。そこでは、①作品の選択、②テーマの設定、③アウトライン作成、④論文の作成という４つのプロセスを経て卒業論文の作成を行う。

上記のプロセスに関して、教員の指導はあくまでもサポートの役割に徹する。基本的にはゼミ生各自の研究であるという自覚を持つこと。演習では、卒業レポートの報告会を行い、ゼミ生全員で意見交換を行っていき、それぞれの卒業レポートを具体的な形にしていく。積極的な姿勢で演習に参加し、充実した卒業レポートの完成に繋げることを希望する。

（3）到達目標

① 日本近現代文学作品から各自の研究テーマを設定すること。
② 設定した研究テーマを論理的・客観的に説明するための先行研究、参考文献の調査・整理を行うこと。
③ ①②をふまえ、他者に分かりやすく伝える卒業レポートを作成すること。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	本演習の目的・概要・進め方
2	論文研究	論文の構造を理解し、アウトラインの重要性を知る。
3	作品選択・テーマ設定①	各自が研究する作品を選択し、そこに頻出する問題に即したレポートテーマを設定する
4	作品選択・テーマ設定②	各自が研究する作品を選択し、そこに頻出する問題に即したレポートテーマを設定する
5	作品選択・テーマ設定③	各自が研究する作品を選択し、そこに頻出する問題に即したレポートテーマを設定する
6	先行研究・参考文献の整理①	資料の種類やその意義について
7	先行研究・参考文献の整理②	引用の方法について課題についての検討
8	研究発表①	執筆する卒業レポートをレジュメで報告／ディスカッション
9	研究発表②	執筆する卒業レポートをレジュメで報告／ディスカッション
10	研究発表③	執筆する卒業レポートをレジュメで報告／ディスカッション
11	研究発表④	執筆する卒業レポートをレジュメで報告／ディスカッション
12	研究発表⑤	執筆する卒業レポートをレジュメで報告／ディスカッション
13	個別指導①	レポートの書き方等についての指導
14	個別指導②	レポートの書き方等についての指導
15	まとめ（前期：課題授業）	前期：卒業レポート作成の準備・執筆 後期：卒業レポートの作成とその報告

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

専門基礎演習で学んだ実践を行う場。本演習では、論文の構造を知り、そこから各自の問題関心に即したテーマを設定し、卒業レポートの作成を行っていく。その報告の場としての研究発表では、他のゼミ生の研究発表にも関心を持ち、毎回の発言を義務付ける。詳細に関しては授業のなかで適宜説明を行う。

（6）成績評価の方法と基準

演習で行われる研究発表やディスカッションにおいての質疑応答などを総合的に評価していく（100%）

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	講義内で指示する			
参　考　書	講義内で指示する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本文化講義A、日本文化講義B、日本文学概説。

（9）オフィスアワー・その他

・オフィスアワーは掲示の通り。
・積極的な演習参加を求める（授業の進度・内容は、受講生の構成により若干の変更の可能性がある。）。
・特別な事情以外の欠席は認めない。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門演習第１７（Ａ・Ｂ）（社会と文化の問題の探究）	松岡　昌和	２	前・後	各２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

本演習では、卒業レポート執筆をめざして、各自の課題を深めるとともに、社会や文化にかかわる問題を考察していく際の理論的枠組みを獲得することを目的とする。演習では、まずアカデミックな文献（論文あるいはそれに準じたもの）を講読することで社会や文化にかかわる問題の所在とそれを分析するための理論を学び、同時に各自の問題関心に応じた研究報告を行う。そして、前期末には卒業レポート執筆のアウトラインを作成し、後期末にはそれを卒業レポートとして完成させる。講読する文献は、参加者の関心をふまえて指定する。演習という科目は、参加者同士のコミュニケーションを通じて各自の知的な洞察力を高めていく場である。講義と異なり、受け身での受講は許されない。自らの課題のみならず、仲間の研究や報告にも関心を寄せ、全員必ず毎回意見表明を行うこと。また、そうした演習の性格ゆえ、特段の理由のない欠席も認めない。

（3）到達目標

① アカデミックな文章を読み、論点を的確にとらえるスキルを身につける。
② 自身のテーマを設定し、その問題意識を的確に他者に伝えるスキルを身につける。
③ 社会と文化について、批判的な視点で捉えることができるようになる。
④ 自身の研究成果を言語化して、論理的な文章にすることができる。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	内容説明、スケジュール調整
2	論文作法	論文をどのようにして読むか
3	文献講読１	報告と討論
4	文献講読２	報告と討論
5	文献講読３	報告と討論
6	文献講読４	報告と討論
7	文献講読５	報告と討論
8	文献講読６	報告と討論
9	文献講読７	報告と討論
10	個人報告１・個人報告２	報告と討論
11	個人報告３・個人報告４	報告と討論
12	個人報告５・個人報告６	報告と討論
13	個人報告７・個人報告８	報告と討論
14	個人報告９・個人報告 10	報告と討論
15	まとめ	（前期）論文をどのようにして書くか／（後期）成果発表

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

文献講読および個人報告の担当者は、論点を整理して内容をレジュメにまとめておく。演習ではレジュメの内容をもとに担当者が口頭で報告を行い、参加者全員で討論を行う。報告者のみならず参加者全員が課題文献に予め目を通し、不明な用語については事前に調べ、理解できなかった箇所をきちんと特定しておくことが求められる。授業外で個別に面談を行い、その際に作業の進捗状況などについて報告を求める。

（6）成績評価の方法と基準

① 授業内報告と討論への参加（50%）
② レポート（50%）

（7）使用書

区 分	書 名	著 者 名	出 版 社	税込価格
教 科 書	受講者と相談の上決定する			
参 考 書	授業内で紹介する			

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

社会文化分野各科目

（9）オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
専門演習第１８（Ａ・Ｂ）（国際関係、紛争予防に関する学習）	荒　哲	２	前・後	各２

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

３．経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも１つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
４．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

専門演習では、１年生の前期で履修した「教養演習」と「専門基礎演習」の学習内容に基づき、最終的に卒業レポートを作成させることを目標とする。各履修者の関心領域は多岐にわたるため、国際関係学において基礎的な知識を体得できる図書を選択してもらいながら、各自それぞれ「問い」を設定できるような議論の根幹を見極める学習方法を見出していく。その見出された「問い」にいかに向き合い、そしていかにその「問い」に対する回答を導き出すのかを、各履修者によるプレゼンテーションの中で学習していく。この演習では、現代国際関係に横たわる様々な諸問題を歴史的な視点で明確にする学習態度を体得する。それら諸問題のキーとなる概念として、異文化、異人種、先住民、大国政治、植民地主義、紛争、差別、暴力、ジェンダー、人口移動、移民、などなど、これら諸概念がまつわる錯綜した国際関係関連の諸問題を議論し、その中でその解決策を見出すための糸口となるような卒業レポート作成を目指していく。

（3）到達目標

① 国際関係に対する幅広い知見を習得する。
② 国際関係の諸問題が私たちの生活と密着していることを認識できるようにする。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	専門演習について	オリエンテーションなど
2	スケジュールの確定	各履修者の関心領域の確定
3	研究テーマの確定	アウトラインの作成。各履修者の問題関心領域をパワポで説明
4	研究テーマの確定	アウトラインの作成。各履修者の問題関心領域をパワポで説明
5	文献の収集方法についての学習	文献をどのようにして収集するべきかを話し合う
6	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
7	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
8	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
9	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
10	卒業レポートの書き方についての学習	論文作成ことはじめ
11	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
12	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
13	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
14	研究報告	各履修者の研究報告に基づくディスカッション
15	前期：半期総括、後期：卒業レポート提出	前期：テーマの確定　　後期：論文執筆

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

専門演習では、毎回の発言を義務とする。各履修者は、他のクラスメートや自分の関心領域に関して必ず発言すること。教師の方からテーマを与えてそれに関してのディスカッションを行う場合もある。

（6）成績評価の方法と基準

演習での個人報告７０パーセント。演習での発言３０パーセント。

（7）使用書

区　分	書　名	著　者　名	出　版　社	税込価格
教　科　書	指定しない			
参　考　書	想像の共同体	ベネディクト・アンダーソン	書籍工房早川	2,200 円

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

（9）オフィスアワー・その他

月曜日　１５時～１６時、第８研究室にて。

科　目　名	教　員　名	年次	授業期間	単位
卒業レポート	専門演習担当教員	2	通年	4

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

（1）この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

1．日本語を中心としたコミュニケーション能力を身につけている（日本語、英語、第二外国語の修得）。
4．地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

（2）授業概要と目的

卒業レポートは、選択した専門基礎・専門演習における本学学業の集大成となるものであり、この完成が卒業の必須条件になる。つまり、本学で学んでいる知識と経験を結集して、すべての学生がレポートを作成することになる。卒業レポートの内容は、「研究論文」が基本であるが、事業や政策に関わる「企画書」、体験・実験に基づく「分析レポート」、特徴あるテーマにおける「活動報告書」等、その形式は問わない。

卒業レポートの作成にあたっては、特段の授業時間を設定するものではなく、「独学」が基本になる。ただし、履修している専門演習の担当教員（「指導教員」と呼ぶ）による個別指導を受けながら、通年のなかで計画的に完成させる。また、テーマによっては、課題研究科目の担当教員から指導を受けることがあってもよい。いずれにしても、学生自らがさまざまな教育機会を捉え、他学生との意見交換、討議、発表、共同研究等を行い、価値ある卒業レポートを仕上げていくことになる。

（3）到達目標

① 指導教員のフォローや専門演習との連動のもと「独学」でレポートを完成させることで、本学が教育目標とする「自己教育力」を習得する。
② 自らが設定した社会や地域の課題と、それを解決するための具体的な見識を示すことで、本学が教育目標とする「問題解決力」の学業実績を作る。

（4）授業計画

	テーマ	授　業　内　容
1	1年次学習の振り返り	専門基礎演習の自己評価、経済学等の専門理論の棚卸、論文書き方の点検
2	テーマ設定と研究計画書	研究計画書の再作成、研究テーマ等の指導教員の承諾
3	文献調査 ①	参考文献・調査報告書等の検索、必要理論の習得
4	「問い」の設定と仮説立案	テーマに関わる課題の具体化、「問い」の設定、問題構造の分析、解決策の仮設定
5	アウトラインの作成	論文構成の確定、執筆のスケジュール化、執筆方針の確定
6	個別指導 ①	指導教員による進捗の確認、論理構成や調査方法の妥当性の評価
7	中間発表	専門演習等の機会を利用した発表会、意見交換
8	中間提出とフィードバック	指導教員からの中間評価、改善点等の確認
9	文献調査 ②	参考文献・調査報告書等の再検索、必要理論の補強
10	先行調査の執筆まとめ	現状分析、仮説の再検証
11	フィールドワーク	事例分析、取材・アンケート調査、データ分析
12	考察・結論の執筆まとめ	解決策の提示、効果・影響の分析、研究結果の評価
13	個別指導 ②	指導教員からの内容評価と個別指導
14	最終提出とフィードバック	改善点の修正、自己評価と振り返り
15	全体発表	プレゼン準備、発表の実施、外部評価

（5）授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

専門演習のゼミナールと並行しながら、指導教員のフォロー（面談、添削、発表など）をしながら卒業レポートを完成させる。卒業レポートの提出は１２月中旬の予定（教務からの一斉メールや指導教員からの案内を確認すること）。

（6）成績評価の方法と基準

卒業レポートの評価は、概ね下記の基準をもって行われる。ただし、指導教員によって評価の方法や指標は異なるので、早い段階でその内容を確認する必要がある。

① 形式基準（40%）　…分量、体裁、図表の使い方、参考文献、引用方法
② 理論基準（25%）　…理論の理解や応用、文献等の読み込み、学習度
③ 質的基準（25%）　…テーマ設定、論理構成、問題解決性、分析性、新規性・独創性
④ 手続き基準（10%）…個別指導の有無（年２回実施）、中間発表の有無、提出期限遵守

（7）使用書　　特になし。独学をもって必要とする図書等を自ら選定する。

（8）関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

キャリアデザイン論、教養演習、専門基礎演習、専門演習などの必修科目・全員履修科目。また、執筆するに必要な理論に関わる専門科目。

（9）オフィスアワー・その他

卒業レポートに関わる作成形式、発表、提出は、指導教員の指示を仰ぐ。また、単位認定に関わる成績評価も指導教員が担う。
オフィスアワー等の活用により、指導教員以外の教員からアドバイスを得ることも可能である。

４．実務経験のある教員による授業科目一覧

科目名に◆印のある科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。この科目は、必ずしも実務経験のある教員が直接の担当でなくても、たとえばオムニバス形式で多様な企業から講師を招いて指導を行う授業や、学外でのインターシップや実習、研修等を中心に位置づけている授業など、主として実践的教育から構成されている授業科目も含まれます（専門基礎演習、専門演習は除く）。講義内容を参考にして、実務経験の内容を把握しながら、履修者自身の履修計画に役立ててください。

科目名	担当者名	単位	記載頁
健康論	奥野　雅久	2	47
スポーツレクレーション実習	奥野　雅久	1	48
キャリアデザイン論Ａ	槇平　龍宏	2	68
キャリアデザイン論Ｂ	槇平　龍宏 ／ キャリアラボ	2	69
インターシップ実習Ａ・Ｂ	キャリアラボ	各 1	70
大月学入門	山口　隆太郎	2	71
地域実習（体験）	槇平　龍宏・佐藤　克春・山口　隆太郎・稲垣　自由	各 1	72
地域実習（応用）	槇平　龍宏・山口　隆太郎・稲垣　自由	各 1	73
地域実習（提言）	槇平　龍宏・稲垣　自由	各 2	74
地域文化遺産論	稲垣　自由	2	75
公共政策入門Ｃ３	槇平　龍宏	2	82
経営学入門	上笹　恵・矢賀部　裕	各 2	83
地域経済論	槇平　龍宏	2	111
農業経済学	槇平　龍宏	2	119
労働と法	中野　宏典	2	121
人的資源管理論	上笹　恵	2	124
経営戦略論	矢賀部　裕	2	125
人間関係論	上笹　恵	2	126
消費者行動論	上笹　恵	2	127
マーケティング論	矢賀部　裕	2	128
経営組織論	上笹　恵	2	129
経営イノベーション論	矢賀部　裕	2	130
観光ビジネス論	永野　和雄	2	131
保険論	福地　幸文	2	143
		計 54	